

介護テクノロジー等による生産性向上の取組に
関する調査及び効果測定事業 報告書

I / III

令和8年3月
厚生労働省 老健局高齢者支援課

目次

(I/Ⅲ)

I.	調査の背景・目的.....	I-1
II.	事業実証概要	I-2
1.	事業内容.....	I-2
2.	実証スケジュール	I-2
3.	用語の定義.....	I-3
III.	実証委員会の設置・運営.....	I-4
1.	実証委員会の設置・目的.....	I-4
2.	実証委員会の委員構成	I-4
3.	実証委員会における検討内容	I-5
IV.	実証テーマ	I-6
V.	実証施設の募集	I-8
1.	募集期間.....	I-8
2.	実証方法.....	I-8
3.	実証施設一覧	I-8
VI.	実証結果:①-1 特定施設	I-12
1.	実証概要.....	I-12
(1)	実証目的	I-12
(2)	実証仮説	I-12
(3)	実証機器	I-12
(4)	対象施設	I-12
(5)	実証方法	I-13
(6)	調査項目	I-46

2. 実証結果.....	I -49
(1) 利用者・職員概要.....	I -49
(2) タイムスタディ調査結果.....	I -51
(3) 職員向けアンケート調査結果.....	I -52
(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	I -64
(5) 業務時間等調査結果.....	I -72
(6) ヒアリング調査結果.....	I -74
(7) 人員配置に係る調査結果.....	I -90
(8) 追加分析.....	I -91

VII. 実証結果:①-2 生産性向上 I -94

【A】加算(I)要件充足/一部充足の効果検証..... I -94

1. 実証概要.....	I -94
(1) 実証目的.....	I -94
(2) 実証仮説.....	I -94
(3) 実証機器.....	I -94
(4) 対象施設.....	I -95
(5) 実証方法.....	I -95
(6) 調査項目.....	I -101
2. 実証結果.....	I -103
(1) 利用者・職員概要.....	I -103
(2) タイムスタディ調査結果.....	I -105
(3) 職員向けアンケート調査結果.....	I -106
(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	I -118
(5) 訪室回数記録調査結果.....	I -127
(6) 業務時間等調査結果.....	I -129
(7) ヒアリング調査結果.....	I -131

【B】介護記録・音声入力の効果検証 I -136

1. 実証概要.....	I -136
(1) 実証目的.....	I -136
(2) 実証仮説.....	I -136
(3) 実証機器.....	I -136
(4) 対象施設.....	I -136
(5) 実証方法.....	I -137
(6) 調査項目.....	I -141

2. 実証結果.....	I -143
(1) 利用者・職員概要.....	I -143
(2) タイムスタディ調査結果.....	I -145
(3) 職員向けアンケート調査結果.....	I -146
(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	I -158
(5) 業務時間等調査結果.....	I -166
(6) ヒアリング調査結果.....	I -167
【C】情報管理システムの効果検証.....	I -171
1. 実証概要.....	I -171
(1) 実証目的.....	I -171
(2) 実証仮説.....	I -171
(3) 実証機器.....	I -171
(4) 対象施設.....	I -171
(5) 実証方法.....	I -172
(6) 調査項目.....	I -177
2. 実証結果.....	I -179
(1) 利用者・職員概要.....	I -179
(2) タイムスタディ調査結果.....	I -181
(3) 職員向けアンケート調査結果.....	I -183
(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	I -195
(5) 業務時間等調査結果.....	I -204
(6) ヒアリング調査結果.....	I -206
VIII. 実証結果:①－3 夜間見守り.....	I -211
1. 実証概要.....	I -211
(1) 実証目的.....	I -211
(2) 実証仮説.....	I -217
(3) 実証機器.....	I -218
(4) 対象施設.....	I -218
(5) 実証方法.....	I -219
(6) 調査項目.....	I -224
(7) ヒアリング調査.....	I -226

2. 実証結果.....	I-227
(1) 利用者・職員概要.....	I-227
(2) タイムスタディ調査結果.....	I-229
(3) 職員向けアンケート調査結果.....	I-236
(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	I-244
(5) 業務時間等調査結果.....	I-253
(6) 訪室回数調査結果.....	I-256
(7) 排せつケア回数調査結果.....	I-260
(8) ヒアリング調査結果.....	I-264

I. 調査の背景・目的

生産年齢人口が減少し、労働力の確保に向けた制約が強まる中、介護サービスの質の確保を図りながら、介護職員の働く環境改善を推進することは重要である。このような中、厚生労働省としては、介護テクノロジー等の活用や業務の役割分担(いわゆる介護助手の活用等)などによる生産性向上の取組(以下「介護テクノロジー等による生産性向上の取組」という。)を強力に推進することとしている。

本業務においては、「介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する効果の調査及び実証・把握のための委員会」(以下「実証委員会」という。)を設置し、介護サービス事業所に対し介護テクノロジー等による生産性向上の取組について支援を行った上で、当該取組による調査及び効果実証等を実施するとともに、調査及び実証、生産性向上の取組を行う事業者から集められたデータの分析等を行い、次期介護報酬改定等の検討に資するエビデンスの収集等を行うことを目的とした。

II. 事業実証概要

1. 事業内容

本事業では以下を実施した。

- ① 実証委員会の設置・運営
- ② 実証委員会での検討内容
 - ・ 実証計画の策定
 - ・ 実証方法等に資する専門的かつ技術的助言
 - ・ 実証結果のとりまとめ
- ③ 介護テクノロジー等による生産性向上の取組の調査及び効果測定実証を行う施設の選定
- ④ 選定された実証施設に対する介護テクノロジー等による生産性向上の取組に係る効果的な方法の助言・連絡調整支援
- ⑤ 介護テクノロジー等による生産性向上の取組の調査及び効果測定実証の進捗管理・連絡調整、実証結果の集計・データ分析、実証委員会への報告
- ⑥ 「介護ロボットのパッケージ導入モデル」の改訂

実証研究期間中に使用するための新たな機器の導入・設置、または追加導入に伴う機器の貸与費用は、本事業にて負担し、調査終了後に当該機器の撤去・回収を行った。

2. 実証スケジュール

本事業の全体スケジュールは以下のとおり。

図表 II-1 実証スケジュール

	事務局	対象施設(テーマ①)	対象施設(テーマ②)	対象施設(テーマ③)
令和7年4月	実証委員会設置 実証計画案策定			
5月	調査詳細 検討	施設募集・公募実施		調査対象の選定
6月		体制構築・オペレーション変更検討	提案実施	
7月		機器導入・教育	採択	
8月	進捗管理 ・ 助言・ 連絡 調整	事前調査	実証内容の確認 事前調査	データ収集・分析
9月	検証結果の集計 データ分析	テクノロジー等 の活用 (実証調査)	テクノロジー等 の活用 (実証調査)	ヒアリング調査
10月		事後調査①	事後調査①	
11月	生産性向上の取組を 行う事業者から集め られたデータの集計・ 分析	事後調査②	事後調査②	
12月		機器返却	ヒアリング調査	
令和8年1月	分析結果のとりまとめ			
2月	報告書の作成			
3月				

※テーマ①②③の実証施設等詳細についてはIV. 実証テーマを参照

3. 用語の定義

用語の定義は以下の通り。

用語	意味
事前調査もしくは事前	本実証で用いた機器を導入する前の状態における実証調査
事後調査①もしくは事後①	本実証で用いた機器を導入し、導入後1か月以内における実証調査
事後調査②もしくは事後②	本実証で用いた機器を導入し、導入後 2 か月から 3 か月程度における実証調査
介護助手	食事等の準備や片付け、清掃、ベッドメイク、ごみ捨て等、利用者の身体的な介助を伴わない業務を行う者

III. 実証委員会の設置・運営

1. 実証委員会の設置・目的

介護サービス事業所に対し介護テクノロジー等による生産性向上の取組について支援を行った上で、当該取組による調査及び効果実証等を実施するとともに、調査及び実証、生産性向上の取組を行う事業者から集められたデータの分析等を行うことを目的とした。

2. 実証委員会の委員構成

<委員> (◎委員長、○副委員長) (敬称略、50音順)

飯島 節	筑波大学 名誉教授 医療法人財団秀行会 介護老人保健施設ミレニウム桜台 施設長
岩井 広行	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 生産性向上推進委員会 委員長 社会福祉法人おおさわの福祉会 理事長
加藤 健治	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター センター長
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部長
新田 收	公益社団法人日本理学療法士協会 学校法人筑波学園 アール医療専門職大学 教授
東 憲太郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 会長
舟田 伸司	公益社団法人日本介護福祉士会 常任理事 生産性向上推進検討委員会 委員 一般社団法人富山県介護福祉士会 会長
◎本田 幸夫	東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター 特任研究員
松尾 徳哉	一般社団法人全国介護付きホーム協会 事務局長
室井 勝一郎	一般社団法人日本在宅介護協会 常任理事
○森 武俊	東京理科大学 先進工学部 機能デザイン工学科 教授
山本 晃弘	一般社団法人全国介護事業者連盟 理事
渡邊 慎一	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 一般社団法人日本作業療法士協会 生活環境支援推進室 副室長

<オブザーバー>

厚生労働省 老健局 高齢者支援課長 濱本 健司
厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護テクノロジー政策調整官 佐藤 修一
厚生労働省 老健局 高齢者支援課 主査 小林 美穂
厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護テクノロジー係 渡辺 結起乃
厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護テクノロジー係 阿久澤 ひかる

<事務局>

株式会社三菱総合研究所 医療・介護DX本部
エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 公共政策第一部

3. 実証委員会における検討内容

実証委員会では、以下のスケジュール、議題で検討を行った。

図表 III-1 実証委員会における検討内容

回数	実施時期	議論事項
第1回	令和7年6月	<ul style="list-style-type: none">調査計画(案)について調査項目(案)・調査票(案)について
第2回	令和7年7月	<ul style="list-style-type: none">テーマ①の実証施設・進捗についてテーマ②の施設・事業所選定についてテーマ③の調査対象・進捗について
第3回	令和7年10月	<ul style="list-style-type: none">実証調査結果(速報)について
第4回	令和8年1月	<ul style="list-style-type: none">実証調査結果(確報)について
第5回	令和8年3月	<ul style="list-style-type: none">実証調査結果のとりまとめについて

IV. 実証テーマ

本事業では、以下を実証のテーマとした。

図表 IV-1 実証テーマ①

テーマ	分類	実証目的	対象サービス	実証数
①-1	【特定施設】 「生産性向上に先進的に取り組む特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化」に関する実証	令和6年度介護報酬改定で新設した特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化について、本特例措置を適用した施設又は適用予定の特定施設を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。	特定施設入居者生活介護 地域密着型特定施設入居者生活介護	12
①-2	【生産性向上】 『生産性向上推進体制加算(Ⅰ)の算定要件を満たす、あるいは要件充足を目指している等、「働きやすい職場環境づくり」に関する実証	令和6年度介護報酬改定で新設した「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」の算定要件を満たす、あるいは要件充足に近い状況を目指す等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設以外の施設系サービス(介護老人福祉施設等)を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	9
①-3	【夜間見守り】 「見守り支援機器等を導入した場合の夜間における人員配置基準等の緩和」に関する実証	令和元年介護報酬改定以降、見守り機器等を導入した場合の夜間における人員配置基準の緩和等を行ってきたところ、本特例措置について、対象サービスの拡大や更なる見直しに向けた検討に資するデータを整備する。あわせて、過年度の実証データを含め、カメラ型・センサ型別にデータを分析し、見守り機器のタイプにより、効果にどのような差異があるかについて、データを整備する。	介護老人福祉施設(ユニット型) 介護老人保健施設 認知症対応型共同生活介護	10
①-4	【訪問・通所系】 「訪問系サービス及び通	訪問系および通所系サービス事業所を対象に、テクノロジーを活	訪問介護 通所介護	11

テーマ	分類	実証目的	対象サービス	実証数
	所系サービスにおける介護テクノロジー等活用に関する実証	用した生産性向上の取組の効果把握を行う。		
①-5	【AI 活用】 「AI 技術等のテクノロジーを活用した職員の負担軽減、ケアの質の確保」に関する実証	AI 技術等のテクノロジーを活用した職員の負担軽減、ケアの質の確保等に関する効果について検証する。	訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション	7

図表 IV-2 実証テーマ②

テーマ	分類	実証目的	対象サービス	実証数
②	【提案型】 介護事業者等からの提案手法による生産性向上の取組に関する実証	介護事業者等から生産性向上に資する新たな取組等に関する提案を受け付け、当該事業者等が選定する介護サービス事業所で実証を行い、取組の効果を検証の上、取組内容の評価・改善を行う。	全サービス	35

図表 IV-3 実証テーマ③

テーマ	分類	実証目的	対象サービス (短期入所・地域密着型はサービスに含む)	実証数
③	【継続的な業務改善】 継続的な業務改善の取組による効果についての調査	過年度事業に参加した実証事業所等を対象に、実証終了後の継続的な業務改善の取組の内容や効果(介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、効率的な人員配置の実現等の観点)、取組を継続していくなかでの課題等の把握を行うことを目的とした調査を実施する。	介護老人福祉施設 介護老人保健施設 認知症対応型共同生活介護 特定施設入居者生活介護	20

V. 実証施設の募集

1. 募集期間

令和7年5月21日(水)～令和7年8月4日(月)

2. 実証方法

以下の流れで実証施設を募集した。

- ① テクノエイド協会 HP「介護ロボット等の開発・実証フィールド」に登録のあった施設、過年度実証参加施設に対する意向調査を実施
- ② 意向調査の結果を踏まえて、事務局にて対象施設を一次選定(介護ロボット等を導入して業務を改善したい課題、サービス種別、機器導入状況等)
- ③ 対象施設が不足する場合、関連団体及び介護ロボットメーカー等に対象施設候補の推薦を依頼
- ④ 対象施設に対する、電話による意向詳細確認
- ⑤ 実証施設の確定

3. 実証施設一覧

実証施設は以下の通り。(※法人名 | 施設名 | 所在都道府県)

①-1 特定施設(12 施設)

株式会社さわやか倶楽部 | 介護付き有料老人ホームさわやか宗像館 | 福岡県
社会医療法人中山会 | 介護付き有料老人ホーム宝木荘 | 栃木県
ALSOKらいふケア株式会社 | ホームステーション高井戸 | 東京都
ALSOK 介護株式会社 | 介護付き有料老人ホームすこや家・川崎明津 | 神奈川県
ALSOK 介護株式会社 | 介護付き有料老人ホームアミカの郷亀有 | 東京都
ALSOK 介護株式会社 | 介護付き有料老人ホームみんなの家・久喜 | 埼玉県
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャームスイート緑地公園 | 大阪府
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャームスイート神戸摩耶 | 兵庫県
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャーム水元公園 | 東京都
社会福祉法人ひまわり | ケアハウス朝来 | 兵庫県
株式会社ウェルビーイング | 介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水 | 静岡県
HITOWA ケアサービス株式会社 | イリーゼ西大宮 | 埼玉県

①-2 生産性向上(9 施設)

社会福祉法人光栄会 | 特別養護老人ホーム白水園 | 和歌山県
社会福祉法人和敬会 | 特別養護老人ホームなごみの郷 | 愛知県

社会福祉法人翠耀会 | 特別養護老人ホームグリーンヒル | 千葉県
社会福祉法人恩賜財団済生会 | 松山老人保健施設にぎたつ苑 | 愛媛県
社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 | 特別養護老人ホームあざみの里 | 高知県
医療法人社団橘会 | 介護老人保健施設西美濃さくら苑 | 岐阜県
社会福祉法人吾妻福祉会 | 養護老人ホーム吾妻荘 | 長崎県
社会福祉法人北九州福祉会 | 特別養護老人ホームサングリーンアネモス | 福岡県
社会福祉法人鶴生会 | 特別養護老人ホーム悠久荘 | 長崎県

①-3 夜間見守り(10 施設)

社会福祉法人墨友会 | 特別養護老人ホームサンヴェール尾張旭 | 愛知県
社会福祉法人シルヴァーウイング | 特別養護老人ホームみさよはうす土支田 | 東京都
医療法人社団ピーエムエー | 介護老人保健施設ソフィア都筑 | 神奈川県
社会医療法人養生園 | リハビリセンターグリーンTAOKA | 徳島県
社会福祉法人こうほうえん | 介護老人保健施設なんが幸朋苑 | 鳥取県
社会福祉法人おおさわの福祉会 | グループホームささづ苑つばさ | 富山県
社会医療法人正和会 | グループホームまめだすか | 秋田県
株式会社 connect | グループホームおおきな木 | 岩手県
株式会社スマイル | スマイル住まいる鞠子 | 静岡県
コスモスケア株式会社 | グループホームコスモス向陽台 | 宮城県

①-4 訪問・通所系(11 施設)

株式会社ヘルパーハウス吉河 | ケアセンターであい | 福岡県
株式会社ヘルパーハウス吉河 | デイサービスセンターであい | 福岡県
Life-iz 株式会社 | もとすみよしハッピーデイ | 神奈川県
庄内みどり農業協同組合 | JA 庄内みどり福祉センター | 山形県
株式会社ぐりーんりーふ | ときわ介護サービス | 東京都
シュクルケア株式会社 | シュクルケアデイサービス リハ&スパ | 東京都
株式会社やさしい手 | やさしい手あざみ野訪問介護事業所 | 神奈川県
株式会社かんけい舎 | クローバーケアステーション船橋 | 千葉県
LIVE & LEARN 合同会社 | 24 時間在宅介護・看護ちどり | 高知県
社会福祉法人いわき福祉会 | やすらぎの郷牧山デイサービスセンター | 福岡県
医療法人医和基会 | 牧山いわき苑通所リハビリテーション | 福岡県

①-5 AI 活用(9 事業所)

NPO 法人 Cheri | あいる居宅サポート | 大阪府
社会福祉法人いざなぎ福祉会 | ヘルパーステーション花袖 | 三重県
一般社団法人街のイスキア | 街のイスキア訪問ナースステーション | 東京都
学校法人藤田学園 | 藤田医科大学訪問看護ななくり | 三重県
株式会社レコードブック | レコードブック森下 | 東京都

社会福祉法人水光会 | しらぬい荘デイサービスセンター | 熊本県
社会福祉法人さつき会 | 特別養護老人ホームつつじ苑 | 千葉県
社会福祉法人シルヴァーウイング | 特別養護老人ホーム新とみ | 東京都
社会福祉法人墨友会 | 特別養護老人ホームサンヴェール尾張旭 | 愛知県

②提案型(13 提案)

一般社団法人認知症高齢者研究所 | 技術開発室 | 神奈川県
SOMPOケア株式会社 | 未来の介護推進部 | 東京都
株式会社金星 | 東京営業部 MD 課 | 東京都
株式会社 Rehab for JAPAN | エイジングテック総合研究所 | 東京都
TOPPAN 株式会社 | 環境デザイン事業部 ビジネスデザイン本部 介護 DX 部 | 東京都
DFree 株式会社 | 東京都
社会福祉法人友愛十字会 | 東京都
ユニ・チャーム株式会社 | グローバル排泄ケア研究所 | 東京都
パラマウントベッド株式会社 | 経営企画本部 ストラテジーグループ | 東京都
社会医療法人社団陽正会 | 介護医療院みのり | 広島県
株式会社やさしい手 | 東京都
パラマウントベッド株式会社 | パラマウントヘルスケア総合研究所 | 東京都
社会福祉法人青祥会 | 滋賀県

③継続的調査(20 施設)

社会福祉法人一乗谷友愛会 | 特別養護老人ホームあさくら苑 | 福井県
社会福祉法人浩仁会 | 地域密着型特別養護老人ホームセント・ケアおおの | 岐阜県
社会福祉法人浩仁会 | グループホームセント・ケアおおの | 岐阜県
社会福祉法人神戸中央福祉会 | 特別養護老人ホーム塩屋さくら苑 | 兵庫県
株式会社 connect | グループホームおおきな木 | 岩手県
社会福祉法人尾瀬長寿会 | 特別養護老人ホーム桜花苑 | 群馬県
社会福祉法人尾瀬長寿会 | 地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑きらり | 群馬県
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャーム西宮用海町 | 兵庫県
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャーム南田辺 | 大阪府
社会福祉法人友愛十字会 | 砧ホーム | 東京都
ALSOK 介護株式会社 | 介護付き有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘 | 埼玉県
株式会社ヒラマツ | 特定施設入居者生活介護虹の夢 津 | 三重県
社会福祉法人よつば会 | 特別養護老人ホーム夕凧の里 | 京都府
医療法人財団五省会 | 介護老人保健施設みどり苑 | 富山県
社会福祉法人弘陵福祉会 | 特別養護老人ホーム六甲の館 | 兵庫県
社会福祉法人愛の会 | いろり端水戸 | 茨城県
社会福祉法人光荣会 | 特別養護老人ホーム白水園 | 和歌山県
社会福祉法人おおさわの福祉会 | 地域密着型特別養護老人ホームささづ苑 | 富山県

社会福祉法人青祥会 | 介護老人保健施設長浜メディケアセンター | 滋賀県
コスモスケア株式会社 | グループホームコスモス松陵 | 宮城県

VI. 実証結果:①-1 特定施設

1. 実証概要

(1) 実証目的

令和6年度介護報酬改定で新設した特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化について、本特例措置を適用した施設又は適用予定の特定施設を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。

(2) 実証仮説

テクノロジーの複数活用及び職員間の適切な役割分担等の生産性向上の取組によって、特定施設入居者生活介護における間接業務が削減されることで、以下4点の変化がみられる。

- ① 職員の総業務時間及び当該時間に含まれる超過勤務時間が短縮する
- ② 総業務時間に占める直接介護の時間の割合が増加する
- ③ 人員配置基準を下回る割合で運営が可能になる
- ④ 職員の負担が軽減する(利用者の満足度や、職員の心理的負担の指標は悪化しない)

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

- 見守り機器
- ICT 機器(インカム・介護記録ソフト等)
- その他施設が導入活用する機器
- いわゆる介護助手の活用等のタスクシフト・タスクシェアの実施

(4) 対象施設

本実証の対象施設は以下の通り。(施設種別:特定施設入居者生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護)。

「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」を算定した、または算定要件を満たす等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設を広く募集した。

図表 VI-1 実証対象施設

No	法人名	施設名	導入している 見守り支援機器	適切な役割 分担の実施
1	株式会社さわやか 倶楽部	介護付き有料老人ホーム さわやか宗像館	バイタルセンサ	タスクシフト
2	社会医療法人中山 会	介護付き有料老人ホーム 宝木荘	バイタルセンサ カメラ型	介護助手活用 タスクシフト
3	ALSOKらいふケ ア株式会社	ホームステーション高井 戸	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
4	ALSOK 介護株式 会社	介護付き有料老人ホーム すこや家・川崎明津	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
5	ALSOK 介護株式 会社	介護付き有料老人ホーム アミカの郷亀有	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
6	ALSOK 介護株式 会社	介護付き有料老人ホーム みんなの家・久喜	バイタルセンサ	タスクシフト
7	株式会社チャーム・ ケア・コーポーレ ーション	チャームスイート緑地公 園	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
8	株式会社チャーム・ ケア・コーポーレ ーション	チャームスイート神戸摩 耶	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
9	株式会社チャーム・ ケア・コーポーレ ーション	チャーム水元公園	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
10	社会福祉法人ひま わり	ケアハウス朝来	バイタルセンサ	タスクシフト
11	株式会社ウエル ビーイング	介護付き有料老人ホーム ウエルビーイング清水	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト
12	HITOWA ケア サービス株式会社	イリーゼ西大宮	バイタルセンサ	介護助手活用 タスクシフト

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 VI-2 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和 7 年 6 月～8 月のうち平日 5 日間
事後調査①	令和 7 年 9 月～11 月のうち平日 5 日間
事後調査②	令和 7 年 11 月～令和 8 年 1 月のうち平日 5 日間
ヒアリング調査	令和 7 年 12 月～令和 8 年 2 月

※感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」、「人員配置に係る調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 VI-3 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアでケアを行った介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入)または Web アプリによる回答 調査スケジュール:事前(オペレーションの工夫・変更前)1 回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2 回の計 3 回。各日に勤務した職員全員が回答 調査実施の時間帯:実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式または Web による回答 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員 1 名につき 1 回のみ回答
利用者向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式または Web による回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者 1 名につき 1 回のみ回答
業務時間等調査	介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答
人員配置に係る調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式やヒアリング調査での聞き取り。(事後②調査実施中の人員配置を把握した。)

調査名	調査対象者	調査概要
		<ul style="list-style-type: none"> 調査スケジュール:実証終了後に実施
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取り 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

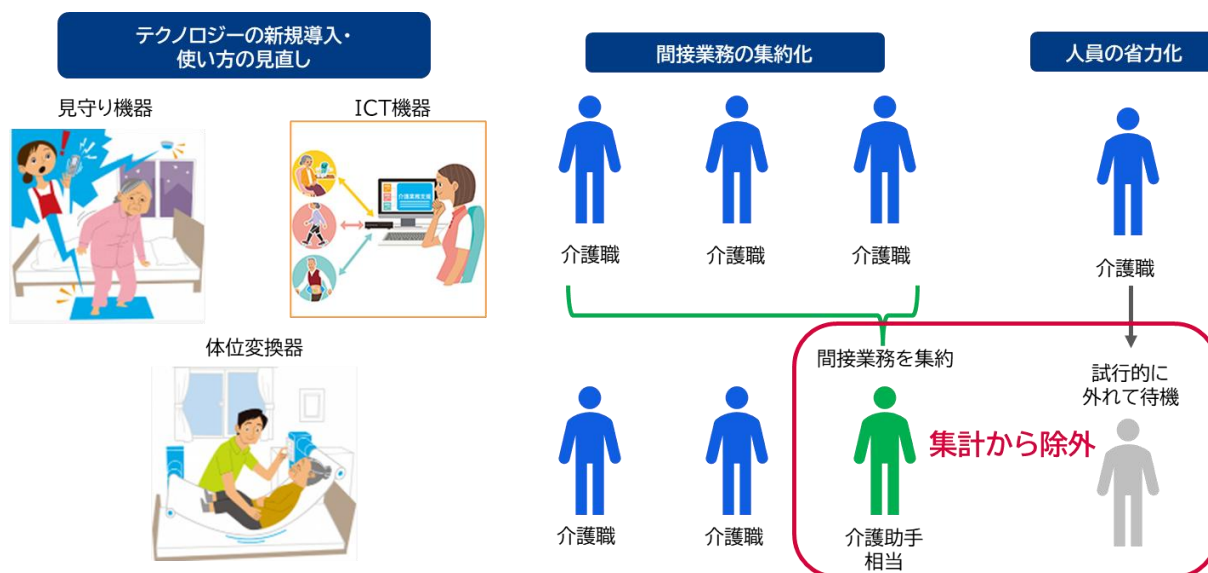
ウ. 本実証で目指すところ

事前調査では通常通りのオペレーションで調査を実施する。事後調査では、見守り機器等のテクノロジーの導入や、職員間の適切な役割分担(いわゆる介護助手の活用等)の取組等を行い、オペレーションを変更することで、現行の人員配置基準(3:1)から特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化の基準となっている人員配置(3:0.9≒3.33:1)でも利用者へのサービスの質を維持し、職員の負担が過度に増加していない状態を目指した。

本実証では、試行的な取組として、一時的に業務ラインから外れて待機又は直接介護以外の業務に従事していた職員を配置することでオペレーションの見直しを行った。(間接業務の集約化または人員の省力化:以下、介護助手相当と呼ぶ) このような職員を介護助手と仮定し、介護助手に相当する業務は人員配置の計算には含めないことで、通常より少ない介護職員でケアを実施した。ただし、安全面を考慮し、ナースコールの重複等、緊急的に必要なケアについては適宜支援に入ることが出来る体制での実証を行った。

具体的な実施方法については以下の通り。

図表 VI-4 実証調査の実施方法



工. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 VI-5 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(見守り機器)

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人 ホームさわやか宗像館 (見守り機器)	見守り機器を導入したことにより夜間巡視などの業務が減少した。一方で夜間という時間帯であるため、代替できる業務がなかった。	分析、検討の時間帯に代替する。特に事業所内における事故の分析やヒヤリハットの提出傾向から予測される事故分析を行う時間とする。	事業所内のヒヤリハット提出数の増加、事故報告書カンファレンスを充実化させる。
介護付き有料老人 ホーム宝木荘 (見守り機器)	昨年1月に導入したAIカメラ等では、転倒事故後に発見されるケースが多く、事故発生前(事故回避)におけるベッド上での異常な動きや初期動作、ナースコールが届かない状況での異常行動に対してアラート機能が求められていた。	令和7年7月より、カメラ型見守り機器の共同開発を依頼し、事前調査後に数台導入を予定している。AIカメラでは対応が困難であった以下の点に対応可能となる見込みである。 ・ベッドからの起き上がりの兆候 ・夜間の居室内の明暗変化や異常音の検知・居室ドアの出入り(夜間徘徊) ・居室内の異常な温度・湿度・バイタルなど上記をセンサで感知し、PCやスマートフォン上で確認することができる。当直介護職およびオンコール対応の看護職員の肉体的・精神的負担を軽減する	夜間の転倒対応は、場合によっては緊急性を要するケースもあるため、少しでもリスクを回避することで、職員・利用者・ご家族の精神的・肉体的負担の軽減につなげる。 また、看取りの場面においても、利用者のバイタル等を訪室せずに常時モニタリングをする。 映像の振り返りが可能であり、対応の検証に活用できる。また、バイタルデータ等が集計されるため、ケアプランの作成にも繋げることで、ケアマネジャーも活用する。

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
<p>介護付き有料老人ホーム宝木荘 (見守りカメラ)</p>	<p>令和6年4月より導入(協力開発を依頼)。導入前は、夜間巡視のあり方について見直しを図っている。45居室において、夜勤時には約2～3時間に1回訪室していたが、訪室の気配に気づいて起き上がり、転倒に至るケースや、コール対応の重複、状況確認のための巡視などにより、職員の肉体的・精神的負担の軽減が必要とされていた。</p>	<p>とともに、利用者のリスク回避にもつながると期待される。</p> <p>PC画面上で全利用者の映像がリアルタイムで閲覧可能であり、不在・臥床、在室などの状況もAIが分析して表示されることに加え、AIカメラによるアラートがあるため、迅速な対応が可能となった。訪室することなく、状況を把握できる点も大きな利点である。</p> <p>映像記録を基に適切に判断し、医療側に繋げることができている。</p>	<p>必要時に対応できるケア体制により、転倒・ずれ落ち・起き上がり(認知症による徘徊など)に迅速に対応することで、精神的・肉体的な負担の軽減を図る。</p> <p>また、転倒時の映像確認によって事故原因の分析が可能となり、日常生活動作や各職種が作成する24時間シートを基にしたケアプランの見直しにおいて、予測に基づくのではなく、正確な情報に基づいた改善が可能となる。</p> <p>転倒件数は令和6年から令和7年で24件減少し(61件⇒37件)、安定した稼働に繋がっているため、今後も事故の多い時間帯の分析を行い、事故件数を減らしていく。ご家族への説明にも活用できるほか、事故発生時における職員の的確な緊急対応の様子を学習・教育の場面で活用する。また、</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
			<p>外国人人材への教育にも活用し、現在夜勤は2名体制、外国人職員が入る場合は3名体制であるが、今後は外国人職員を含め2名で夜勤を回せるようにする。</p> <p>生活リズムの記録をもとに分析はできるが、バイタルデータが取得できないため、今後モニタリングできるようにベンダーとも協力して進めていく。</p>
<p>介護付き有料老人ホーム宝木荘 (見守り機器)</p>	<p>令和7年2月より、補助金を活用して2台を導入。15機種の実装の中で、介護職員から最も評価が高い。特に大きな課題はないが、可能であれば全居室に導入したい。</p>	<p>2台のみの導入のため、特に転倒リスクの高い方、徘徊行動の多い方、最終看取り期の利用者を対象に、優先順位を検討しながら活用している。</p> <p>バイタルや睡眠の確認、データの分析を行っている。</p> <p>クラウド型であり自宅でも閲覧できるため、オンコール対応の看護師も自宅待機のまま、施設内と同様にタブレットやスマートフォンを通じてアラートを受信し、リアルタイムで映像やバイタル情報を確認することが可能である。これにより、看護</p>	<p>当直介護職員にとっては、必要なタイミングで対応できるケア体制となるため、肉体的・精神的負担の軽減や業務の効率化に繋げる。</p> <p>急変対応だけでなく看取り対応でも活用ができていたため、今後は導入台数を増やし活用の幅を広げていく。</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人ホーム宝木荘 (見守りセンサ)	4～5年前に補助金を活用して導入済み。現在2台を使用中であるが、台数が限られているため、特に認知症による徘徊行動が見られる方や、転倒リスクの高い方に限定して活用している。	師にとっても肉体的・精神的負担の軽減が図られている。 センサを設置していることを利用者に気づかれてしまい、センサを避けられることがあったため、使用方法には留意する。	バイタルなどの情報をリアルタイムで把握できるため、介護職員の負担軽減に繋げる。
ホームステーション高井戸 (見守り機器)	巡視が日中1時間に1回、夜間2時間に1回の画一的なサービスが契約上入っており、無駄が多かった。見守り機器をうまく利用できておらず、巡視にかかる時間がとても多い。	固定巡視の廃止。個別性を高めて巡視を必要な方に対するのみ実施する。	介護時間の確保を目指す。
介護付有料老人ホームすこや家・川崎明津 (見守り機器)	見守り機器を導入したことで、不要な訪室が減り、睡眠の妨げもある程度防ぐことは出来たが、他ご利用者の対応時に1Fご利用者の離床検知があっても、階をまたいで移動する為、即時の対応が難しい。	見守り機器用のスマートフォンを携帯。離床検知を確認したら、訪室し対応に入っている。新たな課題が発生した際には、適宜モニタリングを行い、見直しを図っている。	見守り機器のモニターによる巡視を継続。不要な訪室を減らすことで、ご利用者の安眠妨害を防ぎ、職員の介護負担軽減につなげていく。
介護付有料老人ホームアミカの郷亀有 (見守り機器)	見守り機器によって、利用者が見えすぎてしまうので少し動きがあると目視確認をしたくなる。結果、無意味な	体動で端坐位の表示になるものは離床後〇〇分後などでアラートがなるように設定し、目視確認をする基	アラート慣れ防止。安心安楽を目的として活用するため、アラート使用は看取り者のみにしていきたい。

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>訪室が増える。 アラート慣れがおきている。 事故防止機器(離床センサ)のような使い方になりがちである。</p>	<p>準を細かく設定した。 不要なアラートは設定しない。ある程度(不定期)したらアラートの見直しをし、外せるものは外す。 職員に事故防止機器目的ではないと伝え続ける。 往診の際に、医師から入居者がよく眠れているのか聞かれた際に、本人は眠れていると主張する中データを医師に見せたところ、実は夜に眠れていないことが分かった。このように、見守り機器をエビデンスとして用いることができたのは好事例である。</p>	<p>全床アラートが出るようには設定しておらず、看取りの方を優先してアラート設定をし、利用者によって対応を分けるようにしている。(25床中アラートは5床程度。)</p>
<p>介護付有料老人ホームみんなの家・久喜 (見守り機器)</p>	<p>見守り機器のアラート機能に職員の慣れがおきている。 離床センサのような使い方をしてしまう。</p>	<p>安易にアラートを設定しない運用とする。ある程度経過したらアラートの見直しをし、外せるものは外す。 職員に離床センサではないことを指示する。</p>	<p>見守り機器導入により入居者様の生活や行動に合わせた介護、睡眠状態に合わせた援助をプランへ落とし込み介護の優先順位づけ、安全・安心・満足度の向上に努める。 見守り機器による安否確認を実施。夜間帯の職員の負担軽減。</p>
<p>チャームスイート緑地公園 (見守り機器)</p>	<p>導入済みではあるものの十分に活用ができていない状態。 2時間に1度の安否</p>	<p>安否確認をタブレット端末での確認に切り替える。 利用者ごとに対応方</p>	<p>安否確認業務時間(直接訪室)を削減し待機時間の確保。 睡眠データを活用し、</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	確認を直接訪室で一 律実施している。	法を見直し、個別で必 要な方に関しては、継 続的に直接訪室を実 施。 モニター確認時に異常 があれば、直接訪室を 行い、緊急対応マニ ュアル(本部作成)に沿 って対応している。	ご入居者様へのサー ビス向上を目指す。
チャームスイート神戸 摩耶 (見守り機器)	導入済みではあるも のの十分に活用がで きていない状態。 2 時間に 1 度の安否 確認を直接訪室で一 律実施している。	安否確認をタブレット 端末での確認に切り 替える。 個別に必要な方に関 しては、継続的に直接 訪室を実施。 モニター確認時に異常 があれば、直接訪室を 行い、緊急対応マニ ュアル(本部作成)に沿 って対応している。	安否確認業務時間(直 接訪室)を削減し待機 時間の確保。 睡眠データを活用し、 ご入居者様へのサー ビス向上を目指す。
チャーム水元公園 (見守り機器)	見守り機器未導入の ため、訪室して巡視を 行っている。	見守り機器について 利用者の同意を取り 導入する。 基本的には全居室設 置し、夜間帯の訪室を 画面上でのモニタリン グでも可とする。日々 のログデータをアセス メントに活用する。	夜間帯の訪室業務の 見直し。 アセスメント強化によ る、入院日数の削減や ADL の向上。
ケアハウス朝来 (見守り機器)	元々居室内での転倒 が多かったこともあ り、入居者様の夜間の 睡眠状態を把握し、排 泄や離床のタイミング に応じた適切なケアを 提供することを目的に	定期的に見守り機器 のデータを分析し、そ の結果を処遇内容に 反映させる取り組みを 継続している。また、 センサ機能についても 常に見直しを行い、	見守り機器の本来の 目的である「夜間の睡 眠状態の把握」から、 適切な排泄誘導や離 床支援のタイミングを 見極めることで、入居 者さんの生活リズムを

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>導入した。しかし、現状ではモニターによる巡視はできているものの、当初の目的であるデータを活用して日中の活動量を上げることよりも、「転倒・転落防止のためのセンサ」としての役割が強くなっており、本来の活用方法が十分に機能していない。</p> <p>導入時にメーカーからデータの見方の研修はあったが、データを活用することは職員が苦手としている。</p>	<p>「事故防止」の目的で設置していたもののうち、現在の状態で必要のない方については、個別に状況を確認のうえ、取り外しの検討を進めている。</p>	<p>尊重した自然なケアの提供を目指す。</p> <p>また、センサ機能が不要な方の見直しを行うことで、職員による不要な訪室を減らし、業務の効率化や心理的負担の軽減にもつなげる。</p>
<p>介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水 (見守り機器)</p>	<p>職員の機器に対する信頼感に差があるため、21・23・1・3・5時の巡視のうち、1時のみモニター確認となっており、その他の時間帯はモニター確認と全室巡視を行っている。</p> <p>モニターにおいて日誌の確認を行っておらず、蓄積されたデータの活用に繋がっていない。</p> <p>データ上の異常に対して、記録に繋がらず、また多職種含む申し送りに繋がっていない。</p> <p>突発的でないカンファ</p>	<p>巡視を定時訪室ではなく、モニター確認することで、巡視回数の削減を行う。</p> <p>モニター上、体動のある方への訪室は継続して実施する。</p> <p>各階のモニターを確認できるタブレットに加え、ノートPCを設置し日誌確認を行いやすくする環境を作る。</p> <p>定期ケアカンファレンスにおける日誌確認を加える。</p>	<p>不要な巡視削減による職員の心身負担軽減を図る。</p> <p>利用者の安眠の確保を行う。</p> <p>利用者の要望や転倒・転落事故を未然に気付くことで精神的なストレスや予期せぬ事故発生を予防する。</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	レンズではデータをもとに夜間帯の様子を共有できていない。アラート機能(離床・心拍・呼吸数など)を使用していない。		
イリーゼ西大宮 (見守り機器)	感染症対策などで居室にいていただくことを促した状態では、アラートの見忘れや消し忘れが散見し、対応を行えているのかが分からない状態になってしまう。	感染症対策中であっても、普段と同様転倒などのリスクの高い方がアラート設定されている。感染症対策の防護服を着た状態では対処が困難ではあるが、その他の職員は第一優先にアラート確認を行う必要があるため、他者の動きをみて今自分が何をすべきか考える必要がある。	事務所の職員も出払ってしまうことが多い為、指示系統が弱くなってしまうことが課題である。そのため、日勤リーダーや正社員がアラート対応含め率先して周りの状況を把握することに努め、一丸となって対処にあたることを目指す。

図表 VI-6 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資する ICT 機器)

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人 ホームさわやか宗像館 (介護記録ソフト)	手書き記録ではなくなったことから、効率化は進んだものの即時確認が出来ないことから情報共有などが後手になる場合がある。	記録確認などの運用追加は望ましくない為、別途のオペレーションを追加して申し込みを強化していく必要性がある。 具体的には、情報共有ツールの掲示板機能を利用してスマートフォンで確認すること	新たな申し送りノートなど手書での対応に戻らず、デジタルデバイスで申し送り確認することを徹底する。

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人 ホーム宝木荘 (介護記録ソフト)	<p>約 10 年前よりクラウド型の記録システムを導入しており、拡張性も高い。令和 7 年 2 月からは、AI 機能付きの音声入力・多言語変換・文章校正機能を備えたタブレットを導入したことで、海外人材に対する記録のあり方もスムーズになった。</p> <p>大きな課題はないが、介護職員のキャリアや経験値によって、記録内容の理解力に差が見られる点は今後の検討課題である。</p>	<p>を想定している。</p> <p>全職員で情報を共有できる体制が整い、リアルタイムでの記録・確認が可能となっている。現在、見守り機器との自動記録連携機能についてメーカーに開発を依頼し、取り組みが進められている。</p> <p>また、血圧測定や体温測定においては Bluetooth 連動により自動記録が可能となり、業務の効率化と時間短縮が図られたことで、直接ケアに充てられる時間が増えている。</p> <p>タブレット端末の活用により、記録時間の短縮と業務の効率化が進み、残業時間の削減につながっている。 (残業平均月 1 時間まで削減)</p> <p>日々の記録だけでなく、事故報告書の作成時間も削減でき、写真付きで記録を残せるため今後の改善につなげやすくなっている。</p>	<p>今後も記録業務を効率化させ、働きやすい職場づくりを目指す。</p>
ホームステーション高井戸	<p>業務フローはあるものの効率的に動けてい</p>	<p>介護ソフトのオーダーシステムを用いて、職</p>	<p>理想は、順番にケアこなしていけば 1 日が</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
(介護ソフト内のオー ダリングシステム)	ない。	員に対して利用者への 介助内容のスケ ジュールを組み、指示 登録、指示止め、指示 変更、その他職員への 指示を出すことで、ケ ア内容を明確にした。 現在試行段階であり、 改善点を見つけなが ら試行錯誤している。	終わるようにしたい。
ホームステーション高 井戸 (介護記録ソフト)	PC・スマートフォンから 介護記録の記入が でき、音声入力も可能 である。また、事故報 告、ヒヤリハット、苦情 報告も入力可能であ る。 ただし、慣れていない 単発バイトの方や高齢 のスタッフ等は紙で記 録をしている。	高齢スタッフの方には 音声記録を活用いた だいている。	記録業務時間の更な る効率化。
介護付有料老人ホーム すこや家・川崎明津 (介護記録ソフト)	介護記録をまとめて 入力したり、入力忘れ したりすることが時々 ある。情報の共有もタ イムラグが発生するこ とがある。	対応をするごとに記 録を入力するよう、周 知徹底する。	即時での入力が難し い場合は、付箋やメモ を残し、落ち着いたタ イミングで入力する。
介護付有料老人ホーム アミカの郷亀有 (介護記録ソフト)	タブレット端末で記録 をしているが、重たい ので持ち運びが難し い。 介護記録ソフトのロー ミングが長く、時間が かかる。 タブレット端末操作に 集中し、周りが見えな	持ち運べないため記 録者と記録時間を決 めて、その時間のみタ ブレット端末を触るよ うにしている。 切り替えによるローミ ングが発生しないよう に、1画面でワンタップ の記録ができるよう	タブレット端末を持ち 歩けたとしても業務の 妨げになる可能性が あるため。落としてし まうなどの破損を防 止するため。 タブレットに集中する 時間を定めて、だらだ ら仕事にならないよう

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>くなる。 タブレット端末は各階 1台ずつ配置してい る。(スマートフォンは 基本的に1人1台持 参しており、見守り機 器と、服薬管理システ ム、情報共有ツールを スマートフォンに入れ ている。)</p>	<p>にした。 入居者様に声をかけ る。その他動きの多い 入居者様の近くで作 業する。 オペレーションモード にすると、ワンタップ で入力処理できるた め、ローミング時間が かからないという利点 がある。タブレット端 末による記録待ち等 はなく、入力・記録担 当がいる。 オペレーションモード では、自分の役割が時 間軸でわかるため、画 面切り替えをせずにス ムーズに業務反映で きる。</p>	<p>にする。</p>
<p>介護付有料老人ホーム みんなの家・久喜 (バイタル測定器)</p>	<p>バイタル測定に時間が かかり過ぎている。</p>	<p>5秒で測定ができ、介 護記録ソフトに自動記 録される。</p>	<p>職員のバイタル測定・ 記録業務の負担軽減 により他の業務に時 間を使う。</p>
<p>介護付有料老人ホーム みんなの家・久喜 (介護記録ソフト)</p>	<p>連絡内容の打ち込み に時間がかかる。</p>	<p>介護記録ソフトに打ち 込んだ内容等を写真 で撮り、情報共有ツ ールで周知している。 見守り機器と連動して いる。</p>	<p>打ち込み時間の短縮 化。 情報共有ツールも併 用することによる申し 送り時間の削減。 職員間の情報共有の 円滑化。</p>
<p>チャームスイート緑地 公園 (介護記録ソフトの オーダーリングシステム)</p>	<p>一律の間接援助(配茶 /お菓子提供等)を実 施している状態であ る。</p>	<p>一律の実施ではなく、 必要な方のみ個別 援助実施することを見 討している。</p>	<p>必要な方への実施に することで、介護ス タッフの業務量軽減。 システムにて個別で業 務スケジュール作成</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
			し、業務効率化を目指す。 自社システムのため、本部の方で職員からの要望等を集めつつ、使いやすいものに回収していく。
チャームスイート神戸 摩耶 (介護記録ソフトの オーダーリングシステム)	遅出シフトが一律休憩 実施(15時～)のため 各フロアにスタッフが いなくなるので、早出 シフトが入浴を15時 に切り上げ入浴時間 に制限がある 日によって入浴業務 にムラがある。	遅出の一律休憩時間 を見直し(30分ずつ ずらす等)、入浴介助 を16時まで稼働で きるよう、業務スケ ジュール表の変更を実 施。	介護スタッフがご入居 者様のケアに充てる時 間を増やすことで介護 サービスの生産性向 上(品質向上)を目的 とする。
チャーム水元公園 (介護記録ソフト)	介護記録ソフトへの情 報の記載方法が職員 によってマチマチで、 正確に情報共有がな されていない。 介護記録ソフトを導入 しているが、記入のタ イミングが事後での転 記となっているため (間接)業務の増加に つながっている。	介護記録の新システム への移行に伴い、情報 をアプリにて一元管理 するように変更。 チェックボックスなど による入力の手間を削減 する。	記録作成による職員 の負担軽減を図る。ま た、記録方法の統一や 情報の一元管理を通 じて、情報共有の際に 発生しているタイムラ グや個人差を軽減す る。 さらに写真や動画を 活用し、メモで伝える のが難しい視覚的 データを効率的に共 有する。 見守り機器やアッセ スメント情報などの各 機器の連携についても 検討を進める。
ケアハウス朝来 (介護記録ソフト)	介護記録ソフトへの記 録入力に漏れが見ら れる。タブレットで使	記録の確認を「日課業 務の一部」として位置 づけ、記録すべきタイ	この取り組みにより、 記録の漏れ、重複記録 を防ぎ、内容の正確性

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>用しているアプリ内のテンプレートの追加や変更も適切に行われておらず、記録の抜けや作業の非効率の課題があります。</p> <p>記録の抜けの原因として、タブレット端末を常に持ち歩くのは難しいため、後追いで記録になっていることや、急な業務が重なることで記録を忘れてしまうことが挙げられる。アプリ内テンプレートが活用されていない点は要改善したい。タブレット端末を持ち歩くことはないため、突発的なことが起きたときにカルテに記入するなどのルールがなく、記入が抜けることもある。</p> <p>メーカーから、導入に際して説明はあったが、よりよい使用方法に向けての研修等は受けられていないのが現状である。</p>	<p>ミングを日課として組み込んでいる。</p> <p>実施内容についてはインカムを活用して職員間で報告・連携を図ることで、記録漏れや重複記録を防ぐ体制を整えている。</p> <p>また、現状のケア内容に沿うようにテンプレート内容を定期的に見直し、必要な項目の追加・変更を行っている。テンプレートの内容については、日々のミーティング等で現場から意見を収集し、相談員が追加を行っている。</p>	<p>や一貫性を高めることを目指す。</p> <p>さらに、テンプレートの充実によって、記録にかかる時間や手間を減らし、職員がより効率的にケアの時間を使えるよう配慮する。</p>
<p>介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水 (介護記録ソフト)</p>	<p>紙での記録が多い、または混在、重複している。</p> <p>記録の内容に対する定期的な質の評価(記入漏れの有無を含む)</p>	<p>現状分析をするために、紙記録の種類の洗い出しを行った。重複した記録やメモ的要素の記録について、電子化を図った。</p>	<p>重複記録を削減し、事務的業務に係る時間を効率化させる。</p> <p>ケアカンファレンス等で記録を活用することによる介護サービスの</p>

施設名(機器名)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>が行えていないため、使用したい用途に対しての記録がない。</p> <p>機能に対する理解度の不足。</p> <p>記録を行う水準が不明確。</p> <p>記録の表現方法が標準化されていない。</p> <p>記録をとるタイミングや内容が職員によって様々。</p> <p>管理を行うための話し合いが行われていない。</p> <p>現在スマートフォンには記録ソフトがインストールされておらず、記録用のツールとしては活用できていない。</p>	<p>記録のルールを変更し電子記録と申し送りを連動させ、記録の重複を削減させている。</p> <p>記録の管理ルールを策定し、入力管理、申し送り管理を行う。</p> <p>記録の質向上のため、記録手法の導入を行っている。</p>	<p>平準化や根拠に基づく介護を推進する。</p> <p>今後も、紙記録から介護記録ソフトへの記録へ移行できるように順次検討していく。移行の際には、まずは記録ソフトと紙の重複記録から始め、徐々に記録ソフトへの一本化ができるように努めている。</p> <p>申し送り機能があるが、まだ活用できていない。また、申し送りルールが不明確であるため、必要な申し送り事項の明確化と効率化をしていこうと考えている。</p>
イリーゼ西大宮 (介護記録ソフト)	<p>業務中に記録を入力する時間がなく、記録の漏れにも繋がり、看護から指摘を受ける機会が多く、悪循環に繋がりやすい。</p>	<p>記録を含めての勤務時間といったことを意識し、業務が終わらなかった際は他者に任せることと、なぜ終わらなかったのかを検討する必要がある。</p>	<p>記録の漏れを無くしていく。</p>

図表 VI-7 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
 (インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器)

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人 ホームさわやか宗像館 (インカム)	電話での内線申し送りが一般的。特に入浴時の看護師との打ち合わせの際は浴場を離れて呼びに行く、職員所在確認時には大声で呼んでいる。	インカムを導入することで、課題に対する対応は勿論、現場と浴室の情報連携(準備依頼など)を強化する。	入浴業務の効率化や更なる活用方法の模索をする。
介護付き有料老人 ホーム宝木荘 (インカム)	インカムはなくてはならない。 現在特に課題はないが、強いて言えば、イヤホンの劣化や故障が目立つ点が課題。	現在のイヤホン型で全職員が活用できている。 緊急対応や、その日の全職員の業務行動をリアルタイムで把握できるため、ヘルプ要請時や緊急時にも、その場を離れることなく利用者対応が可能となっている。 インカムで申し送りを行い、朝の忙しい時間を効率的に活用できるようになっている。 骨伝導式イヤホンも試したが、さらなる改良が必要と判断され、職員からは不採用となった。	今後もリスクマネジメントのためにインカム活用は継続していく。
ホームステーション高 井戸 (インカム)	特段大きな課題はないが、施設内で繋がりにくいところがある点や、常時付けているためイヤホンの耐久性に課題がある。	現在の取組を継続。	円滑な指示、コミュニケーションの実現。

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付有料老人ホームすこや家・川崎明津 (情報共有ツール)	申し送り業務に時間を要していた。	申し送りを廃止し、タブレットによる情報収集に移行している。後々は各職員にスマートフォンを貸与し、情報共有ツールによる情報収集予定。	連絡業務を効率化させ、介護職員がご利用者と接する時間を多く持つ。
介護付有料老人ホームすこや家・川崎明津 (インカム)	PHS 電話機がある為、インカムを使用する習慣がない。	まずは携行し、習慣付ける。	必要な情報のみを聞き取り、ご利用者のケアに集中出来るようにする。
介護付有料老人ホームアミカの郷亀有 (インカム・情報共有ツール)	トランシーバー型のインカムを使用していたが、イヤホンをしない職員が持つインカムから入居者情報が流れ聞こえてしまっている。 重く、バッテリーの持ちが悪い。 他の無線もとってしまう。 迅速な連絡ツールとして使用したいが、情報が流れ聞こえてしまうため、隠語や「とりあえず来てください」などの大雑把なやり取りになるため把握が遅れてしまう。	本実証ではインカムから情報共有ツールでの連携に変更し、情報共有を迅速化させる。	迅速な連絡ツールとして、入居者様にとって機密性の面もタイムリーに伝えられるようになる。 情報共有はなくてはならないため、まずは慣れていただいた上で、職員の使用意欲を減退させないようにする。 インカムについては、スマートフォン内蔵型のものを再導入する。
介護付有料老人ホームみんなの家・久喜 (情報共有ツール)	インカムは導入後の活用がうまくいかず、コストだけがかかってしまった。 職員の技術的な習得が出来なかった。	インカムからスマートフォンの携帯に変更し、情報共有の改善を図る。	スマートフォンによる情報共有を浸透させる。

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
チャームスイート緑地 公園 (情報共有ツール)	各議事録の確認が紙 管理であり事務所でし か確認できないため、 参加できなかった職員 の確認に時間を要 する。	スマートフォン/タブ レット端末からログイン を行い、どこにいて も端末さえあれば議 事録を確認できるよ うにする。	確認する情報の一元 化を行い、職員の情報 確認する時間の効率 化を目指す。
チャームスイート緑地 公園 (インカム)	運用上の大きな課題 はないが、口頭で伝達 する際に、説明方法の 分かりやすさに差異が ある。	継続して使用。	職員からは大変好評 であるため、職員には 引き続き使っていくこ とで、上手く運用して いくことを目指す。
チャームスイート神戸 摩耶 (情報共有ツール)	各議事録の確認が紙 管理であり、事務所で しか確認できないた め、参加できなかった 職員の確認に時間を 要する。	スマートフォン/タブ レット端末からログイン を行い、どこにいて も端末さえあれば議 事録を確認できるよ うにする。	確認する情報の一元 化を行い、職員の情報 確認する時間の効率 化を目指す。
チャームスイート神戸 摩耶 (インカム)	運用上大きな課題は ない。	継続して使用。	イヤホンについてはよ り使いやすいもの買 い替えを検討する。
チャーム水元公園 (インカム)	申し送りが十分にでき ておらずケアの統一性 に欠けている。属人的 なケア能力になってい る部分がありケアの質 の平準化ができてい ない。	集まる時間を改めて 作ることも難しいた め、インカム機器を使 用し各所にてインカム を使用した申し送り (タ礼)を実施する。	申し送りを確実に実施 し、各スタッフのご入 居者様に対するケアの 意識統一及び認識レ ベルの向上を目指す。
ケアハウス朝来 (インカム)	インカムを使った情報 伝達が定着してきた 一方で、やり取りが一 方通行になりやすく、 相手の反応を待たず に次の行動へ移ってし まう傾向がある。 その結果、意思疎通の 不十分さや、伝えた内	インカムでのやり取り においては、「伝えた ら終わり」ではなく、相 手の返事をきちんと 受け止めてから行動 に移すことを基本とす るよう指導・周知を行 い、明確な返答を確認 することを習慣化して	インカムでのやり取り に双方向性を持たせ ることで、業務の正確 さと連携の質を高め、 職員間の信頼関係を より深めることを目指 す。現時点で少しずつ 返事を持ってから動く ことは定着してきてい

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>容が正しく伝わっていないケースも見られている。フロアの職員間のやり取りはできているが、事務所とフロアのやり取りにおいて、返事を待たずに動いてしまう傾向がある。返事を待たずに動くことで適切な場所に人員を配置できず事故に繋がりをため、改善が必要であった。</p>	<p>いる。加えて、相手の返答にも耳を傾け、お互いの状況を尊重しながら業務を進められるよう心掛けている。</p>	<p>る。 また、相手の返事を受け止めたうえで行動する姿勢を通して、心理的安全なチーム作りに繋げる。</p>
<p>介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水 (インカム)</p>	<p>通信環境の悪さにより情報共有が行えない場合があり、メリットを感じていない。情報が多く処理が行えない。 システムの理解の不足。インカムを利用して情報共有等を行う内容について共通認識が持っていない。 管理側のインカム使用に対する理解度の不足がある。 PHS(外線・ナースコール連動)とインカム(連動なし)を併用しており、PHS 廃止の予定はない。運用ルールの細部が未整備で、機器活用の定着にはなお課題が残っている。</p>	<p>専門職も含めた業務の事前・事後報告(例:誰へどのような支援を行うか、支援を行った結果の反応等)を行い、職員間のコミュニケーションを活性化させる。 従来までの情報共有ツールであった PHS の役割を明確化させ(主に外線電話)、インカムでも良い情報はインカムに移行する。 従来インカムを導入していても上手く使えていなかったため、まずは、面会対応の連絡など簡単なコミュニケーションから実施する。 また、着用ルールとして、朝の申し送り時に装着確認を行う。</p>	<p>職員間の良好な関係性の維持を図る。業務に透明性を図ることによる業務の標準化を行う。 利用者、ご家族の満足度の維持・向上。利用者の変化について早期に気付き、対応につなげることができる。</p>

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
イリーゼ西大宮 (インカム)	インカムが調子の良い時や悪い時など機器によって状態に差が出ている。情報伝達やオペレーションに影響を及ぼし、入居者様にも影響が大きく発生する恐れある。	パーツの付け替えなど、調子の悪い部分を特定し、入替を行っている。	フロアに上がる前のインカムチェック、適宜パーツ交換を行い、後手になる前に対応を行う。

図表 VI-8 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(その他のテクノロジー)

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人 ホームさわやか宗像館 (自動体位交換機)	褥瘡が形成してから対応する事が多く、予防機器としての性能を十分に活用できていない。 どの利用者に活用しているか所在が把握しきれないこともある(3台導入済)。 看護職員の処置能力が高く、早期であれば完治できるため、介護職員がリスクと感じにくいと考えられる。	委員会の形成(もしくは従来委員会に盛り込む)により皮膚の予防についてカンファレンス。日々の生活状況や皮膚状況に合わせて危険性が高い方に対し導入の有無を判断する機会を設ける。	褥瘡を発生させない環境を作る。
介護付き有料老人 ホーム宝木荘 (面会者リストの自動 記録機器)	情報共有ツールと繋がっているが、連携機能の実用化にまでは至っていない。	順次活用を目指す。ただし、ご家族が高齢であり使いこなせない人もいるため、連携化が思うように進まない。	面会リストの自動化がある程度システム化されることを目指す。
介護付き有料老人 ホーム宝木荘	情報共有において効果を発揮しているクラ	現在では、請求書や広報誌などもリアルタイ	業務負担軽減、効率化、情報共有の有効性

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
(家族との情報共有 ツール)	ウド型システムであり、職員間や家族との連絡事項、写真・動画による生活行動や動作のリアルタイムな共有が実現できている。地域包括ケアシステムの実現に向けては、医療機関・薬局・行政との将来的な連携が目標であると同時に、今後の課題でもある。	ムに送信できるようになった。これにより、経費の節減や残業時間の削減にもつながっている。写真や動画の送信も可能となっており、利用者家族からの返信も見られるため、それがモチベーションに繋がっている。地域包括ケアに向けた医療機関との連携は、段階的に実施している。	を高めていく。
ホームステーション高井戸 (入浴支援機器)	入浴介助者増加と自立を促せていない。	泡シャワーを使うことにより、介助なく洗えるようになった。	機器を使うことで、利用者ご自身で洗えない背中、指先等が洗えるようになることを目指しつつ、入浴介助者の負担を減らす。
ホームステーション高井戸 (入浴支援機器)	洗身に時間がかかる、肌が弱くゴシゴシ洗えない、洗うと皮膚を傷める。洗剤が肌によくない。洗っている間寒い。	介助者の負担軽減や利用者の満足度向上を目指し、機器を導入。	湯船に漬かるだけで体を綺麗に洗えるようにする。ただ、頭も体も浴槽内で洗うため、抵抗感がある利用者もいるため、洗髪対応に課題が残る。
介護付有料老人ホームすこや家・川崎明津 (とろみサーバー)	-	導入して間もないこともあり、現状課題等は把握できていない。	時間の短縮が図られているかは不明であるため、今後検証をする。
介護付有料老人ホームアミカの郷亀有 (服薬管理システム)	ルール通り行うことができない時がある。服薬が終わってから読み込むこともあるため	薬に対しての危険意識の植え付けを行う。以前はサービス付き高齢者向け住宅で	フロアに2人職員がいなくとも大切な服薬介助をミスなく行うために活用し、安心安全

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	QRコードで読み込む過程が作業化してしまっている側面もある。	あったため、職員の薬への重要性和意識が低かったが、服薬管理システムを使用したことでダブルチェックが実施され、薬の重要性に気づくことにつながった。 管理システムを用いてQRコードを発行し、薬局と連携している。	な服薬管理を行う。
チャームスイート緑地公園 (ポータブルエコー)	従来は、排便が3日ない、くらいの情報提供であり、詳細まではわからなかった。	医療用エコーは使用方法が難しく、看護職も使用経験がないことから、当初は戸惑う場面もあった。しかし現在では、看護師が主に使用し、エコー画像の見方にも徐々に慣れてきている。 今までは職員の感覚によって排便の状態を把握していたがエコー使用によって根拠に基づいた排便の把握ができるようになり、過剰刺激性下剤の処方も適切にでき、失禁が減った。	過剰刺激性下剤の服薬をなくし、夜間の失便件数を減らすことで職員の業務負担軽減・ご入居者様のQOL/サービス向上を目指す。 継続的に排便困難なご入居者様の状態を可視化し、主治医と相談することで過剰刺激性下剤の服薬を軽減する。
チャームスイート緑地公園 (議事録自動作成ツール)	会議ごとにExcel等にて、議事録を作成する必要がある。 議事録作成者が会議内容をメモする必要がある。 議題が多いため、会議	ツールを活用することで、自動で音声収録・文字書き起こしを行いAIが内容を自動要約する。 プロンプトを入力し、会議で取り上げるべ	自動作成を行い、議事録作成時間短縮することで業務効率化を目指す。 入居時の初回アセスメントなど、職員内の会議以外でも活用する。

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>の中で一部の事項が議論されないまま終わってしまうことがある。</p>	<p>き議題を可視化することで、議題の漏れを防止している。</p>	
<p>チャームスイート神戸 摩耶 (来訪者管理アプリ)</p>	<p>来訪者・業者の訪問を紙で入退出管理をしている状態で、事務所の人員1名が対応している。</p>	<p>受付アプリを使用し、入退出手続きを進めることができる。 ただし、高齢なご家族の場合だと対応できない場合があるのが課題。</p>	<p>事務所の受付対応業務量の削減を目指す。</p>
<p>チャームスイート神戸 摩耶 (議事録自動作成ツール)</p>	<p>会議ごとに Excel 等にて、議事録を作成する必要がある。 議事録作成者が会議内容をメモする必要がある。</p>	<p>ツールを活用することで、自動で音声収録・文字書き起こしを行い AI が内容を自動要約する。 当施設に限っては、電波が悪いため、途中で消えてしまうことがあることが懸念。そのため、土台として記録を使用できるが、念のため手打ちでの記録と併用している。</p>	<p>自動作成を行い、議事録作成時間短縮することで業務効率化を目指す。</p>
<p>チャーム水元公園 (議事録自動作成ツール)</p>	<p>会議ごとに Excel 等にて、議事録を作成する必要がある。 議事録作成者が会議内容をメモする必要がある。</p>	<p>ツールを活用することで、自動で音声収録・文字書き起こしを行い AI が内容を自動要約する。</p>	<p>自動作成を行い、議事録作成時間短縮することで業務効率化を目指す。 訪問診療の動向に活用できないか相談予定。</p>
<p>ケアハウス朝来 (移乗リフト)</p>	<p>現在、移乗用リフトの使用対象者は1名に限られており、他の入居者様への展開が進んでいない。また、時</p>	<p>リフトの導入目的である「入居者様・職員双方の負担軽減」という本来の意義を職員間で再確認している。</p>	<p>移乗用リフトを適切に活用することで、介助時の腰痛などの職員の身体的リスクを減らしつつ、入居者様に</p>

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	間的な都合を優先するあまり、リフトを使用せず職員が人力で対応してしまう場面も見受けられる。これにより、入居者さん・職員双方の身体的な負担が残る現状がある。	対象者以外の入居者様への適応の可能性についても検討を進める必要がある。	とって安心感のあるケアの提供を目指す。リフトの使用が自然な介助方法として定着し、安全で快適な生活環境づくりに繋げる。人力での対応については、リフト導入の目的・意義を周知することで少しずつ改善されている。職員の年齢・体力を踏まえると、今後はリフトを使用する対象者を拡大していくことを検討する。
介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水(見守りセンサ内蔵ベッド)	使用する対象者の選定基準が曖昧であり、職員への機器に対する性能の説明が不足していることから、内蔵されているセンサ機能を活用できていない。	選定基準の策定を行い、設置対象者を改めて見直す。見守りセンサ内蔵ベッドの性能及び、操作の説明を研修内で実施し、実物のベッドを利用しシミュレーションを行う。職員への機器性能の説明不足から、パラマウントベッドの内蔵センサ機能を十分に活用できていない。取り組み全体の優先度も低く、導入は全体の約1割(5台)にとどまっている。	転倒・転落事故に早期に気付くことによる事故発生の予防を目指す。使用条件は特に定めておらず、安全リスクを抑えたい入居者を中心に設置しているが、機能理解が不十分なため活用度は限定的となっているが、今後活用機会の拡大に努めていく。
イリーゼ西大宮(服薬管理システム)	システムでの人物読み込み間違いが継続して発生している。	効率だけで行うと読み込み間違いが発生するため、対象者の元へシステムを起動したま	適切な服薬管理を行う。

施設名・機器名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	ま入居者様のもとへ向かうと、他者の QR コードが誤って読み取られてしまう。 ダブルタスクが行えず、内服の動きをしている最中に他の情報が入ると混合してしまう。	よう指導を行う。 内服を担当している場合は、内服作業のみに集中する。他の業務が先決な際は内服業務から離れる。	

図表 VI-9 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(適切な役割分担(タスクシフト/シェア)や介護助手の活用)

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護付き有料老人ホームさわやか宗像館 (タスクシフト)	業務スケジュールなどの役割分担を行っているものの、業務フローが複雑であり予定通りに進んでいない。	インカム導入により入浴の効率化が進行する可能性があるため、現在チームタスクで誘導、着脱、浴室介助に分けている入浴業務を、個別タスク(1対1での完結型対応)に移行。	チームタスクによる連携ハードルを下げ、誘導対応のみ介護職員外が対応する事で時間外の削減を目指す。
介護付き有料老人ホーム宝木荘 (タスクシフト・介護助手)	直接業務と間接業務の洗い出しを行い、間接業務についてはケアアシスタント(介護助手の役割)の導入により、ケアサービスの質の向上に繋げることを目的として、臨時職員の適材適所による業務改善を検討。 土・日・祝日に勤務で	海外人材(特定技能者4名)を採用し、介護の常勤職員数は16名となった。加えて、1日8時間勤務可能な臨時職員が2名おり、常勤換算で1名相当となるため、全体で常勤換算18名の体制となっている。 来年4月には、海外	残業削減や有給消化率の向上、働きやすい職場環境づくりをテーマに取り組んでいる。また、DXの推進により業務の効率化が進み、離職率の低下につながることで、利用者へのケアサービスの質の向上にも取り組む。

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	きず、1日あたり4～6時間の勤務となる介護福祉士以外の臨時職員についても、業務の効率化を図っている。	人材から介護福祉士資格取得者を採用予定であり、常勤換算で介護職員は20名となる見込みである。今年度介護助手の募集を検討したが、すぐには集まらないことが予想された。そのため、短時間勤務で土・日・祝日の勤務ができない介護福祉士以外の職員については、年齢や経験等も踏まえ、個人ごとに面談を行い納得していただいた上で、ケアアシスタント業務を主な担当とした。現在は直接介護も行っているが、徐々に業務内容を移行している最中である。	
ホームステーション高井戸 (タスクシフト・介護助手)	介護職が直接介護も間接業務も全部行っていた。	従来介護職員であった方を、年齢等を踏まえて役割を見直し、介護助手の役割を設ける。担当者が掃除等をおこなうことで役割分担を行う。 現在5名がパワフルスタッフとして在籍しており、間接業務をメインで担っている。	介護には介護に専念していただく。
介護付有料老人ホー	介護職員の業務負担	日勤者を間接業務に	介護職員がご利用者

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合 は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
ムすこや家・川崎明津 (タスクシフト)	軽減が課題であった。	特化したセカンドスタッフに変更。人員配置を見直し、介護職員は直接介護に特化した体制作りを行う。	と接する時間を多く持つ。
介護付有料老人ホームアミカの郷亀有 (タスクシフト・介護助手)	介護職が間接業務をメインで行うセカンドスタッフ(間接業務専用ライン)の仕事を手伝う。もしくは逆になる。 セカンドスタッフを見下すような介護職のスタンスがある。 間接介助と直接介助のボーダーは理解しているが、時にわからなくなる時がある。	マニュアル化し、他業務に手を出さないように完全割りをした。生産性向上についてと人員換算の説明を行い、理解を得る。 不明点は都度調べたり聞いたりしていただく。	明確化したことで責任の所在がわかるようになり、安心して間接業務や直接介助を任せられるようになる。 セカンドスタッフについては、介護専門性はないものの、介護業界の現状を生き残るために必要なポジションという共通認識を養っていただく。
介護付有料老人ホームみんなの家・久喜 (タスクシフト)	直接介護と間接介護とシフト上分かれているが業務分担が難しく効率的な運用ができていない。	間接介護の業務分担を明確にしてシフト上に落とし込む。 直接介護の手伝いをしないようにする。 人員配置(N:1)の説明を職員に周知させる。	マニュアル化し直接介護・間接介護の業務分担をする。 間接業務の職員に清掃・リネン交換等以外の業務を担っていた。 (例:入居者様とのコミュニケーション、外出レク、病院受診対応等。)
チャームスイート緑地公園 (タスクシフト・介護助手)	元々人手不足により3:1に近い人員で運営しており、単発バイトで補っていた。 しかし単発バイトも当	間接業務、直接介護の仕分けによって、オペレーションを変更してもケアの質が変わらないように話し合いが行	単発バイトが入っていた業務ラインを間接業務専用ラインとして見直した。 特例的な柔軟化を適

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合 は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
チャームスイート緑地 公園 (タスクシフト)	日キャンセルや時間通りに来ないという問題も多い。 新規の採用が集まりにくい。	われた。業務を変えることへの抵抗感があるスタッフがいたため、丁寧に説明した。 一例ではあるが、入浴業務については介護度に関係なく同様の介助量であったが、を利用者によって介助量を見直した。	用させることで、ホーム内の人員だけでシフトを回せるようになることを目指す。
	洗濯外注を実施しているが、肌着・タオル類のみしか実施できていない状態 利用者によっては畳み方を指定されるため、外注先から返ってきた洗濯物を畳みなおす時間が生じていた。 また、以前はシワをつけないようにするため、提出された洗濯物を職員が一度仕分けしてから外注に出すという手間も生じていた。	洗濯袋へ衣類の入れ方や量によってシワが発生しクレームに繋がるので、契約内容や洗濯袋への入れ方等を検討した。 ほかの外注業者に移行することも考えている。 従来は「1袋何円」という料金体系であったが、そのため1袋に大量の衣類を詰め込む利用者が出てしまい、結果としてシワが生じてクレームにつながっていた。 この課題を踏まえ、現在は何袋でも定額で利用できる定額プランの導入を検討している。	見直しを実施し、肌着・タオル類以外も外部委託することで介護スタッフの間接業務量軽減することを目指す。 適宜契約内容や契約先は見直し、職員の負担を軽減させる。
チャームスイート神戸	洗濯業務を事業所内	洗濯業務を外部委託	洗濯業務を外部したこ

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合 は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
摩耶 (タスクシフト)	で実施している状態。	へ変更。(11月から本格運用) 職員としては、洗濯に関わる業務時間が削減され、負担が軽減した。	とで、捻出された時間にご入居者様との関わる時間の増加/捻出された時間に他の業務をあてる。
チャームスイート神戸 摩耶 (タスクシフト)	従来パートスタッフを中心に入浴業務を担っていたが、負担が集中していた。	間接業務ラインの導入。 パートスタッフを間接業務ラインに変更。 入浴稼働日を週6⇒週7に変更し、入浴時間の稼働時間を拡大することで、1人にかかる入浴介助の負担を軽減した。	業務負担の軽減、直接介護時間の増加。
チャーム水元公園 (タスクシフト・介護助手)	介護補助員が勤務し、一部配膳準備やシーツ交換など実施しているが、業務の完全な可視化はできていない。	業務内容を可視化し、介護ラインが取っている間接業務の一部、介護補助員にも担っていただく。	介護業務ラインに勤務しているスタッフの業務整理を行い、間接業務の補助員ないし介護助手ラインに振り分ける。
ケアハウス朝来 (タスクシフト)	これまで、介護職員が直接ケア(身体介護・生活援助など)と、間接業務(環境整備、物品管理など)を区別せず、日々の業務に取り組んでいた。そのため、限られた人員の中で業務が重なり、時間や体力の負担が大きくなっているという課題があった。また、直	今回の実証では、日課を見直し、職員から意見を収集した上で、業務内容を「直接業務」と「間接業務」に明確に分けます。そのうえで、4名の業務ラインのうち間接業務を専門に担う職員を1名配置し、介護職員が本来のケアに集中できるように体制を整える。	この取り組みの目的は、「必要最小限の人員でも、質の高いケアが安定して提供できる体制」をつくることであると認識している。そのため、ICTの力を借りながら、業務を効率化し、職員の負担を減らすことで、ご利用者お一人おひとりに丁寧に向き合える時間

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合 は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	接ケアと間接ケアの日課そのものも明確に整理されておらず、非効率な動きが見受けられる場面もあった。	さらに、ICT(情報通信技術)を活用し、記録業務の効率化や役割分担に関する不明点等の情報共有をスムーズに行うことで、日課がきちんと回るよう工夫する。 なお、ケアハウスは特別養護老人ホーム等とは異なり、常勤職員が多いため、バイトや時短勤務者に間接介護を集約するというのは難しい側面があるが、予め実験的に間接常務専門社を1名配置した際には、インカムを用いて業務のタスクシフトを実行することができた。	の確保を目指す。 また、間接業務を介護助手などが担うことで、介護職員が専門性を活かした支援に専念でき、全体としてサービスの質の向上につながることを目指す。
ケアハウス朝来 (タスクシフト・介護助手)	現在、介護補助職員は在籍しているおり、介護補助職員には居室掃除・配膳をメインに担っていただいているが、特に人手が必要とされる時間帯に十分な配置ができておらず、介護職員の業務負担が大きくなっている。特に朝食の配膳下膳の場面では、早朝に勤務できる補助職員	この課題を解消するため、ケアアシスタント(介護補助者)の募集を行い、現場の人員を補充する体制を整える。 現在はハローワークや地域の広報紙を通じた求人活動に加え、施設見学や短時間勤務の相談対応など、柔軟な雇用条件を提示することで応募しやすい	介護職員が専門性の高い業務に専念できるよう、補助的な業務をケアアシスタントに担っていただくことで、業務の効率化と職員の負担軽減を目指す。

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合 は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	が1名しか在籍していないため、人手不足が見られる。	環境づくりに努めている。	
介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水 (タスクシフト・介護助手)	販売物品(オムツ・パット・生活用品など)の在庫管理の事務作業の負担。介護助手に対するタスクシフトは行えたが、介護職の業務フローを効率的・効果的な視点で評価が行えない。介護職の業務に対するマネジメントの理解が乏しい。書類等の管理ルールが不明確。	在庫管理における事務作業を、介護職員から介護助手へ転換。将来的には、在庫管理システムや定額制サービスの導入を検討。役割分担を行うために、介護職員と生活支援員の全業務を洗い出し、業務の棲み分けや、重複業務が発生しないように業務の整理を行った。現在は担当シフトごとに決まった流れで動いている。	間接業務と直接業務の切り分けを行い、介護職・介護助手の役割を明確にし、効率性の向上。余裕時間が増加し、個別ケア(介護過程に基づいたカンファレンス)に時間を掛けられる。 本実証を通して、どのくらい余裕時間を生み出すことができるのか検証したいと考えている。 将来的には介護助手も業務フローを整備し、利用者の状況や尊厳に配慮した仕組みを目指している。 また、介護職員との重複業務を人員配置基準に含めることも検討しており、制度上の課題はあるが介護助手を基準に加えられれば、その分フロアの介護職員を減らすことができ、柔軟な運用が可能と考えている。
イリーゼ西大宮	1名のみで、時短勤務	派遣スタッフが働きや	オペレーションの最適

施設名(取組)	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前) ※既に導入済みの場合 は、導入前の状況を記載	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
(タスクシフト)	のため、掃除のみを担当しており、リネン交換については、正職員や派遣スタッフが行っている。	すい環境を整備し、適切な役割分担を行う。適宜事務所スタッフもフォローに入る。	化。 介護スタッフが直接介護に集中できる環境づくり。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「S.サポーターとして勤務」「A.直接介護(小分類 6 つ)」「B.間接業務(小分類 5 つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」「E.余裕時間」の 6 分類で整理し、計 15 項目を用意した。

図表 VI-10 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub -No	項目
S	サポーターとしての勤務	0	サポーター(※1)として勤務していた時間
A	直接介護(※2)	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	生活自立支援(※3)
		4	行動上の問題への対応(※4)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※5)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT 機器の準備・使用・確認(※6)
		11	その他の間接業務(※7)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他

No	分類	Sub -No	項目
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 サポーターとは、試行的な取組として、一時的に業務ラインから外れて待機又は直接介護以外の業務に従事していた場合を指している。(介護助手相当に該当)

※2 見守りによる介助を含む。

※3 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※4 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※5 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※6 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※7 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間、本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者のADLの変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOLの変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に1回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

カ. 人員配置に係る調査

上記調査終了後、事前調査(オペレーション変更前)および事後調査②実施時(オペレーション変更後)の人員配置について実績値を確認した。入居換算数の計算に使う利用者数の調査票については、参考資料を参照されたい。

図表 VI-11 ア～エの調査内容の整理

No	調査分類	調査項目
ア	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> 実施した業務時間(分)を1分刻みで自記(5日間) サポーターとして勤務、直接介護、間接業務、休憩、その他の分類で計15項目
イ	職員向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 職員概要(年齢、職種、役職、経験年数等) 心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 SRS-18) 生産性向上の取組によるモチベーションの変化 生産性向上の取組の進めやすさ 生産性向上の取組の対象とした課題への理解 生産性向上による職員や施設業務の変化 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務 全体的な満足度評価
ウ	利用者向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 利用者概要(性別・年齢・要介護度・障害高齢者の日常生活自立度) ADLの変化(Barthel Index) 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度、生活・認知機能尺度) 利用者への心理的な影響(Vitality Index) QOLの変化(WHO-5) QOL変化の総合的な評価 利用者のコミュニケーションの変化 コミュニケーション変化の総合的な評価 利用者の社会参加の変化

No	調査分類	調査項目
		<ul style="list-style-type: none"> 社会参加の変化の総合的な評価 ケア内容の変更 利用者からの意見等
工	業務時間等調査	<ul style="list-style-type: none"> 職員毎の令和7年9月～12月における1か月ごとの所定労働時間、総労働時間 職員毎の令和7年度(12か月分)の年間の有給休暇付与の日数と、同一期間内における有給休暇の取得日数 職員毎の令和6年9月～12月における1か月ごとの所定労働時間、総労働時間 職員毎の令和6年度(12か月分)の年間の有給休暇付与の日数と、同一期間内における有給休暇の取得日数 実証期間(令和7年9月～12月)中の、生産性向上の取組に起因するヒヤリハットまたは事故の発生状況

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 VI-12 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	119	429	0	548
	割合	22%	78%	0%	100%

図表 VI-13 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	9	6	30	54	138	188	123	0	548
	割合	2%	1%	5%	10%	25%	34%	22%	0%	100%

図表 VI-14 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	136	115	87	92	50	64	4	0	548
	割合	25%	21%	16%	17%	9%	12%	1%	0%	100%

図表 VI-15 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	35	32	128	116	82	92	29	31	3	0	548
	割合	6%	6%	23%	21%	15%	17%	5%	6%	1%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 VI-16 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	56	125	0	181
	割合	31%	69%	0%	100%

図表 VI-17 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	22	35	50	46	24	4	0	181
	割合	0%	12%	19%	28%	25%	13%	2%	0%	100%

図表 VI-18 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ職 (機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	74	77	17	0	2	0	11	0	181
	割合	41%	43%	9%	0%	1%	0%	6%	0%	100%

図表 VI-19 職員概要 役職

		経営層	管理者・リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	19	135	27	0	181
	割合	0%	10%	75%	15%	0%	100%

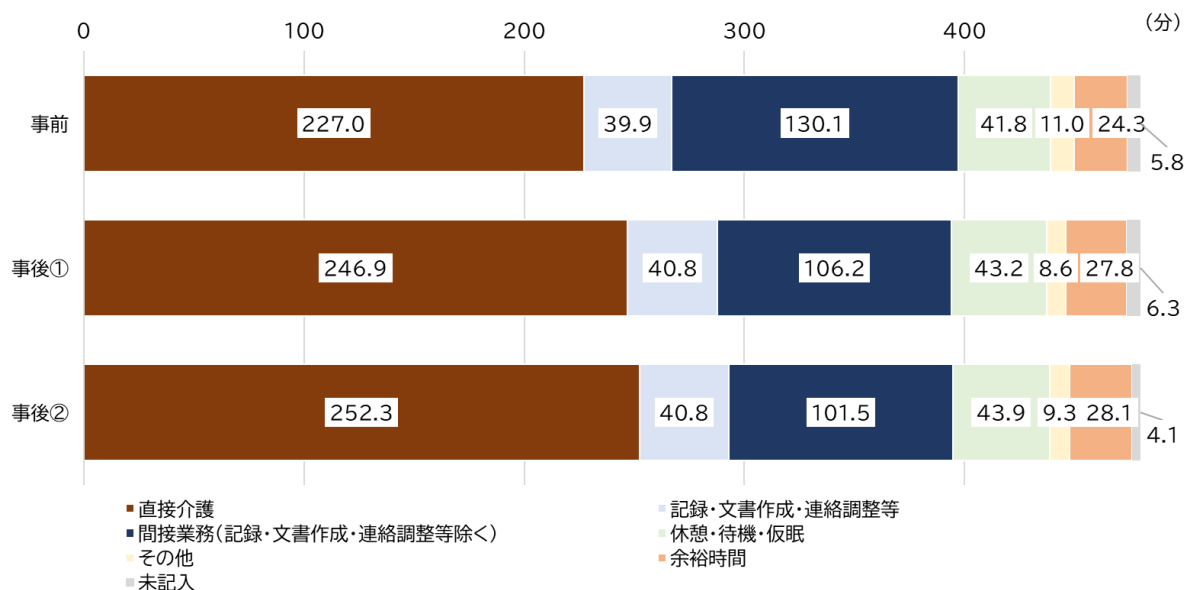
(2) タイムスタディ調査結果

介護職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

直接介護に充てる時間は、事前調査では 227.0 分であったのに対し、事後①では 246.9 分、事後②では 252.3 分といずれも増加した。

図表 VI-20 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)

		直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボットの準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠					
事前	時間(分)	45.1	60.2	19.2	2.9	6.6	93.0	20.3	39.9	2.1	2.0	105.7	41.8	11.0	24.3	5.8	480	
	割合	9%	13%	4%	1%	1%	19%	4%	8%	0%	0%	22%	9%	2%	5%	1%	100%	
事後①	時間(分)	47.9	67.4	26.6	2.5	6.4	96.1	19.9	40.8	1.9	5.7	78.7	43.2	8.6	27.8	6.3	480	
	割合	10%	14%	6%	1%	1%	20%	4%	8%	0%	1%	16%	9%	2%	6%	1%	100%	
事後②	時間(分)	45.6	66.3	28.3	3.2	7.2	101.6	18.2	40.8	3.1	5.0	75.3	43.9	9.3	28.1	4.1	480	
	割合	10%	14%	6%	1%	2%	21%	4%	8%	1%	1%	15.7%	9%	2%	6%	1%	100%	



事前調査 n=206
 事後調査① n=204
 事後調査② n=190

※5 日間の自記式または Web アプリによる職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

※事後調査①・②において、試行的な取組として、一時的に業務ラインから外れて待機又は直接介護以外の業務に従事していた職員が担った直接介護時間以外は集計から除外した。

(3) 職員向けアンケート調査結果

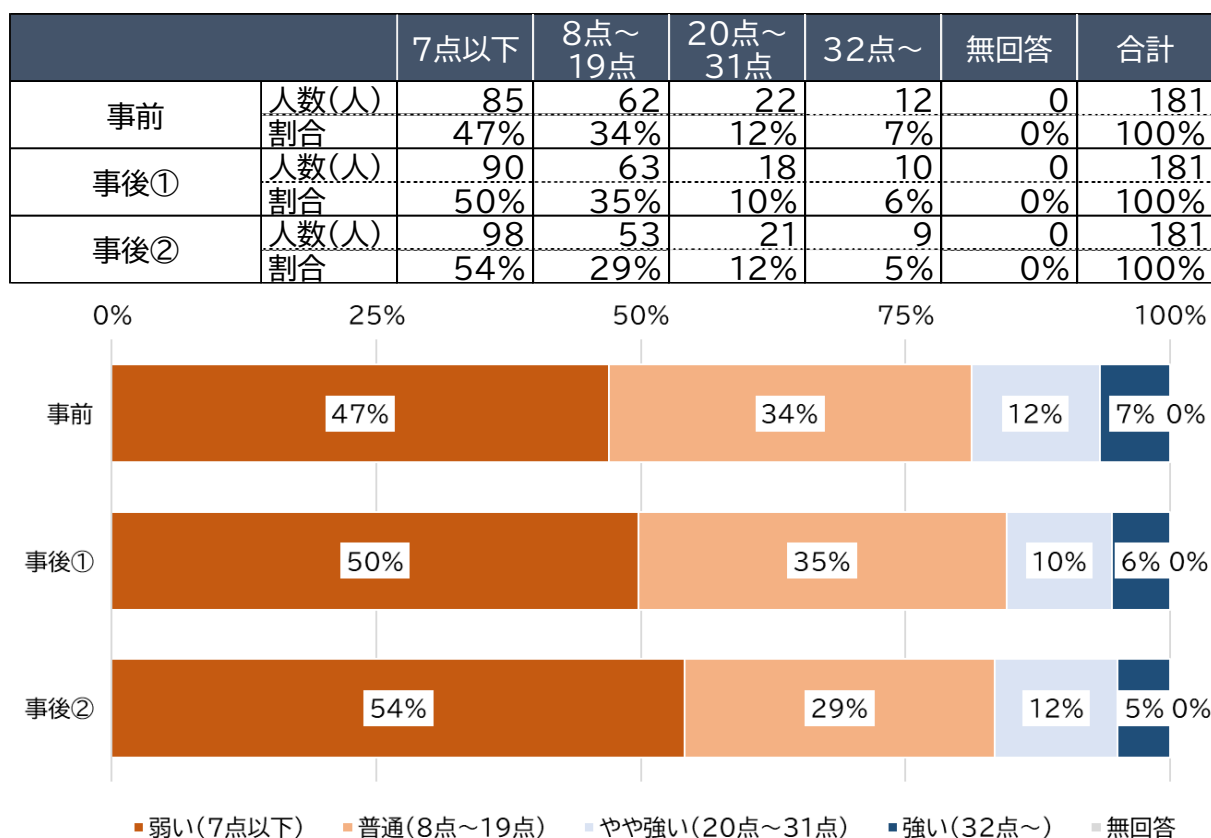
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、47%であったのに対し、事後①では50%に増加した。事後②では、ストレス反応が「弱い」割合が54%であり、事前調査と比べ7ポイント、事後①と比べ4ポイント増加した。

図表 VI-21 心理的負担評価(SRS-18)



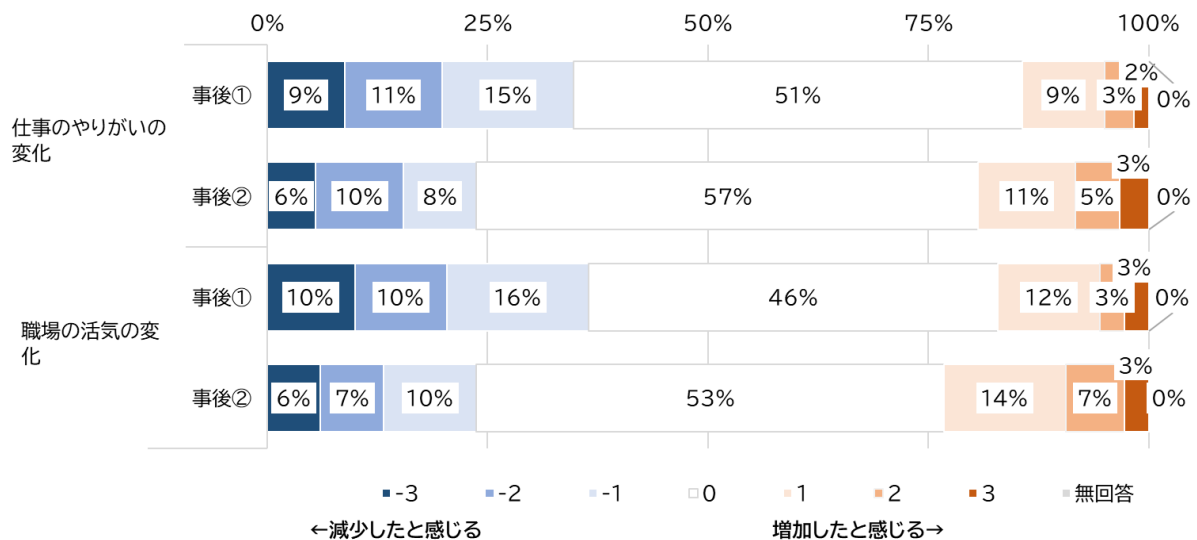
※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VI-22 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→			増加したと感じる→			無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	16	20	27	92	17	6	3	0	181
		割合	9%	11%	15%	51%	9%	3%	2%	0%	100%
	事後②	人数(人)	10	18	15	103	20	9	6	0	181
		割合	6%	10%	8%	57%	11%	5%	3%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	18	19	29	84	21	5	5	0	181
		割合	10%	10%	16%	46%	12%	3%	3%	0%	100%
	事後②	人数(人)	11	13	19	96	25	12	5	0	181
		割合	6%	7%	10%	53%	14%	7%	3%	0%	100%



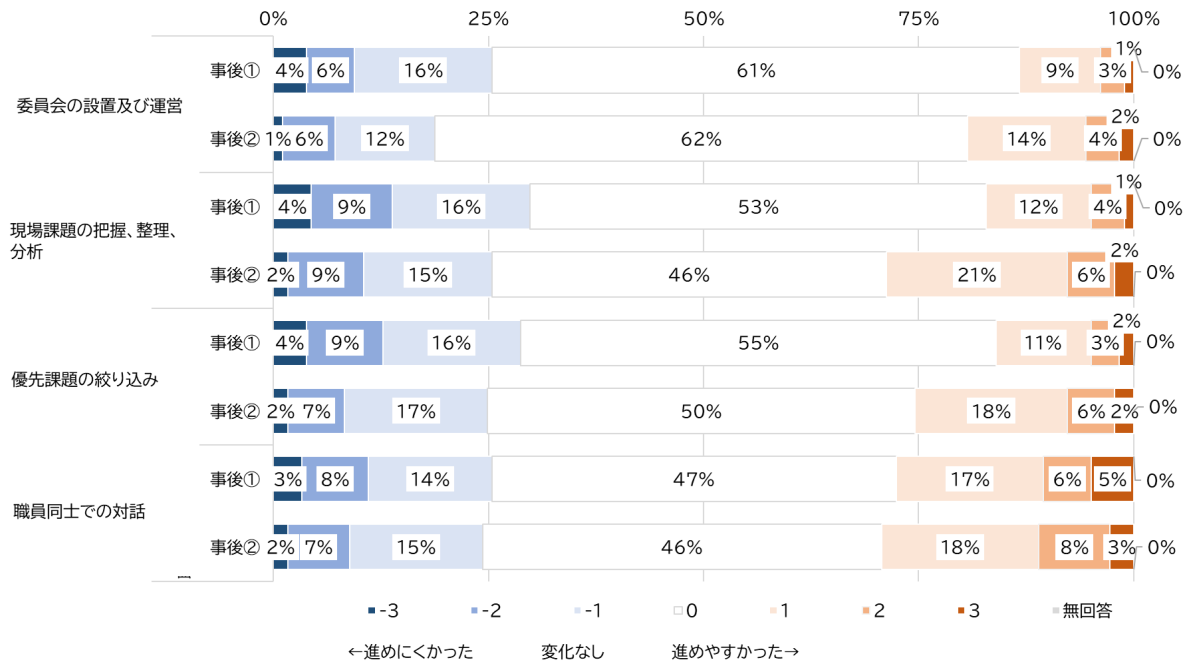
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 生産性向上の取組の進めやすさ

生産性向上の取組の進めやすさの結果は以下の通り。

図表 VI-23 生産性向上の取組の進めやすさ

		←進めにくかった→							進めやすかった→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
委員会の設置及び運営	事後①	人数(人) 7 割合 4%	10 6%	29 16%	111 61%	17 9%	5 3%	2 1%	0 0%	181		
	事後②	人数(人) 2 割合 1%	11 6%	21 12%	112 62%	25 14%	7 4%	3 2%	0 0%	181		
現場課題の把握、整理、分析	事後①	人数(人) 8 割合 4%	17 9%	29 16%	96 53%	22 12%	7 4%	2 1%	0 0%	181		
	事後②	人数(人) 3 割合 2%	16 9%	27 15%	83 46%	38 21%	10 6%	4 2%	0 0%	181		
優先課題の絞り込み	事後①	人数(人) 7 割合 4%	16 9%	29 16%	100 55%	20 11%	6 3%	3 2%	0 0%	181		
	事後②	人数(人) 3 割合 2%	12 7%	30 17%	90 50%	32 18%	10 6%	4 2%	0 0%	181		
職員同士での対話	事後①	人数(人) 6 割合 3%	14 8%	26 14%	85 47%	31 17%	10 6%	9 5%	0 0%	181		
	事後②	人数(人) 3 割合 2%	13 7%	28 15%	84 46%	33 18%	15 8%	5 3%	0 0%	181		



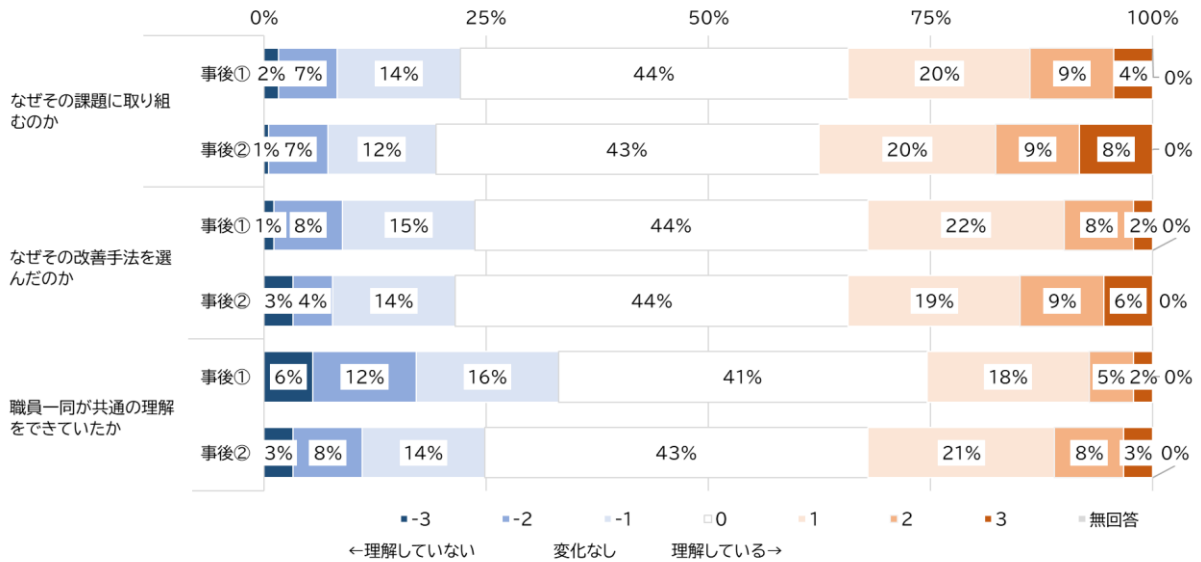
※質問項目に対し、-3(進めにくかった)～+3(進めやすかった)の7段階で評価した。

工. 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

生産性向上の取組の対象とした課題への理解に関する結果は以下の通り。

図表 VI-24 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

			←理解していない→						理解している→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
なぜその課題に取り組むのか	事後①	人数(人)	3	12	25	79	37	17	8	0	181	
		割合	2%	7%	14%	44%	20%	9%	4%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	12	22	78	36	17	15	0	181	
		割合	1%	7%	12%	43%	20%	9%	8%	0%	100%	
なぜその改善手法を選んだのか	事後①	人数(人)	2	14	27	80	40	14	4	0	181	
		割合	1%	8%	15%	44%	22%	8%	2%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	6	8	25	80	35	17	10	0	181	
		割合	3%	4%	14%	44%	19%	9%	6%	0%	100%	
職員一同が共通の理解をできていたか	事後①	人数(人)	10	21	29	75	33	9	4	0	181	
		割合	6%	12%	16%	41%	18%	5%	2%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	6	14	25	78	38	14	6	0	181	
		割合	3%	8%	14%	43%	21%	8%	3%	0%	100%	



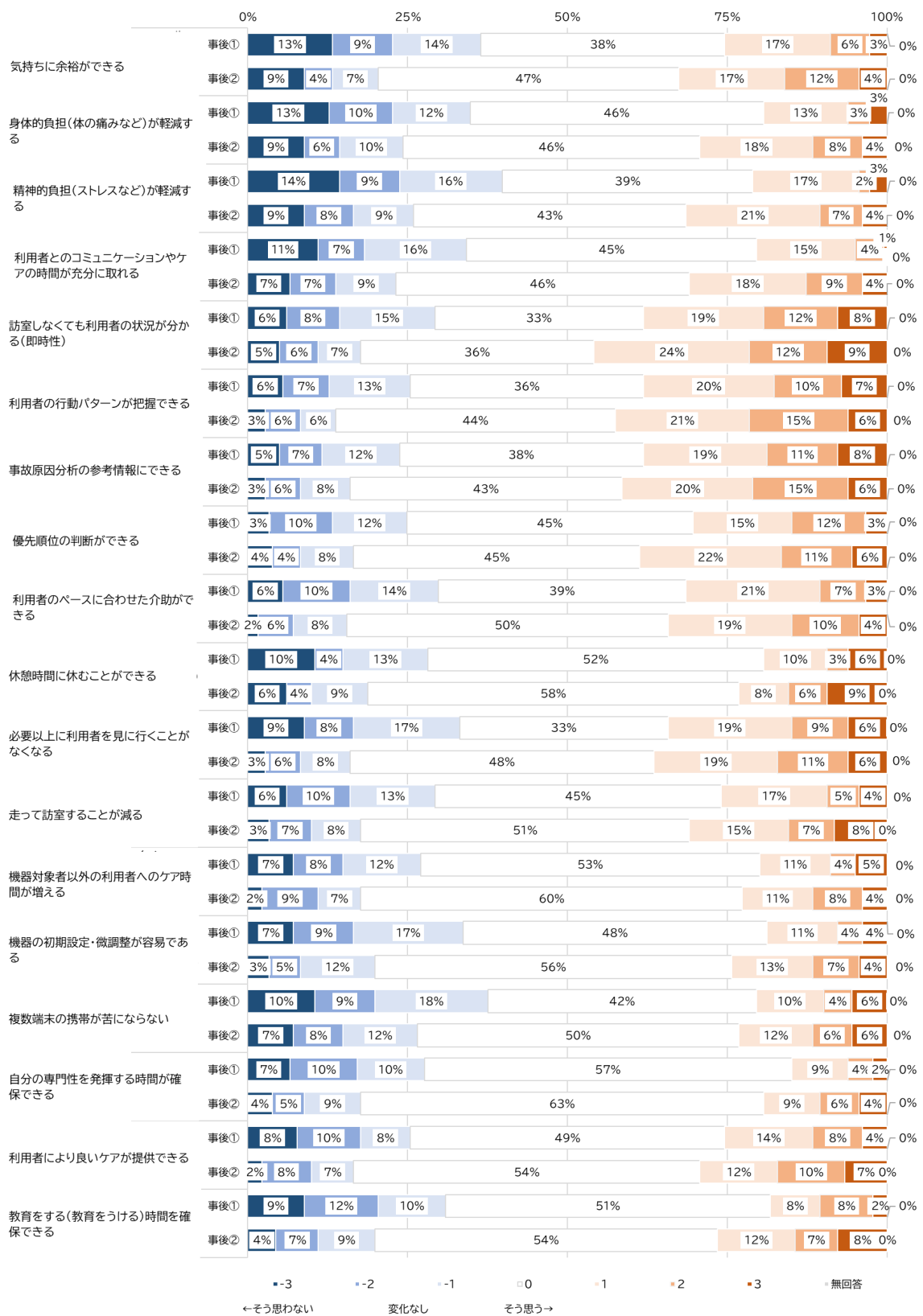
※質問項目に対し、-3(理解していない)～+3(理解している)の7段階で評価した。

オ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 VI-25 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	24 13%	17 9%	25 14%	69 38%	30 17%	11 6%	5 3%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	16 9%	8 4%	13 7%	85 47%	30 17%	21 12%	8 4%	0 0%	181 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	23 13%	18 10%	22 12%	83 46%	24 13%	6 3%	5 3%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	16 9%	10 6%	18 10%	84 46%	32 18%	14 8%	7 4%	0 0%	181 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	26 14%	17 9%	29 16%	71 39%	30 17%	3 2%	5 3%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	16 9%	14 8%	17 9%	77 43%	38 21%	12 7%	7 4%	0 0%	181 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	20 11%	13 7%	29 16%	82 45%	28 15%	8 4%	1 1%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	12 7%	13 7%	17 9%	83 46%	33 18%	16 9%	7 4%	0 0%	181 100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	11 6%	15 8%	27 15%	59 33%	34 19%	21 12%	14 8%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	9 5%	11 6%	12 7%	66 36%	44 24%	22 12%	17 9%	0 0%	181 100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	10 6%	13 7%	23 13%	66 36%	37 20%	19 10%	13 7%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 3%	10 6%	10 6%	79 44%	38 21%	28 15%	11 6%	0 0%	181 100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	9 5%	12 7%	22 12%	69 38%	35 19%	20 11%	14 8%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 3%	10 6%	14 8%	77 43%	37 20%	27 15%	11 6%	0 0%	181 100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	6 3%	18 10%	21 12%	81 45%	28 15%	21 12%	6 3%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	7 4%	8 4%	15 8%	81 45%	40 22%	20 11%	10 6%	0 0%	181 100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	10 6%	19 10%	25 14%	70 39%	38 21%	13 7%	6 3%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 2%	10 6%	15 8%	91 50%	35 19%	19 10%	8 4%	0 0%	181 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	19 10%	8 4%	24 13%	95 52%	18 10%	6 3%	11 6%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	11 6%	7 4%	16 9%	105 58%	14 8%	11 6%	17 9%	0 0%	181 100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	16 9%	14 8%	30 17%	59 33%	35 19%	16 9%	11 6%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 3%	10 6%	14 8%	86 48%	35 19%	20 11%	11 6%	0 0%	181 100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	11 6%	18 10%	24 13%	81 45%	30 17%	9 5%	8 4%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	6 3%	12 7%	14 8%	93 51%	28 15%	13 7%	15 8%	0 0%	181 100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	13 7%	14 8%	22 12%	96 53%	20 11%	7 4%	9 5%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 2%	16 9%	12 7%	108 60%	20 11%	14 8%	7 4%	0 0%	181 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	13 7%	17 9%	31 17%	86 48%	20 11%	7 4%	7 4%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	6 3%	9 5%	21 12%	101 56%	23 13%	13 7%	8 4%	0 0%	181 100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	19 10%	17 9%	32 18%	76 42%	19 10%	8 4%	10 6%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	13 7%	14 8%	21 12%	91 50%	21 12%	11 6%	10 6%	0 0%	181 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	12 7%	19 10%	19 10%	104 57%	16 9%	7 4%	4 2%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	7 4%	9 5%	16 9%	114 63%	16 9%	11 6%	8 4%	0 0%	181 100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	14 8%	18 10%	14 8%	89 49%	25 14%	14 8%	7 4%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 2%	14 8%	12 7%	98 54%	22 12%	19 10%	12 7%	0 0%	181 100%
教育をする(教育を受ける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	16 9%	21 12%	19 10%	92 51%	14 8%	15 8%	4 2%	0 0%	181 100%
	事後②	人数(人) 割合	8 4%	12 7%	16 9%	97 54%	22 12%	12 7%	14 8%	0 0%	181 100%



※質問項目に対し、-3(そう思わない)~+3(そう思う)の7段階で評価した。

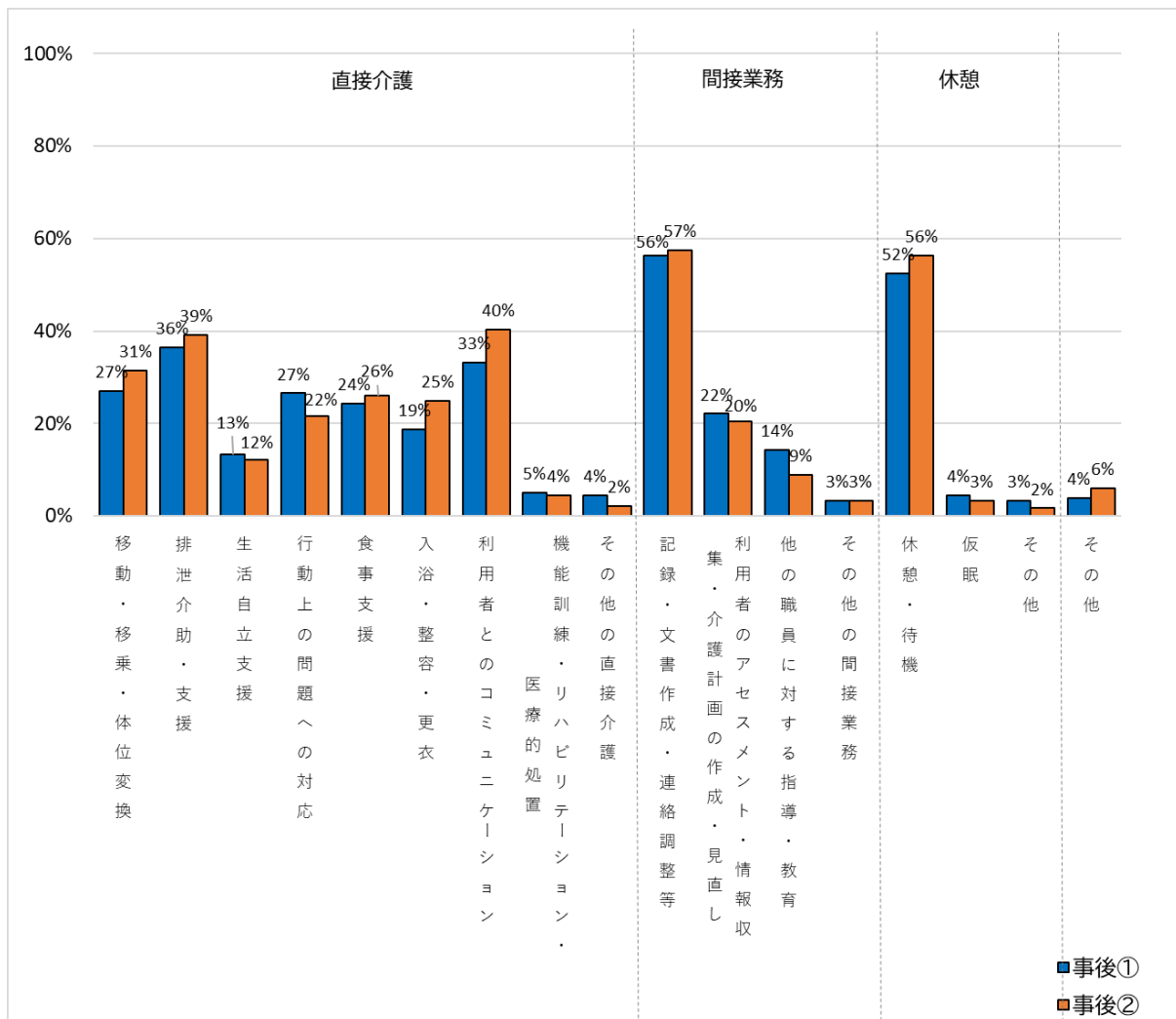
カ. 職員間の適切な役割(タスク・シフト/シェア)導入による効果

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果の結果は以下の通り。

事後調査②では、「記録・文書作成・連絡調整等」の割合が最も多く 57%、次いで「休憩」が 56%であった。

図表 VI-26 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果

	人数(人)	直接介護										間接業務					休憩			その他	無回答(人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等			
事後①	49	66	24	48	44	34	60	9	8	102	40	26	6	95	8	6	7	16	181			
	割合	27%	13%	27%	24%	19%	33%	5%	4%	56%	22%	14%	3%	52%	4%	3%	4%	9%	-			
事後②	57	71	22	39	47	45	73	8	4	104	37	16	6	102	6	11	10	181				
	割合	31%	12%	22%	26%	25%	40%	4%	2%	57%	20%	9%	3%	56%	3%	6%	6%	-				

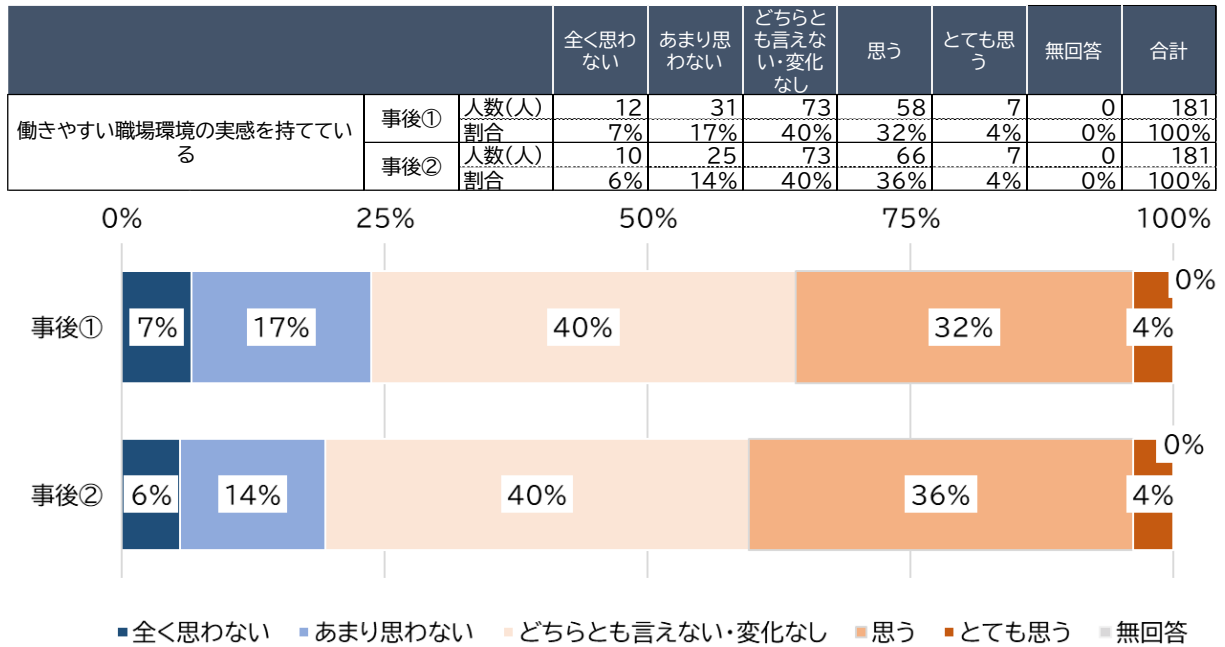


※該当する項目をすべて選択する設問。

キ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感に関する結果は以下の通り。

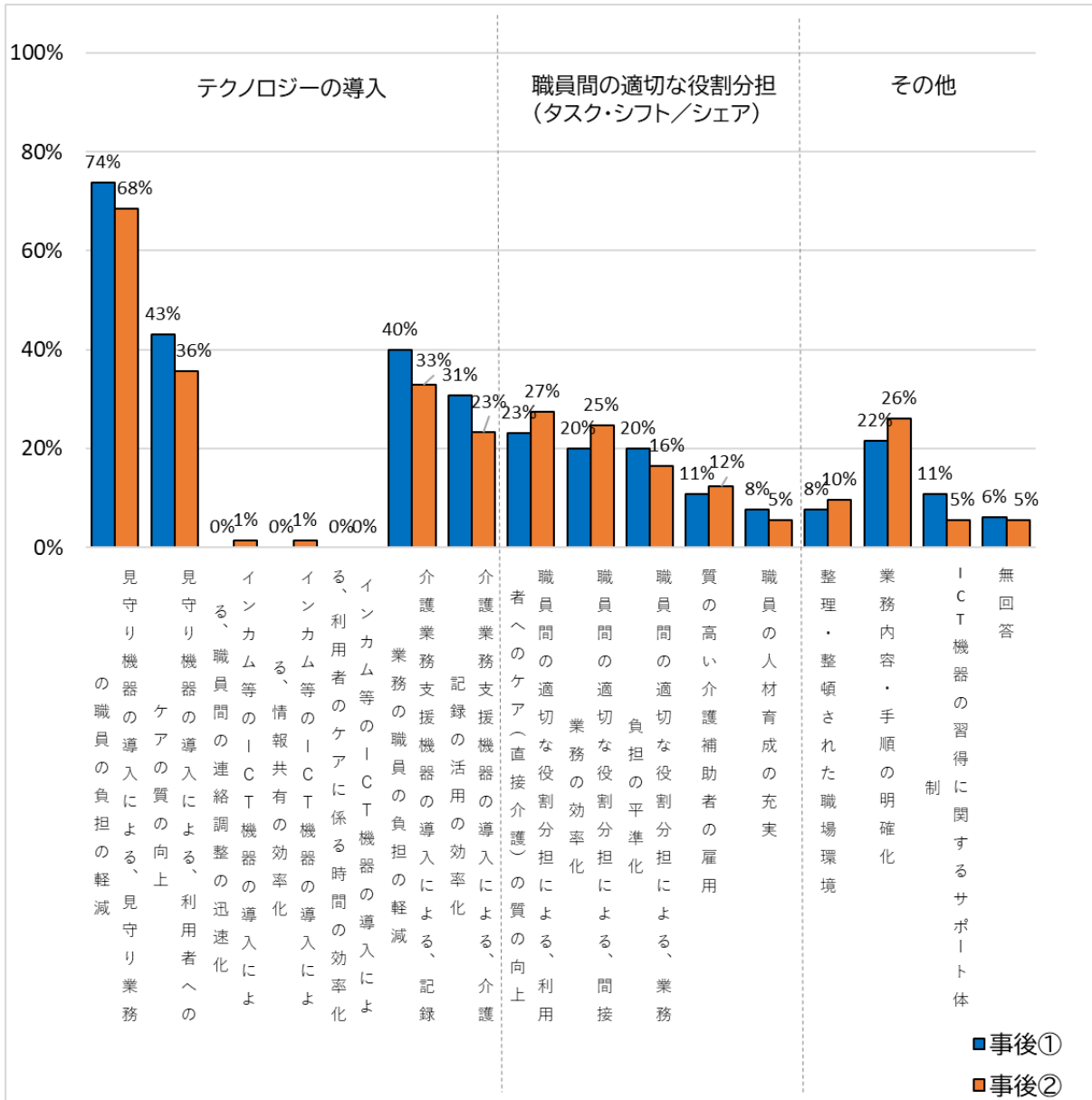
図表 VI-27 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感



※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

図表 VI-28 「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感を持つことができた要素(5つ)

		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)						その他				無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	インカム等のICT機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	介護業務支援機器の導入による、記録業務の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケアへの直接介	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制						
事後①	人数(人)	48	28	0	0	0	26	20	15	13	13	7	5	5	14	7	4	65					
	割合	74%	43%	0%	0%	0%	40%	31%	23%	20%	11%	8%	8%	22%	11%	6%							
事後②	人数(人)	50	26	1	1	0	24	17	20	18	12	9	4	7	19	4	4	73					
	割合	68%	36%	1%	1%	0%	33%	23%	27%	25%	16%	12%	5%	10%	26%	5%	5%						



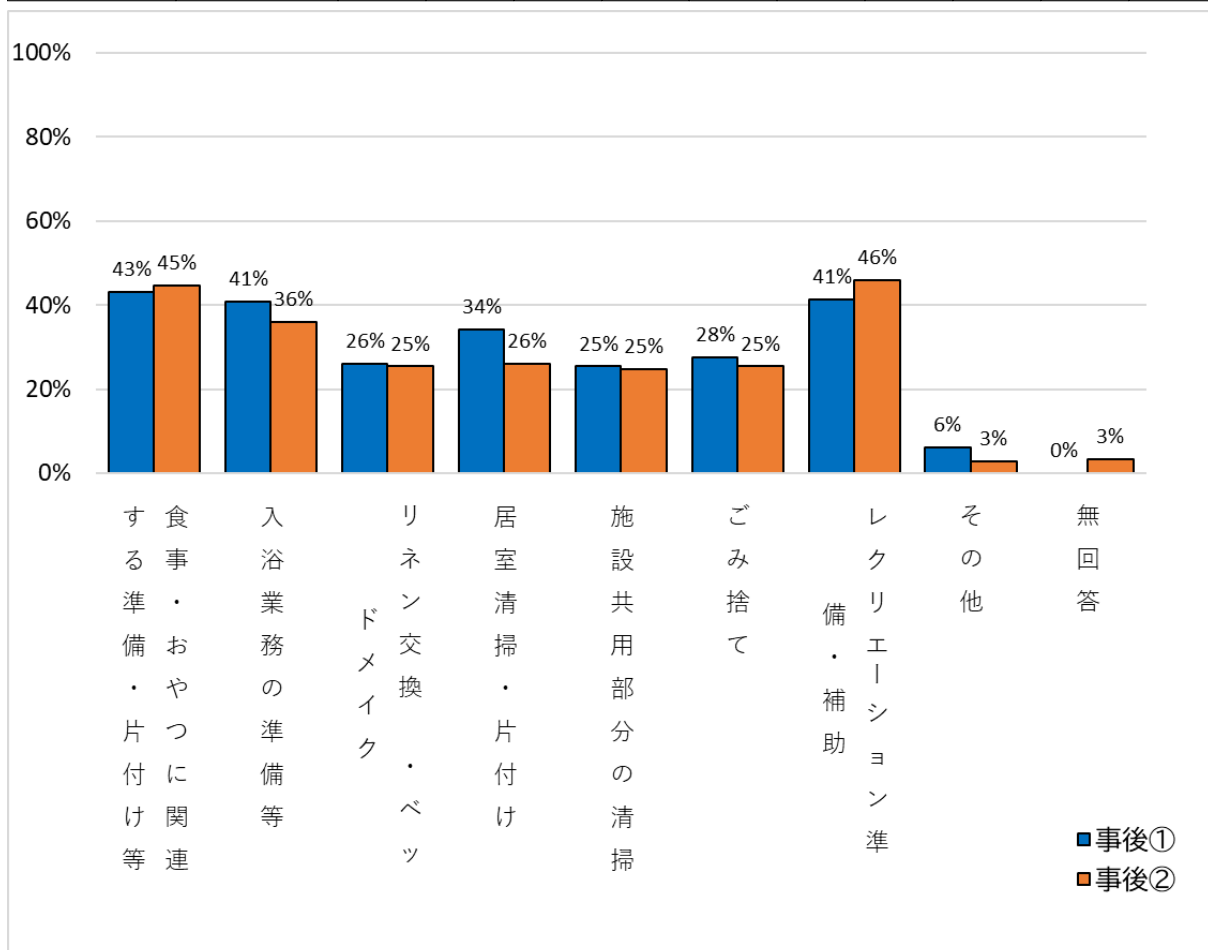
※該当する項目を最大5つ選択する設問。

ク. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務の結果は以下の通り。

図表 VI-30 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	78	74	47	62	46	50	75	11	0	181
	割合	43%	41%	26%	34%	25%	28%	41%	6%	0%	-
事後②	人数(人)	81	65	46	47	45	46	83	5	6	181
	割合	45%	36%	25%	26%	25%	25%	46%	3%	3%	-

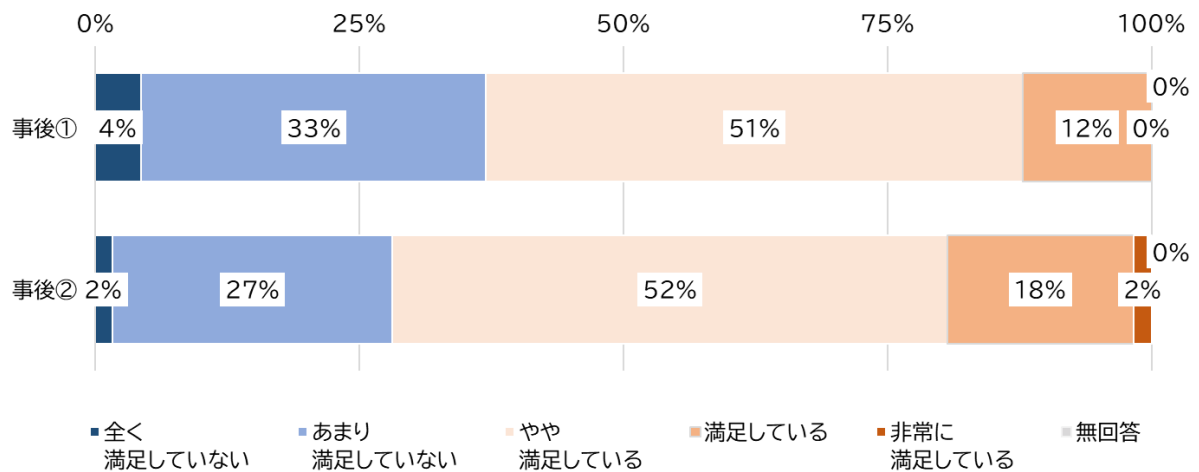


ケ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

図表 VI-31 全体的な満足度評価

		全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計	
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	8	59	92	22	0	0	181
		割合	4%	33%	51%	12%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	48	95	32	3	0	181
		割合	2%	27%	52%	18%	2%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

(4) 利用者向けアンケート調査結果

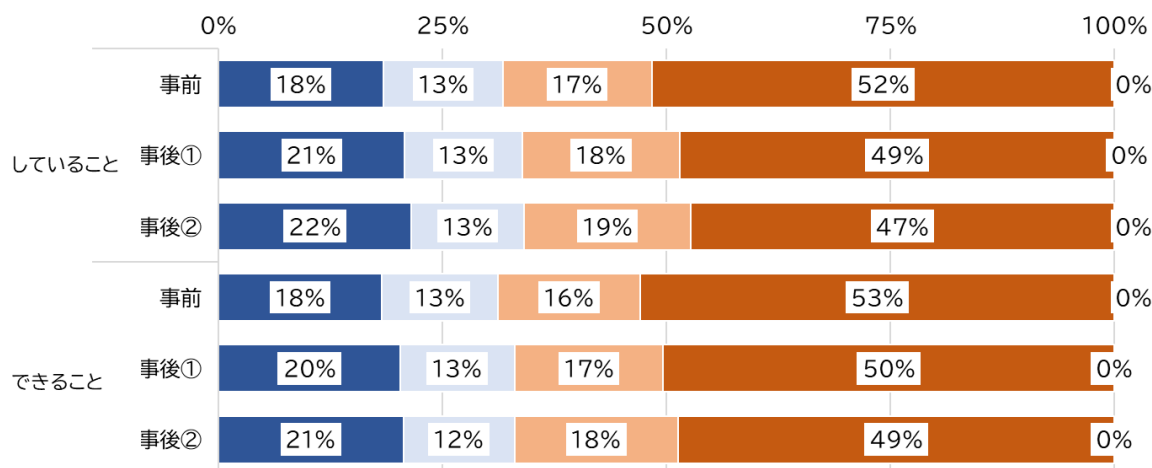
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 VI-32 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

		0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計	
していること	事前	人数(人)	101	73	91	283	0	548
		割合	18%	13%	17%	52%	0%	100%
	事後①	人数(人)	114	72	96	266	0	548
		割合	21%	13%	18%	49%	0%	100%
	事後②	人数(人)	118	69	102	259	0	548
		割合	22%	13%	19%	47%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	100	71	87	290	0	548
		割合	18%	13%	16%	53%	0%	100%
	事後①	人数(人)	111	70	91	276	0	548
		割合	20%	13%	17%	50%	0%	100%
	事後②	人数(人)	113	68	100	267	0	548
		割合	21%	12%	18%	49%	0%	100%



■ 0～20点(ほぼ全介助) ■ 25～40点(かなりの介助) ■ 45～60点(部分介助) ■ 65～100点(ほぼ自立・自立) ■ 無回答

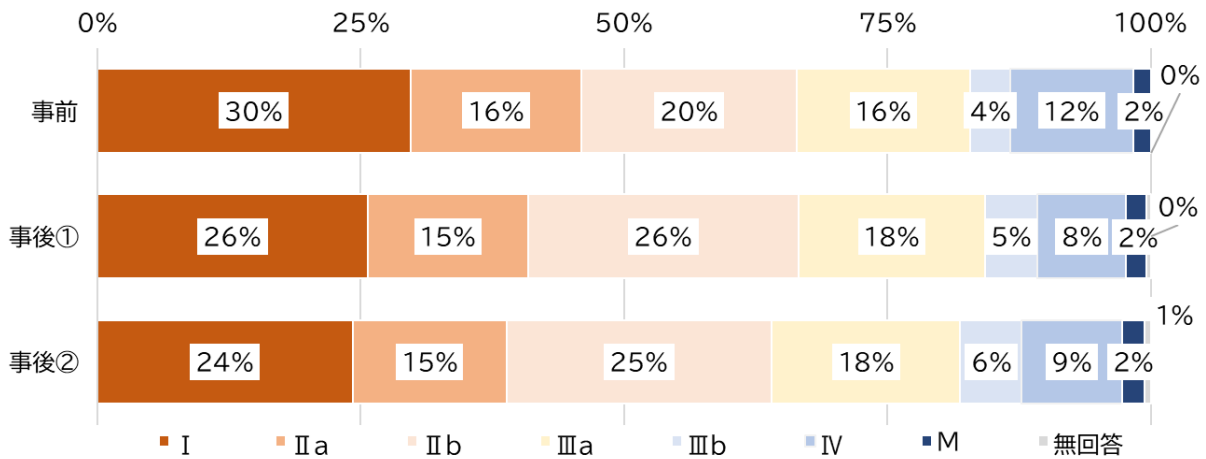
※事前調査または事後調査①・②で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 VI-33 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	163	89	112	90	21	64	9	0	548
	割合	30%	16%	20%	16%	4%	12%	2%	0%	100%
事後①	人数(人)	141	83	141	97	27	46	11	2	548
	割合	26%	15%	26%	18%	5%	8%	2%	0%	100%
事後②	人数(人)	133	80	138	98	32	52	12	3	548
	割合	24%	15%	25%	18%	6%	9%	2%	1%	100%

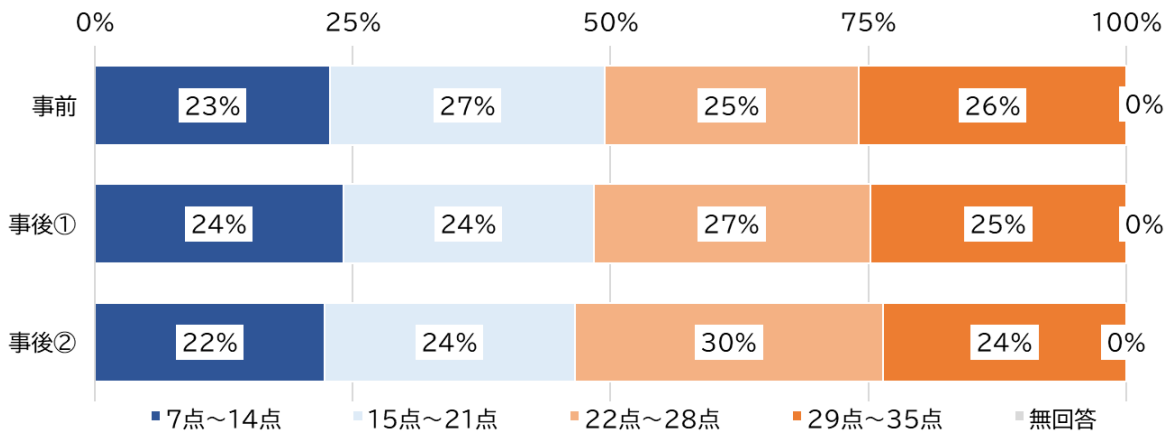


ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-34 生活・認知機能尺度

		7点~ 14点	15点~ 21点	22点~ 28点	29点~ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	125	146	135	142	0	548
	割合	23%	27%	25%	26%	0%	100%
事後①	人数(人)	132	133	147	136	0	548
	割合	24%	24%	27%	25%	0%	100%
事後②	人数(人)	122	133	164	129	0	548
	割合	22%	24%	30%	24%	0%	100%

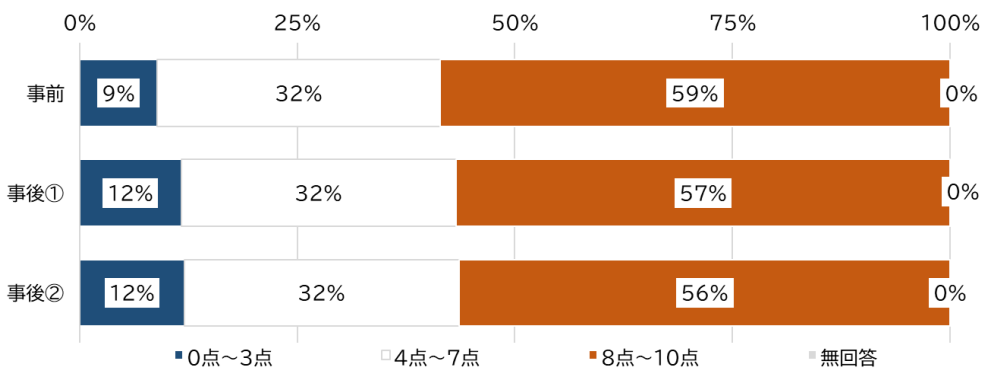


工. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 VI-35 Vitality Index

		0点~3点	4点~7点	8点~10点	無回答	合計
事前	人数(人)	49	178	321	0	548
	割合	9%	32%	59%	0%	100%
事後①	人数(人)	64	173	311	0	548
	割合	12%	32%	57%	0%	100%
事後②	人数(人)	66	173	309	0	548
	割合	12%	32%	56%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

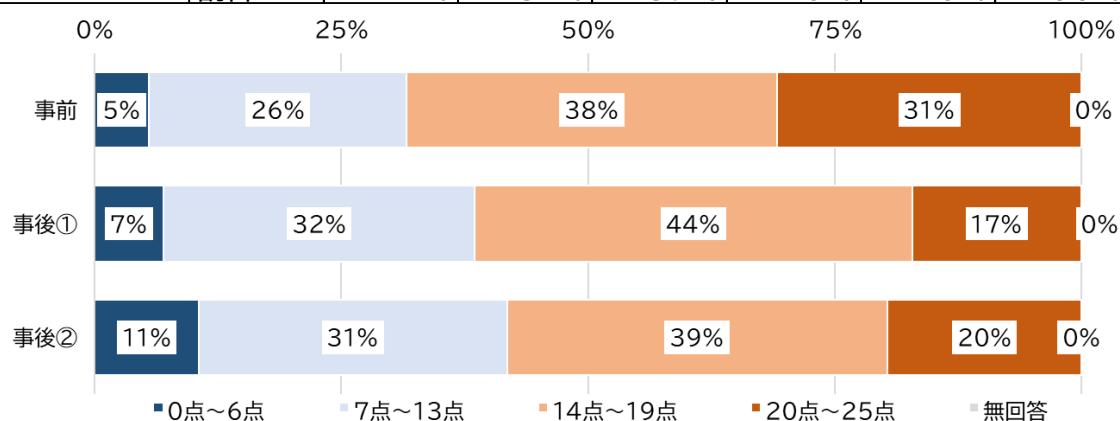
※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0~2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOLの変化(WHO-5)

WHO-5の結果は以下の通り。

図表 VI-36 WHO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	30	143	206	169	0	548
	割合	5%	26%	38%	31%	0%	100%
事後①	人数(人)	38	173	243	94	0	548
	割合	7%	32%	44%	17%	0%	100%
事後②	人数(人)	58	171	211	108	0	548
	割合	11%	31%	39%	20%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5以外の場合は無回答処理をした。

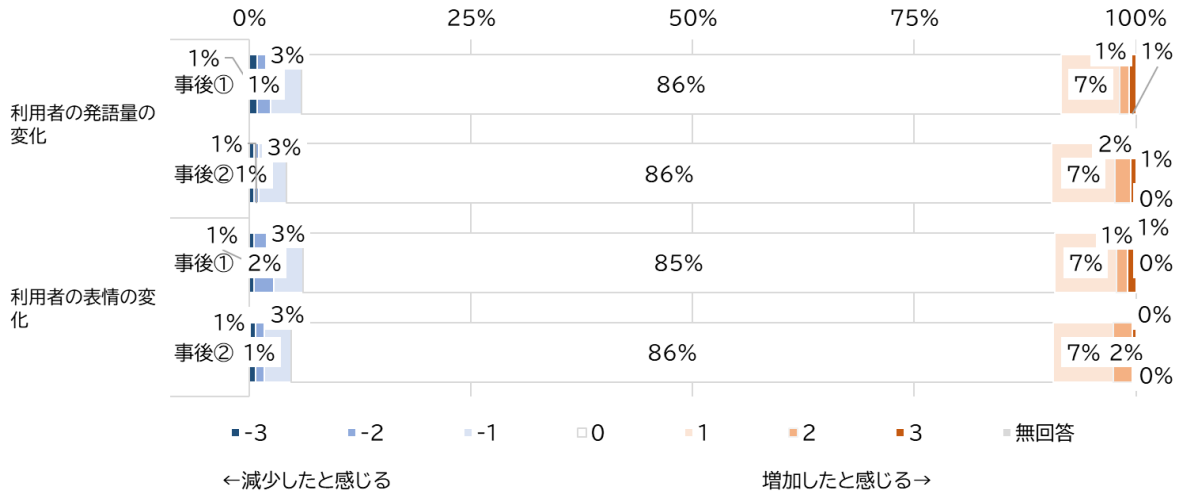
※QOLの変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5項目それぞれに5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VI-37 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる→						増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	5	8	19	470	36	6	4	0	548		
		割合	1%	1%	3%	86%	7%	1%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	3	3	17	473	39	10	3	0	548		
		割合	1%	1%	3%	86%	7%	2%	1%	0%	100%		
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	3	12	18	465	38	7	5	0	548		
		割合	1%	2%	3%	85%	7%	1%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	4	5	17	471	37	12	2	0	548		
		割合	1%	1%	3%	86%	7%	2%	0%	0%	100%		



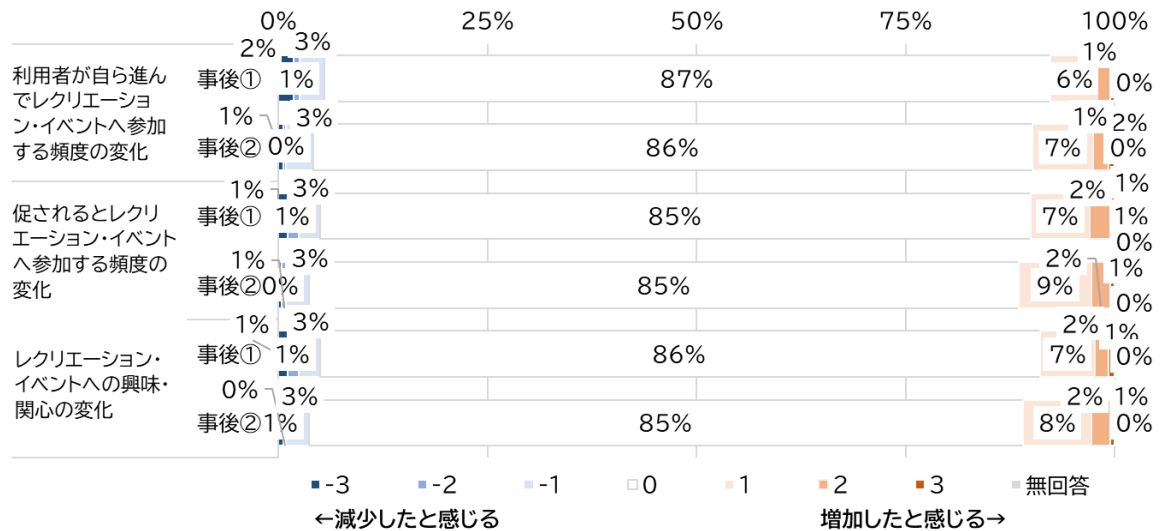
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. 社会参加の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 VI-38 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

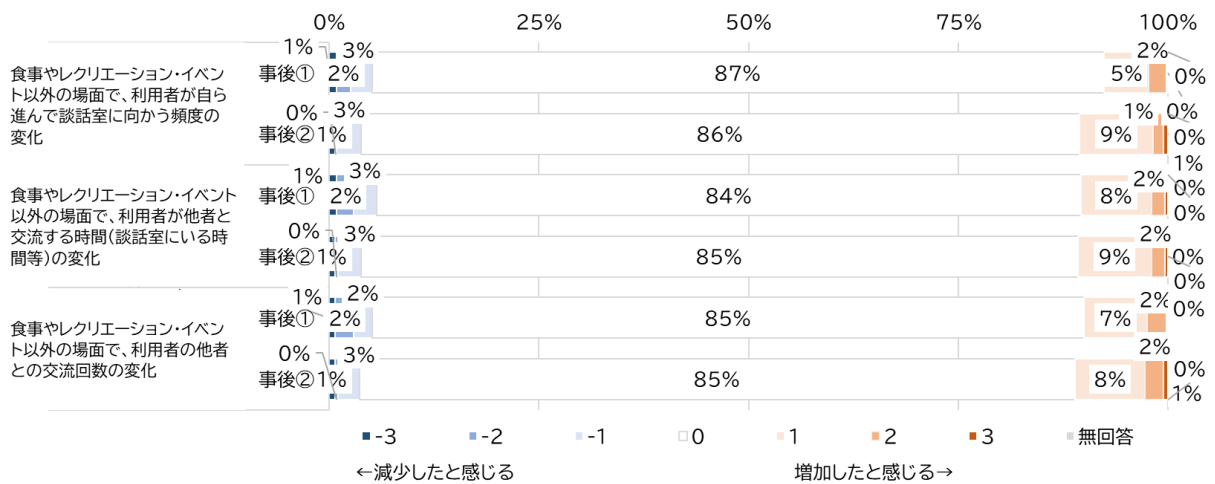
		←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	10	4	16	476	31	8	3	0	548
		割合	2%	1%	3%	87%	6%	1%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	2	18	471	40	10	4	0	548
		割合	1%	0%	3%	86%	7%	2%	1%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	6	7	14	466	39	13	3	0	548
		割合	1%	1%	3%	85%	7%	2%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	3	15	465	48	12	3	0	548
		割合	0%	1%	3%	85%	9%	2%	1%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	6	7	14	472	36	9	4	0	548
		割合	1%	1%	3%	86%	7%	2%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	2	15	468	45	12	3	0	548
		割合	1%	0%	3%	85%	8%	2%	1%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VI-39 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	5	9	14	478	29	12	1	0	548	
		割合	1%	2%	3%	87%	5%	2%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	4	1	16	469	48	7	3	0	548	
		割合	1%	0%	3%	86%	9%	1%	1%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	5	11	15	460	46	9	2	0	548	
		割合	1%	2%	3%	84%	8%	2%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	4	2	15	468	48	9	2	0	548	
		割合	1%	0%	3%	85%	9%	2%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	4	12	12	465	41	13	1	0	548	
		割合	1%	2%	2%	85%	7%	2%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	4	2	14	467	46	12	3	0	548	
		割合	1%	0%	3%	85%	8%	2%	1%	0%	100%	



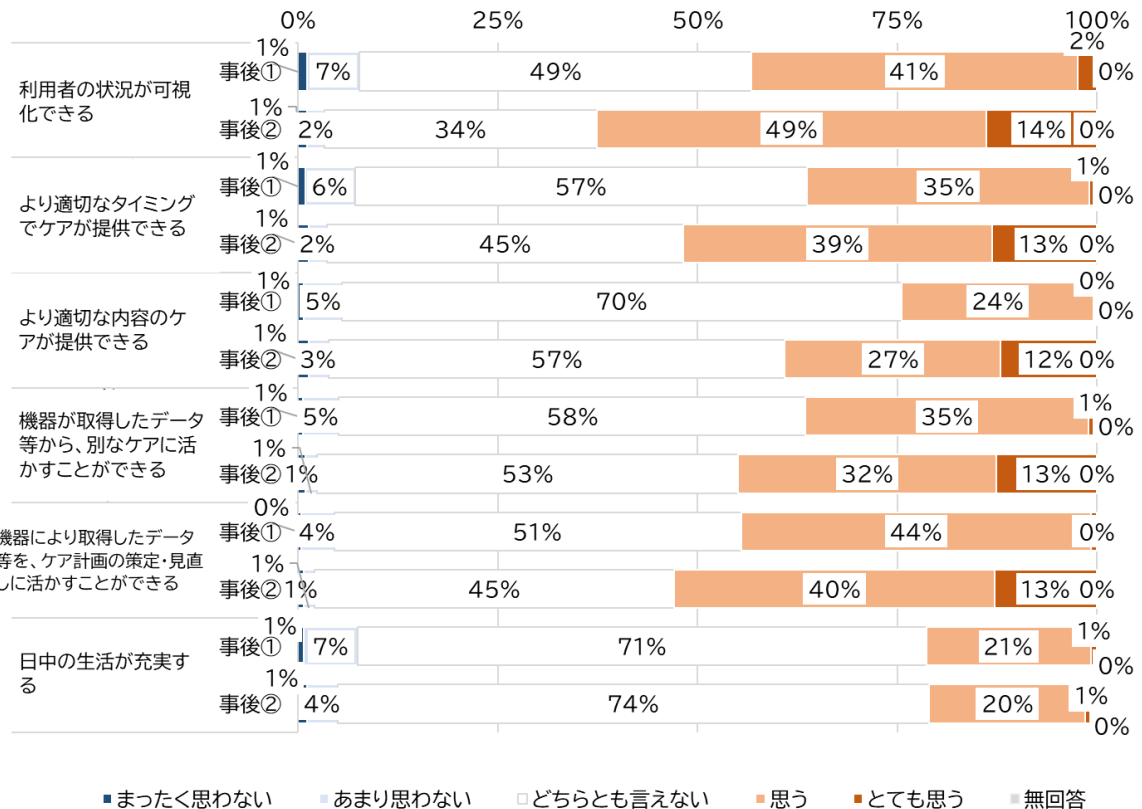
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ク. ケアの変更

ケアの変更の結果は以下の通り。

図表 VI-40 ケアの変更

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計	
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人) 割合	6 1%	36 7%	269 49%	224 41%	13 2%	0 0%	548 100%
	事後②	人数(人) 割合	6 1%	12 2%	187 34%	267 49%	76 14%	0 0%	548 100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	5 1%	34 6%	310 57%	194 35%	5 1%	0 0%	548 100%
	事後②	人数(人) 割合	7 1%	13 2%	244 45%	212 39%	72 13%	0 0%	548 100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	4 1%	26 5%	384 70%	132 24%	2 0%	0 0%	548 100%
	事後②	人数(人) 割合	7 1%	14 3%	313 57%	148 27%	66 12%	0 0%	548 100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	3 1%	25 5%	320 58%	194 35%	6 1%	0 0%	548 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 1%	8 1%	289 53%	177 32%	69 13%	0 0%	548 100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	2 0%	23 4%	279 51%	240 44%	4 1%	0 0%	548 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 1%	7 1%	247 45%	220 40%	70 13%	0 0%	548 100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人) 割合	4 1%	37 7%	390 71%	113 21%	4 1%	0 0%	548 100%
	事後②	人数(人) 割合	6 1%	21 4%	406 74%	107 20%	8 1%	0 0%	548 100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

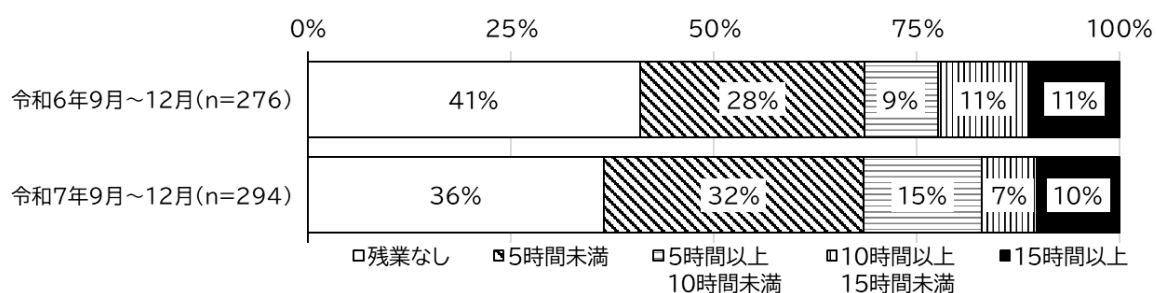
(5) 業務時間等調査結果

ア. 職員1人1か月当たりの所定外労働時間

職員1人1か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 VI-41 職員1人1か月当たりの所定外労働時間

		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
令和6年9月～12月(n=276)	人数(人)	113	76	25	31	31	7.10
	割合	41%	28%	9%	11%	11%	
令和7年9月～12月(n=294)	人数(人)	107	94	43	20	30	6.58
	割合	36%	32%	15%	7%	10%	



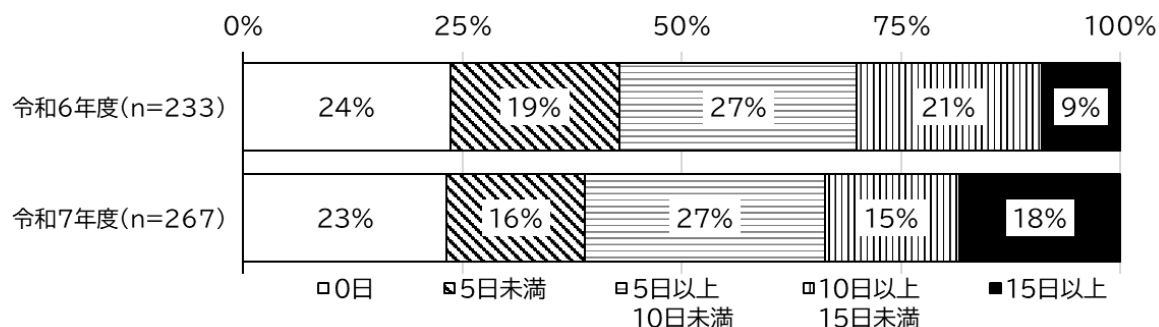
イ. 職員1人12か月あたりの有給休暇取得日数

職員1人12か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12か月に満たない場合、取得日数(a)の実績を把握した月(b)で除し、12か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 VI-42 有給休暇の取得状況の変化

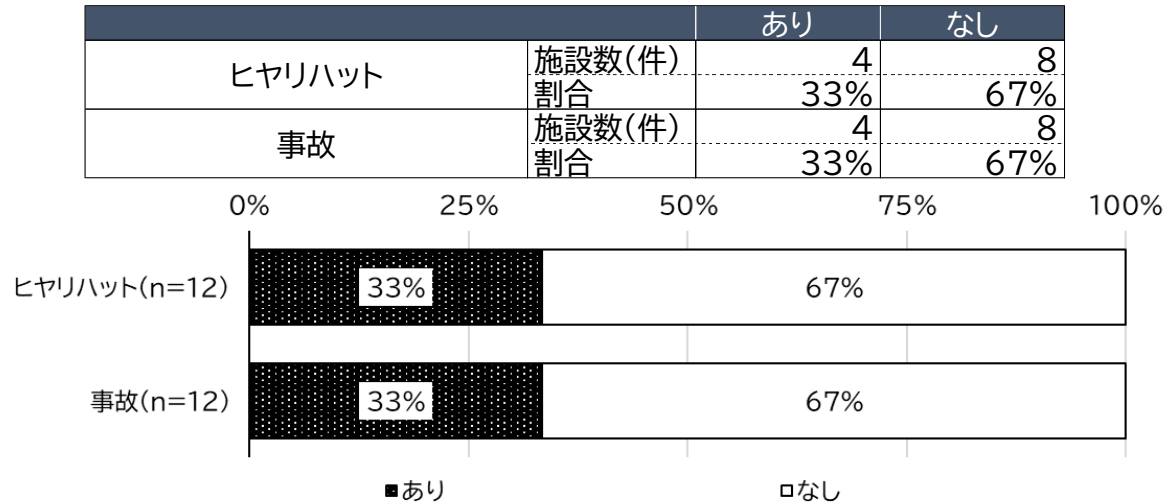
		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和6年度(n=233)	人数(人)	55	45	63	49	21	6.18
	割合	24%	19%	27%	21%	9%	
令和7年度(n=267)	人数(人)	62	42	73	41	49	8.26
	割合	23%	16%	27%	15%	18%	



ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 VI-43 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無



図表 VI-44 実証期間中のヒヤリハットの内容・再発防止策

内容	再発防止策
見守りセンサの動作がエラーになったまま一日放置されていた。	自立の方の為、エラーになったことは気づいていたが、自動的に改善されるものと放置していた。夜勤開始前には一旦確認する事をルール付ける。
離床センサが鳴り訪室すると、ベッドからずり落ちしそうになっていた。	元々立位不安定な方。離床検知が反応しての対応は危険な為、細めな巡視を心がける。またL字柵を設置するなど、掴まれるものを設置し、ご本人が安全に移動出来るよう、環境整備を行う。
トイレ後にカーディガンを着ようとクローゼットを開け足側の細い柵にお尻をつけた際、バランスを崩しベッドに背を向けて倒れそうになった。	狭い場所で行為をせず、ベッドに座ってから着て頂く。またはクローゼット前に椅子を置き、座って衣類選びができるようにする。
「お湯の温度が気になる」とのことで、職員がいない状態で浴槽の温度を確認し、蛇口を捻って水を足していた。	職員がいない時の浴室施錠を行う。
事後調査①の実証期間において、間接業務への対応のために一部の現場職員を配置転換した結果、フロアの見守り体制が一時的に手薄となった。その時間帯に転倒のリスクがあるご利用者が立ち上がられる場面が確認された。	日課および職員配置を改めて見直し、現場職員が間接業務に従事する時間帯を調整した。これにより、常に十分な見守りが行える体制を整え、ご利用者が安心して過ごしていただける環境の確保に努めている。

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 VI-45 実証の結果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付き有料老人ホームさわやか宗像館	調査全体	<ul style="list-style-type: none"> 職員からは前向きな意見が多かった。インカムを使うことで、<u>申し送りやイレギュラー対応等が楽になった。</u>
介護付き有料老人ホーム宝木荘	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の活用により、業務の役割分担等ができたため、<u>全体的に業務が効率化された。</u> <u>タイムスタディ結果では、間接業務時間が減っていたため、本来注力すべき業務が可視化された</u>と思われる。<u>同時に職員の意識も変わった。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査から事後調査にかけて大きな変化はないとみられたため、よかったと思う。
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 見守り支援機器が導入されているため、<u>必要なタイミングでの対応ができた。</u>加えて、<u>安心感の向上と不要な訪室の減少等で、ケアの質は維持できた。</u>
ホームステーション高井戸	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> タイムスタディ調査では、特に<u>夜勤者の記入負担が大きかった。</u>
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査・事後調査で評価値に差がみられたが、入居者が回答困難な場合は職員が代理回答しているため、<u>評価者の判断や感覚の違いが影響した</u>と思われる。
介護付き有料老人ホームすこやか家・川崎明津	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>セカンドスタッフ(間接業務専用ライン)を活用して、業務改善に取り組んだ成果が出ていると思われる。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生時の責任を個人が強く背負う意識があり、その責任感の強さから、体制変更に対してネガティブな意見が生じたのかもしれない。
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>人員配置を 3:1 に近づけるように夜勤を 1 ライン減らしたため、利用者に気を遣われてしまっていたが、その点が結果に表れているかもしれない。</u>
介護付き有料老人ホームアミカの郷亀	調査全体	<ul style="list-style-type: none"> 現場の介護リーダーなどの協力を得て、実証の取組についての理解を周知することが重要だと感じた。

施設名	カテゴリ	主なご意見
有		<ul style="list-style-type: none"> 介護リーダーの協力もあり、新しい取り組みへの職員たちの抵抗感は小さかったため、このまま体制も継続できると考えられる。この後はインカムと食事の提供について見直せるようになるとうい。
介護付き有料老人ホームみんなの家・久喜	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 人員を減らすにあたり、追加で見守りカメラを導入する予定であったが、<u>実証期間中に見守り機器の導入が間に合わなかったため、不満が出てしまったのかもしれない。</u>
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>レクリエーションを十分に実施できなかったことが、QOLの結果に影響していたかもしれない。</u>
チャームスイート緑地公園	調査全体	<ul style="list-style-type: none"> 実証に取り組んでよかったという意見、前の体制のほうがよかったという意見で施設内が二分された。実施期間が短いため、結果として現れるのは、半年から1年ほど時間を要すると思われる。
チャームスイート神戸摩耶	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 事後調査②にかけて体調が不安定な入居者が多く、職員が別途利用者の対応に追われており、大変な時期が重なってしまった。
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>利用者からも職員を減らすことへの不安があった。</u>他にも実証中にお茶やおやつの提供方法を変えたことによりサービスが減ってしまったと感じ、利用者から不満が出てしまった。
チャーム水元公園	全体	<ul style="list-style-type: none"> <u>良い結果であったため、データを見ることで職員がより前向きになれるのではないか。</u>
ケアハウス朝来	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査の段階では<u>間接業務・直接介護の整理ができていなかったため、両者を同時に取り組んでいた時間を直接介護として記録したことで、事後調査よりも直接介護時間が多く計上されたのかもしれない。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>取組について前向きに回答した職員がいた点は良かった。</u>
介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水	調査全体	<ul style="list-style-type: none"> 事後調査①②では、職員の数は一人名減っているが、<u>感覚として業務に対する負荷は変わりがなかった。</u>現場をみて他のリーダーとコミュニケーションを取りながら実施したことがよかった。 タイムスタディ調査の<u>余裕時間が増加していた点は良かった。</u> 実証期間中も利用者のカンファレンスの時間はきちんと割くことができた。

施設名	カテゴリ	主なご意見
イリーゼ西大宮	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査～事後調査②の間で退職者が出たが、業務時間が増えなかったことは良かった。

② 実証時発生した課題とその対応について

図表 VI-46 実証時発生した課題とその対応について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付き有料老人ホームさわやか宗像館	職員	<ul style="list-style-type: none"> インカムの使用によって申し送りや業務が楽になったが、異なる階への通信が上手くできなかった。上手くいかない場合は普段使用している内線電話を使って連絡していた。12月は年末の掃除もあったため、いつもより間接業務が増えたと感じる。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 入院・退院対応や、一部利用者における介助量の増加によって施設全体として職員の時間外勤務が増加してしまったため、利用者に接する時間が減ってしまったように思う。
介護付き有料老人ホーム宝木荘	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> もともと館内にカメラ等の設置はある状態だったが、事後調査①②のなかで <u>ICT 機器を活用し、業務の役割分担等ができたため、全体的に業務が効率化され、特段問題は起きなかった</u>ように思う。
ホームステーション高井戸	職員	<ul style="list-style-type: none"> 実証にあたり、<u>深夜勤務ラインを1ライン削減する運用を先行して実施した。その結果、オペレーションに一時的な混乱が生じ、特に朝勤務の職員から不満の声が挙がった。取組によってどのくらい余裕ができたかを考慮して取り入れたのではなく、先んじて業務ラインを減らしたため不満が起きたのだと思われる。</u>
介護付き有料老人ホームすこや家・川崎明津	職員	<ul style="list-style-type: none"> 実証を開始する前に予め目的・意義をお伝えしていたため、実証に対して不満が出ることはなかった。 <u>夜勤を2人体制から1人体制に変更したが、ある程度余裕時間があったのではといった意見があった。ただし、ナースコールが複数鳴った場合は対応が難しかったとの声があった。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 不満は出ていなかったが、<u>人員を減らしていることを気遣われてしまった。</u> 気を遣っていることが理由かもしれないが、<u>ナースコールを押さずにご自身で動いてしまったことによる転倒の事故が増えてしまった。</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 夜間に緊急搬送が発生した場合は職員が救急車に同乗できないため、家族に対応いただく必要が生じた。<u>現時点では緊急搬送が出ていないが、もし起こった際はどうなるのかといった不安はある。</u>
介護付き有料老人ホームアミカの郷亀有	職員	<ul style="list-style-type: none"> 従来使用していたインカムの、バッテリー持ちの悪さや外部の音声を受信してしまうことによる個人情報漏洩という点のデメリットがあり、別のテクノロジー機器を代替導入したが、職員からの批判が増加してしまった。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> オペレーション変更について理解のある利用者もいれば、ない利用者もあり、両極端であったが、日が経つごとに理解度は増えた。<u>生産性向上によって月に2回大きなイベントを実施することができたが、それに伴いイベントカレンダーを作成し、1階へカレンダーを取りに来る利用者が増加した。利用者の意欲も増えたのではないか。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上の会議のなかでは、会議の内容について介護者主体の内容が増加していると感じた。効率面だけの重視ではなく利用者のADLを重視できるように、議論の軌道修正をできる人が委員会では必要と考える。
介護付き有料老人ホームみんなの家・久喜	職員	<ul style="list-style-type: none"> タイムスタディ調査の際に、紙を持って移動できない場合もあるため、後追いで記録になってしまった。 <u>業務改善効果が見られないことへの不満が一部見られた。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 本実証調査の目的は理解していただけだが、<u>なぜ必要なのか、といった点が職員に十分周知できていなかった。</u> リスクが高い方が多くいるため、人員を抑制するのではなく、各階での見守り職員の配置は必要なのではないか、といった意見があった。
チャームスイート緑地公園	職員	<ul style="list-style-type: none"> 取組について賛否が分かれたが、職員の性格、例えば変化への耐性等によって受け入れ方が異なるように思う。<u>施設長が主導ではなく、職員が主導で行わなければ取組の理解は浸透しないため、職員から情報共有していただくよう意識した。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 大きい施設であり、誰かしたら職員は配置されてい

施設名	カテゴリ	主なご意見
		るため、変化は感じにくかったのではないか。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>現場目線では楽になりそう、といった意識で始まったが、実際にはそういうわけにもいかなかった。職員への浸透は難しく、実証期間中では 100%ご理解いただくことは難しかった。</u>
チャームスイート神戸摩耶	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生産性向上の取組のイメージがつかず、「純粹に人が減るのではないか」といったマイナスなイメージばかりが先行してしまっていた。</u>いつか来る人員の減少に備えて実施している、機器等を使って働きやすい環境を作っている、という点が伝わらなかった。実証の目的がぶれてしまった際は、繰り返し周知を行っていた。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>「人を減らしてもサービスは低下しないのか？」といった不安があった。機器を使うことへの理解が得られにくかったかもしれない。</u> • <u>利用者におけるネガティブなイメージを払拭するのに苦労した。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>取り組みに関して、職員・利用者共に最初からポジティブな印象を持っていたら、結果もかわったのかもしれない。</u>
チャーム水元公園	職員	<ul style="list-style-type: none"> • 当初は、後ろ向きな発言が多く、雰囲気も良くなかったが、<u>会議で出た後ろ向きな意見に対して管理者側での改善を図ったことで、徐々に前向きな意見交換ができるようになった。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>離床センサの導入に関する全ご家族への説明が納得できるものになるよう、効果が期待できる対象者を厳選して、導入している。</u>
ケアハウス朝来	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>事後調査①の際に、間接業務担当職員に集中させた</u>が、その方に業務負荷が集中してしまった。施設内で分類した間接業務にあたる仕事の種類が多いため、負荷が集まってしまったのではと考える。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>業務を見直した結果、フロア内に直接介護に従事する職員が 1 名になる時間ができたため、見守り対応やコール対応が手薄になり、リスクを高めることになってしまった。</u>実際に、利用者が車いすから立ち上がったしまうヒヤリハットがあった。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>常勤職員のうち 1 名を事務所待機してモニターを見</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<u>ながら指示出しをする職員として配置したかったが、 人員の確保が難しかった。</u>
介護付き有料老人 ホームウェルビーイ ング清水	職員	<ul style="list-style-type: none"> 導入当初はタイムスタディ調査アプリの操作に慣れるまで一定の時間を要したが、使用を継続する中で慣れたため実証初期段階に限った課題であった。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 職員の負担軽減のために行った取組に対しては直接利用者からのクレーム等はなかった。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 今後は今回の実証内容を、法人内でどのように展開すべきかを考えていく必要があると感じている。
イリーゼ西大宮	職員	<ul style="list-style-type: none"> 試行的にラインから外れる取組について、計画より対応いただくことが難しかった。食事・服薬など人手が必要な時間には業務ラインに入った。 <u>バイタル測定について、医療的処置のため直接介護であると整理できる一方、利用者にケアを提供しているわけではなく、機械で自動測定もできるため、直接介護に分けるのか、間接業務に分けるのかが判断が難しかったとの意見があった。</u> <u>見守りについても、巡回で計上するのか、ICT 機器の使用(厚生労働省が例示するフォーマットの場合は見守り機器の使用)で分けるのか、映像が確認できない場合は直接訪室するため、複数の業務が同時並行で行われることになるため、記録が難しかった。そのため、結果を見ると、どちらの業務が効率化されたのかが見えにくくなる。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>生産性向上の取組について、見守り機器についてはご理解いただけるが、介護記録ソフトやインカムについては、利用者には関係ないため意義を伝えづらく、職員のためで利用者のためになっていないのではと思われることもある。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 業務ラインから外れることに対する不安があったため、必要に応じて入っていただくよう案内した。実際に取り組むと、反対意見はなかった。

③ 委員会の開催について

図表 VI-47 委員会の開催について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付き有料老人ホームさわやか宗像館	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 3カ月に1回開催。 • 参加者は管理者、機能訓練指導員、生活相談員、介護支援専門員、介護職員など。 • 委員会では実証に際して、タイムスタディの周知等を実施した。 • 施設長が作成した周知内容(紙)を各フロアに配布し情報を共有した。
介護付き有料老人ホーム宝木荘	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 月に1回開催。緊急時は臨時で追加開催をしている。 • 施設長、ケアマネ、生活相談員、各種リーダー、看護主任、施設課の主任等の参加。 • 委員会では、現場の課題を各部署から聞き取り、業務負担の維持等について検討している。特に、ICT機器の活用方法や役割分担、業務フローの改善についての内容が多い。 • 周知方法は職員間の情報共有の効率化につながる形で、議事録を社内の情報共有システムで作成し、全職員へ共有している。
ホームステーション高井戸	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 2カ月に1回開催。 • 参加者は介護職3.4名と施設長。
介護付き有料老人ホームすこや家・川崎明津	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 3か月に1回開催。 • 参加者は施設長・看護師・介護支援専門員・介護職員(参加できる方) • 機器の使い方、不具合への対応方法、メンテナンス、働き方、事故防止等について話し合い、夜勤体制の見直しについても取り扱った。主要メンバーを中心に予め詳細を詰めて同じ方向を向いた上で、委員会にて周知をしている。 • 検討結果は議事録として紙で回覧し、全員に確認していただくようにしていた。
介護付き有料老人ホームアミカの郷亀有	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 1か月に2~3回開催。その他何かあった際は緊急カンファレンスも実施。 • 参加者は、介護職、ナースリーダー、ケアマネジャー、施設長、相談員。 • 委員会では業務量の均一化を目的に、入浴時間帯の

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<p>見直しやセカンドスタッフ(間接業務専用ライン)・介護職員の役割再整理(配膳・下膳対応等)を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 検討結果は情報共有のテクノロジー機器を使用して周知した。
介護付き有料老人ホームみんなの家・久喜	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 2 か月に 1 回開催。 ● 参加者は、開催日に出勤している職員と施設長、介護支援専門員 ● 機器の使い方、不具合への対応方法、メンテナンス、働き方、事故防止等について話し合い。実証調査に関しては別途周知の機会を設けた。 ● 検討結果は議事録の掲示や情報共有ツールを使って周知した。
チャームスイート緑地公園	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 月に 1 回開催。 ● 参加者は、介護職員、看護職員。取組にポジティブなメンバーは参加できるよう会議を設定した。 ● 見守り支援機器の使い方の見直しや機器使用の取り決めを中心に議論した。介護リーダーを中心に役割を決定し、施設内で発信した。 ● 検討結果は、議事録を記録ソフト経由で職員に共有した。
チャームスイート神戸摩耶	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 2 週間に 1 回開催。 ● 参加者は、統括リーダー、ホーム長、本部 DX 担当が参加。オンラインにてエリアマネージャー、役員が参加することもある。 ● 会議では、オペレーションの見直しや間接業務の見直し、介護職員の担当業務量の調整を議論した。 ● 検討内容は、議事録の内容を全体配信し、スタッフが閲覧できるよう共有した。関心の有無によりスタッフ間の温度差が大きく、主体的に受け止めない職員もみられた。記録システムの既読機能を活用し、未確認者にはフォローを行った。
チャーム水元公園	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産性向上委員会を 2 つに分け、本体は 3 カ月に 1 回、プロジェクト会議を月 2 回 1 時間開催した。 ● 参加者は、本部担当者、ホーム長、相談員、介護支援専門員、介護職、看護職。 ● 本体の会議では要件事項を議論し、現場の細かな課題の話は、プロジェクト会議で行った。課題収集は、職

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<p>場の生産性向上ツールを用い、課題を会議で共有し、次の会議で課題に対する解決を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討結果は記録システム内での議事録の周知だけでなく、毎日日勤リーダーを選定し、決まった時間に申し送り事項をインカムで周知していた。リーダーに選定されることで、主体的に情報収集を行うようになった。
ケアハウス朝来	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回開催。 参加者は、管理者(相談員)、介護支援専門員、看護師、介護職員。 日課の見直し、リスク対応、職員負担の見直し等を検討した。 検討結果は情報共有ツールでの周知や、紙での周知を行った。
介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「業務改善委員会」という生産性向上の取組に係る委員会は3カ月に1回開催。ほかにも「合同会議」「戦略会議」を1カ月に2回開催。 参加者は介護リーダー、計画作成担当者、管理者、機能訓練士。 進捗確認・課題の確認・社内SNSにて状況共有を実施した。詳細な内容については毎朝の朝礼の中で共有をした。 当初は機器や役割に対し、担当を2.3名決めて率先的に活用する職員(係)を設けていたが担当部門によって職員の特性から効果の差が生じた。
イリーゼ西大宮	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> 3か月に1回開催。それに加え、月に1回のケアカンファレンスや全体会議でも話し合っている。 参加者は、施設長、介護支援専門員、看護、生活相談員。 機器のメンテナンス、設定の見直し等を検討。(これらは日々の申し送りの中でも実施) 実証調査については、別途検討・周知の場を設けた。 検討結果は介護記録ソフトでの申し送りや、申し送りノート、介護支援専門員から申し送り時に周知を行った。

④ 実証目的に対する達成状況について

図表 VI-48 実証目的に対する達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付き有料老人ホームさわやか宗像館	職員	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化にはなったが、タイムスタディ調査の結果に表れたり、残業時間の減少につながったりすることはなかった。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>インカムを使うことで利用者を待たせる時間が減ったように思う。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> <u>インカムの使用によって、ケアを実施している場などから職員が離れずに情報共有ができるため、リスクの低減はできている。</u>
介護付き有料老人ホーム宝木荘	職員	<ul style="list-style-type: none"> 夜間帯の不要な巡視や記録業務が省け、利用者の対応に時間を割けた。<u>今までは間接業務・直接業務があいまいになっているところがあったが、本実証をきっかけに改めて見直すことができた。同時に職員の意識も変わった。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に対しては、見守り支援機器が導入されているため必要なタイミングでの対応ができている。不要な訪室の減少等で、ケアの質は維持できていると感じる。利用者からのネガティブな意見は特にない。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> <u>ICT 機器活用と、業務整理で、運営面での効率化が進んだ。</u> <u>見守り支援機器等で、リスク低減もできていることに加え記録業務の効率化から、費用対効果もあった。</u> <u>結果から直接業務が増加し間接業務の効率がよくなっていることが分かり、取り組んでよかったと思う。</u>
ホームステーション高井戸	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 実証の取組前よりテクノロジー機器を導入していたため実証前後で大きな変化は見られなかった。
介護付き有料老人ホームすこや家・川崎明津	職員	<ul style="list-style-type: none"> <u>直接介護以外はセカンドスタッフが担うため、負担軽減はできている。</u> ただ、見守りが手薄な時間が生じるため、その場合はセカンドスタッフが直接介護に入っていた。 日曜日だけは入浴がないため、セカンドスタッフを入れていない。また、<u>日曜日の夕方だけ手薄になるため、残業に繋がってしまっている。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>以前と比べて、センサやナースコールが鳴った際に訪</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<u>室するまでの時間が遅くなっているため、お待ちいただいているかもしれない。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 取組を始めてから日が浅いため、あまり効果を実感できていない。 <u>今後もオペレーションを維持していきたい。</u> <u>職員の急な休みが出た際が課題。</u>
介護付き有料老人ホームアミカの郷亀有	職員	<ul style="list-style-type: none"> インカムは変更希望があるものの対応待ちであり、業務負荷に大きな変化はなく、新規取組への抵抗も少なかった。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 見守りが必要な利用者は1階に集め、上階はコールでの対応としたが、ケア提供の不足は生じていない。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 勤務開始時間の調整や、<u>情報共有ツールによる申し送りを実施したことで、申し送りのために業務を止める必要がなくなり、引き継ぎ時間の短縮と業務の効率化が進み残業削減ができた</u>と実感している。また、給食を外注から自社対応へ変更したことで作業時間は短縮した。
介護付き有料老人ホームみんなの家・久喜	職員	<ul style="list-style-type: none"> 実証が起因して問題が生じていたわけではないが、<u>人員不足によって従来より生じていた課題がそのまま残ってしまった。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>利用者の介護度が高く、各階にコールを頻回に鳴らす方、居室から出てしまう方がいらっしゃるため、見守り業務の負担を減らすことができなかった。</u> <u>従来より職員が不足しておりレクリエーションを十分に実施できなかった。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 追加機器の導入が間に合わなかったため、業務オペレーションについては、再度見直しを検討中。
チャームスイート緑地公園	職員	<ul style="list-style-type: none"> 日中勤務に関しては、直接介護と間接業務に分けたことで業務が楽になったとの声が多数あった。夜勤については経年者が多いため、従来業務から変わることにより抵抗が大きかったように思う。適宜間接業務ラインの負担量を調整しつつ、3か月目くらいから慣れてきた印象である。 <u>残業時間についても、施設全体で100~200時間/月程度削減された。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> ケアをせわしなく実施するのではなく、ゆっくりと時間を取りながら接することができた。接する時間が増

施設名	カテゴリ	主なご意見
		えることで、今まで聞くことができなかった利用者の悩み等も聞き出せることができたとの声もあった。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 各職員における業務の役割や責任を明確化できた点は良かった。従来のように直接介護をしながら間接業務を実施するとなると、どうしても間接業務が後回しにしてしまうため、シャンプーが補充されていない、ゴミ袋がないといったストレスがあったが、業務を切り分けたことでそのような問題がなくなった。
チャームスイート神戸摩耶	職員	<ul style="list-style-type: none"> 入浴業務のオペレーションを変更したことで入浴担当者の余裕は増加した。<u>従来までは休憩時間までに間に合わせなければならない、といった心理的な負担が減った。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> お茶やお菓子の提供体制を変えたことで利用者から不安の声があがった。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 明らかなリスクの増加やケアの質の低下はなかった。その他、<u>休憩中に4階のテラスを施錠していたが休憩時間をずらし、見守りカメラを設置したことで施錠時間をなくすことができ、開放時間を増やすことができた。</u>
チャーム水元公園	職員	<ul style="list-style-type: none"> 服薬業務での往復動線が多く工数がかかっていたが、<u>服薬オペレーション変更(置き型→移動式)で往復をなくし工数を削減した。朝・昼・晩の食事時間の服薬対応時間が各2時間→1.5時間に短縮され、結果として、1日約1.5時間削減した。</u> <u>普段意見を言わない方からも課題解決のための意見をいただき、ポジティブな意見をいただけた。</u> <u>インカムを用いた会議参加が定着したことにより、インカムでのコミュニケーションが活性化された。会議の場以外でも、自発的に生産性向上につながる意見が飛び交うようになった。</u> <u>インカム機器を使用し各所にてインカムを使用した申し送り(夕礼)が定着した。このことで、全職員が活発に意見を言うことのできる文化ができた。</u> <u>議事録作成AIを活用することで、事務作業の時間削減ができ、職員への議事内容の共有も進んだ。</u> <u>インカムを用いた会議参加が定着したことにより、インカムでのコミュニケーションが活性化された。会議</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<p>の場以外でも、自発的に生産性向上につながる意見が飛び交うようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>インカム機器を使用し各所にてインカムを使用した申し送り(タ礼)が定着した。このことで、全職員が活発に意見を言うことのできる文化ができた。</u> • <u>議事録作成 AI を活用することで、事務作業の時間削減ができ、職員への議事内容の共有も進んだ。</u> • <u>介護助手に任せていた業務のうち、利用者の自立支援に寄与するものについては、なるべく利用者自身で行うよう、工夫を行った。結果として、介護助手の時間削減にもつながった。</u> • <u>職員全員の役割を明確化させることで、業務の重複、遅れがなくなり、次に行うべき業務に早く取り掛かれるようになった。</u> • <u>役割分担を行ったことで、食事前の準備の業務負担は大きく減少した。また、配茶業務がなくなったことにより、その業務に付く職員が不要になったため、その分他の業務に充てることができるようになり、負担が軽減した。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>配膳・配茶業務を職員が対応していたが、基本的にはご自身で入れていただくように変更したことで、ご家族から、自立支援の観点で有難いとの声があった。</u> • <u>見守り機器の通知を設定する対象者を選定している。起き上がりの際にインカムで連絡することで、全員が通知音を確認するようになり、利用者へのケアの質の向上しているように思う。</u> • <u>看護職員が見守り機器のデータを活用しており、データを分析することで急変・事故を予見し、状態変化が起こる前に対応できるようになっている。また、見守り機器の情報を医師にも共有できている。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>見守り機器によってリスクの軽減、モニター確認による巡視減少によって夜勤の負担軽減ができているだけでなく、事故やヒヤリハットも大幅に減少している。</u> • <u>対応するスタッフの人数は変わっていないが、業務内での余裕が以前より出ているように見受けられる。以前は、人が足りない場合は入浴業務等の単発</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<p><u>バイトで補っていたが、現在は既存の職員で回せるようになっているため、単発バイトの時間は相当減っている。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>2か月くらい満床を維持したままであり、稼働が安定している。</u> • <u>業務改善によって生み出された余裕時間をクラブ活動に充てることで、施設全体の活気が出てきたように思う。</u> • <u>新しい取組が上手くいき、職員が前向きになれたのは開始後 3 か月後と思われる。もし上手くいかなかったことがあればやめても良いと決めていたため、新たな取組に挑戦しやすい環境であったと思う。</u> • <u>今後も現在の取組を継続していきたい。</u>
ケアハウス朝来	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>間接業務・直接介護を整理し役割分担を実施したことで、上手くいった点、いかなかった点があるが、業務整理ができたことは良かった。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>直接介護を担当する職員は利用者に関わる時間が増えたことで、居室への訪問や、飲み物を飲んでいただいたりしたことで、ケアの質が向上されたのではない。</u> • <u>利用者へのアクティビティを提供できる日課ではなかったことや、取組によって転倒リスクが増えてしまった点は反省点である。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>元々テクノロジーの導入はリスク回避がメインであったが、実証調査を通して、テクノロジーを効果的に使うための意識付けをするきっかけになった。</u> • <u>ただし、現状は以前の業務体系に戻っている。実証時の取組を行うにあたり人員不足が課題になっている。</u>
介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>機器を用いたことで夜間帯の巡視業務が減った。</u> • <u>申し送りすべき基準を数値化して細かく設定し、業務を効率化することができた。その分利用者のカンファレンスに割くことも可能となった。</u>
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>取組みによって劇的に利用者の状態がよくなったということはない。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>全体を通して、生産性向上の取組の考え方に対する抵抗がなくなった。委員会で生産性向上の取組につ</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		いて議論していたが、その中でも職員からは、人員配置について改善するよりも、現状維持を望む傾向があった。しかし、 <u>取り組みと回数を重ねていくうちに「大変だからできない」という声はなくなった。職員の抵抗は小さくなったのではないかと感じる。</u>
イリーゼ西大宮	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>タスクシフト・タスクシェアの重要性に関する気づきを得ることはできた。</u> • 利用者の体調変化や介護度の変化にも依存するが、元々機器は揃っており、使い方にも慣れているため、実証を通して負荷が大きく軽減したわけではない。
	利用者	<u>業務ラインから外れる職員を設けたが、実証期間を通してケアの質を維持することができた。</u>
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生産性向上の取組は、投資額に見合った業務時間の削減ができているかは分からないが、採用面や業務効率面でのメリットは大きいと思う。</u> • <u>間接業務に従事する職員を設ける取り組みは継続できそう。ただ、このような職員は、利用者の顔・名前や食事形態を覚えておかないと、効率的に業務に従事できないと考える。</u>

⑤ 生産性向上に取り組む特定施設における人員配置基準の柔軟化の届出について

図表 VI-49 生産性向上に取り組む特定施設における人員配置基準の柔軟化の届け出について

施設名	主なご意見
介護付き有料老人ホームさわやか宗像館	<ul style="list-style-type: none"> • 今後、まずは生産性向上推進体制加算Ⅰの算定を目指し、その後届出をしたいと考えている。一部アナログな運用が残るため解消してからだと考える。
介護付き有料老人ホーム宝木荘	<ul style="list-style-type: none"> • 人材が潤っており、検討していない。 • 次回の介護報酬改定時に「手厚い介護」体制を押し出し、利用者に対する自由診療の活用を促すことで、収益の増加にもつなげたい。
ホームステーション高井戸	<ul style="list-style-type: none"> • 現時点で届出について検討されていない。
介護付き有料老人ホームすこや家・川崎明津	<ul style="list-style-type: none"> • 届出を検討中。ただ、届出をしなかったとしても、変更後のオペレーションを維持したいと考えている。
介護付き有料老人	<ul style="list-style-type: none"> • <u>届出に向けて準備をしている。</u>

施設名	主なご意見
ホームアミカの郷亀有	
介護付き有料老人ホームみんなの家・久喜	<ul style="list-style-type: none"> • 現時点で届出は検討していない。
チャームスイート緑地公園	<ul style="list-style-type: none"> • <u>届出に向けて準備をしている。</u>
チャームスイート神戸摩耶	<ul style="list-style-type: none"> • 届出を行うことは難しい。 • <u>利用者の多い施設ではなく、看護師の人員配置は動かせないため、3:0.9 を目指そうとした場合は、介護職員に負荷が集中してしまうことが課題である。</u>
チャーム水元公園	<ul style="list-style-type: none"> • <u>届出に向けて準備をしている。</u>
ケアハウス朝来	<ul style="list-style-type: none"> • <u>要件のうち、データでの継続的な成果の確認(調査の実施～取りまとめ)が難しいと考える。</u> • 元々3:1に近い人員配置ではあるが、3:1を今すぐに体制が割れそうといったわけではない。そのため、<u>0.9まで緩和した場合、緩和によるメリットを享受できるか分からないため、届出に対して躊躇している。</u>
介護付き有料老人ホームウェルビーイング清水	<ul style="list-style-type: none"> • 実際に届出が決まっているわけではないが、今後検討せねばならないと考えている。
イリーゼ西大宮	<ul style="list-style-type: none"> • 今後経営判断で変わるかもしれないが、現時点で届出は検討していない。

(7) 人員配置に係る調査結果

実証対象である12施設について、事前調査(オペレーション変更前)、事後調査②実施時(オペレーション変更後)の人員配置について確認をした。

事後調査において、3:1よりも少ない人員配置については下線と太字で示している。

図表 VI-50 人員配置に係る調査結果

No	施設名	事前	事後			
		人員配置	人員配置 介護助手 相当含む (※1)	人員配置 介護助手 相当除外 (※2)	入居数 換算値	在籍人員 (常勤換算)
1	介護付有料老人ホームさわやか宗像館(※3)	2.72:1	2.91:1	-	55	18.9
2	介護付き有料老人ホーム宝木荘	1.95:1	2.01:1	2.08:1	40.6	19.5
3	ホームステーション高井戸	2.50:1	2.71:1	2.88:1	64.8	22.5
4	介護付有料老人ホームすこや家・川崎明津	2.50:1	2.45:1	2.58:1	34.0	13.2
5	介護付有料老人ホームアミカの郷亀有	2.87:1	2.98:1	2.98:1	40.6	13.6
6	介護付有料老人ホームみんなの家・久喜	2.4:1	2.21:1	-	27.3	12.4
7	チャームスイート緑地公園	2.9:1	2.92:1 (※3)	<u>3.36:1</u> (※3)	100.2	29.81
8	チャームスイート神戸摩耶	2.5:1	2.06:1 (※3)	2.16:1 (※3)	34.4	15.93
9	チャーム水元公園	2.51:1	2.95:1 (※3)	<u>3.34:1</u> (※3)	49.9	14.94
10	ケアハウス朝来	2.92:1	2.70:1	-	24.6	9.1
11	介護付有料老人ホームウェルビーイング清水	2.70:1	2.78:1	2.83:1	46.6	16.5
12	イリーゼ西大宮	2.48:1	2.58:1	2.61:1	54.2	20.8

※1 介護助手相当とは、試行的な取組として、一時的に業務ラインから外れて待機又は直接介護以外の業務に従事していた職員を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

※2 入居換算値/{(常勤介護・看護職員)+(実証 5 日間における非常勤介護職員の総業務時間)-(介護助手相当が担った直接介護以外の時間)}

※3 事後②調査実施月全体の実績値を基に計算している。

なお、特例的な柔軟化の適用要件として、取組後に 3:1 を下回る人員配置が必ず求められるわけではない。

(8) 追加分析

ア. 目的

職員向けアンケート調査の結果を用いて、職員の属性と生産性向上の取組に対する評価との関係性を把握することを目的に実施した。

イ. 集計対象

職員向けアンケート調査のうち事後調査②の回答者 222 名。(※事前調査または事後調査①に回答がない場合も含む)

ウ. 分析方法

以下の変数を用いて重回帰分析を行った。本分析は、Microsoft Excel を用いて実施した。

図表 VI-51 分析に用いた変数

目的変数	説明変数
<ul style="list-style-type: none">● 生産性向上の取組によるモチベーションの変化(職場の活気の変化)● 生産性向上の取組によるモチベーションの変化(やりがいの変化)● 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり● 全体的な満足度評価	<ul style="list-style-type: none">● 性別● 年齢(年齢階級)● 経験年数● 職種(介護職またはそれ以外)● 役職(管理者・一般職員・その他)● 生産性向上の取組の進めやすさ(4項目)● 生産性向上の取組の対象とした課題への理解(3項目)

エ. 分析結果

分析結果は以下の通り。

モチベーションの変化(職場の活気)については、「性別」、「現場課題の把握・整理・分析」や、「職員一同が取組について共通の理解を有していたか」が正の係数、「役職」が負の係数で優位に関連していた。(p<0.05)

モチベーションの変化(やりがい)については、「現場課題の把握・整理・分析」が正の係数、「役職」が負の係数で優位に関連していた。(p<0.05)

働きやすい実感については、「職員一同が取組について共通の理解を有していたか」が有意に関連していた。(p<0.05)

全体的な満足度については、いずれの項目においても有意に関連していなかった。

図表 VI-52 分析結果

説明変数	モチベーションの変化(職場の活気)	モチベーションの変化(やりがい)	働きやすい職場環境づくり	全体的な満足度
性別	○	-	-	-
年齢(年齢階級)	-	-	○(※1)	○(※1)
経験年数	○(※1)	-	-	-
職種(介護職/その他)	-	-	-	-
役職	○(※2)	○(※2)	-	-
取組の進めやすさ: 委員会の設置及び運営	-	-	-	-
取組の進めやすさ: 現場課題の把握、整理、分析	○	○	-	-
取組の進めやすさ: 優先課題の絞り込み	-	-	-	-
取組の進めやすさ: 職員同士の対話	-	-	-	-
課題理解:なぜその課題に取り組むのか	-	-	-	-
課題理解:なぜその改善手法を選んだのか	-	-	-	-
課題理解:職員一同が共通の理解をできていたか	○		○	

○:有意差あり(p<0.05)、-:有意差なし

※1 係数が0に近い

※2 係数は負

オ. まとめ

本分析結果から、生産性向上の取組において、現場課題を的確に把握・整理・分析できていることが、職員のモチベーション向上につながっている可能性が示唆された。

また、管理者の方が、効果をよりポジティブな傾向がみられ、本実証での取組による施設内のモチベーションの変化について、前向きに捉えている可能性が示唆された。

さらに、職員一同が共有の理解をできていることが、働きやすい職場であるとの実感につながっている可能性が示唆された。

一方で、職員の個人属性については、生産性向上の取組に対する評価との間に明確な関連は確認されなかった。

以上より、生産性向上の取組を進める際には、各職員が現場課題を適切に認識できるようにすることに加え、取組の目的や内容について職員間で共通理解を形成していくことが、特に重要な点であると考えられる。

VII. 実証結果:①-2 生産性向上

【A】加算(Ⅰ)要件充足/一部充足の効果検証

1. 実証概要

(1) 実証目的

令和6年度介護報酬改定で新設した「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」の算定要件を満たす、あるいは要件充足に近い状況を目指す等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設以外の施設系サービス(介護老人福祉施設等)を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。

(2) 実証仮説

テクノロジーの活用や介護助手導入によって間接業務時間(訪室回数の削減、職員間の情報連携、記録時間等)が削減される。結果として、超過勤務時間が短縮され、総業務時間に占める直接介護の時間の割合は増える。

本取組を通じて介護サービスの質は確保され、職員の負担は軽減する。

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

図表 VII-1 実証で使用した機器(見守り機器)

No	メーカー名	機器名	機器タイプ別の区分
1	パラマウントベッド株式会社	眠りSCAN	バイタル
2	パラマウントベッド株式会社	眠りSCAN eye	バイタル
3	エイアイビューライフ株式会社	A. I. Viewlife システム	カメラ・バイタル併用

図表 VII-2 実証で使用した機器(インカム)※レンタルした機器のみ掲載

No	メーカー名	機器名	機器タイプ別の区分
1	八重洲無線株式会社	特定小電力トランシーバー SRS220A	通信機器

(4) 対象施設

本実証の対象施設は以下の通り。(施設種別:介護老人福祉施設、介護老人保健施設)。

※「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」を算定した、または算定要件を満たす等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設を広く募集した。

図表 VII-3 実証対象施設

No	法人名	施設名	生産性向上推進体制加算
1	社会福祉法人光栄会	特別養護老人ホーム白水園	加算(Ⅱ)
2	社会福祉法人和敬会	特別養護老人ホームなごみの郷	加算(Ⅱ)
3	社会福祉法人翠耀会	特別養護老人ホームグリーンヒル	加算(Ⅱ)
4	社会福祉法人恩賜財団済生会	松山老人保健施設にぎたつ苑	加算(Ⅱ)

※1 生産性向上推進体制加算の算定状況は事前調査時点を掲載

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 VII-4 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和7年7月～8月のうち平日5日間
事後調査①	令和7年9月～11月のうち平日5日間
事後調査②	令和7年11月～令和7年12月のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和8年1月

※機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」、「訪室回数記録調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 VII-5 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアでケアを行った介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法:自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入)またはWebアプリによる回答 調査スケジュール:事前(オペレーションの工夫・変更)

調査名	調査対象者	調査概要
		前)1回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2回の計3回。各日に勤務した職員全員が回答 <ul style="list-style-type: none"> 調査実施の時間帯:実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式またはWebによる回答 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式またはWebによる回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のプレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者1名につき1回のみ回答
業務時間等調査	介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答
訪室回数記録調査	調査対象として選定された利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:時期式 ※各利用者の担当職員が調査期間中に回答。 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前1回、事後2回実施。 調査実施の時間帯:21時～7時
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web会議または訪問(対面)による聞き取り 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 VII-6 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターンA:見守り機器:新規導入)

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
特別養護老人ホーム なごみの郷	訪室が必要な利用者の部屋にカメラを優先して導入しているため、比較的自立してい	全室にカメラ導入し、自立している利用者はカメラ確認で状況を把握する。	自立している利用者への訪問回数を削減し、定期的な訪室の必要性がない部屋を作

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	<p>る利用者の部屋カメラが入っていない。訪室により利用者が起きてしまい、トイレ回数が増加しているケースがある。職員ごとにカメラ確認や訪室の頻度が異なる。</p>	<p>職員の現状把握ののちに、職員ごとのばらつきを抑えるためのルール化について、担当者で検討(カメラ・眠りスキャンの確認状況や訪室の判断基準)し、周知する。</p>	<p>ることでスタッフの負担を軽減する。無駄な訪室を控えることで利用者の睡眠の質を確保。 職員による対応のばらつきを抑えて業務効率化する。</p>
<p>特別養護老人ホーム グリーンヒル</p>	<p>夜間帯、巡回で訪室回数が多いと眠りの浅い利用者が目覚めてしまい、対応に追われてしまう。センサ反応があり訪室するが体動のみで空振りが続く、職員が疲弊する。熱発者の状態確認のために何度もバイタル測定をおこなうことで職員の負担が増えるだけでなく、利用者にも負担がかかる。看取り対応の利用者の居室への訪問回数は増やしているが、訪室時、呼吸の確認が取れないことがあった。</p>	<p>利用者の様子を訪室しなくても見守りセンサで確認することができると巡回の回数が削減できる。入眠状況やバイタル測定値が記録として残ることで負担軽減できる。リアルタイムに記録が残せることで記録漏れを防げる。</p>	<p>職員間の記録のバラツキが出ず、統一した記録が残せるようになる。起き上がりがわかり訪室する利用者の優先度がわかることで、事故防止につながる。トイレ、オムツ交換のタイミングの統計をとり、その人にあったタイミングでの排泄介助をおこなう。心拍数がわかり状態の変化を見逃さない。定時の巡回回数が減らせる。</p>
<p>松山老人保健施設に ぎたつ苑</p>	<p>センサ反応のみだと利用者の状況が分からない為何度も訪室する。 利用者の入眠状態が分かりにくい。 業務の円滑化、時間の短縮を優先し利用者の睡眠状態を把握し</p>	<p>不要な訪室を減らし、入眠状態をデータで確認する事が出来る。 巡回回数を減らし、負担軽減に繋がる。 何が出来ていないか把握し、改善のための目的を持てる。</p>	<p>睡眠のリズムを知り、朝の不穏が減る。 利用者の安全と睡眠を守り、職員の不安な訪室を減らすことで負担軽減に繋がる。</p>

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	ていない。		

図表 VII-7 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターン A:介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資する ICT 機器:導入済)

施設名	A. 現在抱えている課題	B. 課題を解決するための内容(工夫・変更内容)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
特別養護老人ホームなごみの郷	介護記録を記入する際に ICT 機器の操作が不慣れな職員は時間が掛かってしまう。	記録内容を簡略化し少ない文章で記録の作成が出来るようにする。 必要カテゴリを決定することで、文章を打たずクリックで記録を入力できるようにする。	記録時間を短縮し、空いた時間でレクリエーションの充実化や入居者様との関わる時間を増やしていく。
特別養護老人ホームグリーンヒル	職員によって記録にバラツキが出ており、必要な記録が残せていないことがある。音声入力は話し方によっては正しく変換されない。 紙ベースで出力した際、文字数が多く文字が小さいため、読み取りが難しい。 パソコンの台数が限られており、看護師と共有しているため、他の業務で使いたくても使えない。パソコンも固まって動かなくなる、ネット環境の不具合で情報がみられなくなることもある。パソコン	翻訳機能の活用を実施。外国人職員も記録が可能になった。	記録時間の削減により職員の負担軽減。データ収集の効率化、同じ内容の書類を何度も書く必要がなく、コピーできる。

施設名	A. 現在抱えている課題	B. 課題を解決するための内容(工夫・変更内容)	C. 工夫・変更の目的、目指すところ
	に不慣れな職員は使いこなせない。通信に時間がかかりストレスになる。記録の入力に時間がかかる。		

図表 VII-8 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターンA:インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器・新規導入)

施設名	A. 通常(現在)の内容(工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、目指すところ
特別養護老人ホーム 白水園	PHS.固定の内線を使用し、職員間の連絡をとっている。 1対1でしか通話が出来ない。	導入にあたって運用のルールを定めて、職員にも周知。複数通話が可能となり、その場を離れることなく、又両手をつかえる状態で通話する事が出来る。	その場を離れない事や両手を使える事により、効率が上がると考えられる。人を呼びたい時等、一度に複数人に呼びかけられるので、効率が上がると考えられる。
特別養護老人ホーム なごみの郷	肉声で同フロアの職員間の連絡を実施。看護師および階をまたいだ連絡には携帯電話・内線(※スタッフルームに戻る必要あり)で連絡。居室にいる場合はスタッフコールを押す。	インカムのレンタル導入。肉声で実施していた連絡をインカムに変更。看護師連絡もインカムに変更。	内線連絡のためにスタッフルームに戻る手間の削減。伝達の正確性確保・業務効率化を目指す。
特別養護老人ホーム グリーンヒル	居室と食堂が離れており、利用者が食堂から居室へ移動する際、職員が一人付き添っている。情報共有の為、職員一人ずつに声をかけて回り時間がか	食堂から居室側にいる職員に伝達できることにより、地点ごとの見守りが可能になる。伝達事項を職員に一斉に伝えることができる。利用者から離れ	情報共有の効率化。リアルタイムで情報共有ができ、緊急時の対応の応援要請や事故防止につながる。

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工 夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
	かる。風呂場から現場 への報告の為、職員が 一人その場を離れて 電話をかけに行ってい る。	ず報告ができる。	
松山老人保健施設に ぎたつ苑	情報共有、申し送りの 為に職員を探す為に 大声を出す。 コール対応時、重複し てしまう。	どのような場面で使 用するのかシミュレー ションをする。(ルール を決める) 送り手と受け手のお 互いがしっかり返答す る。	情報を迅速に伝達す る事でリスクの軽減、 業務の向上に繋がる。 職員を探す必要が無 く時間を有効に繋がる、コール対応の重複 の負担軽減。

図表 VII-9 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターン A:適切な役割分担(タスクシフト/シェア)や介護助手の活用:導入済)

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工 夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
特別養護老人ホーム なごみの郷	間接業務内で役割が 出来ているが、職員間 のコミュニケーション が不足しており、業務 の流れが悪くなってい る。介護職員が間接業 務に掛かる時間が長 い。	間接パートの仕事内 容について、介護職員 が把握する事で、委託 できる業務か判断で きるようにした。直接 依頼が出来ない場合 は、ホワイトボードを 使用し情報の伝達を 行う。	介護職員が間接業務 を行う時間を減らし、 入居者様の情報収集 やアセスメントに時間 をかけられるようにす る。
特別養護老人ホーム グリーンヒル	洗濯、掃除、シーツ交 換等の間接業務を 担っているが、従事者 は年齢層が高く、体調 不良やケガによる退職 が相次いでいる。結 果、介護職員の間接業 務の負担が増えてい る。	業務内容を改めて整 理し、限られた人材で 効率的に業務ができ るようにする。外部発 注なども検討してい く。	介護職員が間接業務 に追われることなく、 利用者のケアに携わ る時間が増える。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類 6 つ)」「B.間接業務(小分類 5 つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」「E.余裕時間」の 5 分類で整理し、計 14 項目を用意した。

図表 VII-10 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub -No	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間、本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に 1 回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. 訪室回数記録調査

訪室回数記録調査では、調査項目は、事前と事後で共通とし、目的別の訪室回数(「定時巡視」、「利用者の離床」、「不穏な動きの確認」、「容態変化」、「排せつの確認・対応」)を 1 時間ごとに記録することとした。

カ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 VII-11 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	19	62	0	81
	割合	23%	77%	0%	100%

図表 VII-12 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	5	1	7	12	20	20	16	0	81
	割合	6%	1%	9%	15%	25%	25%	20%	0%	100%

図表 VII-13 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	5	3	12	28	33	0	0	0	81
	割合	6%	4%	15%	35%	41%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-14 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	6	6	11	38	4	14	1	0	81
	割合	0%	1%	7%	7%	14%	47%	5%	17%	1%	0%	100%

1. 職員概要

図表 VII-15 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	21	25	0	46
	割合	46%	54%	0%	100%

図表 VII-16 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	7	10	10	14	4	1	0	46
	割合	0%	15%	22%	22%	30%	9%	2%	0%	100%

図表 VII-17 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	39	6	1	0	0	0	0	0	46
	割合	85%	13%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-18 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	11	32	3	0	46
	割合	0%	24%	70%	7%	0%	100%

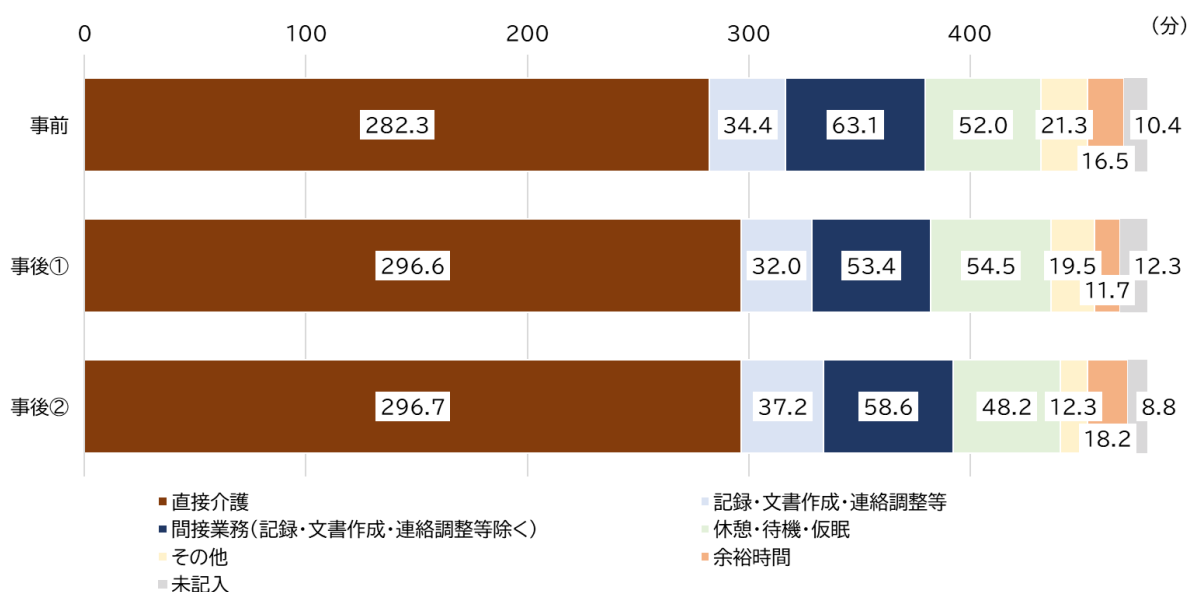
(2) タイムスタディ調査結果

介護職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

直接介護に充てる時間は、事前調査では 282.3 分であったのに対し、事後①では 296.6 分、事後②では 296.7 分といずれも増加した。

図表 VII-19 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)

		直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他				
事前	時間(分)	43.3	72.8	25.6	2.7	6.4	131.5	11.4	34.4	2.6	2.5	46.5	52.0	21.3	16.5	10.4	480	
	割合	9%	15%	5%	1%	1%	27%	2%	7%	1%	1%	10%	11%	4%	3%	2%	100%	
事後①	時間(分)	41.3	77.9	21.8	3.1	5.2	147.4	8.8	32.0	1.4	3.5	39.7	54.5	19.5	11.7	12.3	480	
	割合	9%	16%	5%	1%	1%	31%	2%	7%	0%	1%	8%	11%	4%	2%	3%	100%	
事後②	時間(分)	43.3	74.6	23.7	3.1	3.9	148.1	9.2	37.2	2.4	3.9	43.2	48.2	12.3	18.2	8.8	480	
	割合	9%	16%	5%	1%	1%	31%	2%	8%	0%	1%	9%	10%	3%	4%	2%	100%	



事前調査 n=56

事後調査① n=52

事後調査② n=54

※5日間の自記式または Web アプリによる職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

(3) 職員向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

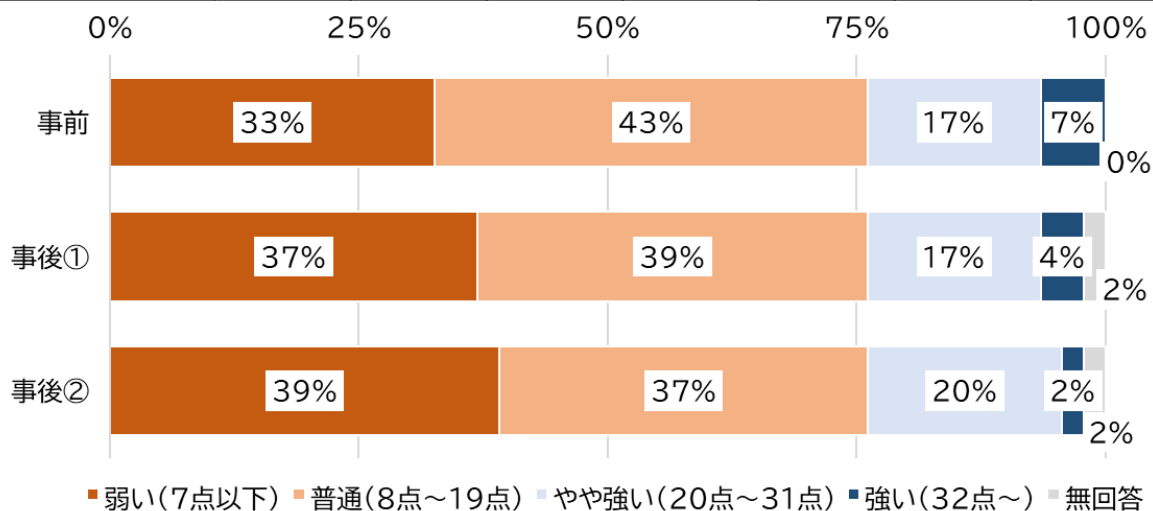
ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、33%であったのに対し、事後①では37%に増加した。事後②では、ストレス反応が「弱い」割合が39%であり、事前調査と比べ6ポイント、事後①と比べ1ポイント増加した。

図表 VII-20 心理的負担評価(SRS-18)

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	15	20	8	3	0	46
	割合	33%	43%	17%	7%	0%	100%
事後①	人数(人)	17	18	8	2	1	46
	割合	37%	39%	17%	4%	2%	100%
事後②	人数(人)	18	17	9	1	1	46
	割合	39%	37%	20%	2%	2%	100%



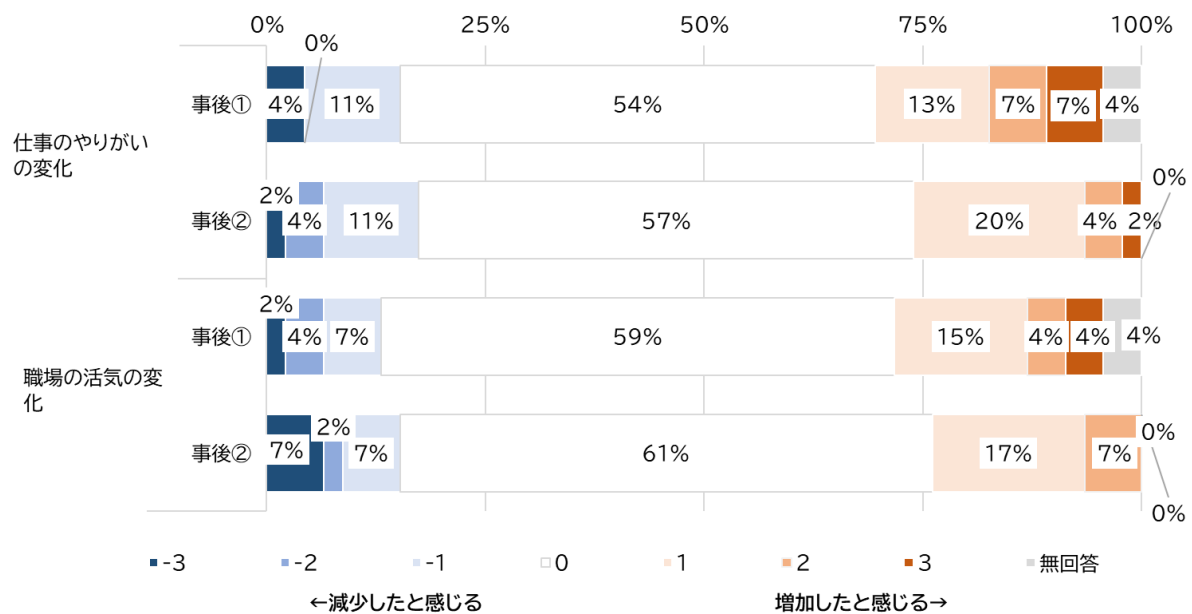
※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VII-21 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	2	0	5	25	6	3	3	0	44	
		割合	5%	0%	11%	57%	14%	7%	7%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	2	5	26	9	2	1	0	46	
		割合	2%	4%	11%	57%	20%	4%	2%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	1	2	3	27	7	2	2	0	44	
		割合	2%	5%	7%	61%	16%	5%	5%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	3	1	3	28	8	3	0	0	46	
		割合	7%	2%	7%	61%	17%	7%	0%	0%	100%	



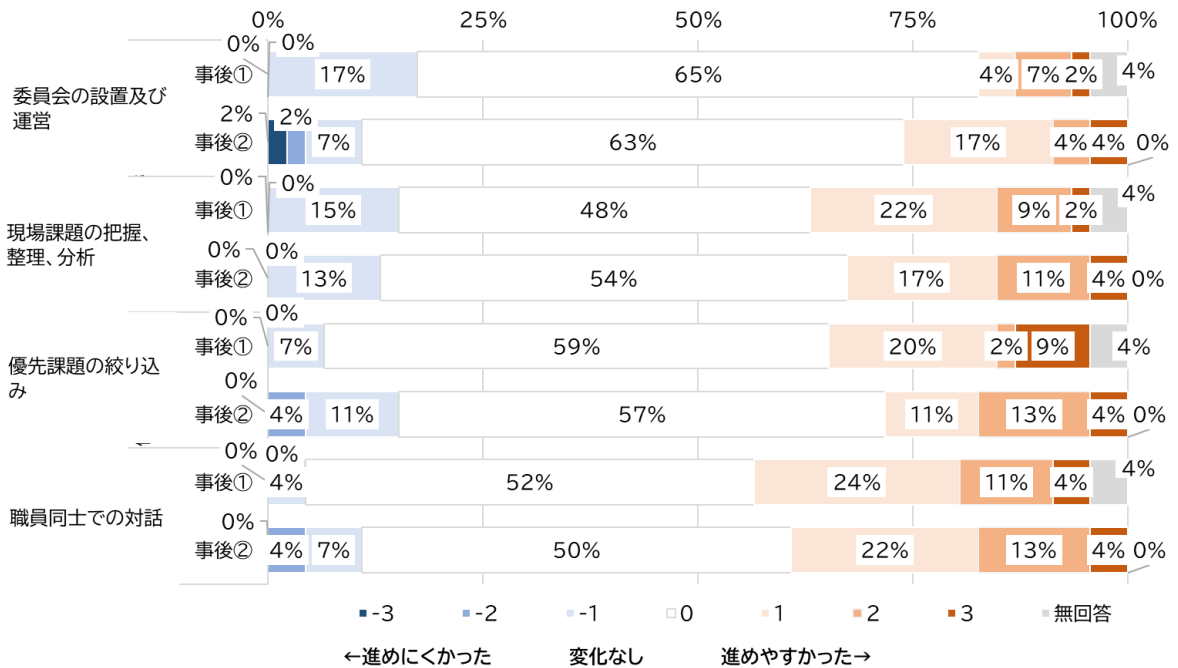
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 生産性向上の取組の進めやすさ

生産性向上の取組の進めやすさの結果は以下の通り。

図表 VII-22 生産性向上の取組の進めやすさ

			←進めにくかった			進めやすかった→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
委員会の設置及び運営	事後①	人数(人)	0	0	8	30	2	3	1	2	46
		割合	0%	0%	17%	65%	4%	7%	2%	4%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	3	29	8	2	2	0	46
		割合	2%	2%	7%	63%	17%	4%	4%	0%	100%
現場課題の把握、整理、分析	事後①	人数(人)	0	0	7	22	10	4	1	2	46
		割合	0%	0%	15%	48%	22%	9%	2%	4%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	6	25	8	5	2	0	46
		割合	0%	0%	13%	54%	17%	11%	4%	0%	100%
優先課題の絞り込み	事後①	人数(人)	0	0	3	27	9	1	4	2	46
		割合	0%	0%	7%	59%	20%	2%	9%	4%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	5	26	5	6	2	0	46
		割合	0%	4%	11%	57%	11%	13%	4%	0%	100%
職員同士での対話	事後①	人数(人)	0	0	2	24	11	5	2	2	46
		割合	0%	0%	4%	52%	24%	11%	4%	4%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	3	23	10	6	2	0	46
		割合	0%	4%	7%	50%	22%	13%	4%	0%	100%



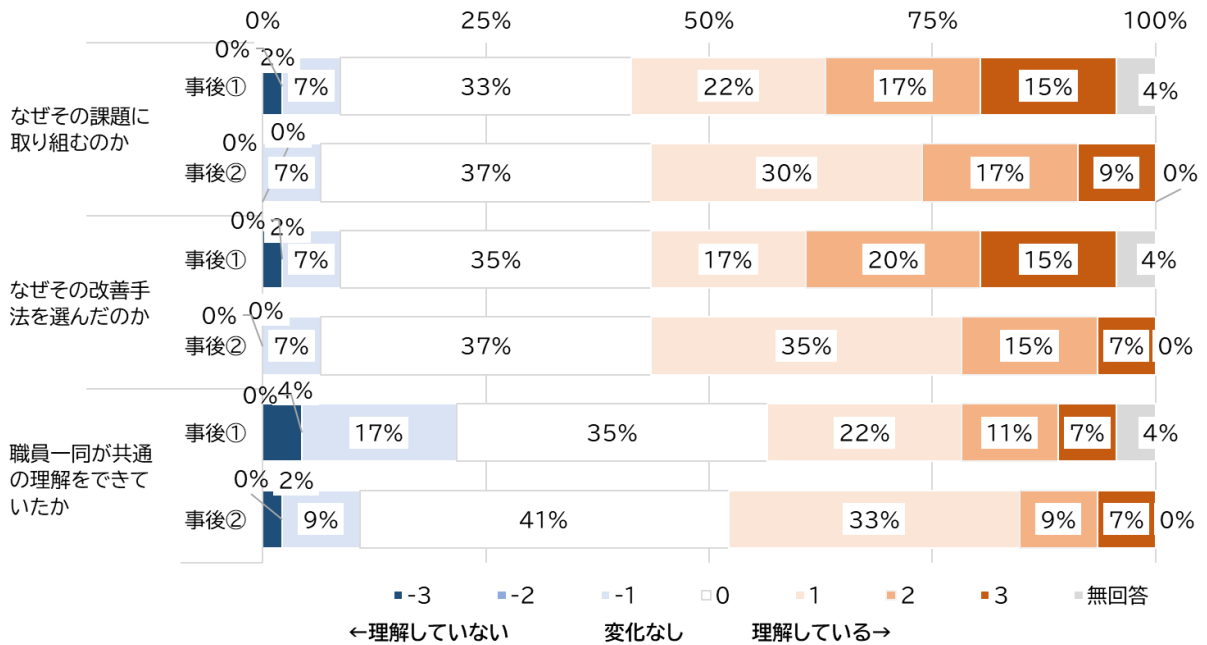
※質問項目に対し、-3(進めにくかった)~+3(進めやすかった)の7段階で評価した。

工. 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

生産性向上の取組の対象とした課題への理解に関する結果は以下の通り。

図表 VII-23 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

		←理解していない→							理解している→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
なぜその課題に取り組むのか	事後①	人数(人)	1	0	3	15	10	8	7	2	46
		割合	2%	0%	7%	33%	22%	17%	15%	4%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	17	14	8	4	0	46
		割合	0%	0%	7%	37%	30%	17%	9%	0%	100%
なぜその改善手法を選んだのか	事後①	人数(人)	1	0	3	16	8	9	7	2	46
		割合	2%	0%	7%	35%	17%	20%	15%	4%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	17	16	7	3	0	46
		割合	0%	0%	7%	37%	35%	15%	7%	0%	100%
職員一同が共通の理解をできていたか	事後①	人数(人)	2	0	8	16	10	5	3	2	46
		割合	4%	0%	17%	35%	22%	11%	7%	4%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	4	19	15	4	3	0	46
		割合	2%	0%	9%	41%	33%	9%	7%	0%	100%



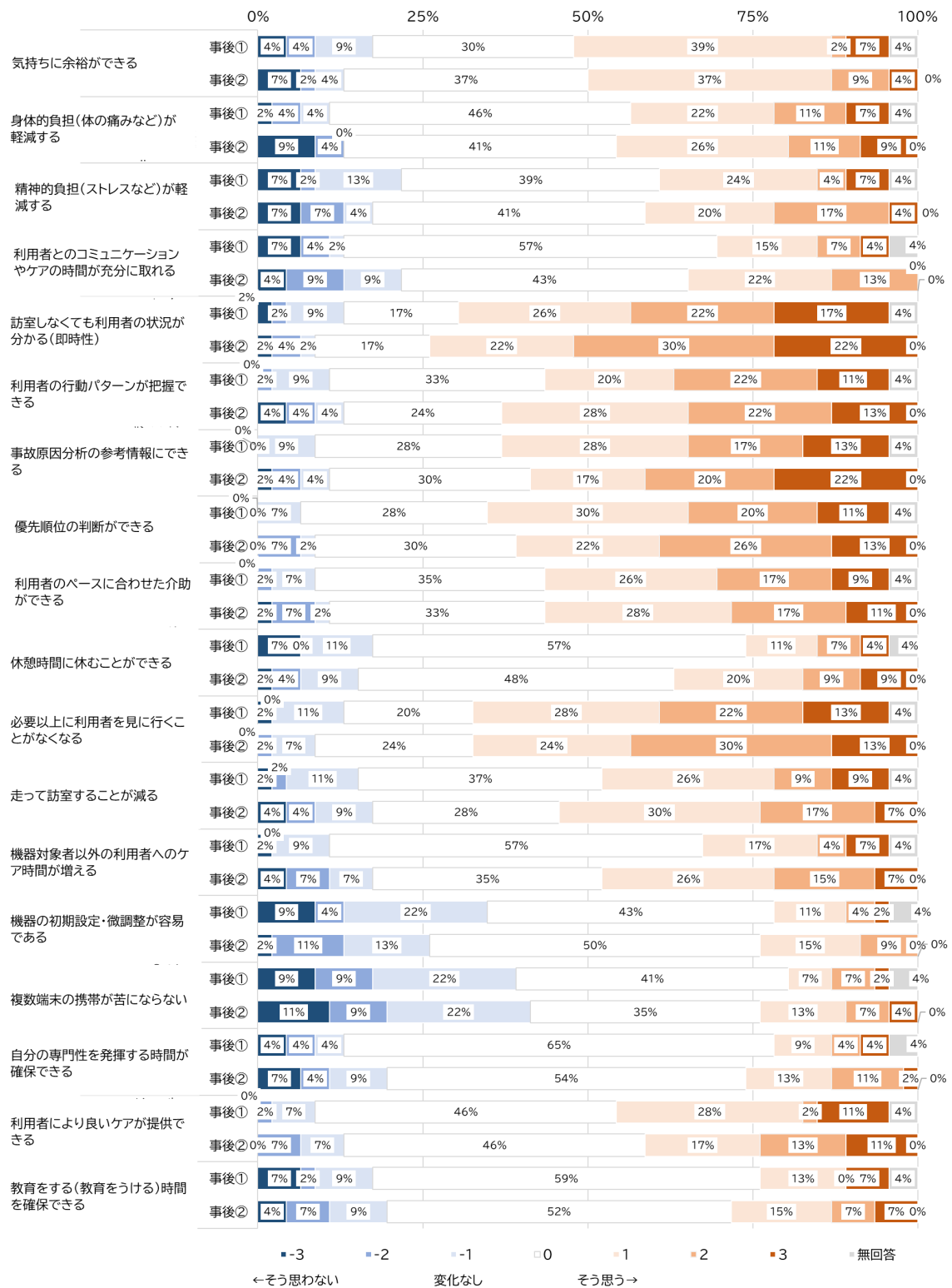
※質問項目に対し、-3(理解していない)～+3(理解している)の7段階で評価した。

オ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-24 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

			← そう思わない						無回答	合計	
			変化なし								
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	2 4%	2 4%	4 9%	14 30%	18 39%	1 2%	3 7%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 7%	1 2%	2 4%	17 37%	17 37%	4 9%	2 4%	0 0%	46 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 2%	2 4%	2 4%	21 46%	10 22%	5 11%	3 7%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 9%	2 4%	0 0%	19 41%	12 26%	5 11%	4 9%	0 0%	46 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	3 7%	1 2%	6 13%	18 39%	11 24%	2 4%	3 7%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 7%	3 7%	2 4%	19 41%	9 20%	8 17%	2 4%	0 0%	46 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	3 7%	2 4%	1 2%	26 57%	7 15%	3 7%	2 4%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	4 9%	4 9%	20 43%	10 22%	6 13%	0 0%	0 0%	46 100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	1 2%	1 2%	4 9%	8 17%	12 26%	10 22%	8 17%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 2%	2 4%	1 2%	8 17%	10 22%	14 30%	10 22%	0 0%	46 100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 2%	4 9%	15 33%	9 20%	10 22%	5 11%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	2 4%	2 4%	11 24%	13 28%	10 22%	6 13%	0 0%	46 100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 9%	13 28%	13 28%	8 17%	6 13%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 2%	2 4%	2 4%	14 30%	8 17%	9 20%	10 22%	0 0%	46 100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 7%	13 28%	14 30%	9 20%	5 11%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	3 7%	1 2%	14 30%	10 22%	12 26%	6 13%	0 0%	46 100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 2%	3 7%	16 35%	12 26%	8 17%	4 9%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 2%	3 7%	1 2%	15 33%	13 28%	8 17%	5 11%	0 0%	46 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	3 7%	0 0%	5 11%	26 57%	5 11%	3 7%	2 4%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 2%	2 4%	4 9%	22 48%	9 20%	4 9%	4 9%	0 0%	46 100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	1 2%	0 0%	5 11%	9 20%	13 28%	10 22%	6 13%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 2%	3 7%	11 24%	11 24%	14 30%	6 13%	0 0%	46 100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	1 2%	1 2%	5 11%	17 37%	12 26%	4 9%	4 9%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	2 4%	4 9%	13 28%	14 30%	8 17%	3 7%	0 0%	46 100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	1 2%	0 0%	4 9%	26 57%	8 17%	2 4%	3 7%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	3 7%	3 7%	16 35%	12 26%	7 15%	3 7%	0 0%	46 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	4 9%	2 4%	10 22%	20 43%	5 11%	2 4%	1 2%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 2%	5 11%	6 13%	23 50%	7 15%	4 9%	0 0%	0 0%	46 100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	4 9%	4 9%	10 22%	19 41%	3 7%	3 7%	1 2%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 11%	4 9%	10 22%	16 35%	6 13%	3 7%	2 4%	0 0%	46 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	2 4%	2 4%	2 4%	30 65%	4 9%	2 4%	2 4%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 7%	2 4%	4 9%	25 54%	6 13%	5 11%	1 2%	0 0%	46 100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 4%	7 15%	46 100%	28 61%	2 4%	11 24%	4 9%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	3 7%	3 7%	21 46%	8 17%	6 13%	5 11%	0 0%	46 100%
教育をする(教育を受ける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	3 7%	1 2%	4 9%	27 59%	6 13%	0 0%	3 7%	2 4%	46 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	3 7%	4 9%	24 52%	7 15%	3 7%	3 7%	0 0%	46 100%



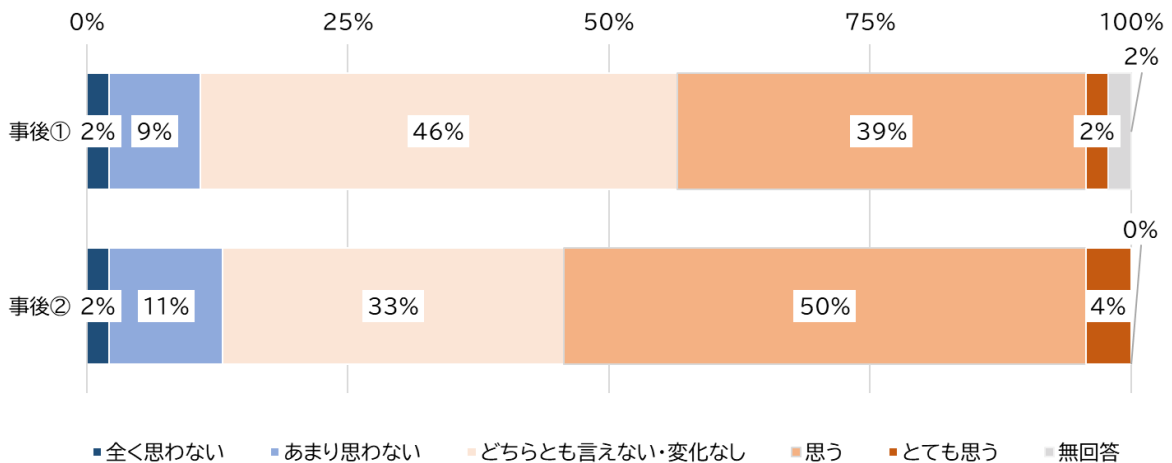
※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

カ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感に関する結果は以下の通り。

図表 VII-25 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

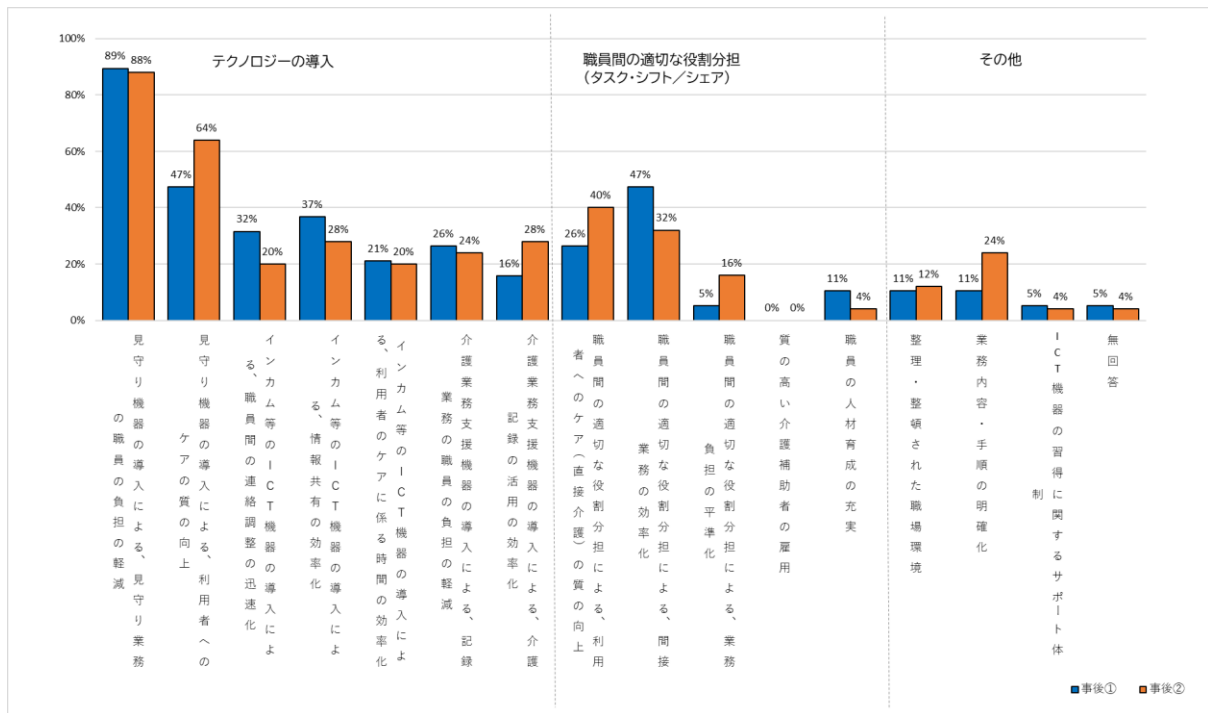
		全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない・変化なし	思う	とても思う	無回答	合計	
働きやすい職場環境の実感を持っている	事後①	人数(人)	1	4	21	18	1	1	46
		割合	2%	9%	46%	39%	2%	2%	100%
	事後②	人数(人)	1	5	15	23	2	0	46
		割合	2%	11%	33%	50%	4%	0%	100%



※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

図表 VII-26 「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感を持つことができた要素(5つ)

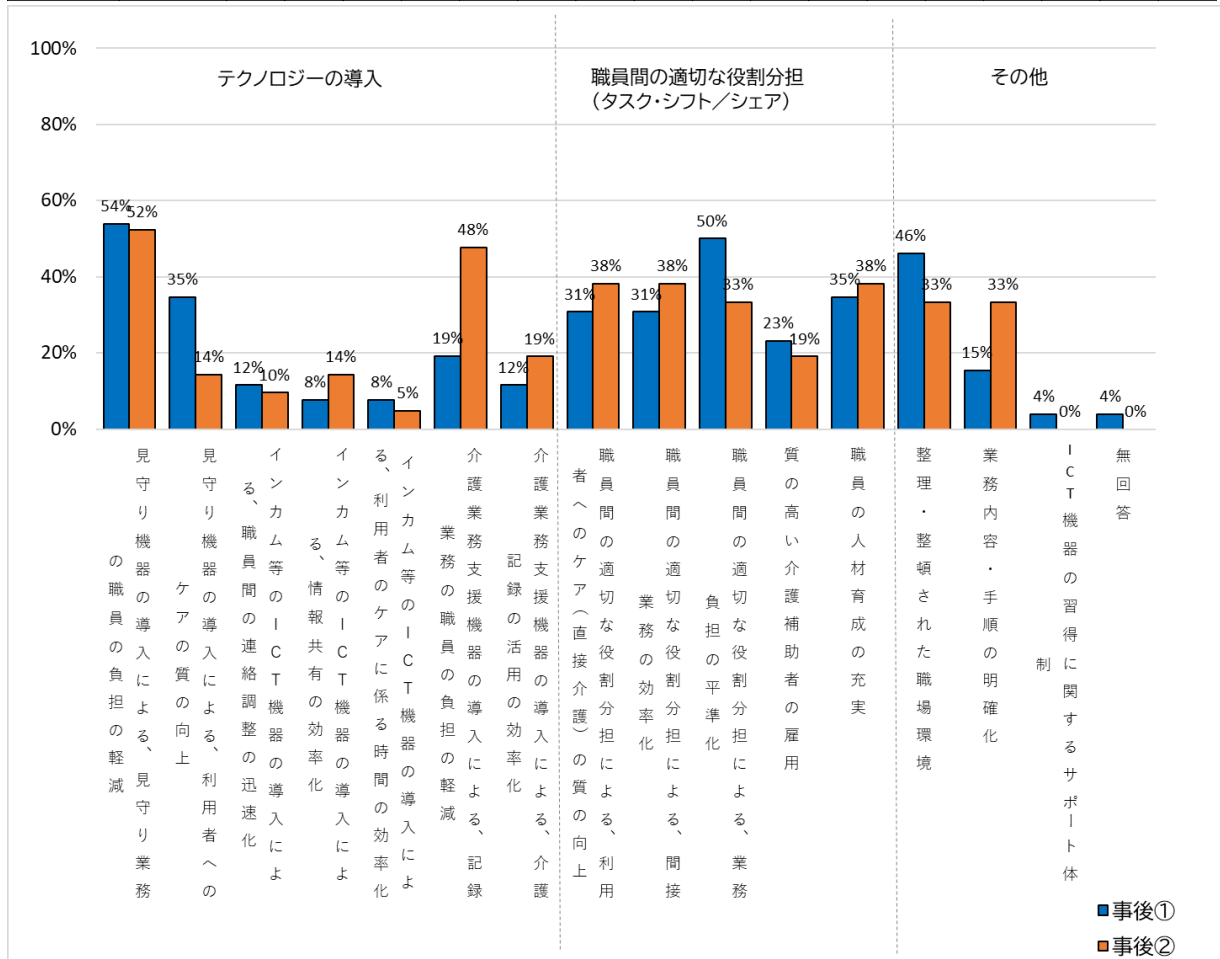
		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他				無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	見守り機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、記録業務の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制					
事後①	人数(人)	17	9	6	7	4	5	3	5	9	1	0	2	2	2	1	1	19				
	割合	89%	47%	32%	37%	21%	26%	16%	26%	47%	5%	0%	11%	11%	11%	5%	5%					
事後②	人数(人)	22	16	5	5	5	6	10	8	4	0	1	3	6	6	1	25					
	割合	88%	64%	20%	28%	20%	24%	28%	40%	32%	16%	0%	4%	12%	24%	4%	4%					



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

図表 VII-27 「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ)

	人数(人) 割合	テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他				無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	インカム等のICT機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制			
事後①	14 54%	9 35%	3 12%	2 8%	2 8%	5 19%	3 12%	3 12%	8 31%	8 31%	13 50%	6 23%	9 35%	12 46%	4 15%	1 4%	1 4%	1 4%	26			
事後②	14 52%	3 14%	2 10%	2 14%	1 5%	10 48%	4 19%	8 38%	8 38%	7 33%	4 19%	8 38%	8 33%	7 33%	7 33%	0 0%	0 0%	0 0%	21			



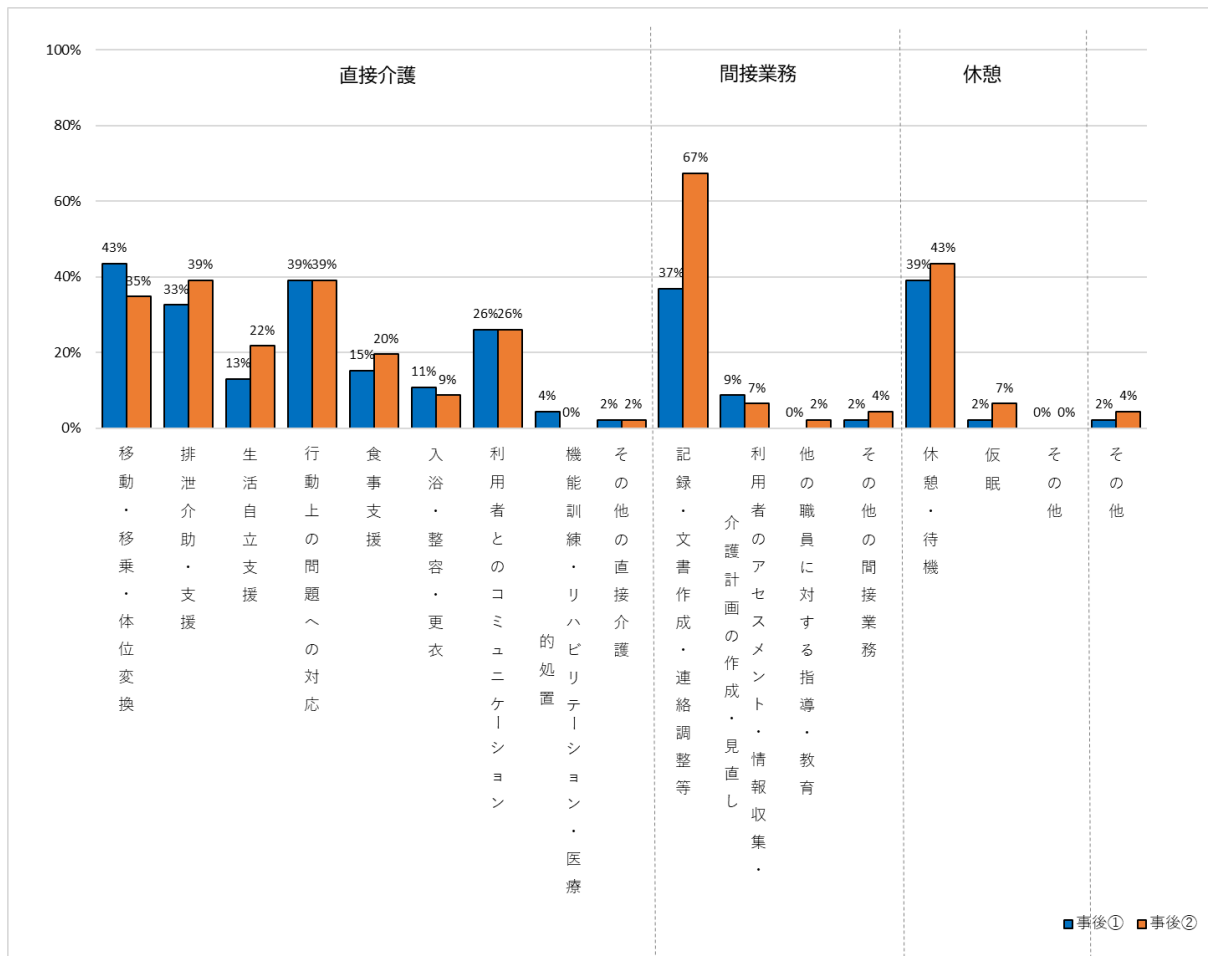
※該当する項目を最大5つ選択する設問。

キ. 職員間の適切な役割(タスク・シフト/シェア)導入による効果

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果の結果は以下の通り。

図表 VII-28 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果

		直接介護										間接業務					休憩			その他	無回答(人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション 的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・ 介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他					
事後①	人数(人)	20	15	6	18	7	5	12	2	1	17	4	0	1	18	1	0	1	1	1	1	46
	割合	43%	33%	13%	39%	15%	11%	26%	4%	2%	37%	9%	0%	2%	39%	2%	0%	2%	2%	2%	-	46
事後②	人数(人)	16	18	10	18	9	4	12	0	1	31	3	1	2	20	3	0	2	2	0	1	46
	割合	35%	39%	22%	39%	20%	9%	26%	0%	2%	67%	7%	2%	4%	43%	7%	0%	4%	4%	0%	-	46



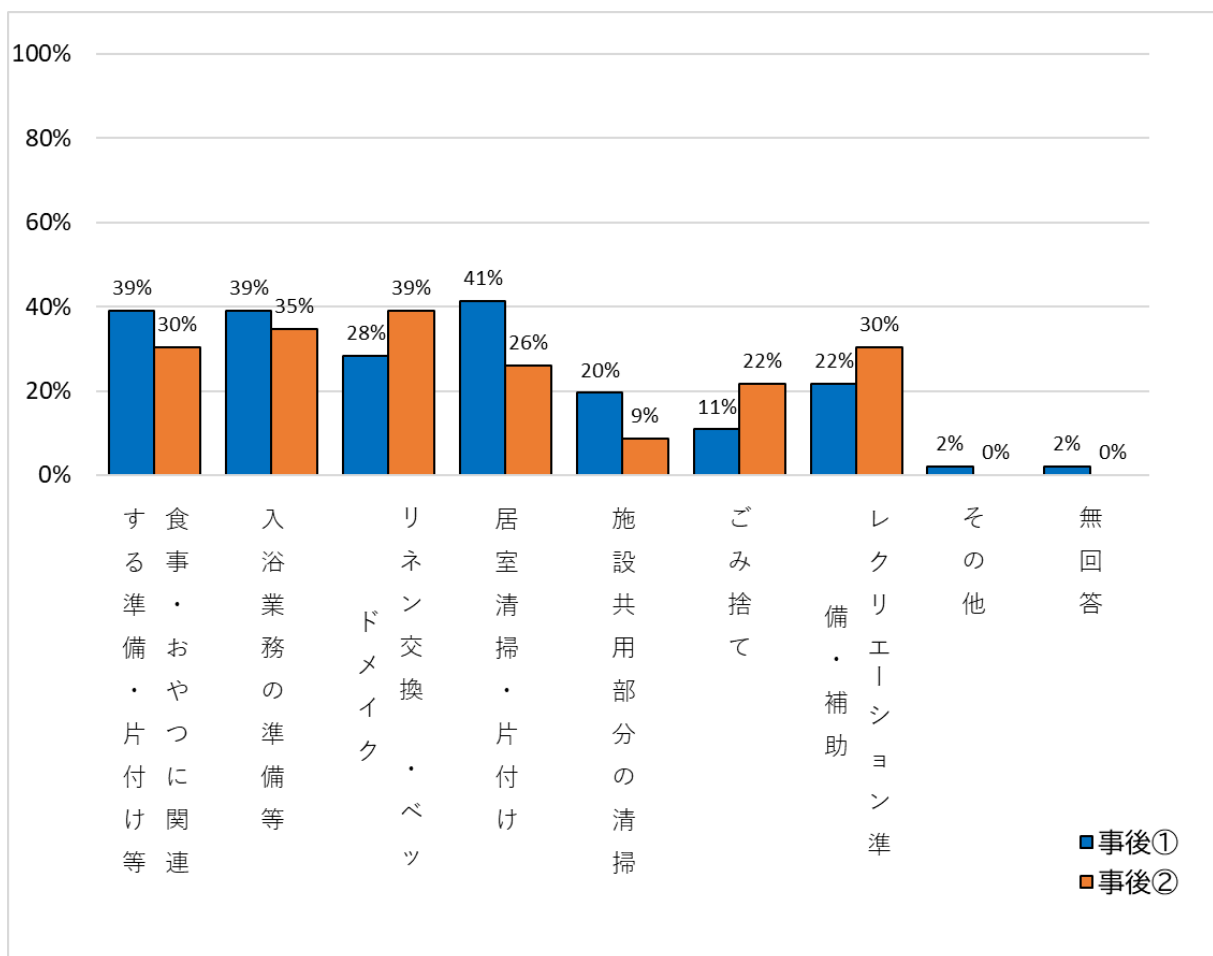
※該当する項目をすべて選択する設問。

ク. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務の結果は以下の通り。

図表 VII-29 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
人数(人)	18	18	13	19	9	5	10	1	1	46
割合	39%	39%	28%	41%	20%	11%	22%	2%	2%	-
人数(人)	14	16	18	12	4	10	14	0	0	46
割合	30%	35%	39%	26%	9%	22%	30%	0%	0%	-



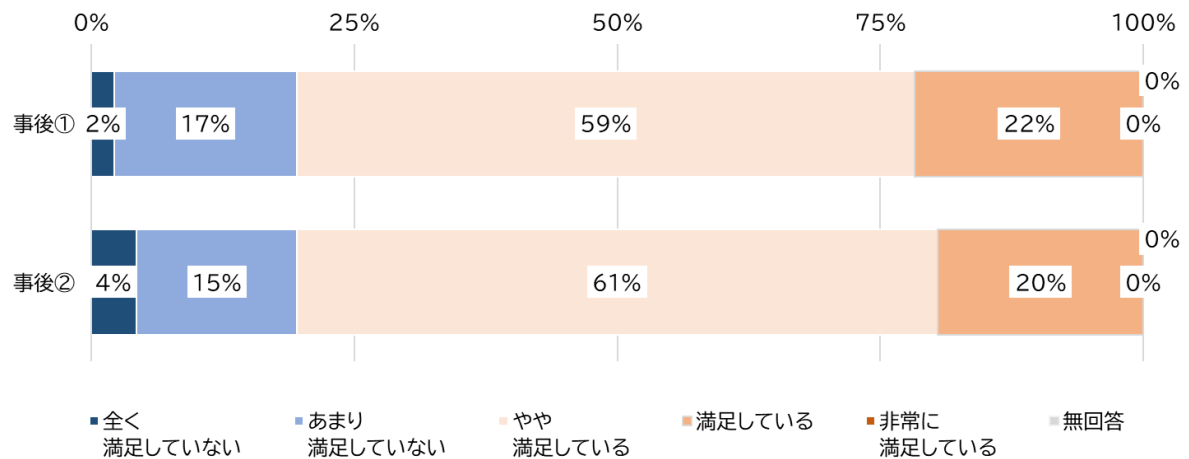
※該当する項目をすべて選択する設問。

ケ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

図表 VII-30 全体的な満足度評価

		全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計	
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	1	8	27	10	0	0	46
		割合	2%	17%	59%	22%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	7	28	9	0	0	46
		割合	4%	15%	61%	20%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

(4) 利用者向けアンケート調査結果

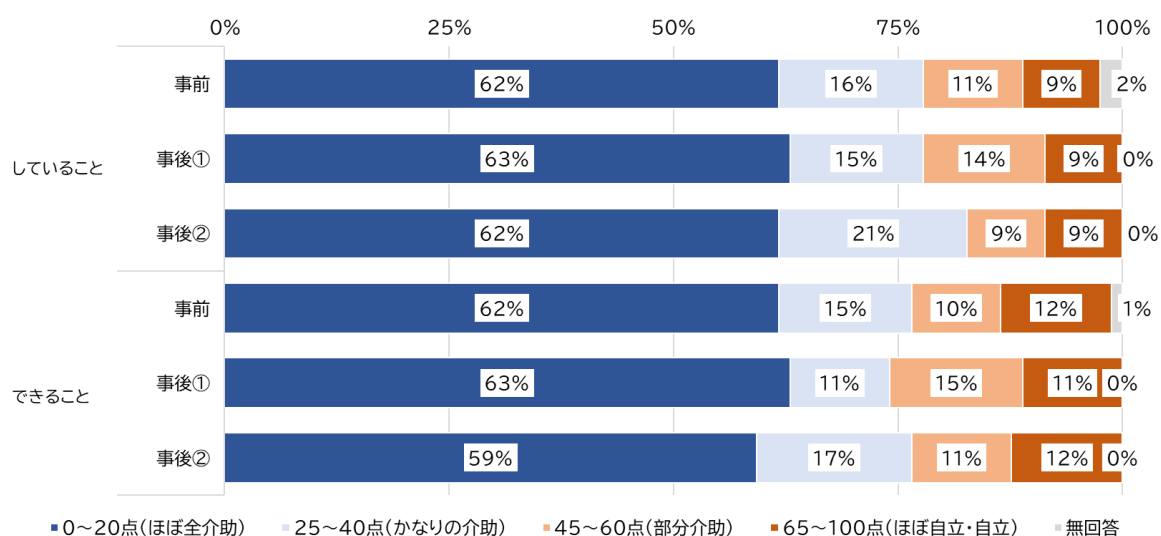
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 VII-31 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	50	13	9	7	2	81
		割合	62%	16%	11%	9%	2%	100%
	事後①	人数(人)	51	12	11	7	0	81
		割合	63%	15%	14%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	50	17	7	7	0	81
		割合	62%	21%	9%	9%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	50	12	8	10	1	81
		割合	62%	15%	10%	12%	1%	100%
	事後①	人数(人)	51	9	12	9	0	81
		割合	63%	11%	15%	11%	0%	100%
	事後②	人数(人)	48	14	9	10	0	81
		割合	59%	17%	11%	12%	0%	100%



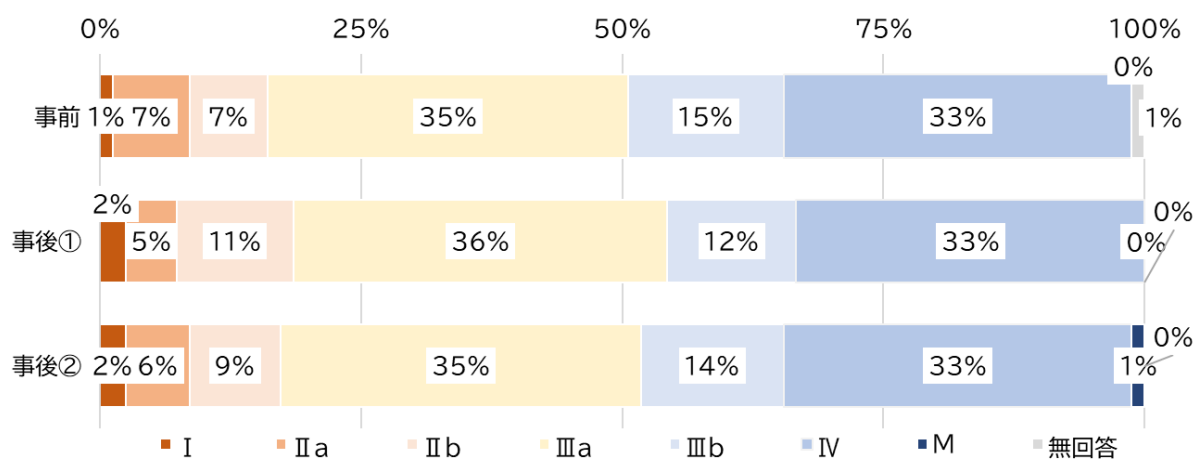
※事前調査または事後調査①・②で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 VII-32 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	1	6	6	28	12	27	0	1	81
	割合	1%	7%	7%	35%	15%	33%	0%	1%	100%
事後①	人数(人)	2	4	9	29	10	27	0	0	81
	割合	2%	5%	11%	36%	12%	33%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	5	7	28	11	27	1	0	81
	割合	2%	6%	9%	35%	14%	33%	1%	0%	100%

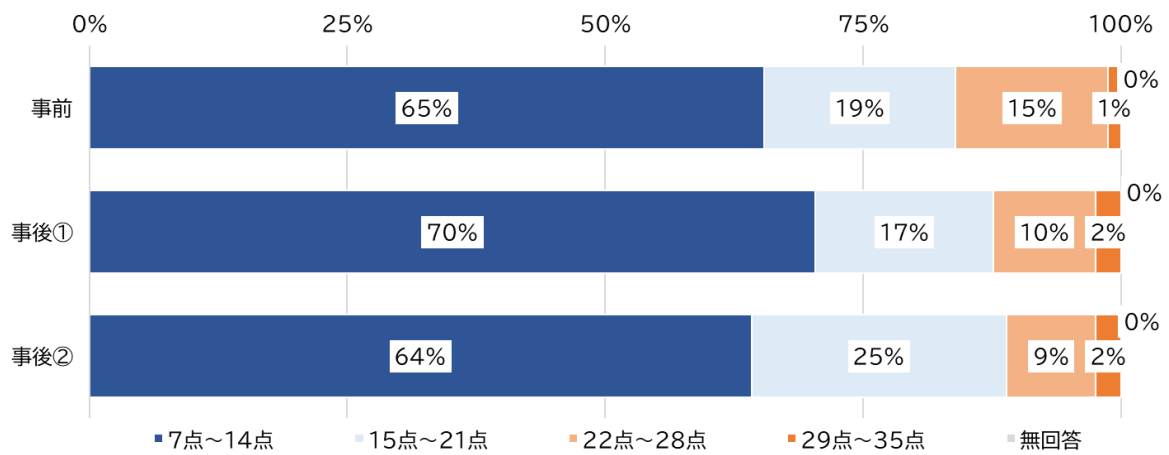


ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VII-33 生活・認知機能尺度

		7点~ 14点	15点~ 21点	22点~ 28点	29点~ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	53	15	12	1	0	81
	割合	65%	19%	15%	1%	0%	100%
事後①	人数(人)	57	14	8	2	0	81
	割合	70%	17%	10%	2%	0%	100%
事後②	人数(人)	52	20	7	2	0	81
	割合	64%	25%	9%	2%	0%	100%

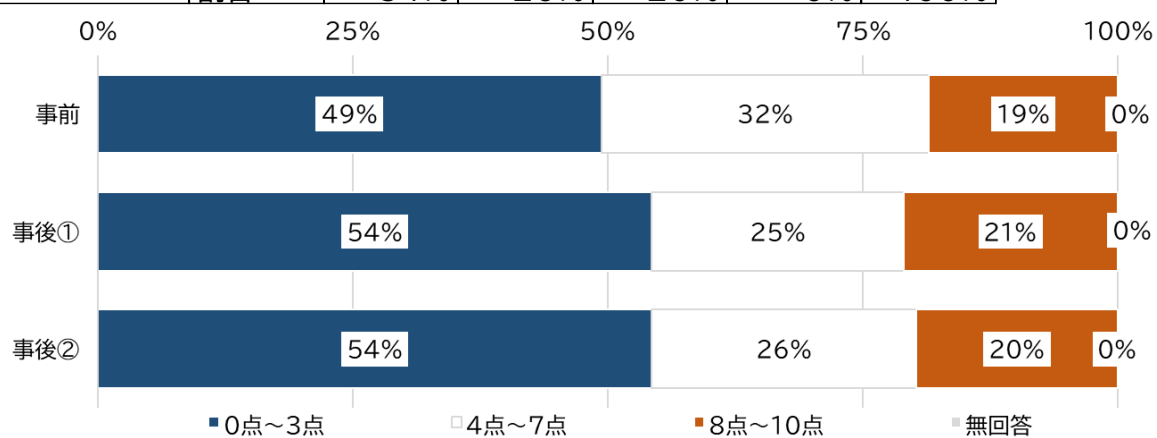


工. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 VII-34 Vitality Index

		0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
事前	人数(人)	40	26	15	0	81
	割合	49%	32%	19%	0%	100%
事後①	人数(人)	44	20	17	0	81
	割合	54%	25%	21%	0%	100%
事後②	人数(人)	44	21	16	0	81
	割合	54%	26%	20%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

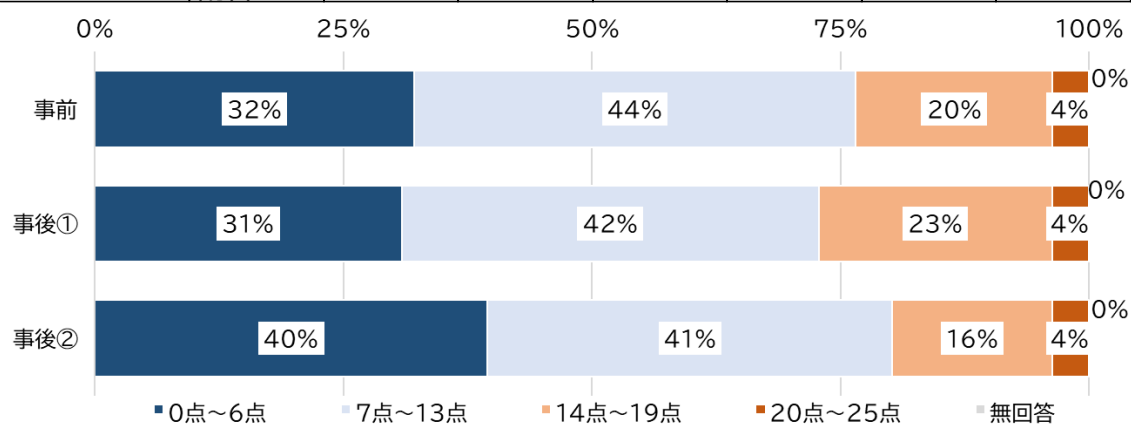
※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOLの変化(WHO-5)

WHO-5の結果は以下の通り。

図表 VII-35 WHO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	26	36	16	3	0	81
	割合	32%	44%	20%	4%	0%	100%
事後①	人数(人)	25	34	19	3	0	81
	割合	31%	42%	23%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	32	33	13	3	0	81
	割合	40%	41%	16%	4%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5以外の場合は無回答処理をした。

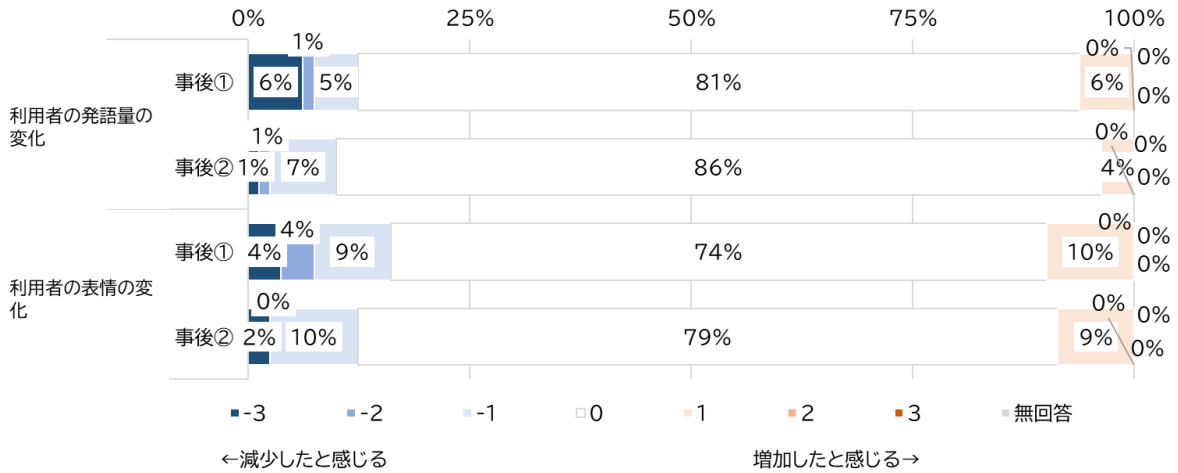
※QOLの変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5項目それぞれに5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VII-36 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	5	1	4	66	5	0	0	0	81	
		割合	6%	1%	5%	81%	6%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	1	6	70	3	0	0	0	81	
		割合	1%	1%	7%	86%	4%	0%	0%	0%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	3	3	7	60	8	0	0	0	81	
		割合	4%	4%	9%	74%	10%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	0	8	64	7	0	0	0	81	
		割合	2%	0%	10%	79%	9%	0%	0%	0%	100%	



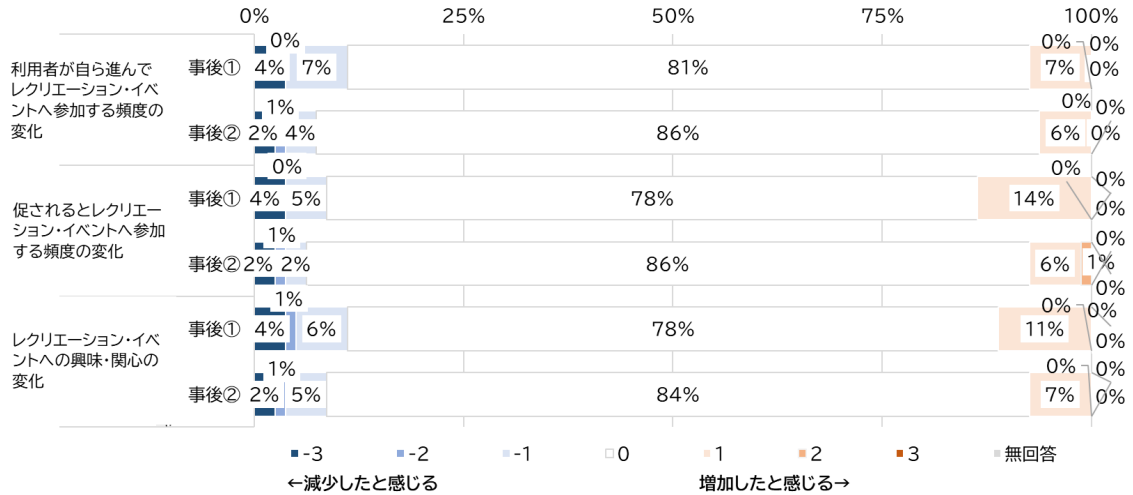
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-37 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

		←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	3	0	6	66	6	0	0	0	81
		割合	4%	0%	7%	81%	7%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	1	3	70	5	0	0	0	81
		割合	2%	1%	4%	86%	6%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	3	0	4	63	11	0	0	0	81
		割合	4%	0%	5%	78%	14%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	1	2	70	5	1	0	0	81
		割合	2%	1%	2%	86%	6%	1%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	3	1	5	63	9	0	0	0	81
		割合	4%	1%	6%	78%	11%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	1	4	68	6	0	0	0	81
		割合	2%	1%	5%	84%	7%	0%	0%	0%	100%



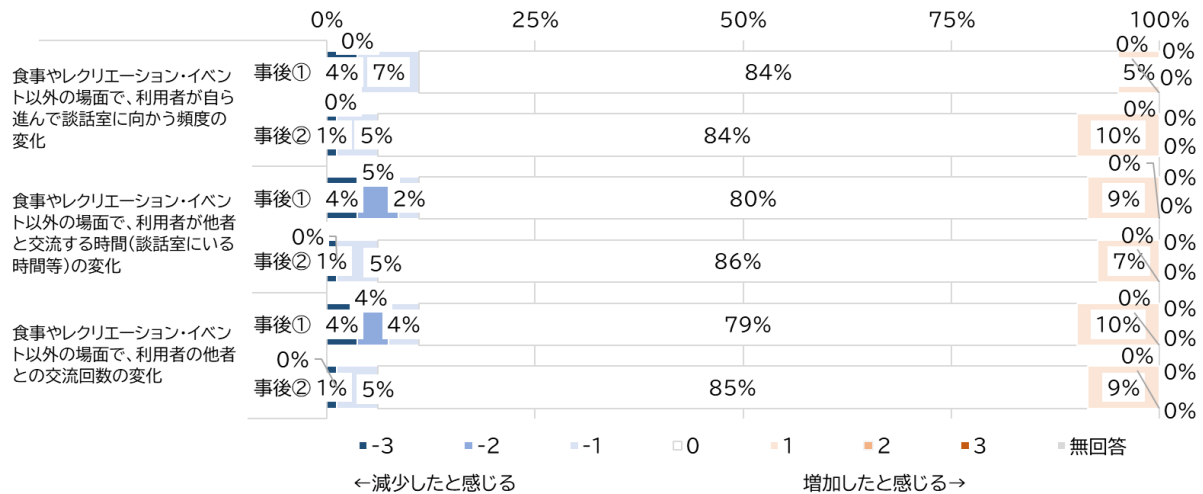
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ク. 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-38 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

		←減少したと感じる						増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	3	0	6	68	4	0	0	0	0	81
	割合	4%	0%	7%	84%	5%	0%	0%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	3	4	2	65	7	0	0	0	81	
	割合	4%	5%	2%	80%	9%	0%	0%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	3	3	3	64	8	0	0	0	81	
	割合	4%	4%	4%	79%	10%	0%	0%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後②	人数(人)	1	0	4	68	8	0	0	0	81	
	割合	1%	0%	5%	84%	10%	0%	0%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後②	人数(人)	1	0	4	70	6	0	0	0	81	
	割合	1%	0%	5%	86%	7%	0%	0%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後②	人数(人)	1	0	4	69	7	0	0	0	81	
	割合	1%	0%	5%	85%	9%	0%	0%	0%	0%	100%	



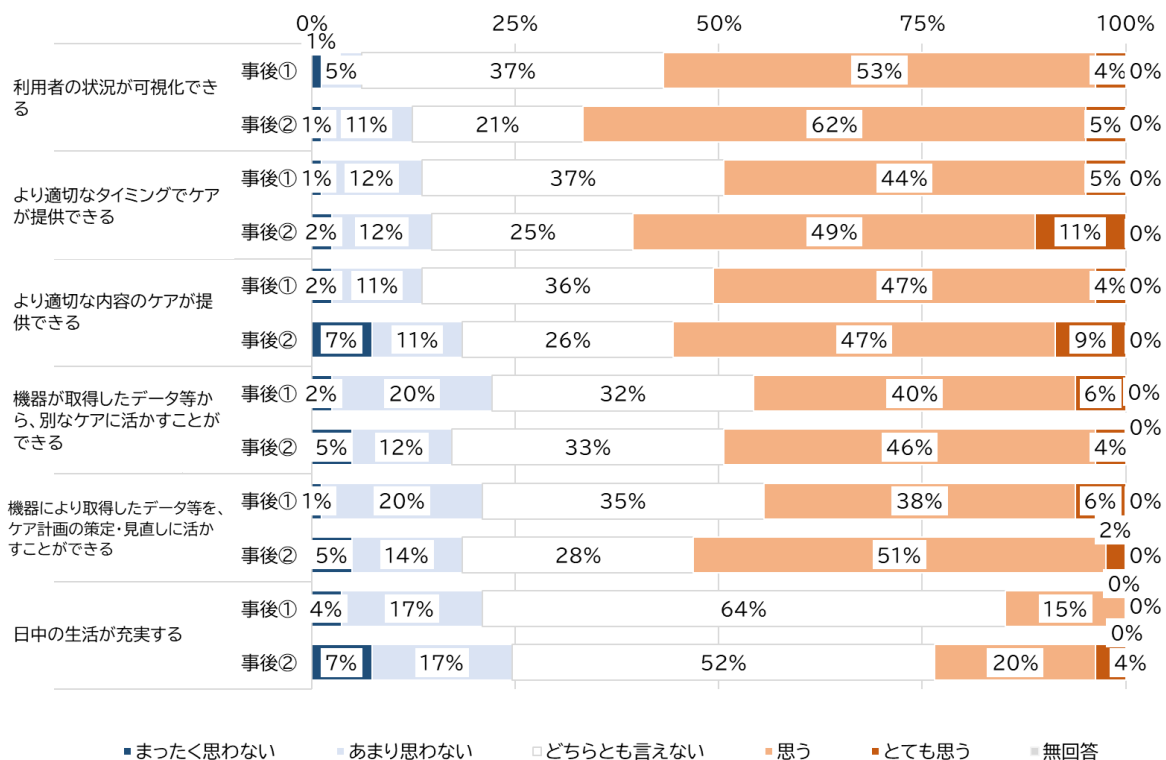
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ケ. ケアの変更

ケアの変更の結果は以下の通り。

図表 VII-39 ケアの変更

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計	
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	4 5%	30 37%	43 53%	3 4%	0 0%	81 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	9 11%	17 21%	50 62%	4 5%	0 0%	81 100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	10 12%	30 37%	36 44%	4 5%	0 0%	81 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	10 12%	20 25%	40 49%	9 11%	0 0%	81 100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	2 2%	9 11%	29 36%	38 47%	3 4%	0 0%	81 100%
	事後②	人数(人) 割合	6 7%	9 11%	21 26%	38 47%	7 9%	0 0%	81 100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	2 2%	16 20%	26 32%	32 40%	5 6%	0 0%	81 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 5%	10 12%	27 33%	37 46%	3 4%	0 0%	81 100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	16 20%	28 35%	31 38%	5 6%	0 0%	81 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 5%	11 14%	23 28%	41 51%	2 2%	0 0%	81 100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人) 割合	3 4%	14 17%	52 64%	12 15%	0 0%	0 0%	81 100%
	事後②	人数(人) 割合	6 7%	14 17%	42 52%	16 20%	3 4%	0 0%	81 100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

(5) 訪室回数記録調査結果

ア. 施設概要

図表 VII-40 施設概要

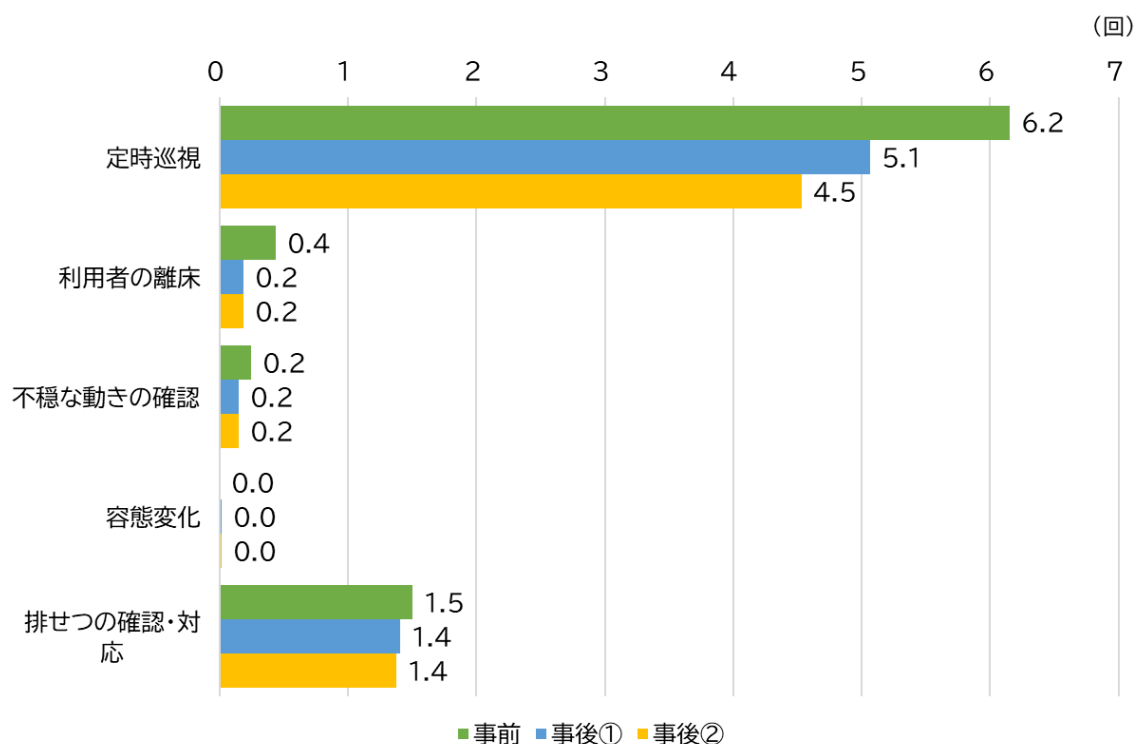
No	施設名	施設種別	生産性向上体制推進加算取得状況	定員	職員数	レンタル機器
1	特別養護老人ホーム白水園	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)	80名	19名	—
2	特別養護老人ホームなごみの郷	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)	29名	10名	A.I.viewlife、インカム
3	特別養護老人ホームグリーンヒル	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)	長期:110名 短期:17名	17名	眠りSCAN、インカム
4	松山老人保健施設にぎたつ苑	介護老人保健施設	加算(Ⅱ)	80床	11名	眠りSCAN、インカム
5	特別養護老人ホームサングリーンアネモス	介護老人福祉施設	未算定	特養:30名 ショート:10名	12名	眠りSCANeye

イ. 調査結果

訪室回数調査結果は以下の通り。

図表 VII-41 訪室回数調査の結果

	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	6.2	0.4	0.2	0.0	1.5
事後①	5.1	0.2	0.2	0.0	1.4
事後②	4.5	0.2	0.2	0.0	1.4



事前調査 n=585
 事後調査① n=545
 事後調査② n=558

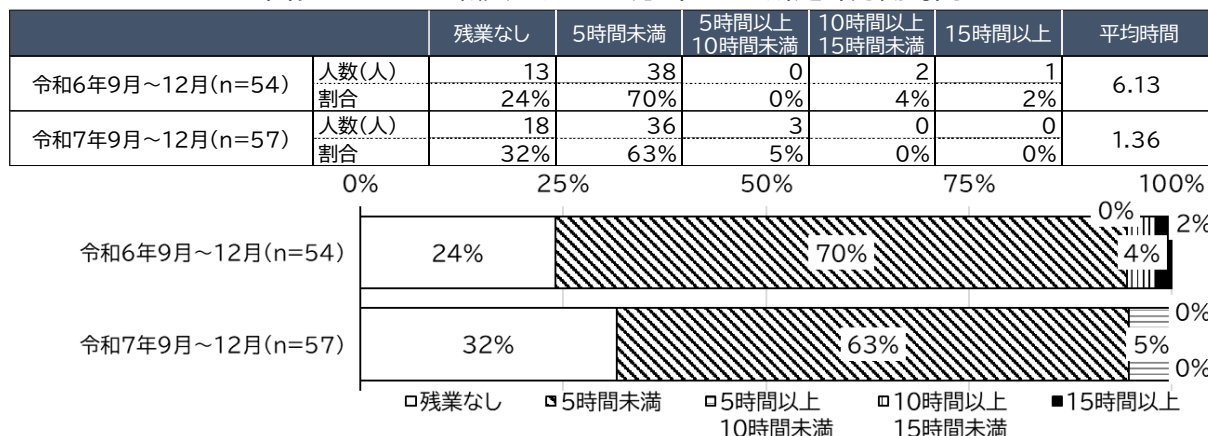
※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

(6) 業務時間等調査結果

ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 VII-42 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

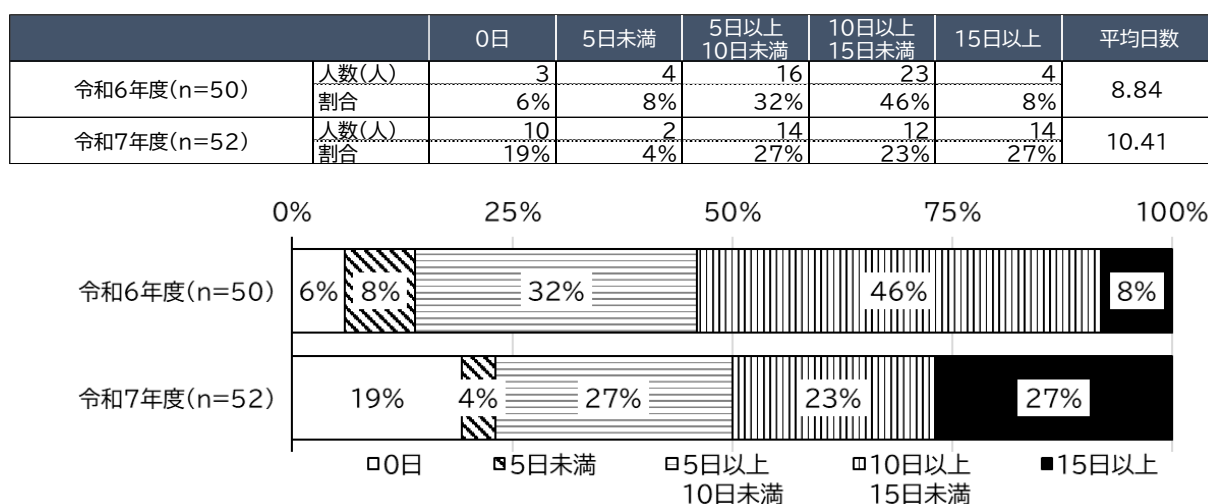


イ. 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

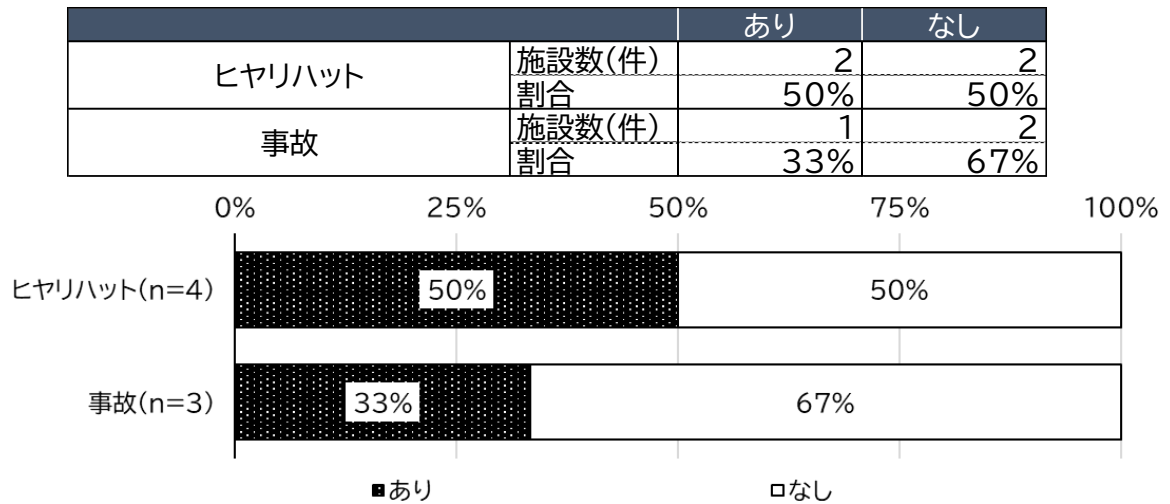
図表 VII-43 有給休暇の取得状況の変化



ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 VII-44 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無



図表 VII-45 実証期間中のヒヤリハットの内容・再発防止策

内容	再発防止策
見守りセンサが反応せずに入居者の行動把握が遅れた	居室内レイアウトの変更。 危機の再設定。機器が反応しない時を考慮した職員 の考え方の統一
ベッドより横に敷いてあるマットレスへ足が落ちていた。	見守りカメラの動作検知項目の再設定。体動が多 い場合はこまめに確認を行う。

(7) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 VII-46 実証の結果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホーム白水園	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> 機器の使いこなしについて職員によって理解度や適応能力が異なり、<u>職員によっては都度指導が必要であったため、指導に時間を要した。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> インカムの導入によって、<u>職員間の声掛け及び助け合いがしやすい空気が醸成され、職員の心理的負担の軽減や働きやすい職場の実感に繋がった。</u>
特別養護老人ホームなごみの郷	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>職員が機器(特に見守り機器のカメラ機能、離床のセンサ機能について)に対する理解度を深めたことで職員の心理的負担も軽減された。</u>機器導入当初は使用することへの抵抗、不満があったが、使い方を理解して、使いこなせたことが要因。
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>見守り機器の導入によって訪室回数は減り、利用者の睡眠も深くなったと思う。</u>
特別養護老人ホームグリーンヒル	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>ターミナルの利用者について、見守り機器のデータをより状態が把握しやすくなった。また、離床も職員がスマートフォンやタブレットですぐに把握でき、有益であった。</u>
	訪室回数調査	<ul style="list-style-type: none"> もともと1時間に1回は訪室し、状態がよくない利用者は30分ごとに訪室。<u>見守り機器導入後は機械による状態把握で良いと伝えたが職員は実際に訪問することがほとんどであった。</u>1回の訪室ですいでに多くの利用者を見ているので不便はない。
松山老人保健施設にぎたつ苑	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>インカムを導入することで職員同士の連絡が取りやすくなり、連絡時間が短縮され、効率化に繋がった。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>見守り機器で訪室回数が減ったことで夜間帯の業務負担の軽減に繋がった。</u>
	訪室回数調査	<ul style="list-style-type: none"> 1時間ごとの定期巡視をしていたが、<u>見守り機器により利用者の状態を把握したうえで、適宜訪室したため、訪室回数を減らすことはできた。</u>

② オペレーション変更で掲げた生産性向上の取組の実施に係る目的・方針の達成状況について

図表 VII-47 オペレーション変更で掲げた生産性向上の取組の実施に係る目的・方針の達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホーム白水園	インカム導入	<ul style="list-style-type: none"> 機器の導入に際してまずはマニュアル作成やリーダー同士の議論を行う。インカムに限らず新規機器導入には慎重に取り組んでいる。 インカムを導入してから職員が使いこなすまでに時間を要した。最初は必ずインカムを装着することから始め、1週間では全員に使用方法を教える、1日1回は使うことを取り決めて段階を踏んで浸透させていった。 インカムは緊急時にはもっと活用できるのではないかと考えている。
特別養護老人ホームなごみの郷	見守り機器導入	<ul style="list-style-type: none"> 職員に訪室はせずカメラを確認することを強制し、カメラでも十分であることを認識させた。
	インカム導入	<ul style="list-style-type: none"> <u>インカムは装着時の耳の痛みがあった。また機器も重いとの声があった。</u>同じユニット・フロア間の連携はしやすいが、少し離れた場所や違う階のスタッフ、看護師との連携がもっとできればよかった。インカムは途中で使用をやめてしまい、肉声での連絡に戻した。予算の絡みはあるが、骨伝導型、壁を隔てても連絡が取れるものであればあると好ましい。
特別養護老人ホームグリーンヒル	見守り機器導入	<ul style="list-style-type: none"> 新しい機器を導入することに抵抗のある職員が多い。見守り機器は導入開始の1,2 か月は活用できなかったが、段々活用してきた。
	インカム導入	<ul style="list-style-type: none"> インカムは建屋の構造上電波が届かないエリアもあり職員が装着しないケースも多く、定着しなかった。
松山老人保健施設にぎつつ苑	見守り機器導入	<ul style="list-style-type: none"> <u>転倒防止センサと見守り機器を活用することで、覚醒状態の確認が効率的にでき、適切なタイミングで訪室できた。</u> テクノロジー委員会で話し合いをしたうえで、職員に対するオペレーション変更の意識づけを実施。やるべきことを細分化して職員への浸透するようにした。
	インカム導入	<ul style="list-style-type: none"> 短い言葉で話すようにする、呼びかけに対して端的に返事をする、という心がけをしていた。テクノロジー委員会でも使用ルールについて取り決めていた。

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で職員同士の会話をしなくて済むようになった。<u>以前は利用者や利用者家族の方から職員が忙しそうに見えてしまい、声掛けを遠慮されてしまうことがあったが、その傾向が減ったように感じる。</u>

③ 生産性向上の実現の好事例とその内容について

図表 VII-48 生産性向上の実現の好事例とその内容について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホーム白水園	好事例	<ul style="list-style-type: none"> <u>インカムを使用することで、職員間のコミュニケーションの間に手を止めた作業をしなくて良い、お風呂等で看護師を呼ぶ手間が大幅に削減された等の効果があった。</u>
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> 加算(Ⅱ)を継続して取得していきたい。
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の導入は就職先としての魅力になり得る。新規職員の応募が増え、職員数が増えれば勤務体制の変更等、職員の働き方にも様々な効果があると考えている。
特別養護老人ホームなごみの郷	好事例	<ul style="list-style-type: none"> <u>見守り機器のカメラで実際に職員が利用者の状況を確認でき、職員も安心していた。また、事故が発生した際の前後の情報も確認でき助かった。実証に沿った対応策が具体的にとれるようになった。</u>
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> 加算(Ⅰ)の算定を目指している。
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> 介護・看護職員 1 か月あたりの平均残業時間は 10.8 時間 ⇒ 3.0 時間に減少。夜勤で休憩が取れたのは良い効果であった。
特別養護老人ホームグリーンヒル	好事例	<ul style="list-style-type: none"> <u>見守り機器のバイタルデータは事務所にも共有され、事務所の職員(看護師等)も利用者の状態が把握でき、適宜指示出しができた。</u> <u>見守り機器によってターミナルの利用者への訪室を増やして状況が把握できたおかげで、家族と利用者の時間を持つことができた。</u>
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> 加算(Ⅱ)を継続して取得していきたい。
松山老人保健施設にぎつつ苑	好事例	<ul style="list-style-type: none"> <u>見守り機器の導入によって訪室回数が減らせたこと、利用者の入眠・覚醒状態がおよそ予測できる、というのが良かった。実際、あまり眠れないと訴える利用者は、夜の睡眠</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		時間が少ないことがデータからも読み取れたため、ケアに生かしたいと考えている。
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> 加算(Ⅰ)の算定を目指している。
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の導入は職員や利用者にとっても魅力になり得る。

④ 生産性向上の取組において、うまくいかなかったこと、課題、失敗談について

図表 VII-49 生産性向上の取組において、うまくいかなかったこと、課題、失敗談について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホーム白水園	課題	<ul style="list-style-type: none"> インカム導入について、定着はしたが、1日1-2回程度の利用になったり、あまり使わない日もあったりする。意識づけはしているつもりだが、現場での活用がまだ不十分だと感じる。まずリーダー間の情報共有に活用し、職員同士にも活用していくようにしていきたい。
特別養護老人ホームなごみの郷	課題	<ul style="list-style-type: none"> インカムが想定より機能しなかった。頻繁に職員が移動する施設であればよいが、本施設は1ユニット10名で職員を呼び出すことももともとなかった。 見守り機器について、利用者の状態変化に合わせた設定ができておらず事故に至ったケースもある。(例えば離床の感度をあげたかったができていなかった等) 機器は職員が使いこなすまでに時間がかかる。
特別養護老人ホームグリーンヒル	課題	<ul style="list-style-type: none"> 職員が所持しなければならない機器(スマートフォン、タブレット端末等)が多く、インカムを導入しても職員が装着しないケースが多かった。使い始めの段階で丁寧な指導をすればよかった。
松山老人保健施設にぎたつ苑	課題	<ul style="list-style-type: none"> コード付きのインカムだったため、介助の際に邪魔になる場面があった。コードレスの方が良いと感じた。 眠りスキャンによる入眠・覚醒の判断が誤っている場合もあり、利用者の状況次第では全面的に信用することは難しいと感じた。 介護機器導入にあたり、DX化を職員個人が理解しているかは気になる。導入することで楽になる、というよりは、導入を踏まえてケアなどを見直す、という意

施設名	カテゴリ	主なご意見
		識を持っていただくことが重要だと感じた。機器の導入によってケアが変化することが重要であり、結果的に負担が減ると意識づけている。

【B】介護記録・音声入力の効果検証

1. 実証概要

(1) 実証目的

令和6年度介護報酬改定で新設した「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」の算定要件を満たす、あるいは要件充足に近い状況を目指す等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設以外の施設系サービス(介護老人福祉施設等)を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。

※【A】加算(Ⅰ)要件充足/一部充足の効果検証と同様。

(2) 実証仮説

記録ソフトの音声入力機能や、タブレット・スマートフォンによる入力によって、簡便に即時の記録ができ、正確な記録がなされ、記録やその見直しにかかる業務時間が減る。

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

図表 VII-50 実証で使用した機器(音声入力による記録ソフト)

No	メーカー名	機器名
1	株式会社ケアコネクトジャパン	CAREKARTE
2	株式会社ケアコネクトジャパン	ハナスト
3	NDソフトウェア株式会社	ほのぼのVoice

(4) 対象施設

本実証の対象施設は以下の通り。(施設種別:介護老人福祉施設、介護老人保健施設)。

※「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」を算定した、または算定要件を満たす等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設を広く募集した。

図表 VII-51 実証対象施設

No	法人名	施設名	生産性向上 推進体制加算
1	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会	特別養護老人ホームあざみの里	加算(Ⅰ)
2	医療法人社団橘会	介護老人保健施設西美濃さくら苑	加算(Ⅰ)

※1 生産性向上推進体制加算の算定状況は事前調査時点を掲載

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 VII-52 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和7年7月のうち平日5日間
事後調査①	令和7年10月のうち平日5日間
事後調査②	令和7年11月～令和7年12月のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和8年1月

※機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 VII-53 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアでケアを行った介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法: 自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入)による回答 調査スケジュール: 事前(オペレーションの工夫・変更前)1回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2回の計3回。各日に勤務した職員全員が回答 調査実施の時間帯: 実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式: 自記式またはWebによる回答 調査スケジュール: 事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式: 自記式またはWebによる回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 調査スケジュール: 事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者1名につき1回のみ回答

調査名	調査対象者	調査概要
業務時間等調査	介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取り 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 VII-54 生産性向上の取組に伴うオペレーションの変更内容
(パターン B:見守り機器:導入済)

施設名	A. 現在の導入状況(台数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
特別養護老人ホームあざみの里	定員80全室ベッドに眠りスキャン眠りSCAN eye(カメラ)1台	2019年2月から使用中。 2024年からカメラは気になる部屋に付け替えて使用。	使用から6年で破損や経年劣化による通信の不調が稀にみられるようになり、一定期間での入れ替えが必要とも感じている。	調査外の2-3階の従来型個室ベッドに眠りスキャン使用の体位交換付きベッド20台を導入予定。

図表 VII-55 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターン B:介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資するICT機器)

施設名	A. 通常(現在)の内容(工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、目指すところ
特別養護老人ホームあざみの里	記録ソフト:ケアカルテは導入済、各階、多職種の記録入力にはPCとタブレット端末を使用。	iPadの台数を減らし全職員分のiPhoneとヘッドセット(オープンコム)を使い長文以外は音声入力ハナストによる記録入力を予定。	音声入力で済ませられる記録は手作業を減らしリアルタイムに記録入力できる業務の構築を目指したい。

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
介護老人保健施設西 美濃さくら苑	<p>記録は iPad で行っており、操作時は手元に集中して記録にかかりきりになる。一括入力等が可能で、手書きよりは記録が速いが、職員によって操作に時間が掛かることもある。</p> <p>音声入力により、記録で手を止める時間が減り、iPad 操作が苦手な職員、特に経験豊かな高齢職員の助けにもなり、記録にかかる時間を更に短縮できると考え、導入に至る。</p>	<p>・音声入力は主にケース記録で使用するが、必要な文章を頭の中で考えて話すことに不慣れな職員が苦慮している。対策として、ケース記録が必要となる症状別のマニュアルを委員会で作成し、配布した。また時系列比較など、エビデンスのある考察を加える事で、利用者の状態が伝わりやすくなって記録が充実すると、委員長から各部署の責任者に伝えた。各ステーションのお知らせ画面に考え方や記録例文を表示するなど、全体発信も行った。さらに普段から考えることの習慣づけが大切ということも同時に伝えている。</p> <p>・機器に対して正しく明瞭に話さないと言葉をご認識したり、途中で切れてしまったりするため、機器のクセを知り、繰り返し操作して慣れる必要がある。そのため導入前に全職員に個別説明し、デモ機で 1 時間程度練習をしていただいた</p>	<p>・紙ベースの記録から iPad の記録に変わり、記録の効率化、均一化と、カルテの一部電子化が進んだ。音声入力を導入し、職員が使いこなせるようになれば、さらなる記録時間短縮と業務効率化が図れ、続けて業務改善、勤務体制の見直しを行って職員の働き方にも目を向ける。</p> <p>・言葉で話すこと自体は入力・記入より格段に速いが、すらすらと話すには普段から考察やエビデンスのあるケア・行動をしていないと苦慮する。職員のスキルが向上し、記録がより充実し、かつ効率的に行えるようになることで、直接介助に当たる時間が増えて、職員自身にもゆとりができ、利用者へのサービスの質の維持・向上に繋がりたい。</p>

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工 夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
		た。導入時も各棟会議 に委員が出向き、導入 目的や取扱いについ て説明し、再度ケース 記録の方法を伝え、実 機で入力練習を行っ た。	

図表 VII-56 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターン B:インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器:導入済)

施設名	A. 現在の導入状 況(台数等)	B. 現在の活用状 況	C. 現在抱えてい る課題	D. 本実証期間 中の追加導入の 有無
特別養護老人 ホームあざみの 里	①小電力無線ハイパーデミトス:20台 ②トランシーバークール:14台	①により各階介護の日勤リーダーと多職種が連携 ②各階の介護職員同士が連携	基本的な連絡調整の迅速化は①のみでも実現しているが、全職員で共有できるツールを試したいと考えている。	ハナストを活用し、スマートフォン39台分で全職員カバーしてインカムとして活用する。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

※【A】加算(Ⅰ)要件充足/一部充足の効果検証と同様。但し、「オ.訪室回数記録調査」を除く。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類6つ)」「B.間接業務(小分類5つ)」「C.休憩・待機・仮眠」「D.その他、未記入」「E.余裕時間」の6分類で整理し、計14項目を用意した。

図表 VII-57 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub -No	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・以上・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間、本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に 1 回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 VII-58 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	3	26	0	29
	割合	10%	90%	0%	100%

図表 VII-59 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	2	12	11	4	0	29
	割合	0%	0%	0%	7%	41%	38%	14%	0%	100%

図表 VII-60 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	3	4	7	8	7	0	0	0	29
	割合	10%	14%	24%	28%	24%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-61 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	1	0	1	7	6	11	3	0	0	0	29
	割合	3%	0%	3%	24%	21%	38%	10%	0%	0%	0%	100%

1. 職員概要

図表 VII-62 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	8	9	1	18
	割合	44%	50%	6%	100%

図表 VII-63 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	7	4	4	0	0	1	18
	割合	0%	11%	39%	22%	22%	0%	0%	6%	100%

図表 VII-64 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	13	2	3	0	0	0	0	0	18
	割合	72%	11%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-65 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	4	11	3	0	18
	割合	0%	22%	61%	17%	0%	100%

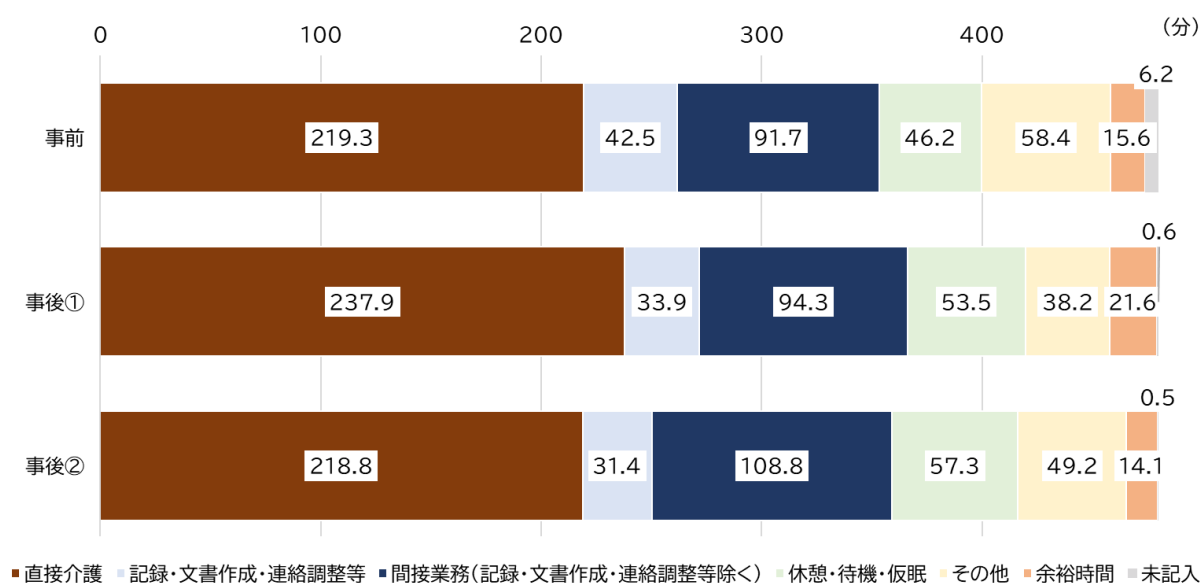
(2) タイムスタディ調査結果

介護職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

直接介護に充てる時間は、事前調査では 219.3 分であったのに対し、事後①では 237.9 分、事後②では 218.8 分であった。

図表 VII-66 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)

		直接介護						間接業務						休憩			合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他	余裕時間	未記入	
事前	時間(分)	23.6	54.2	61.5	4.7	8.9	66.3	8.6	42.5	3.7	1.4	78.0	46.2	58.4	15.6	6.2	480
	割合	5%	11%	13%	1%	2%	14%	2%	9%	1%	0%	16%	10%	12%	3%	1%	100%
事後①	時間(分)	30.6	45.6	42.1	1.1	7.0	111.5	7.2	33.9	3.0	4.3	79.8	53.5	38.2	21.6	0.6	480
	割合	6%	9%	9%	0%	1%	23%	1%	7%	1%	1%	17%	11%	8%	5%	0%	100%
事後②	時間(分)	28.1	50.3	19.3	0.7	6.7	113.6	6.6	31.4	10.2	1.5	90.6	57.3	49.2	14.1	0.5	480
	割合	6%	10%	4%	0%	1%	24%	1%	7%	2%	0%	19%	12%	10%	3%	0%	100%



事前調査 n=18

事後調査① n=15

事後調査② n=15

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

(3) 職員向けアンケート調査結果

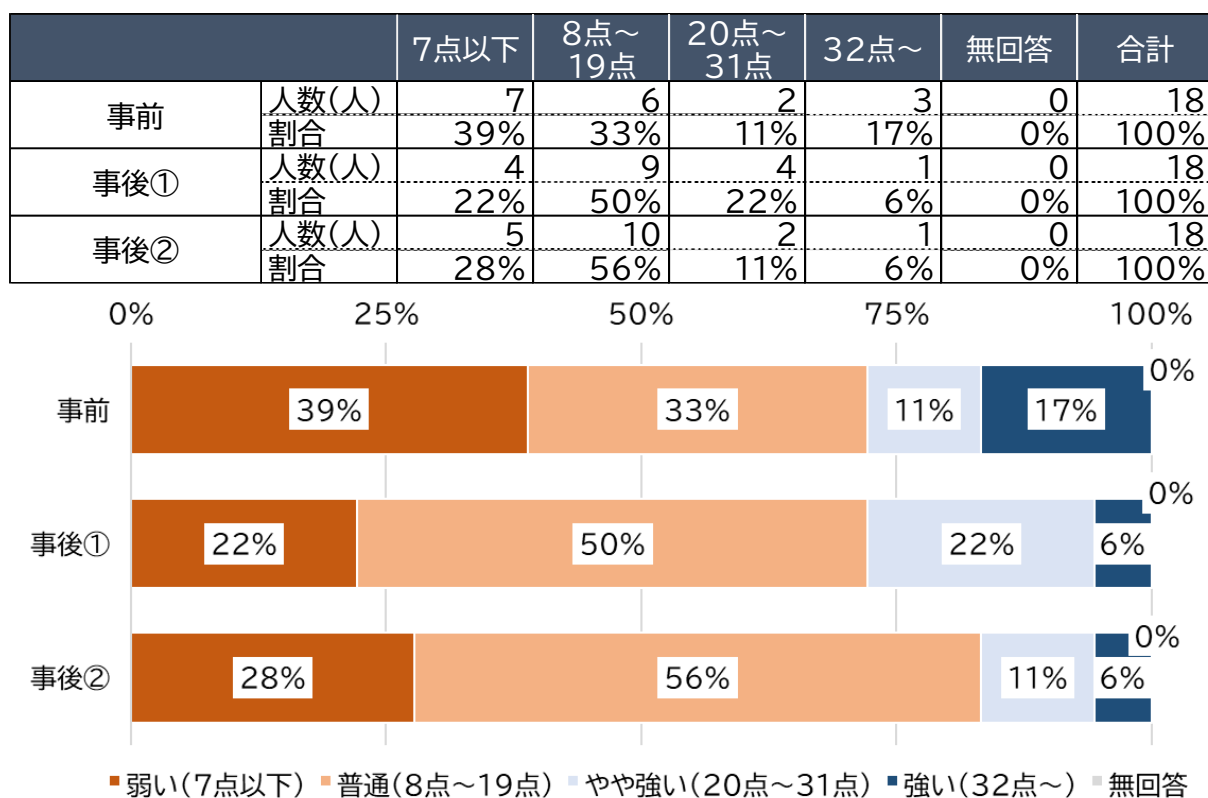
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、39%であったのに対し、事後①では22%に減少した。事後②では、ストレス反応が「弱い」割合が28%であり、事前調査と比べ11ポイント減少、事後①と比べ6ポイント増加した。

図表 VII-67 心理的負担評価(SRS-18)



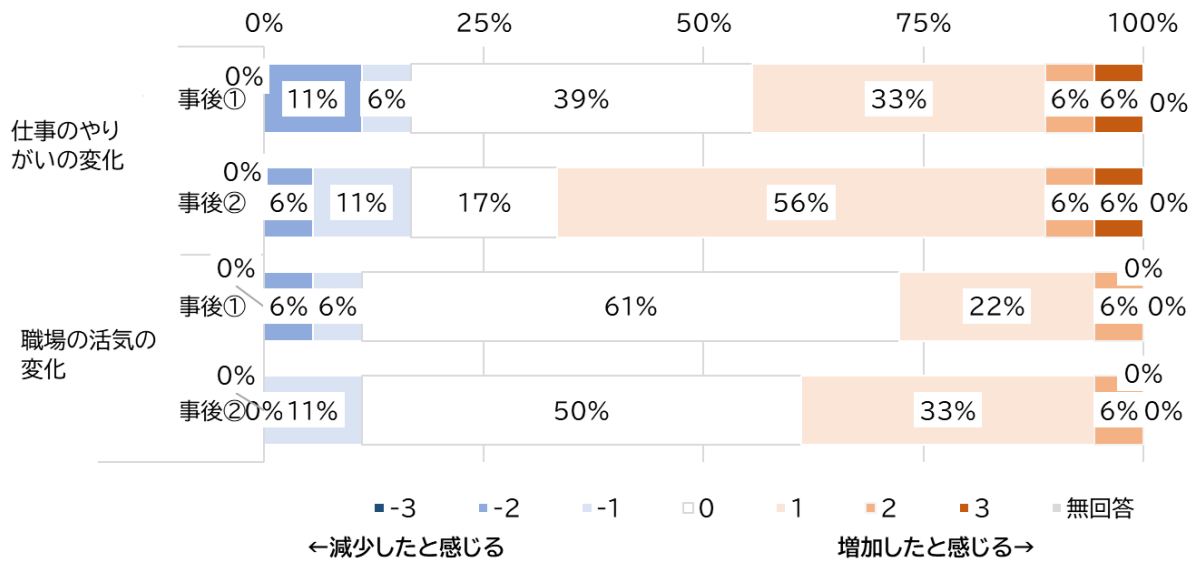
※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VII-68 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	2	1	7	6	1	1	0	18	
		割合	0%	11%	6%	39%	33%	6%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	2	3	10	1	1	0	18	
		割合	0%	6%	11%	17%	56%	6%	6%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	1	1	11	4	1	0	0	18	
		割合	0%	6%	6%	61%	22%	6%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	9	6	1	0	0	18	
		割合	0%	0%	11%	50%	33%	6%	0%	0%	100%	



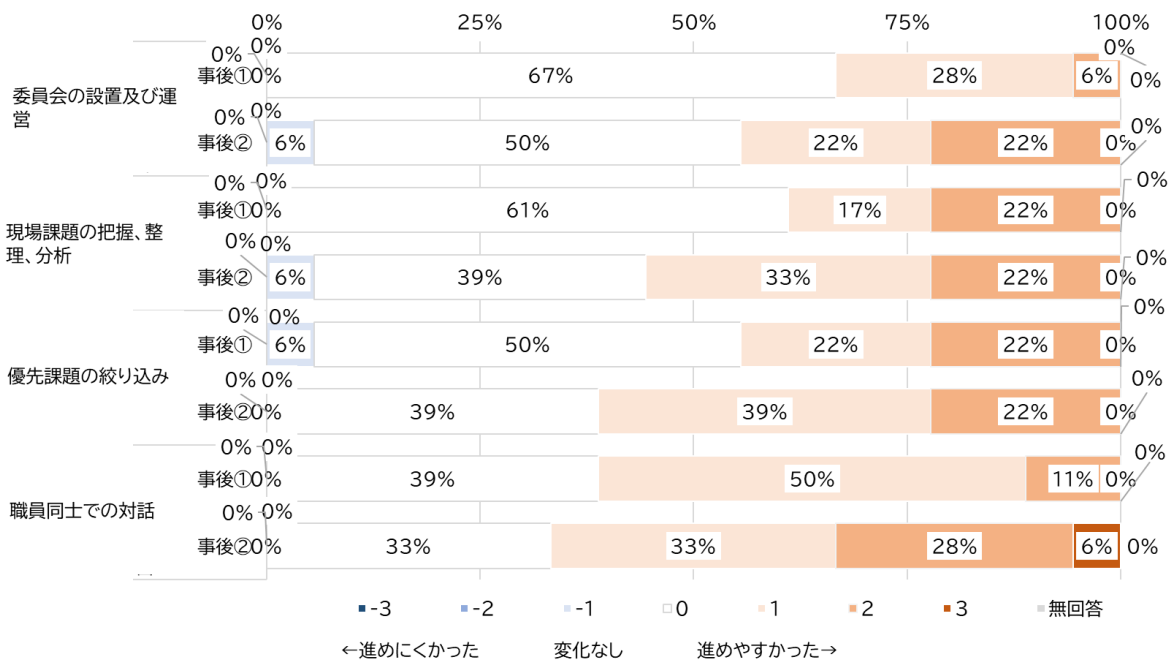
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 生産性向上の取組の進めやすさ

生産性向上の取組の進めやすさの結果は以下の通り。

図表 VII-69 生産性向上の取組の進めやすさ

			←進めにくかった→							進めやすかった→	無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
委員会の設置及び運営	事後①	人数(人)	0	0	0	12	5	1	0	0	0	18
		割合	0%	0%	0%	67%	28%	6%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	9	4	4	0	0	0	18
		割合	0%	0%	6%	50%	22%	22%	0%	0%	0%	100%
現場課題の把握、整理、分析	事後①	人数(人)	0	0	0	11	3	4	0	0	0	18
		割合	0%	0%	0%	61%	17%	22%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	7	6	4	0	0	0	18
		割合	0%	0%	6%	39%	33%	22%	0%	0%	0%	100%
優先課題の絞り込み	事後①	人数(人)	0	0	1	9	4	4	0	0	0	18
		割合	0%	0%	6%	50%	22%	22%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	7	4	0	0	0	18
		割合	0%	0%	0%	39%	39%	22%	0%	0%	0%	100%
職員同士での対話	事後①	人数(人)	0	0	0	7	9	2	0	0	0	18
		割合	0%	0%	0%	39%	50%	11%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	6	5	1	0	0	18
		割合	0%	0%	0%	33%	33%	28%	6%	0%	0%	100%



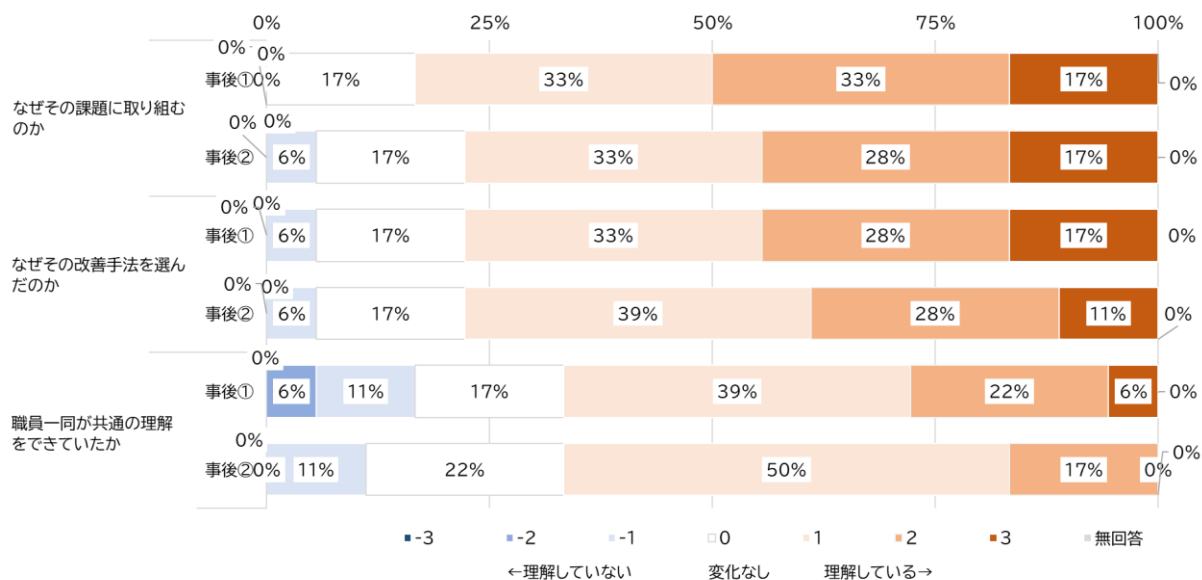
※質問項目に対し、-3(進めにくかった)~+3(進めやすかった)の7段階で評価した。

工. 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

生産性向上の取組の対象とした課題への理解に関する結果は以下の通り。

図表 VII-70 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

			←理解していない→						理解している→	無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
なぜその課題に取り組むのか	事後①	人数(人)	0	0	0	3	6	6	3	0	18
		割合	0%	0%	0%	17%	33%	33%	17%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	3	6	5	3	0	18
		割合	0%	0%	6%	17%	33%	28%	17%	0%	100%
なぜその改善手法を選んだのか	事後①	人数(人)	0	0	1	3	6	5	3	0	18
		割合	0%	0%	6%	17%	33%	28%	17%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	3	7	5	2	0	18
		割合	0%	0%	6%	17%	39%	28%	11%	0%	100%
職員一同が共通の理解をできていたか	事後①	人数(人)	0	1	2	3	7	4	1	0	18
		割合	0%	6%	11%	17%	39%	22%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	4	9	3	0	0	18
		割合	0%	0%	11%	22%	50%	17%	0%	0%	100%



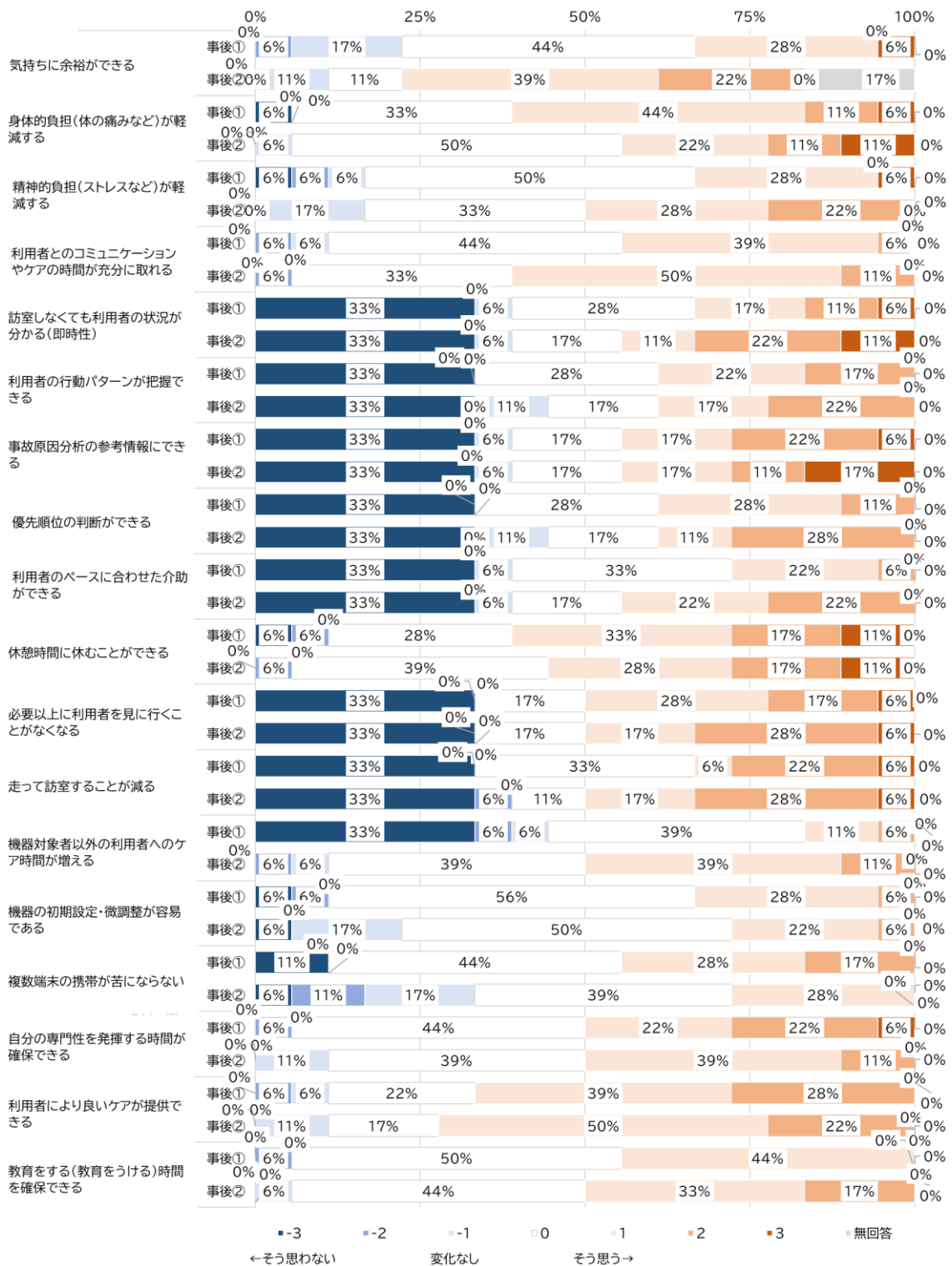
※質問項目に対し、-3(理解していない)～+3(理解している)の7段階で評価した。

オ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-71 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

			← そう思わない					変化なし			→ そう思う			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3						
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	0	1	3	8	5	0	1	0	0	18			
		割合	0%	6%	17%	44%	28%	0%	6%	0%	0%	100%			
	事後②	人数(人)	0	0	2	2	7	4	0	3	18				
		割合	0%	0%	11%	11%	39%	22%	0%	17%	100%				
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	0	0	6	8	2	1	0	18				
		割合	6%	0%	0%	33%	44%	11%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	0	1	9	4	2	2	0	18				
		割合	0%	0%	6%	50%	22%	11%	11%	0%	100%				
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	1	1	9	5	0	1	0	18				
		割合	6%	6%	6%	50%	28%	0%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	0	3	6	5	4	0	0	18				
		割合	0%	0%	17%	33%	28%	22%	0%	0%	100%				
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	0	1	1	8	7	1	0	0	18				
		割合	0%	6%	6%	44%	39%	6%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	1	0	6	9	2	0	0	18				
		割合	0%	6%	0%	33%	50%	11%	0%	0%	100%				
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	6	0	1	5	3	2	1	0	18				
		割合	33%	0%	6%	28%	17%	11%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	0	1	3	2	4	2	0	18				
		割合	33%	0%	6%	17%	11%	22%	11%	0%	100%				
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	6	0	0	5	4	3	0	0	18				
		割合	33%	0%	0%	28%	22%	17%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	0	2	3	3	4	0	0	18				
		割合	33%	0%	11%	17%	17%	22%	0%	0%	100%				
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	6	0	1	3	3	4	1	0	18				
		割合	33%	0%	6%	17%	17%	22%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	0	1	3	3	2	3	0	18				
		割合	33%	0%	6%	17%	17%	11%	17%	0%	100%				
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	6	0	0	5	5	2	0	0	18				
		割合	33%	0%	0%	28%	28%	11%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	0	2	3	2	5	0	0	18				
		割合	33%	0%	11%	17%	11%	28%	0%	0%	100%				
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	6	0	1	6	4	1	0	0	18				
		割合	33%	0%	6%	33%	22%	6%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	0	1	3	4	4	0	0	18				
		割合	33%	0%	6%	17%	22%	22%	0%	0%	100%				
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	1	1	0	5	6	3	2	0	18				
		割合	6%	6%	0%	28%	33%	17%	11%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	1	0	7	5	3	2	0	18				
		割合	0%	6%	0%	39%	28%	17%	11%	0%	100%				
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	6	0	0	3	5	3	1	0	18				
		割合	33%	0%	0%	17%	28%	17%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	0	0	3	3	5	1	0	18				
		割合	33%	0%	0%	17%	17%	28%	6%	0%	100%				
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	6	0	0	6	1	4	1	0	18				
		割合	33%	0%	0%	33%	6%	22%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	6	1	0	2	3	5	1	0	18				
		割合	33%	6%	0%	11%	17%	28%	6%	0%	100%				
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	6	1	1	7	2	1	0	0	18				
		割合	33%	6%	6%	39%	11%	6%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	1	1	7	7	2	0	0	18				
		割合	0%	6%	6%	39%	39%	11%	0%	0%	100%				
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	1	1	0	10	5	1	0	0	18				
		割合	6%	6%	0%	56%	28%	6%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	1	0	3	9	4	1	0	0	18				
		割合	6%	0%	17%	50%	22%	6%	0%	0%	100%				
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	2	0	0	8	5	3	0	0	18				
		割合	11%	0%	0%	44%	28%	17%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	1	2	3	7	5	0	0	0	18				
		割合	6%	11%	17%	39%	28%	0%	0%	0%	100%				
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	1	0	8	4	4	1	0	18				
		割合	0%	6%	0%	44%	22%	22%	6%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	0	2	7	7	2	0	0	18				
		割合	0%	0%	11%	39%	39%	11%	0%	0%	100%				
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	1	1	4	7	5	0	0	18				
		割合	0%	6%	6%	22%	39%	28%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	0	2	3	9	4	0	0	18				
		割合	0%	0%	11%	17%	50%	22%	0%	0%	100%				
教育をする(教育を受ける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	1	0	9	8	0	0	0	18				
		割合	0%	6%	0%	50%	44%	0%	0%	0%	100%				
	事後②	人数(人)	0	0	1	8	6	3	0	0	18				
		割合	0%	0%	6%	44%	33%	17%	0%	0%	100%				

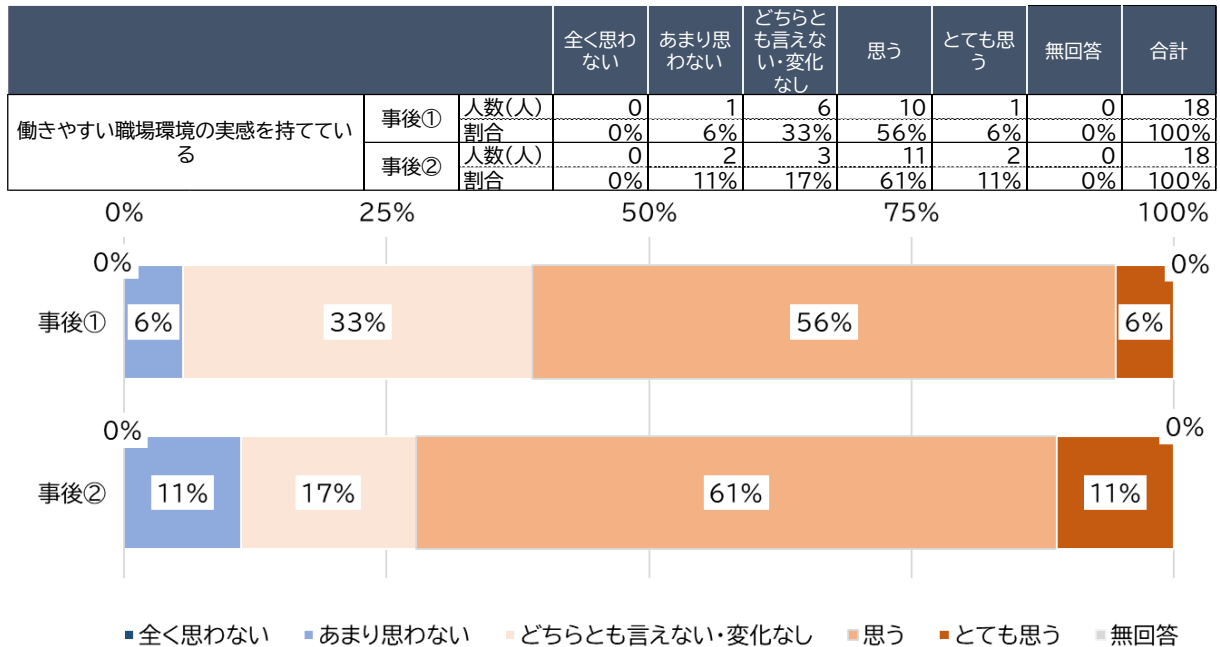


※質問項目に対し、-3(そう思わない)~+3(そう思う)の7段階で評価した。

カ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感に関する結果は以下の通り。

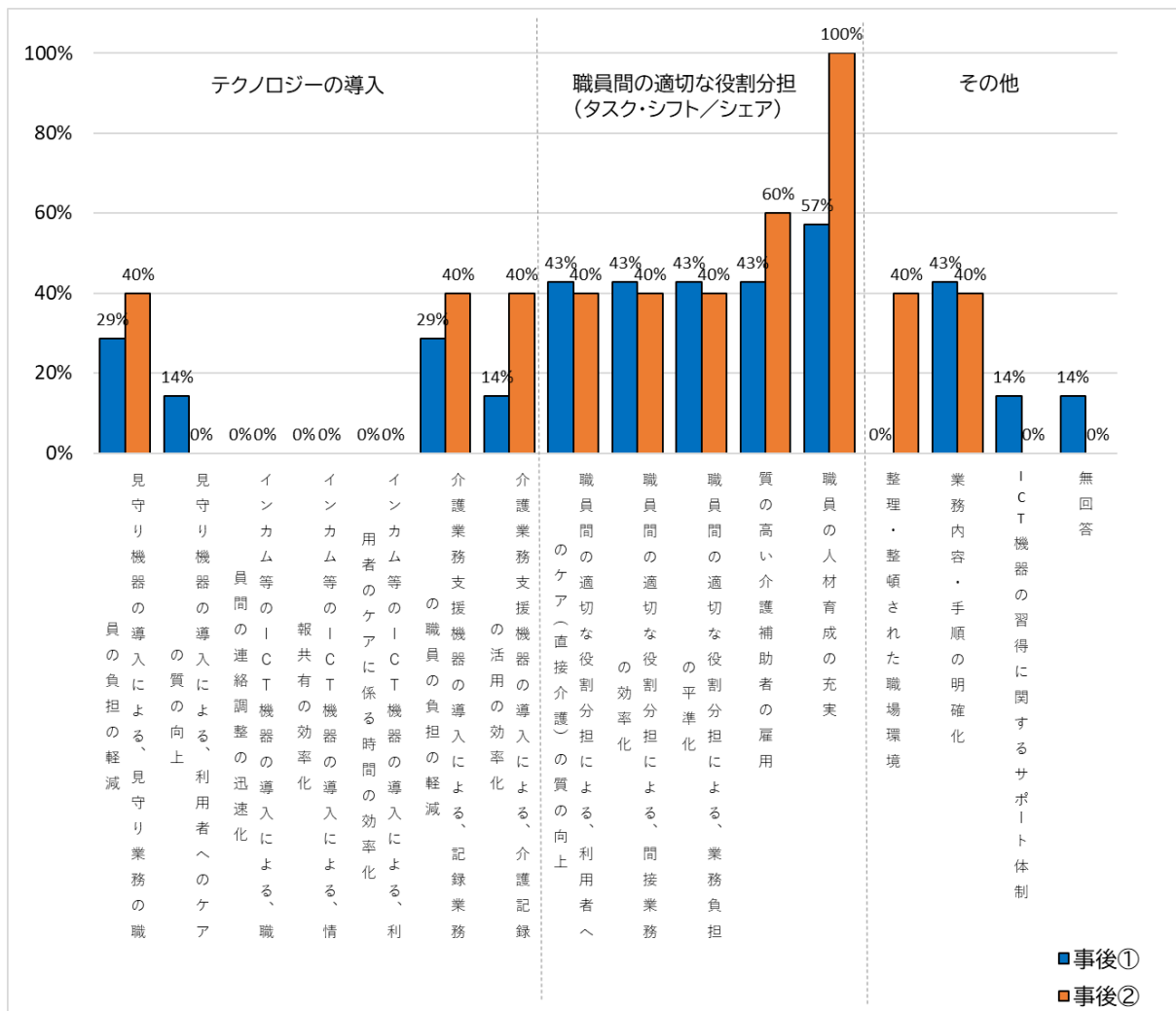
図表 VII-72 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感



※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

図表 VII-74 「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ)

		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他				無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	インカム等のICCT機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICCT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICCT機器の導入による、記録業務の効率化	介護業務支援機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、記録業務の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、利用者へのケアへ直接介する職員の適切な役割分担による、業務負担の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制					
事後①	人数(人) 割合	2 29%	1 14%	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	1 14%	2 43%	2 43%	3 43%	3 43%	3 43%	4 57%	0 0%	3 43%	1 14%	1 14%	7			
事後②	人数(人) 割合	2 40%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 40%	2 40%	2 40%	2 40%	2 40%	3 60%	5 100%	2 40%	2 40%	2 40%	0 0%	0 0%	5			



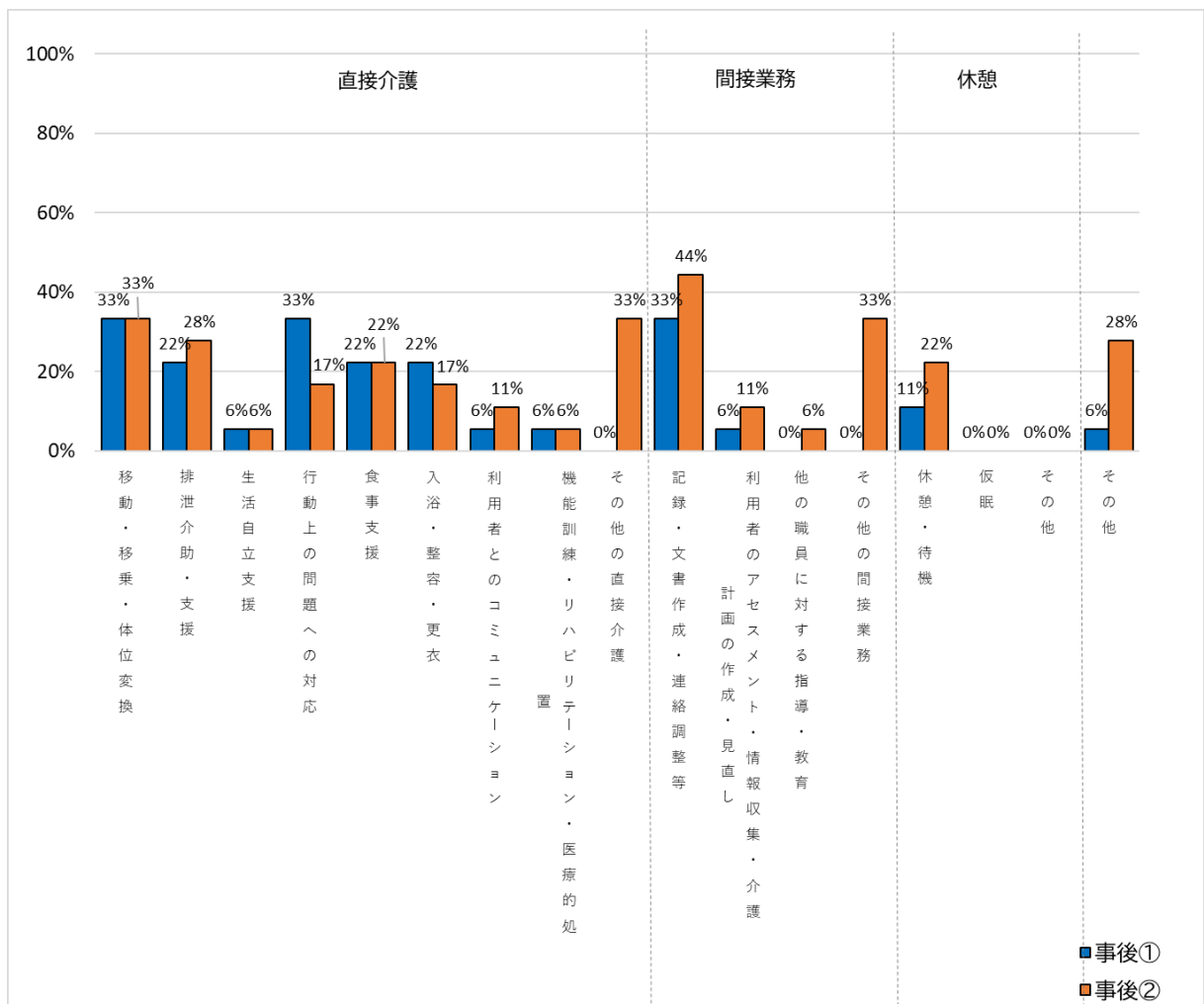
※該当する項目を最大5つ選択する設問。

キ. 職員間の適切な役割(タスク・シフト/シェア)導入による効果

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果の結果は以下の通り。

図表 VII-75 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果

		直接介護									間接業務					休憩			その他	無回答(人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他				
事後①	人数(人)	6	4	1	6	4	4	1	1	0	6	1	0	0	2	0	0	1	6	18	
事後①	割合	33%	22%	6%	33%	22%	22%	6%	6%	0%	33%	6%	0%	0%	11%	0%	0%	6%	33%	-	
事後②	人数(人)	6	5	1	3	4	3	2	6	8	2	1	6	4	0	0	0	5	0	18	
事後②	割合	33%	28%	6%	17%	22%	17%	11%	6%	44%	11%	6%	33%	22%	0%	0%	0%	28%	0%	-	



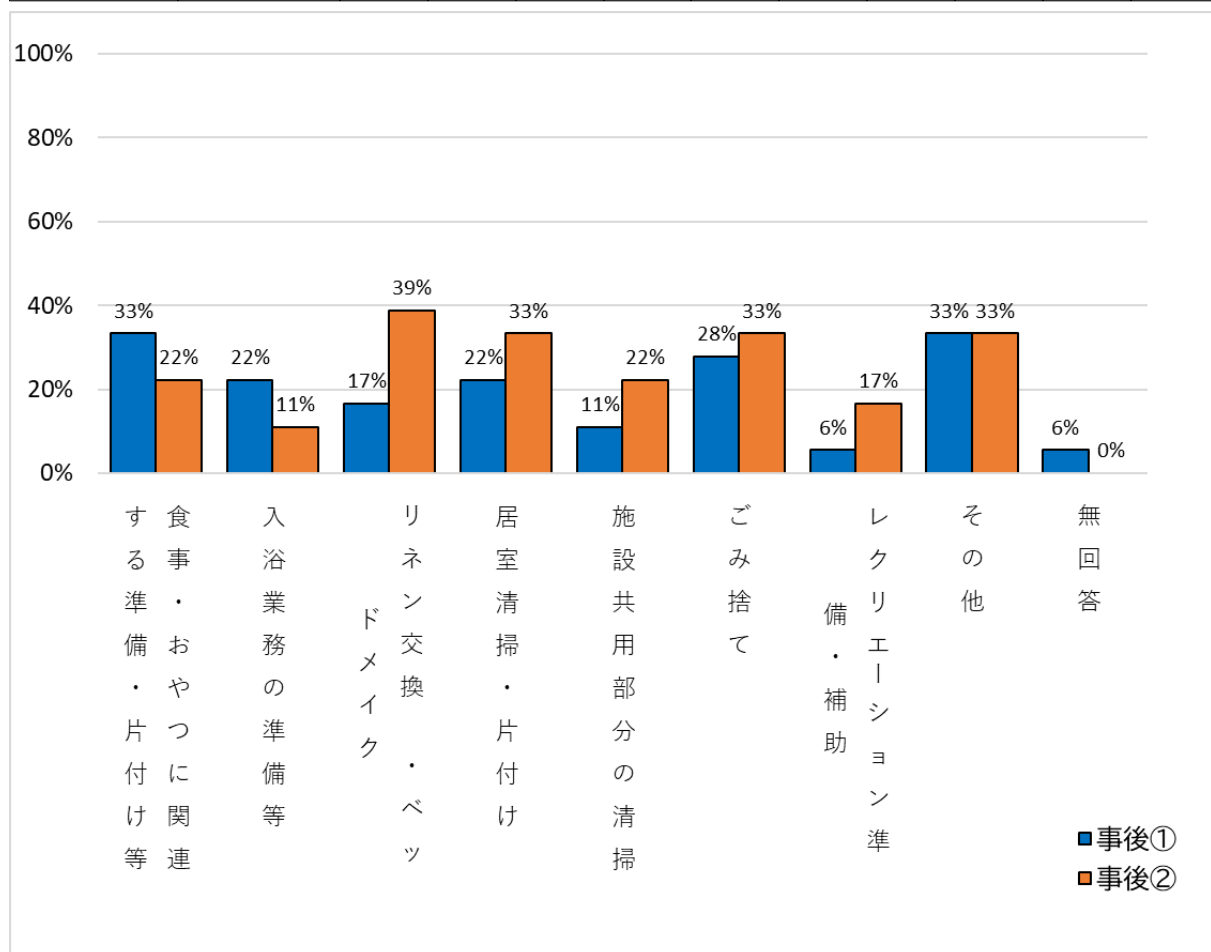
※該当する項目をすべて選択する設問。

ク. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務の結果は以下の通り。

図表 VII-76 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	6	4	3	4	2	5	1	6	1	18
	割合	33%	22%	17%	22%	11%	28%	6%	33%	6%	-
事後②	人数(人)	4	2	7	6	4	6	3	6	0	18
	割合	22%	11%	39%	33%	22%	33%	17%	33%	0%	-

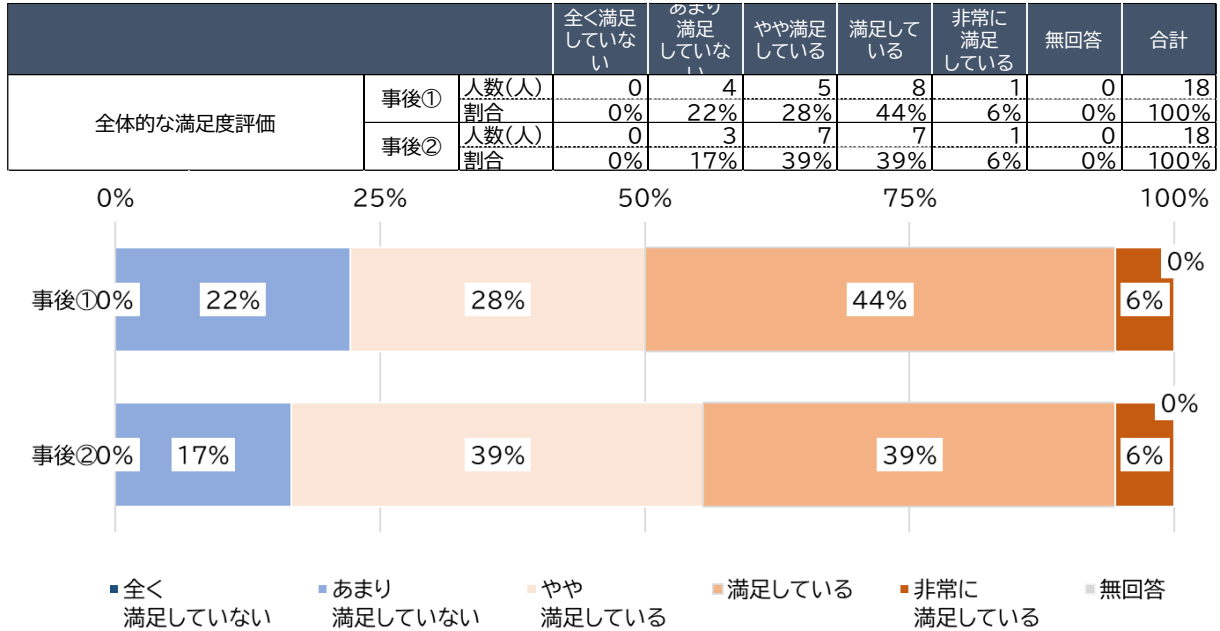


※該当する項目をすべて選択する設問。

ケ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

図表 VII-77 全体的な満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

(4) 利用者向けアンケート調査結果

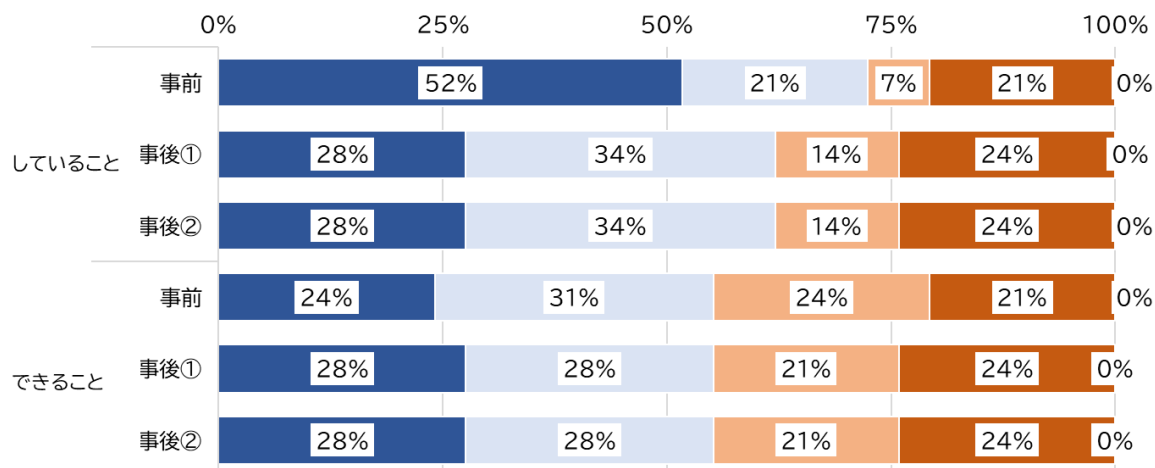
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 VII-78 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

		0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計	
していること	事前	人数(人)	15	6	2	6	0	29
		割合	52%	21%	7%	21%	0%	100%
	事後①	人数(人)	8	10	4	7	0	29
		割合	28%	34%	14%	24%	0%	100%
	事後②	人数(人)	8	10	4	7	0	29
		割合	28%	34%	14%	24%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	7	9	7	6	0	29
		割合	24%	31%	24%	21%	0%	100%
	事後①	人数(人)	8	8	6	7	0	29
		割合	28%	28%	21%	24%	0%	100%
	事後②	人数(人)	8	8	6	7	0	29
		割合	28%	28%	21%	24%	0%	100%



■ 0～20点(ほぼ全介助) ■ 25～40点(かなりの介助) ■ 45～60点(部分介助) ■ 65～100点(ほぼ自立・自立) ■ 無回答

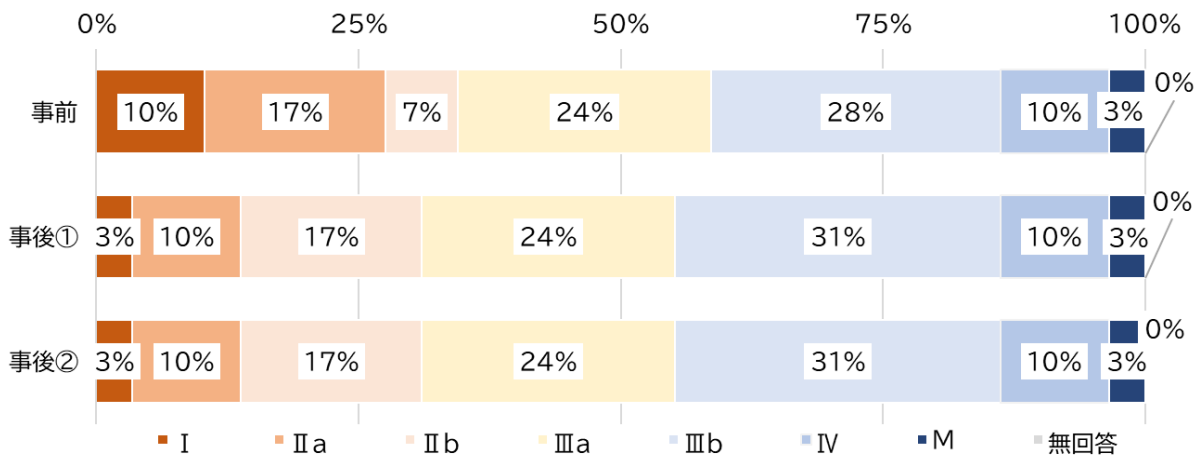
※事前調査または事後調査①・②で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 VII-79 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	3	5	2	7	8	3	1	0	29
	割合	10%	17%	7%	24%	28%	10%	3%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	3	5	7	9	3	1	0	29
	割合	3%	10%	17%	24%	31%	10%	3%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	3	5	7	9	3	1	0	29
	割合	3%	10%	17%	24%	31%	10%	3%	0%	100%

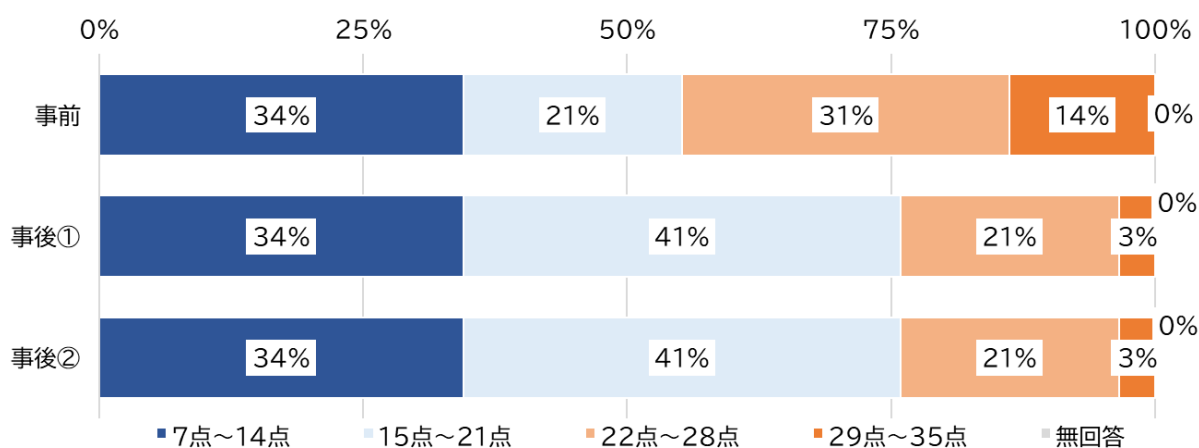


ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VII-80 生活・認知機能尺度

		7点~ 14点	15点~ 21点	22点~ 28点	29点~ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	10	6	9	4	0	29
	割合	34%	21%	31%	14%	0%	100%
事後①	人数(人)	10	12	6	1	0	29
	割合	34%	41%	21%	3%	0%	100%
事後②	人数(人)	10	12	6	1	0	29
	割合	34%	41%	21%	3%	0%	100%

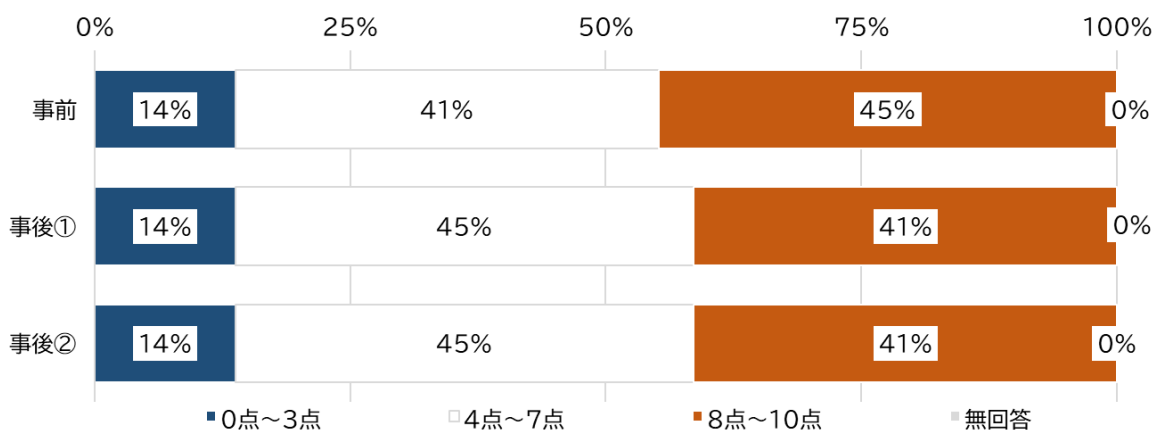


工. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 VII-81 Vitality Index

		0点~3点	4点~7点	8点~10点	無回答	合計
事前	人数(人)	4	12	13	0	29
	割合	14%	41%	45%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	13	12	0	29
	割合	14%	45%	41%	0%	100%
事後②	人数(人)	4	13	12	0	29
	割合	14%	45%	41%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

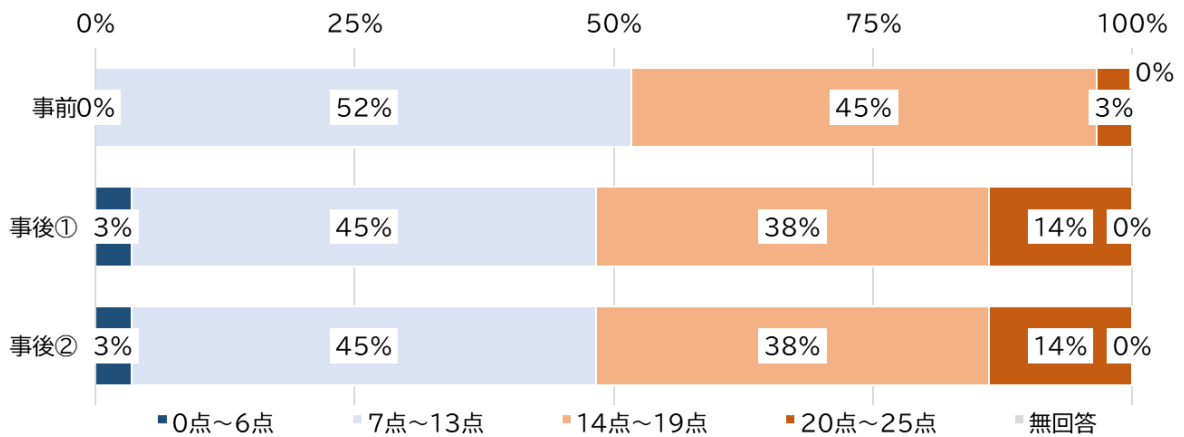
※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0~2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOL の変化(WHO-5)

WHO-5 の結果は以下の通り。

図表 VII-82 HWO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	15	13	1	0	29
	割合	0%	52%	45%	3%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	13	11	4	0	29
	割合	3%	45%	38%	14%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	13	11	4	0	29
	割合	3%	45%	38%	14%	0%	100%



※事前または事後で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

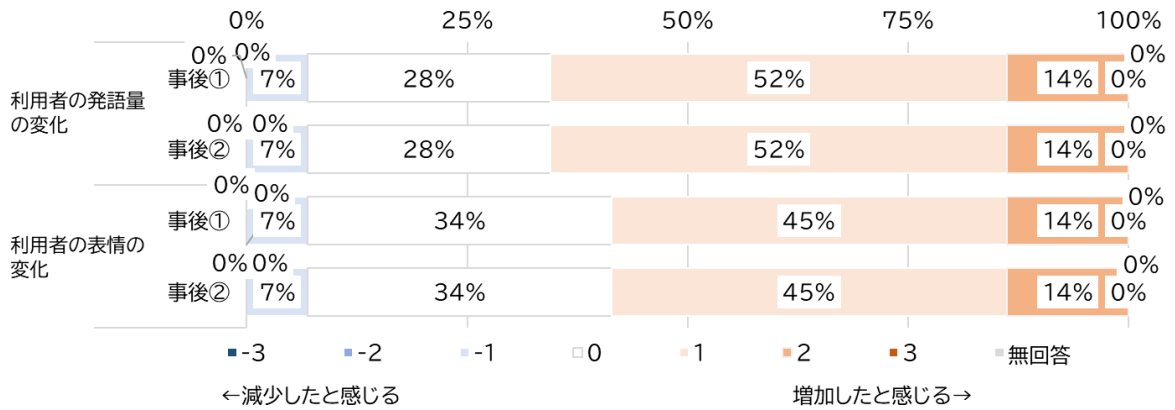
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VII-83 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	0	0	2	8	15	4	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	28%	52%	14%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	8	15	4	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	28%	52%	14%	0%	0%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	0	0	2	10	13	4	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	34%	45%	14%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	10	13	4	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	34%	45%	14%	0%	0%	100%	



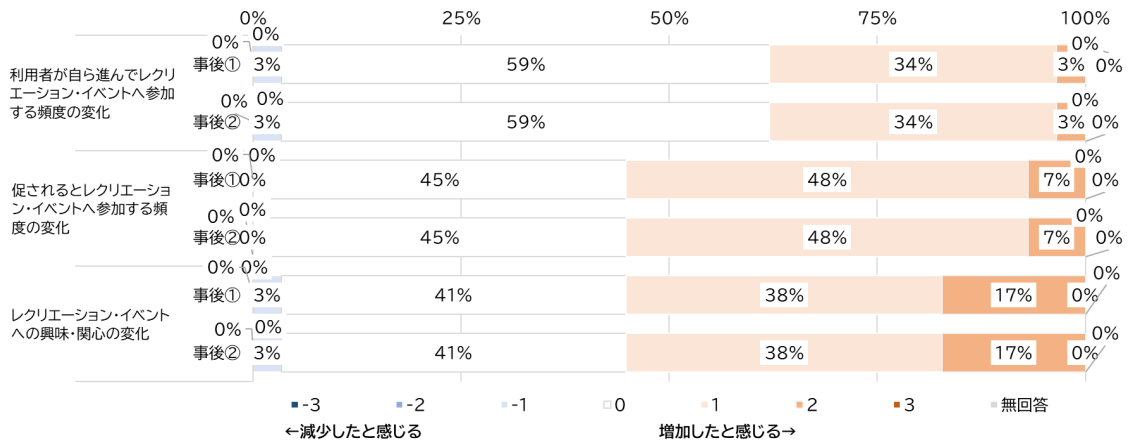
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-84 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	17	10	1	0	0	29	
		割合	0%	0%	3%	59%	34%	3%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	1	17	10	1	0	0	29	
		割合	0%	0%	3%	59%	34%	3%	0%	0%	100%	
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	13	14	2	0	0	29	
		割合	0%	0%	0%	45%	48%	7%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	13	14	2	0	0	29	
		割合	0%	0%	0%	45%	48%	7%	0%	0%	100%	
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	12	11	5	0	0	29	
		割合	0%	0%	3%	41%	38%	17%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	1	12	11	5	0	0	29	
		割合	0%	0%	3%	41%	38%	17%	0%	0%	100%	



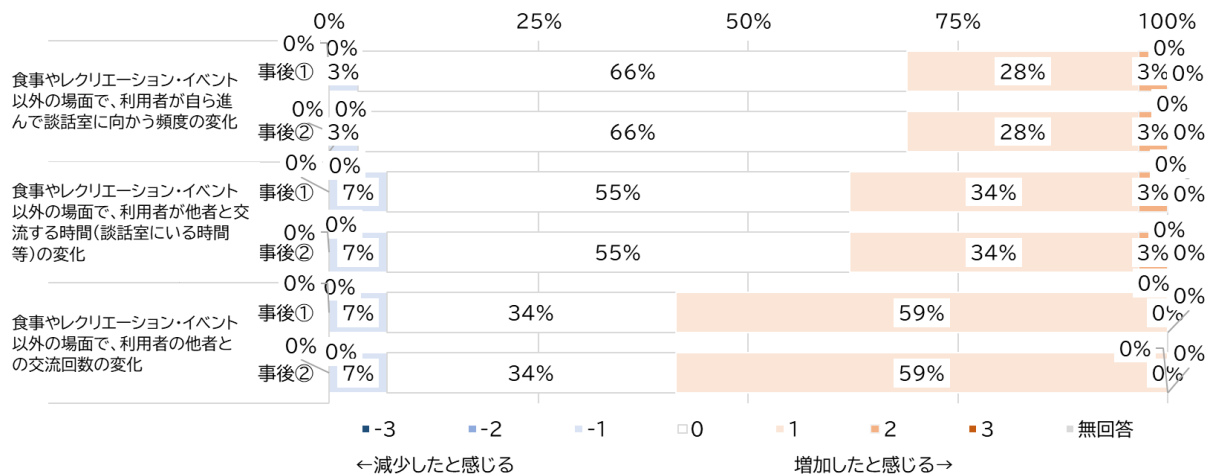
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ク. 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-85 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	19	8	1	0	0	29	
		割合	0%	0%	3%	66%	28%	3%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	1	19	8	1	0	0	29	
		割合	0%	0%	3%	66%	28%	3%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	2	16	10	1	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	55%	34%	3%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	16	10	1	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	55%	34%	3%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	2	10	17	0	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	34%	59%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	10	17	0	0	0	29	
		割合	0%	0%	7%	34%	59%	0%	0%	0%	100%	



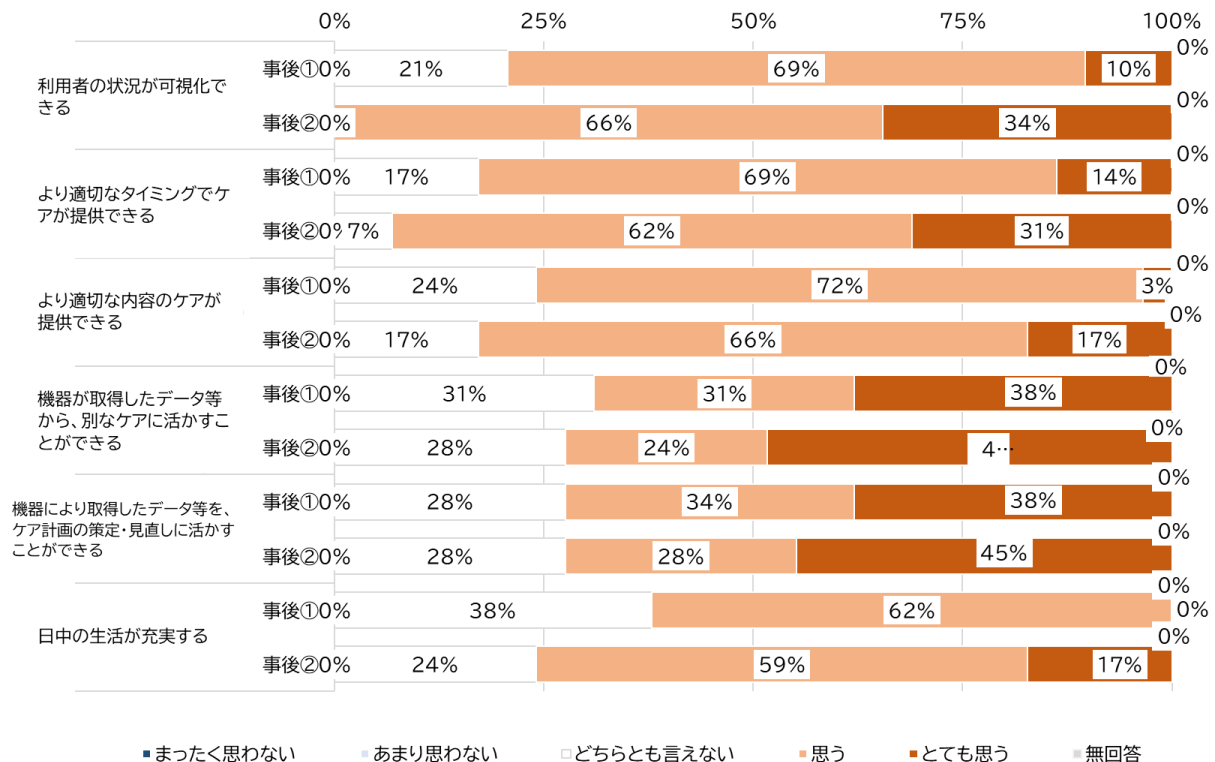
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ケ. ケアの変更

ケアの変更の結果は以下の通り。

図表 VII-86 ケアの変更

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計	
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	6 21%	20 69%	3 10%	0 0%	29 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	19 66%	10 34%	0 0%	29 100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	5 17%	20 69%	4 14%	0 0%	29 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 7%	18 62%	9 31%	0 0%	29 100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	7 24%	21 72%	1 3%	0 0%	29 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	5 17%	19 66%	5 17%	0 0%	29 100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	9 31%	9 31%	11 38%	0 0%	29 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	8 28%	7 24%	14 48%	0 0%	29 100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	8 28%	10 34%	11 38%	0 0%	29 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	8 28%	8 28%	13 45%	0 0%	29 100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	11 38%	18 62%	0 0%	0 0%	29 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	7 24%	17 59%	5 17%	0 0%	29 100%



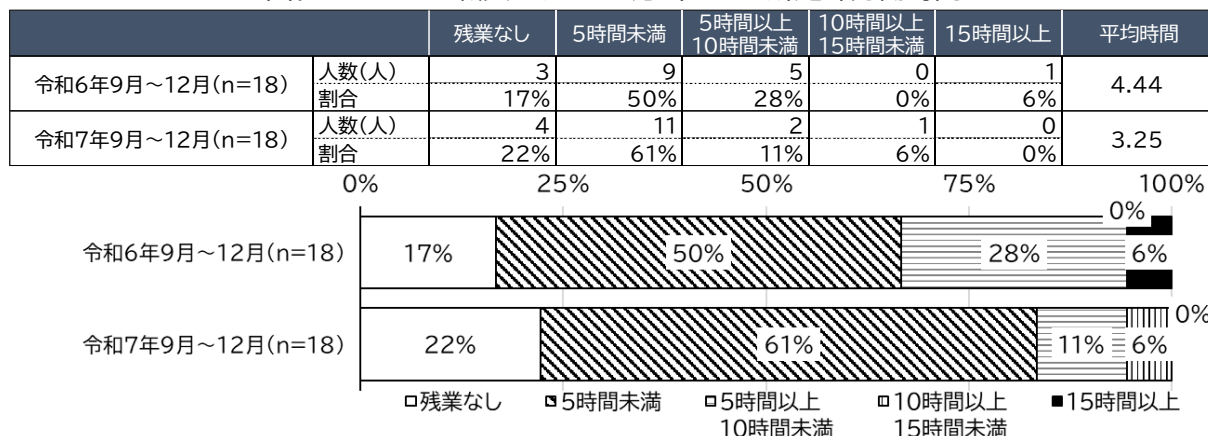
※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

(5) 業務時間等調査結果

ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 VII-87 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

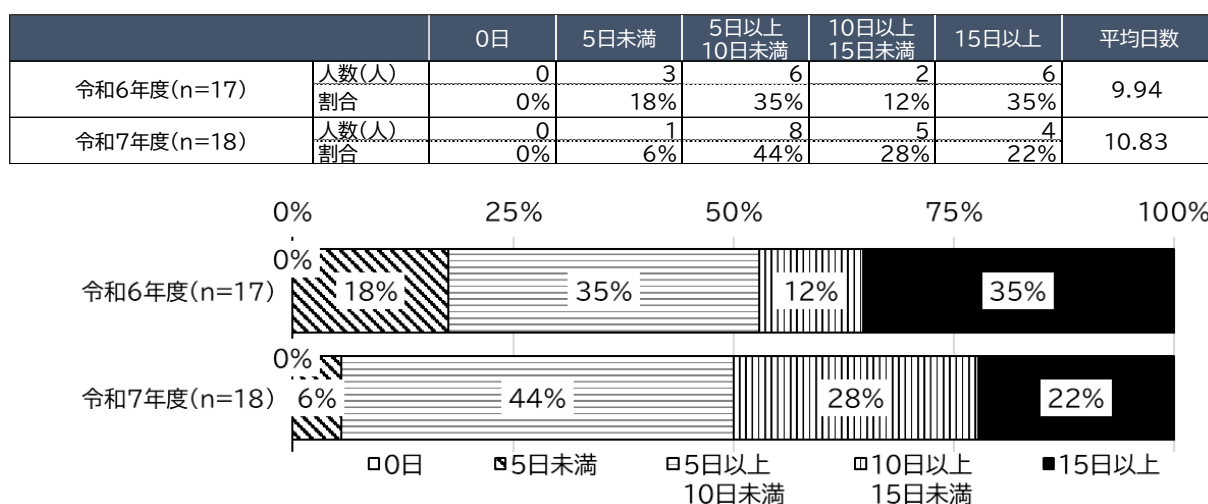


イ. 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

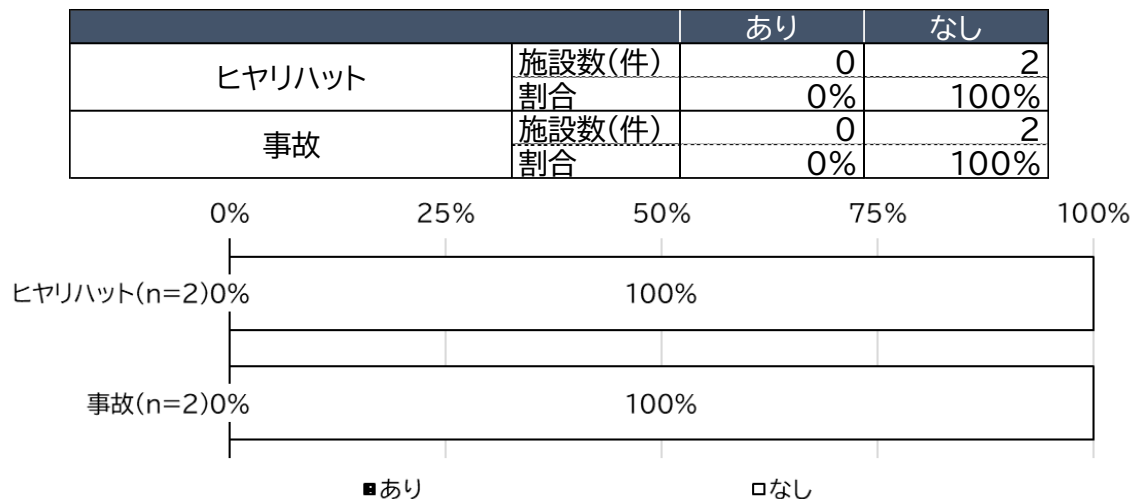
図表 VII-88 有給休暇の取得状況の変化



ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 VII-89 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無



(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 VII-90 実証の結果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホームあざみの里	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> 慣れるまでは時間がかかったが、<u>慣れてからは時間に余裕が持った</u>という声が職員から上がっていた。
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 調査の前よりインカムを無線にしたことや音声入力によって、<u>職員の負担感が減った</u>と考える。 <u>より使いこなすために機器の使い方を教えて欲しい、手入力の方が便利で早いので手入力もほしい、という声が上がった。</u>
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 事後②にて、<u>音声入力により直接介護・会話の時間ができ、利用者とのやり取りも増えた</u>と考えられる。
介護老人保健施設西美濃さくら苑	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <u>職員が手元を見て記入している姿が減り、利用者も職員に気軽に話せるようになり、利用者との時間が多くとれるようになった。</u> 音声入力によって周りを見ながら対応できるため、利

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<p>用者の変化に気づきやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の勤務形態によって直接介護の割合が異なり、夜勤であればモニターを見ている時間が多く、それは間接介護に含まれる。
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 機器導入直後の事後①は職員の心理的負担も大きかったと思われるが、事後②では職員も音声入力に慣れた。 機器へ慣れてからやりがいも向上したと考えられ、音声入力がより正確に変換されるように前向きに取り組むようになった。 ICT(眠り SCAN の導入)、勤務形態の変更等により、職員の私生活にも良い影響があり、働きやすくなった可能性がある。
	利用者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と職員の関わりが増えたと感じている。

② オペレーション変更で掲げた生産性向上の取組の実施に係る目的・方針の達成状況について

図表 VII-91 オペレーション変更で掲げた生産性向上の取組の実施に係る目的・方針の達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホームあざみの里	職員	<ul style="list-style-type: none"> 職種関係なく勤務中職員が同じアプリで繋がることで、連携はスムーズになった。 音声入力で間違えることは少なく確認の手間が増えることもない状態であり、職員からは音声入力の効果的な活用などに向けて積極的な声が多い。 食事の片付け中に記録しつつ、別の介助業務もできるようになった。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> おやつを食べながら利用者との会話時間を確保するなど、職員が利用者で過ごす時間が増えており、職員の欠勤等を除き残業が増えた印象もない。 生産性会議で勉強会を実施し、音声入力の勉強会は装着し入力することを職員間で教え合った。 機器に関する現場の意見を吸い上げ、リーダーやメーカーに伝え、対応策があれば職員に伝える流れができた。リーダー職以外も参加する会議と、生産性

施設名	カテゴリ	主なご意見
		向上会議が連携してうまく動いている。
介護老人保健施設 西美濃さくら苑	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>利用者の状況確認の際にカルテの持ち出しが不要になり、記録時間の短縮につながった。</u> • <u>職員が手元を見ていることが減り、利用者との会話が増えたり、利用者の様子に気づくようになったりした。</u> • 個別のケース記録に音声入力を使用しており、職員からの印象も良い。

③ 生産性向上の実現の好事例とその内容について

図表 VII-92 生産性向上の実現の好事例とその内容について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホーム あざみの里	好事例	<ul style="list-style-type: none"> • <u>インカムを導入した際に施設内の内線電話の連絡が大幅に減り、その後、音声入力・インカムアプリを導入で全職員がつながると内線利用がほぼなくなった。</u> • 音声入力は他施設にもおすすめしている。 • 直接業務でも生産性が上がる取組を併用すると良い。記録時間が減って時間ができて利用者といをしていいかわからない・移乗の負担が大きいといった状態を避けるためにもICTとノーリフトケアを併用している。
	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> • 今後は現場の介護職員が音声入りに慣れ、他職種に教える流れを想定している。 • <u>メーカーとも相談して音声入力の効果的な活用方法や活用可能な機能・場面などを確認し、施設としての細かいマニュアルを検討したい。</u> 考えて入力する箇所は手打ちに慣れてしまっているが、特記事項は音声入力に移行したい。
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> • 加算(Ⅰ)を維持したい。
介護老人保健施設 西美濃さくら苑	好事例	<ul style="list-style-type: none"> • 機器導入にあたり、指導する側の情熱があることが重要である。高齢の職員にも熱意をもって指導することで受け入れてもらいやすくなる。 • 一括入力を活用するため機器からのバイタル値等をタブレット入力、業務をしながら入力するためケース

施設名	カテゴリ	主なご意見
		記録等を音声入力と、 <u>入力内容によって記録方法を分け、効率の良い記録をするようにした。</u>
	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> • <u>更なる効率化のため、利用者との会話や他の業務をしながら音声入力をできるようにしていきたい。</u> • <u>音声入力で思い通りの文章に変換されないことがあり、より正しい変換になるように委員会等でも対応を相談する。</u> • <u>音声入力中に途切れてしまうケースや音声入力の開始の際にうまくいかないケースがある。アプリケーションで職員個人ごとに記録時間を調整するなど、対応が必要である。</u>
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> • <u>加算(Ⅰ)を維持したい。</u>
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> • <u>フロア間でも人員の協力がスムーズにできており、職員が辞めても人員が少なくて困る、という事態になりにくくなった。</u> • <u>機器を導入してうまく使いこなすことで、以前は有給休暇の取得状況も年間5日間であったか、毎月1日は取得する雰囲気になった。</u>

④ 生産性向上の取組において、うまくいかなかったこと、課題、失敗談について

図表 VII-93 生産性向上の取組において、うまくいかなかったこと、課題、失敗談について

施設名	カテゴリ	主なご意見
特別養護老人ホームあざみの里	課題	<ul style="list-style-type: none"> • <u>ICTの導入は比較的簡単だが、継続が難しい。エラー対応の担当者や手順、メーカー・業者との関係性構築が必要になる。</u> • <u>機械は5年ごとに入れ替えの必要があり、かかるコストも導入時に準備する必要がある。人材育成やコスト維持が課題である。</u> • <u>法人や施設の運営をするにあたり資金繰りは苦労しており、施設自体の修繕やICT導入・修理など、優先順位を考えて取り組む必要がある。</u>
介護老人保健施設西美濃さくら苑	課題	<ul style="list-style-type: none"> • <u>利用者への対応等でヘッドセットをつけた勤務ができないケースがあり、特に夏は装着を不快に感じる職員も多いため、対応を検討する必要がある。</u>

【C】情報管理システムの効果検証

1. 実証概要

(1) 実証目的

令和6年度介護報酬改定で新設した「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」の算定要件を満たす、あるいは要件充足に近い状況を目指す等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設以外の施設系サービス(介護老人福祉施設等)を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。

※【A】加算(Ⅰ)要件充足/一部充足の効果検証と同様。

(2) 実証仮説

利用者のバイタルデータが自動転送されることで、記録やその見直しにかかる時間が減る。

また、利用者のバイタルデータをもとに、体調変化の兆候をAIツールが判断し、早期の対応が可能となる等、利用者にあったケアが提供可能となり、職員の満足度が高まる。

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。

図表 VII-94 実証で使用した機器(情報管理システム)

No	メーカー名	機器名
1	芙蓉開発株式会社	安診ネット

(4) 対象施設

本実証の対象施設は以下の通り。(施設種別:介護老人福祉施設、介護老人保健施設、特定施設入居者生活介護)。なお、No1は令和6年度実証、No2は令和5年度実証との比較を行う。(以下、過年度比較)

※「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)」を算定した、または算定要件を満たす等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む特定施設を広く募集した。

図表 VII-95 実証対象施設

No	法人名	施設名	生産性向上 推進体制加算 (※1)
1	社会福祉法人吾妻福祉会	養護老人ホーム吾妻荘(※1)	未算定
2	社会福祉法人北九州福祉会	特別養護老人ホームサングリーンアネモス	未算定

No	法人名	施設名	生産性向上 推進体制加算 (※1)
		(※1)	
3	社会福祉法人鶴生会	特別養護老人ホーム悠久荘	加算(Ⅱ)

※1 過年度比較を行う

※2 生産性向上推進体制加算の算定状況は事前調査時点を掲載

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。なお、過年度の実証結果との比較を行う2施設については、事後調査①の時期にのみ調査を実施した。

図表 VII-96 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和7年7月のうち平日5日間
事後調査①	令和7年10月のうち平日5日間
事後調査②	令和7年12月のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和7年12月

※機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」、「訪室回数記録調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 VII-97 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアでケアを行った介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法: 自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入)による回答 調査スケジュール: 事前(オペレーションの工夫・変更前)1回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2回の計3回。各日に勤務した職員全員が回答 調査実施の時間帯: 実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式: 自記式またはWebによる回答 調査スケジュール: 事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答

調査名	調査対象者	調査概要
利用者向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式または Web による回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のプレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者 1 名につき 1 回のみ回答
業務時間等調査	介護職員	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答
訪室回数記録調査※	調査対象として選定された利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式 ※各利用者の担当職員が調査期間中に回答。 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前 1 回、事後 2 回実施。 調査実施の時間帯:21 時～7 時
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取り 調査スケジュール:実証終了後に 1 回実施

※No2のみ実施。結果については、【A】加算(I)要件充足/一部充足の効果検証にて掲載。

ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 VII-98 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターン C:見守り機器:導入済)

施設名	A. 現在の導入状況(台数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
養護老人ホーム 吾妻荘	一部導入済み。 (40 台)	眠りの質や睡眠状況などに活用し夜勤者の巡視・巡回を軽減し、睡眠妨げ防止に活用。 過去データを振り返って、急変の	入居者の寝方によっては感知・察知しない。 施設の老朽化に伴う Wi-Fi 電波障害がある。	無し

施設名	A. 現在の導入状況(台数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
		<p>時点について検証し、ご家族向けに説明している。</p> <p>不穏の方の睡眠状況を観察するために使用。</p> <p>医療への連携についても、測定データを基に提示している。</p>		
特別養護老人ホームサングリーンアネモス	<p>見守り機器は全床導入済み。(30台)</p> <p>見守りカメラは6台導入済み。</p>	<p>転倒リスクが高い方、夜間帯の状態絵を確認したい方に優先的に使用している。</p>	夜勤帯の見守り・巡視の負担軽減。	見守りカメラ8台を追加導入。
特別養護老人ホーム悠久荘	全床導入済み。(45台)	<p>臥床時の様子観察。</p> <p>データの見方について職員に対して指導中。</p> <p>一例として、昼夜逆転していた利用者を見つけ、夜間寝ていただくために個別にケアを見直すことができた。</p> <p>また、段階的に巡視回数を減らそうとしており、夜間の巡視回数は10⇒4回に減らすことができた。</p>	データの収集、活用方法が上手くいっていない。徐々に活用できてきているが、まだまだ試行段階である。	無し。

図表 VII-99 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
 (パターンC:介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資する ICT 機器(安診ネット):今回の実証で導入)

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
特別養護老人ホーム 悠久荘	記録がほとんど紙ベースの為管理が大変。情報が別々にあり情報共有に手間がかかる。	記録を1つにまとめることにより、各方面からの分析が可能となる。	業務の効率化を図る。 職員の業務軽減。

図表 VII-100 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
 (パターンC:介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資する ICT 機器(安診ネット):導入済)

施設名	A. 通常(現在)の内容 (工夫・変更前)・課題	B. 導入後の内容(工夫・変更)	C. 工夫・変更の目的、 目指すところ
特別養護老人ホームサングリーンアネモス	現状、喫緊の課題はない。		より多くの機能を活用する。
養護老人ホーム吾妻荘	看護と介護の情報共有や業務効率化に課題があった。	リアルタイムな情報共有が可能となり、情報管理が短縮でき業務の簡素化・効率化が可能となっている。	より多くの機能を活用する。

図表 VII-101 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
 (パターンC:インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器:導入済)

施設名	A. 現在の導入状況(台数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
養護老人ホーム 吾妻荘	情報共有を円滑化するために、クラウド上にファイルを管理	利用者情報は安診ネットでの情報共有を行い、職員情報はクラウド上で管理している。	紙運用が一部残っている。	無し
特別養護老人ホームサングリーンアネモス	インカムを10台導入。	職員は勤務中、使用している。	ユニット型フロアの為、場所によっては聞こえづら	無し

施設名	A. 現在の導入状況(台数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
			い場所がある。	
特別養護老人ホーム悠久荘	12台(受信機) 受信機は同時に勤務する方全員を賄える分の台数(12台)、イヤホンは職員全員に対して骨伝導イヤホンを支給している。	職員間の情報共有 協力体制強化(特に夜勤帯の協力要請) 入浴介助中は機器を入り口付近に置き、職員はイヤホンをつけたままにすることで、連絡を取れるようにしている。	新規職員への使用方法の指導	無し

図表 VII-102 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容
(パターンC:適切な役割分担(タスクシフト/シェア)や介護助手の活用:導入済)

施設名	A. 現在の介護助手の導入状況や、タスクシフト/シェアの導入状況(人数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
養護老人ホーム吾妻荘	清掃員が2名在籍。	居室の掃除などを介護職員と役割分担をしている。	無し	無し
特別養護老人ホームサングリーンアネモス	リネン交換、居室・トイレ清掃、洗濯等ご利用者に直接関わらない間接業務を担う職員を1名配置している	1日6時間で週4日、勤務している。	現状、喫緊の課題はない。	無し
特別養護老人ホーム悠久荘	現在、介護助手の導入はなし。 タスクシフト・タス	週に1回のボランティア職員による清掃、利用者	タスクシフト・タスクシェアの取組が十分ではない。	無し

施設名	A. 現在の介護助手の導入状況や、タスクシフト/シェアの導入状況(人数等)	B. 現在の活用状況	C. 現在抱えている課題	D. 本実証期間中の追加導入の有無
	クシケアは実施。	のコミュニケーション実施により、正規職員との役割分担を実施している。		

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

※【A】加算(Ⅰ)要件充足/一部充足の効果検証と同様。但し、「オ.訪室回数記録調査」を除く。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類6つ)」「B.間接業務(小分類5つ)」「C.休憩・待機・仮眠」「D.その他、未記入」「E.余裕時間」の6分類で整理し、計14項目を用意した。

図表 VII-103 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub-No	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・以上・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	日常生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT機器の使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他

No	分類	Sub -No	項目
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく))を実施した。加えて事後では、見守り機器の利用によるモチベーションの変化、見守り機器の利用による職員や施設業務の変化、見守り機器の満足度評価 (QUEST 福祉用具満足度評価)も実施した。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者のADLの変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOLの変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に1回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 VII-104 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	6	28	0	34
	割合	18%	82%	0%	100%

図表 VII-105 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	2	1	5	12	14	0	34
	割合	0%	0%	6%	3%	15%	35%	41%	0%	100%

図表 VII-106 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	4	5	15	9	0	1	0	34
	割合	0%	12%	15%	44%	26%	0%	3%	0%	100%

図表 VII-107 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	4	6	18	1	5	0	0	34
	割合	0%	0%	0%	12%	18%	53%	3%	15%	0%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 VII-108 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	10	19	2	31
	割合	32%	61%	6%	100%

図表 VII-109 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	11	5	9	5	1	0	31
	割合	0%	0%	35%	16%	29%	16%	3%	0%	100%

図表 VII-110 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	16	6	0	0	0	0	9	0	31
	割合	52%	19%	0%	0%	0%	0%	29%	0%	100%

図表 VII-111 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	3	14	11	3	31
	割合	0%	10%	45%	35%	10%	100%

(2) タイムスタディ調査結果

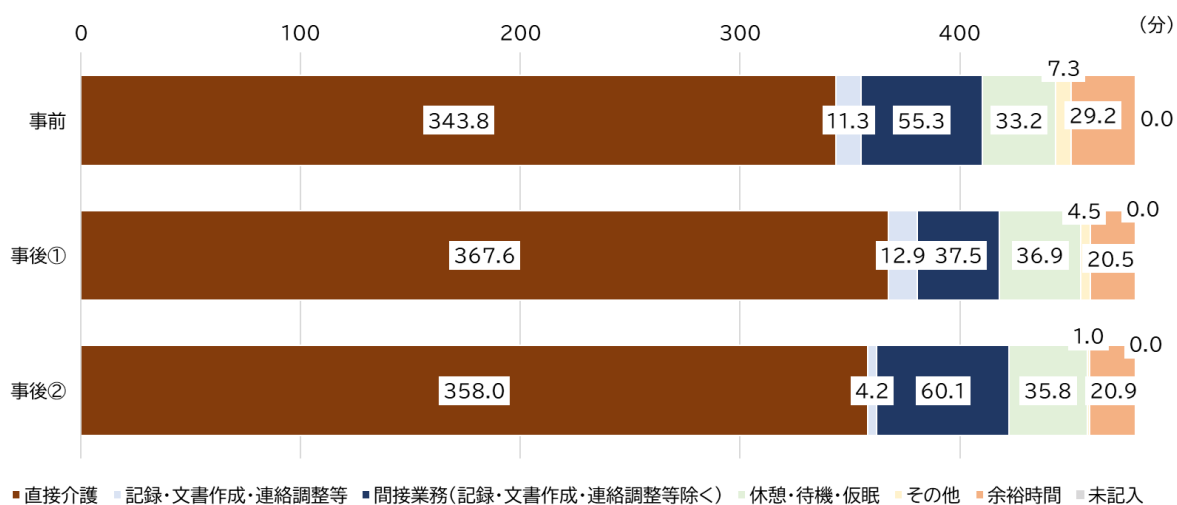
介護職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

昼(7時00分～20時59分)では直接介護に充てる時間は、事前調査では343.8分であったのに対し、事後①では367.6分、事後②では358.0分であった。

夜(21時～翌6時59分)では直接介護に充てる時間は、事前調査では83.7分であったのに対し、事後①では102.4分、事後②では73.4分であった。

図表 VII-112 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり):
昼(7時00分～20時59分)

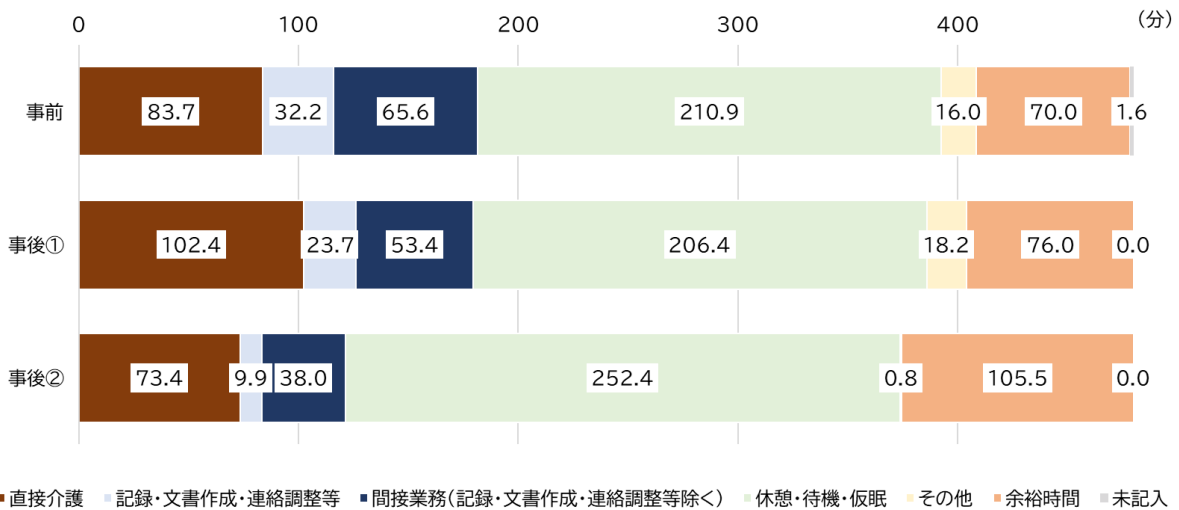
		直接介護					間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボットの準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
昨年度事前	時間(分)	74.4	59.6	10.1	0.1	0.0	199.6	19.8	11.3	0.0	14.2	21.4	33.2	7.3	29.2	0.0	480
	割合	15%	12%	2%	0%	0%	42%	4%	2%	0%	3%	4%	7%	2%	6%	0%	100%
昨年度事後①	時間(分)	105.2	77.5	89.0	0.0	2.5	93.4	2.5	12.9	0.6	21.0	13.4	36.9	4.5	20.5	0.0	480
	割合	22%	16%	19%	0%	1%	19%	1%	3%	0%	4%	3%	8%	1%	4%	0%	100%
今年度	時間(分)	121.5	72.6	80.2	0.8	6.9	75.9	6.7	4.2	0.8	21.8	30.8	35.8	1.0	20.9	0.0	480
	割合	25%	15%	17%	0%	1%	16%	1%	1%	0%	5%	6%	7%	0%	4%	0%	100%



事前調査: n=5
事後調査① n=6
事後調査② n=5

図表 VII-113 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり):
夜(21時00分～翌6時59分)

	時間(分) 割合	直接介護						間接業務						休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	介護計画の作成等	利用者のアセスメント・	介護ロボットのICT機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他				
事前	10.7 2%	63.0 13%	2.0 0%	0.4 0%	0.0 0%	7.6 2%	50.7 11%	32.2 7%	3.5 1%	7.5 2%	3.9 1%	210.9 44%	16.0 3%	70.0 15%	1.6 0%	480 100%			
事後①	18.3 4%	68.0 14%	7.5 2%	0.8 0%	0.0 0%	7.7 2%	25.8 5%	23.7 5%	0.0 0%	20.5 4%	7.0 1%	206.4 43%	18.2 4%	76.0 16%	0.0 0%	480 100%			
事後②	9.3 2%	55.9 12%	5.1 1%	0.0 0%	0.0 0%	3.1 1%	28.9 6%	9.9 2%	0.0 0%	3.9 1%	5.1 1%	252.4 53%	0.8 0%	105.5 22%	0.0 0%	480 100%			



事前調査: n=15
事後調査① n=14
事後調査② n=11

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※過年度比較の2施設については、事前は過年度の事前調査、事後調査①は過年度の事後調査①の結果を使用。

※なお、1施設において実証期間中に不穏対応等の不規則な勤務が継続したため集計から除外している。

(3) 職員向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

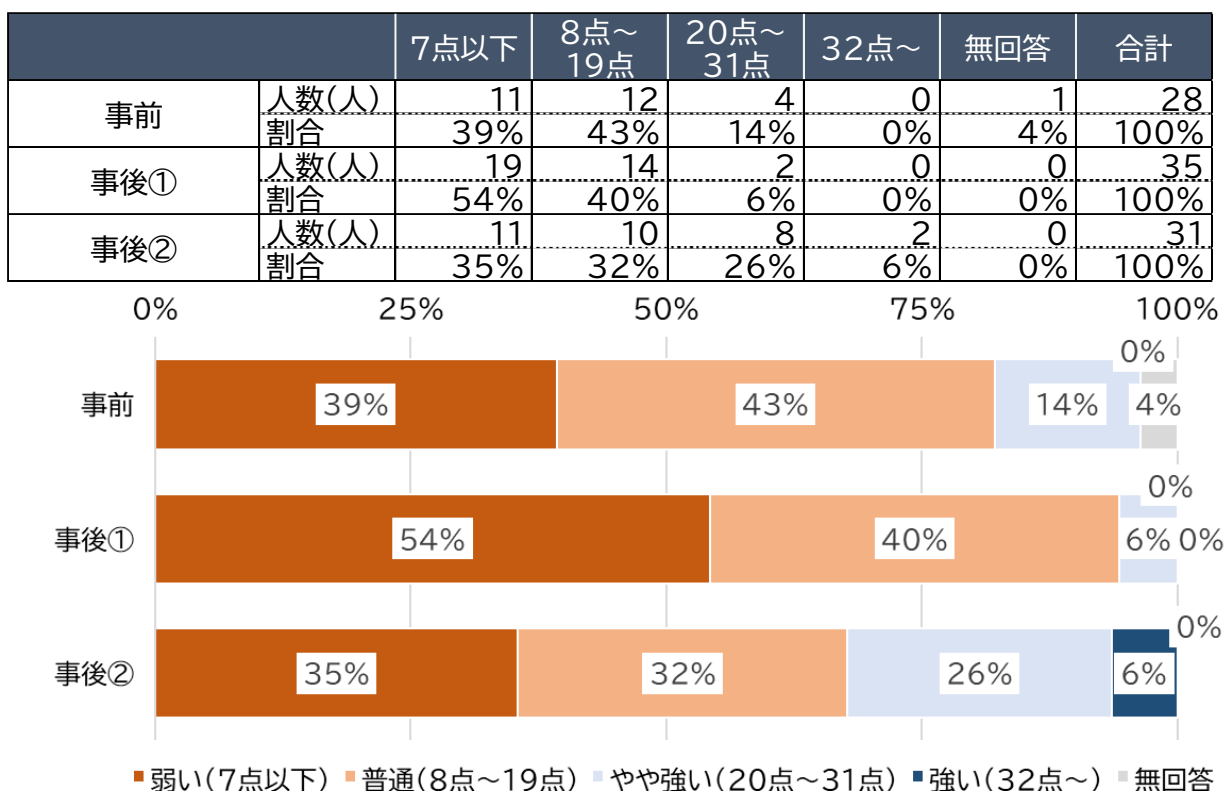
なお、過年度比較の2施設については、事前は過年度の事前調査、事後調査①は過年度の事後調査①の結果を使用しており、今年度調査との職員の一致は判定せず、回答者全員を集計対象としている。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、39%であったのに対し、事後①では54%に増加した。事後②では、ストレス反応が「弱い」割合が35%であり、事前調査と比べ4ポイント減少、事後①と比べ19ポイント減少した。

図表 VII-114 心理的負担評価(SRS-18)



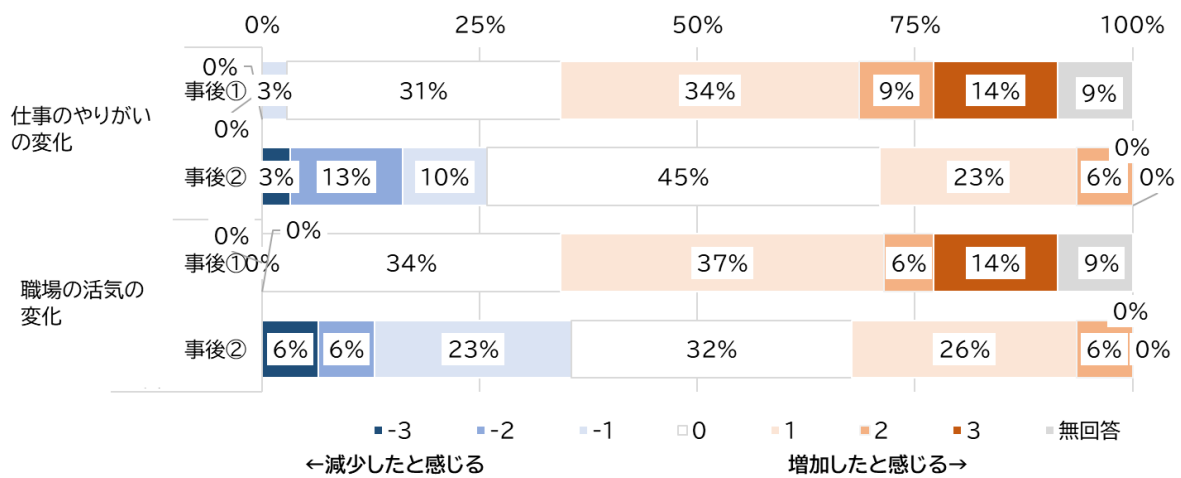
※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VII-115 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	1	11	12	3	5	3	35	
		割合	0%	0%	3%	31%	34%	9%	14%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	1	4	3	14	7	2	0	0	31	
		割合	3%	13%	10%	45%	23%	6%	0%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	12	13	2	5	3	35	
		割合	0%	0%	0%	34%	37%	6%	14%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	2	2	7	10	8	2	0	0	31	
		割合	6%	6%	23%	32%	26%	6%	0%	0%	100%	



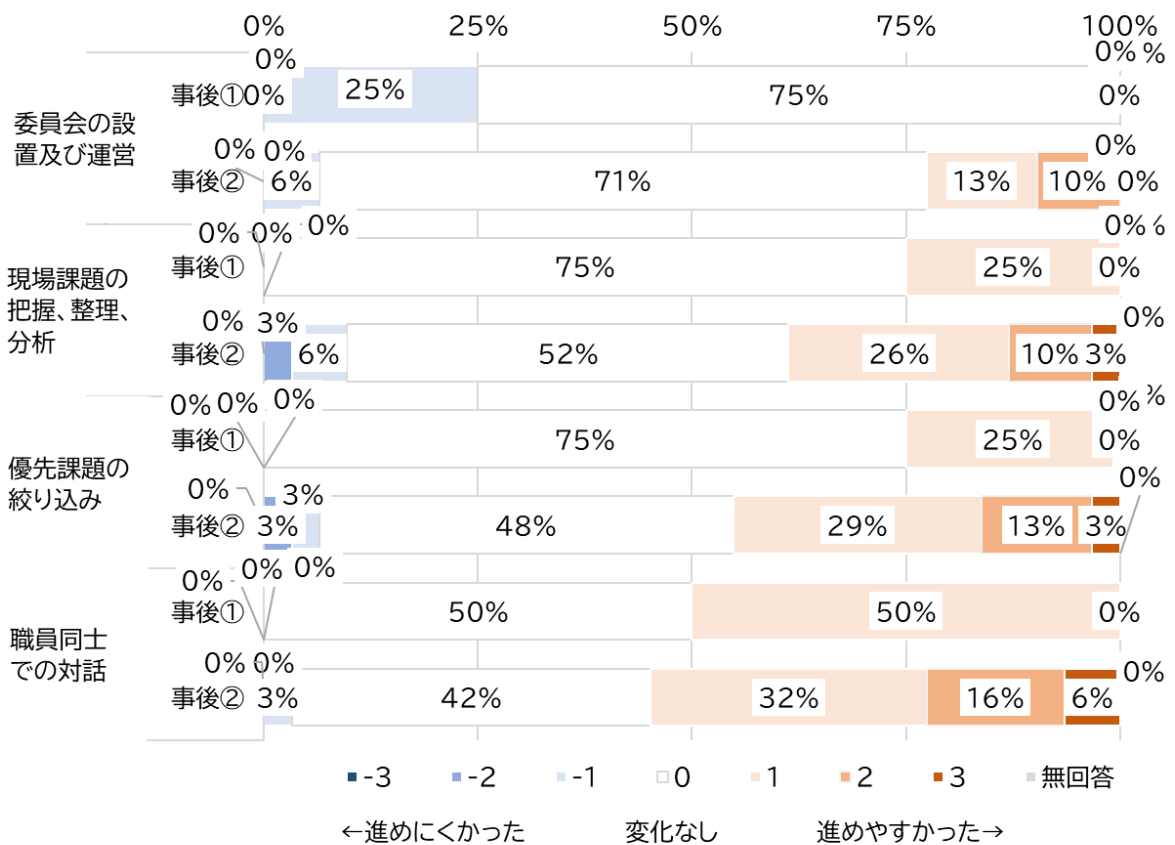
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 生産性向上の取組の進めやすさ

生産性向上の取組の進めやすさの結果は以下の通り。

図表 VII-116 生産性向上の取組の進めやすさ

			←進めにくかった			進めやすかった→				無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
委員会の設置及び運営	事後①	人数(人)	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	25%	75%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	22	4	3	0	0	0	31
		割合	0%	0%	6%	71%	13%	10%	0%	0%	0%	100%
現場課題の把握、整理、分析	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	2	16	8	3	1	0	0	31
		割合	0%	3%	6%	52%	26%	10%	3%	0%	0%	100%
優先課題の絞り込み	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	15	9	4	1	0	0	31
		割合	0%	3%	3%	48%	29%	13%	3%	0%	0%	100%
職員同士での対話	事後①	人数(人)	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	13	10	5	2	0	0	31
		割合	0%	0%	3%	42%	32%	16%	6%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(進めにくかった)~+3(進めやすかった)の7段階で評価した。

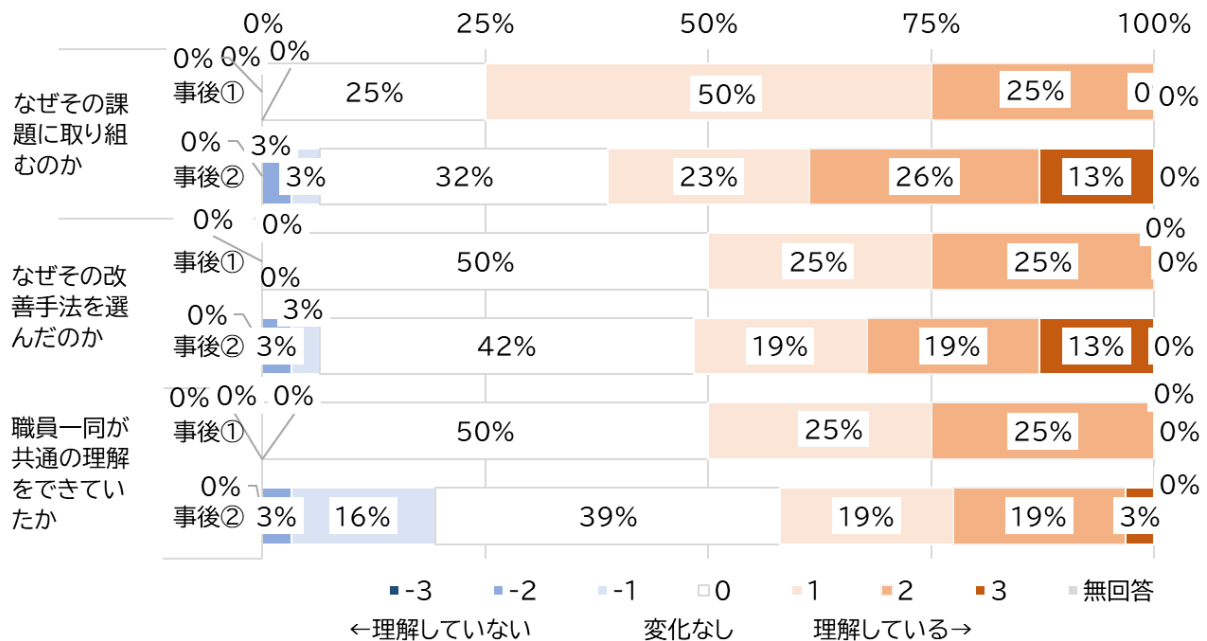
※過年度比較の2施設については、事後②のみ調査を実施

工. 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

生産性向上の取組の対象とした課題への理解に関する結果は以下の通り。

図表 VII-117 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

		←理解していない→							理解している→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
なぜその課題に取り組むのか	事後①	人数(人)	0	0	0	1	2	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	25%	50%	25%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	10	7	8	4	0	31
		割合	0%	3%	3%	32%	23%	26%	13%	0%	100%
なぜその改善手法を選んだのか	事後①	人数(人)	0	0	0	2	1	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	50%	25%	25%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	13	6	6	4	0	31
		割合	0%	3%	3%	42%	19%	19%	13%	0%	100%
職員一同が共通の理解をできていたか	事後①	人数(人)	0	0	0	2	1	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	50%	25%	25%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	5	12	6	6	1	0	31
		割合	0%	3%	16%	39%	19%	19%	3%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(理解していない)～+3(理解している)の7段階で評価した。

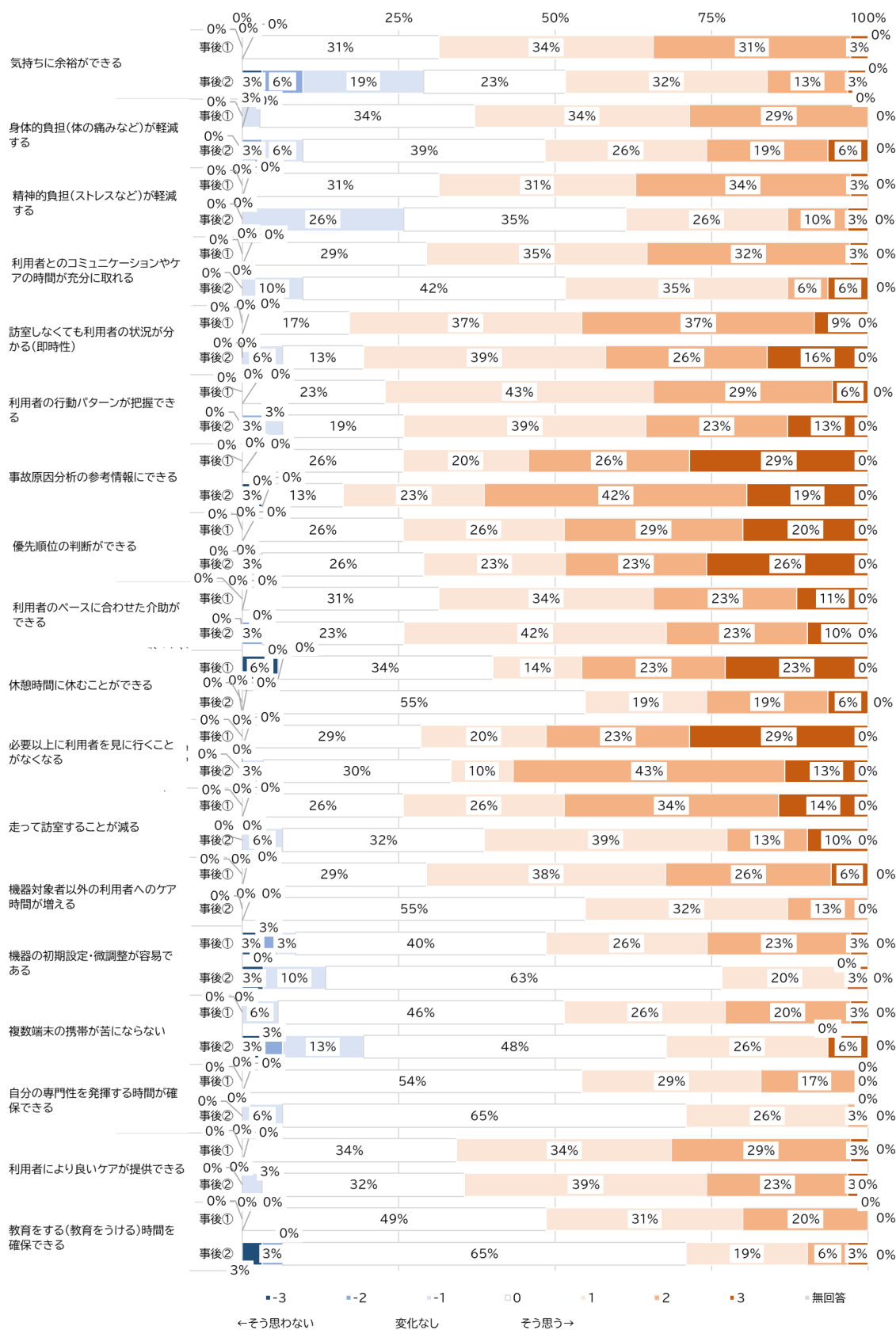
※過年度比較の2施設については、事後②のみ調査を実施

オ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-118 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

			← そう思わない						変化なし			→ そう思う			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3							
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	0	0	0	11	12	11	1	0	0	35				
	割合	0%	0%	0%	31%	34%	31%	3%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	1	2	6	7	10	4	1	0	31					
	割合	3%	6%	19%	23%	32%	13%	3%	0%	100%						
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	1	12	12	10	0	0	35					
	割合	0%	0%	3%	34%	34%	29%	0%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	1	2	12	8	6	2	0	31					
	割合	0%	3%	6%	39%	26%	19%	6%	0%	100%						
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	11	11	12	1	0	35					
	割合	0%	0%	0%	31%	31%	34%	3%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	8	11	8	3	1	0	31					
	割合	0%	0%	26%	35%	26%	10%	3%	0%	100%						
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	0	0	0	10	12	11	1	0	34					
	割合	0%	0%	0%	29%	35%	32%	3%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	3	13	11	2	2	0	31					
	割合	0%	0%	10%	42%	35%	6%	6%	0%	100%						
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	0	0	0	6	13	13	3	0	35					
	割合	0%	0%	0%	17%	37%	37%	9%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	2	4	12	8	5	0	31					
	割合	0%	0%	6%	13%	39%	26%	16%	0%	100%						
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	0	0	8	15	10	2	0	35					
	割合	0%	0%	0%	23%	43%	29%	6%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	1	1	6	12	7	4	0	31					
	割合	0%	3%	3%	19%	39%	23%	13%	0%	100%						
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	0	0	9	7	9	10	0	35					
	割合	0%	0%	0%	26%	20%	26%	29%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	1	0	0	4	7	13	6	0	31					
	割合	3%	0%	0%	13%	23%	42%	19%	0%	100%						
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	0	0	0	9	9	10	7	0	35					
	割合	0%	0%	0%	26%	26%	29%	20%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	1	8	7	7	8	0	31					
	割合	0%	0%	3%	26%	23%	23%	26%	0%	100%						
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	0	0	11	12	8	4	0	35					
	割合	0%	0%	0%	31%	34%	23%	11%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	1	0	7	13	7	3	0	31					
	割合	0%	3%	0%	23%	42%	23%	10%	0%	100%						
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	2	0	0	12	5	8	8	0	35					
	割合	6%	0%	0%	34%	14%	23%	23%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	0	17	6	6	2	0	31					
	割合	0%	0%	0%	55%	19%	19%	6%	0%	100%						
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	0	0	0	10	7	8	10	0	35					
	割合	0%	0%	0%	29%	20%	23%	29%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	1	9	3	13	4	0	30					
	割合	0%	0%	3%	30%	10%	43%	13%	0%	100%						
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	0	0	0	9	9	12	5	0	35					
	割合	0%	0%	0%	26%	26%	34%	14%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	2	10	12	4	3	0	31					
	割合	0%	0%	6%	32%	39%	13%	10%	0%	100%						
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	0	0	0	10	13	9	2	0	34					
	割合	0%	0%	0%	29%	38%	26%	6%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	0	17	10	4	0	0	31					
	割合	0%	0%	0%	55%	32%	13%	0%	0%	100%						
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	1	1	1	14	9	8	1	0	35					
	割合	3%	3%	3%	40%	26%	23%	3%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	1	0	3	19	6	0	1	0	30					
	割合	3%	0%	10%	63%	20%	0%	3%	0%	100%						
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	0	0	2	16	9	7	1	0	35					
	割合	0%	0%	6%	46%	26%	20%	3%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	1	1	4	15	8	0	2	0	31					
	割合	3%	3%	13%	48%	26%	0%	6%	0%	100%						
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	19	10	6	0	0	35					
	割合	0%	0%	0%	54%	29%	17%	0%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	2	20	8	1	0	0	31					
	割合	0%	0%	6%	65%	26%	3%	0%	0%	100%						
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	12	12	10	1	0	35					
	割合	0%	0%	0%	34%	34%	29%	3%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	0	0	1	10	12	7	1	0	31					
	割合	0%	0%	3%	32%	39%	23%	3%	0%	100%						
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	17	11	7	0	0	35					
	割合	0%	0%	0%	49%	31%	20%	0%	0%	100%						
	事後②	人数(人)	1	1	0	20	6	2	1	0	31					
	割合	3%	3%	0%	65%	19%	6%	3%	0%	100%						



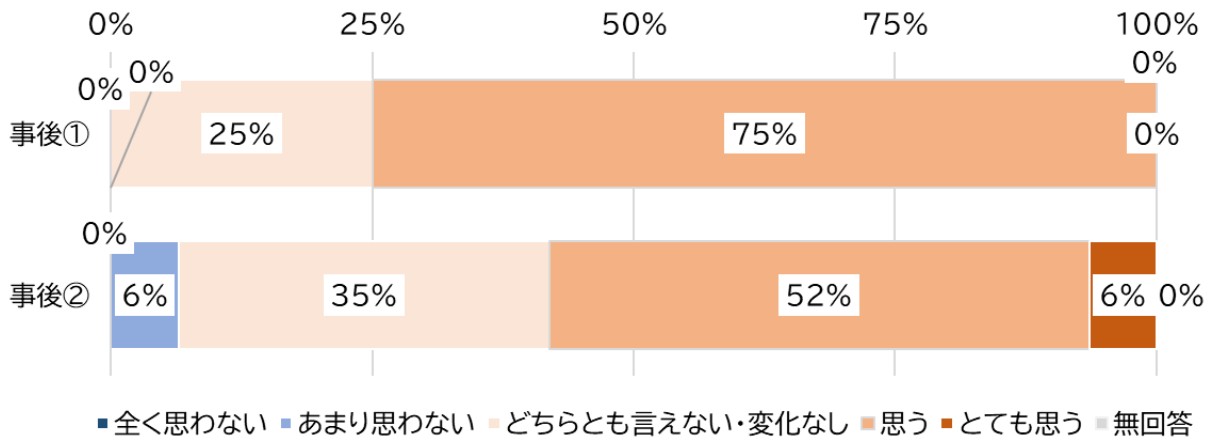
※質問項目に対し、-3(そう思わない)~+3(そう思う)の7段階で評価した。

カ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感に関する結果は以下の通り。

図表 VII-119 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

			全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない・変化なし	思う	とても思う	無回答	合計
働きやすい職場環境の実感を持っている	事後①	人数(人)	0	0	1	3	0	0	4
		割合	0%	0%	25%	75%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	11	16	2	0	31
		割合	0%	6%	35%	52%	6%	0%	100%

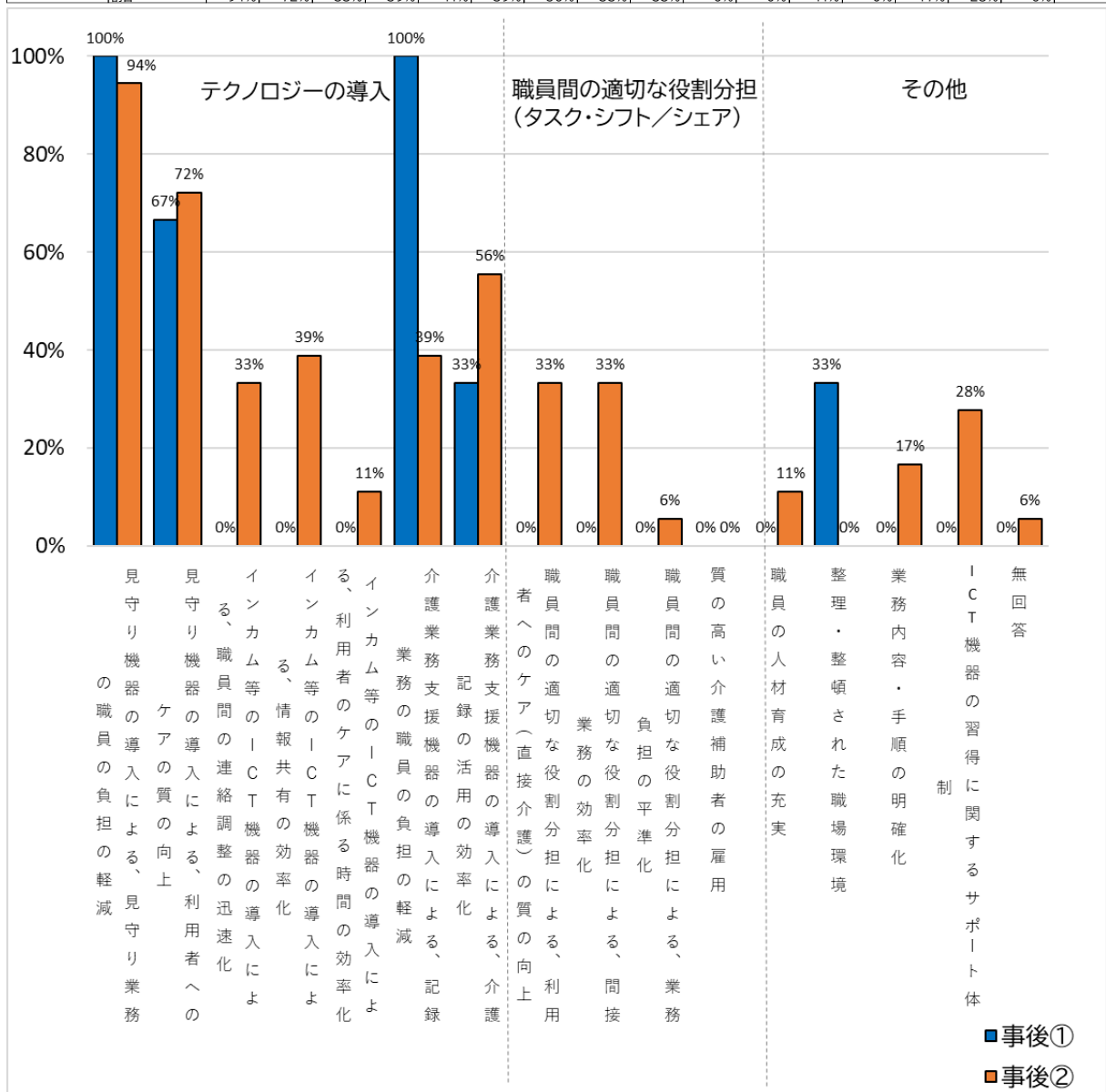


※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

※過年度比較の2施設については、事後②のみ調査を実施

図表 VII-120 「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感を持つことができた要素(5つ)

		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他					無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務の効率化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制						
事後①	人数(人)	3	2	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3			
	割合	100%	67%	0%	0%	0%	100%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	3			
事後②	人数(人)	17	13	6	7	2	7	10	6	6	1	0	2	0	3	5	1	5	1	18			
	割合	94%	72%	33%	39%	11%	39%	56%	33%	33%	6%	0%	11%	0%	17%	28%	6%	6%	6%	18			

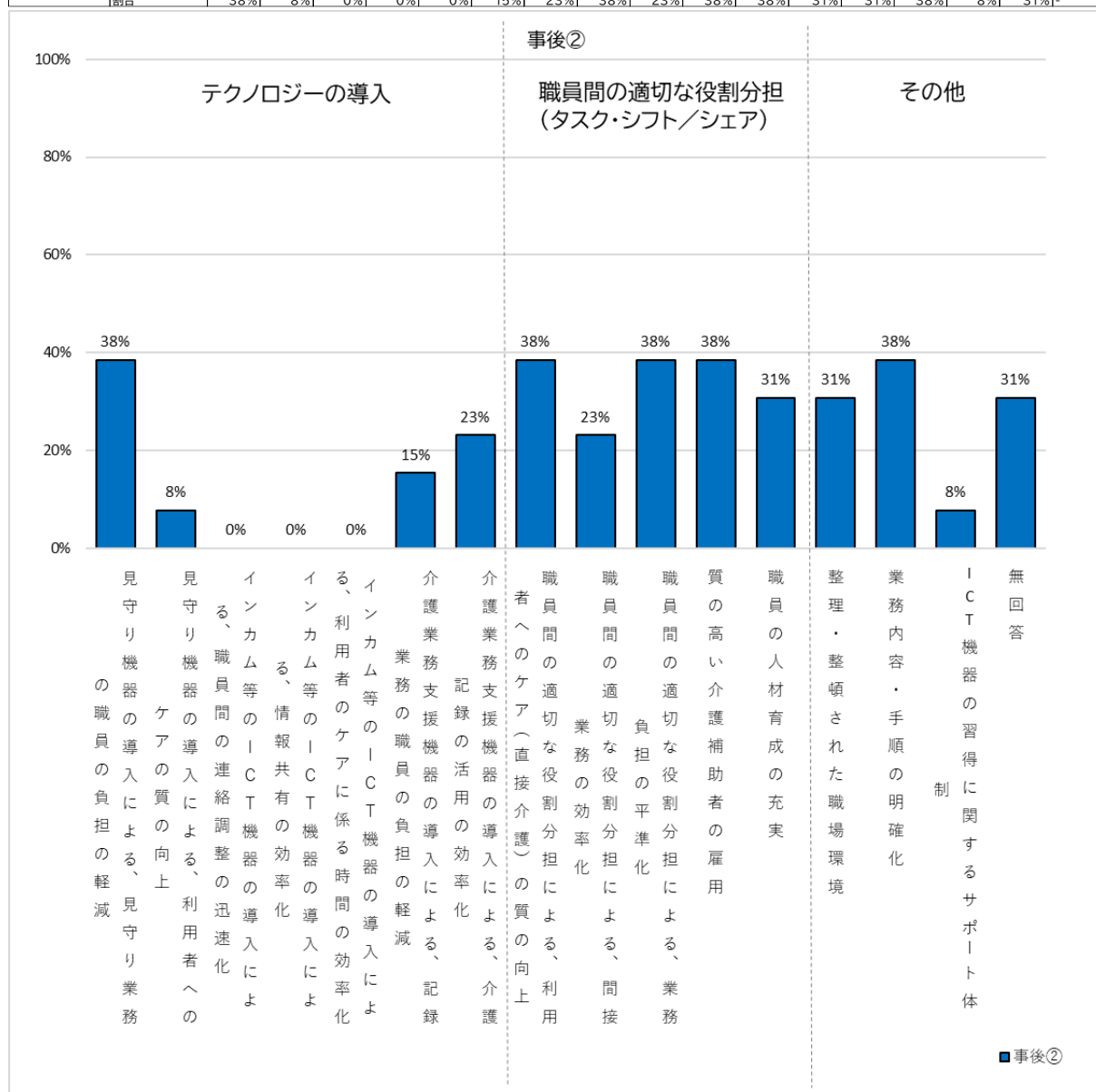


※該当する項目を最大5つ選択する設問。

※過年度比較の2施設については、事後②のみ調査を実施

図表 VII-121 「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ)

	人数(人)	テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他				無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	見守り機器の導入による、職員の業務負担の軽減	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、記録業務の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制					
事後①	人数(人)	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
事後①	割合	100%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	1	0	0	0	2	3	5	3	5	5	4	4	5	4	4	5	1	4	13	
事後②	割合	38%	8%	0%	0%	0%	15%	23%	38%	23%	38%	38%	31%	31%	38%	31%	31%	38%	8%	31%	4	13



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

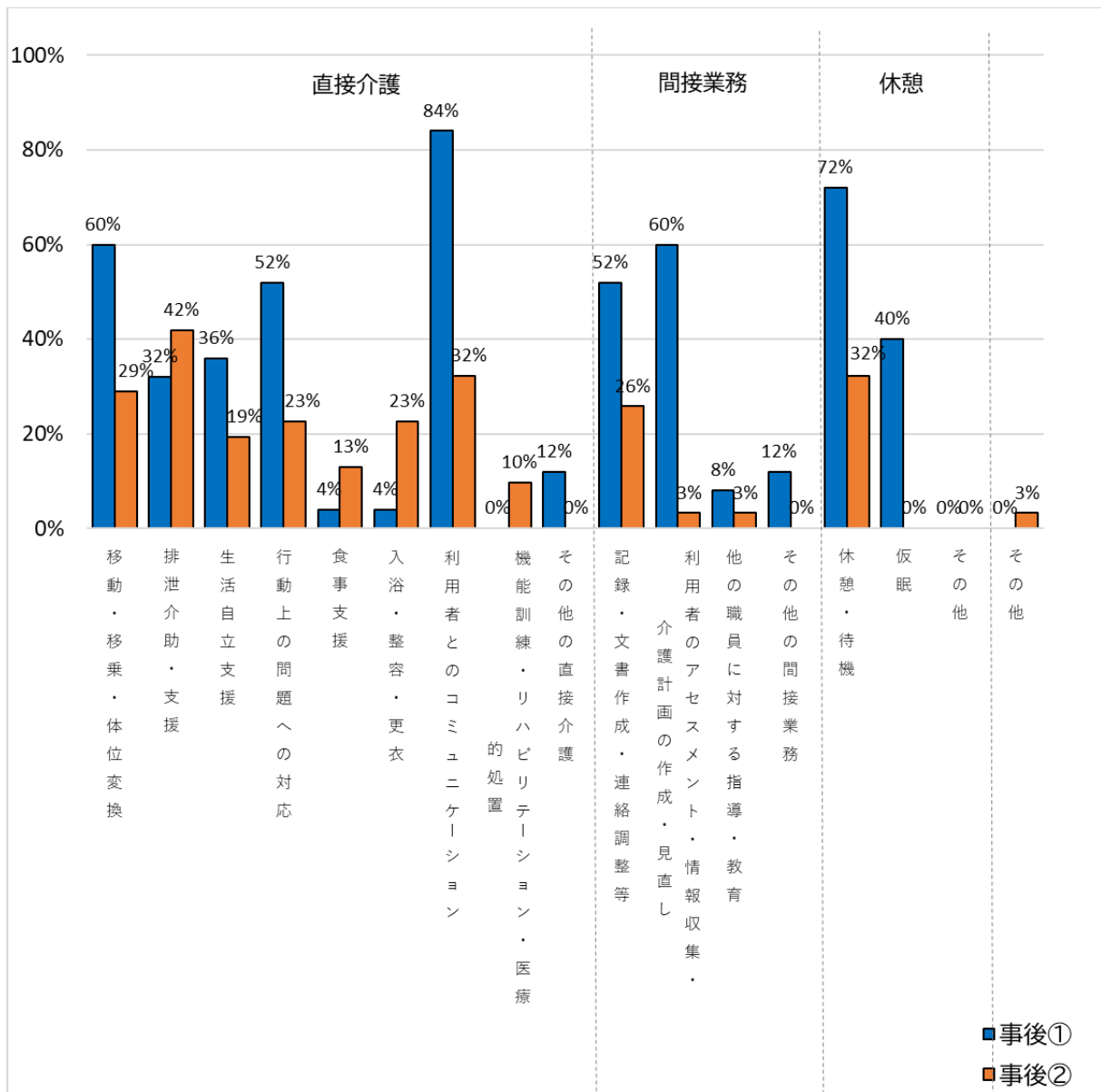
※過年度比較の2施設については、事後②のみ調査を実施

キ. 職員間の適切な役割(タスク・シフト/シェア)導入による効果

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果の結果は以下の通り。

図表 VII-122 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)導入による効果

		直接介護										間接業務				休憩			その他	無回答(人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他				
事後①	人数(人)	15	8	9	13	1	1	21	0	3	13	15	2	3	18	10	0	0	1	25	
	割合	60%	32%	36%	52%	4%	4%	84%	0%	12%	52%	60%	8%	12%	72%	40%	0%	0%	4%	-	
事後②	人数(人)	9	13	6	7	4	7	10	3	0	8	1	1	0	10	0	0	1	3	31	
	割合	29%	42%	19%	23%	13%	23%	32%	10%	0%	26%	3%	3%	0%	32%	0%	0%	3%	10%	-	



※該当する項目をすべて選択する設問。

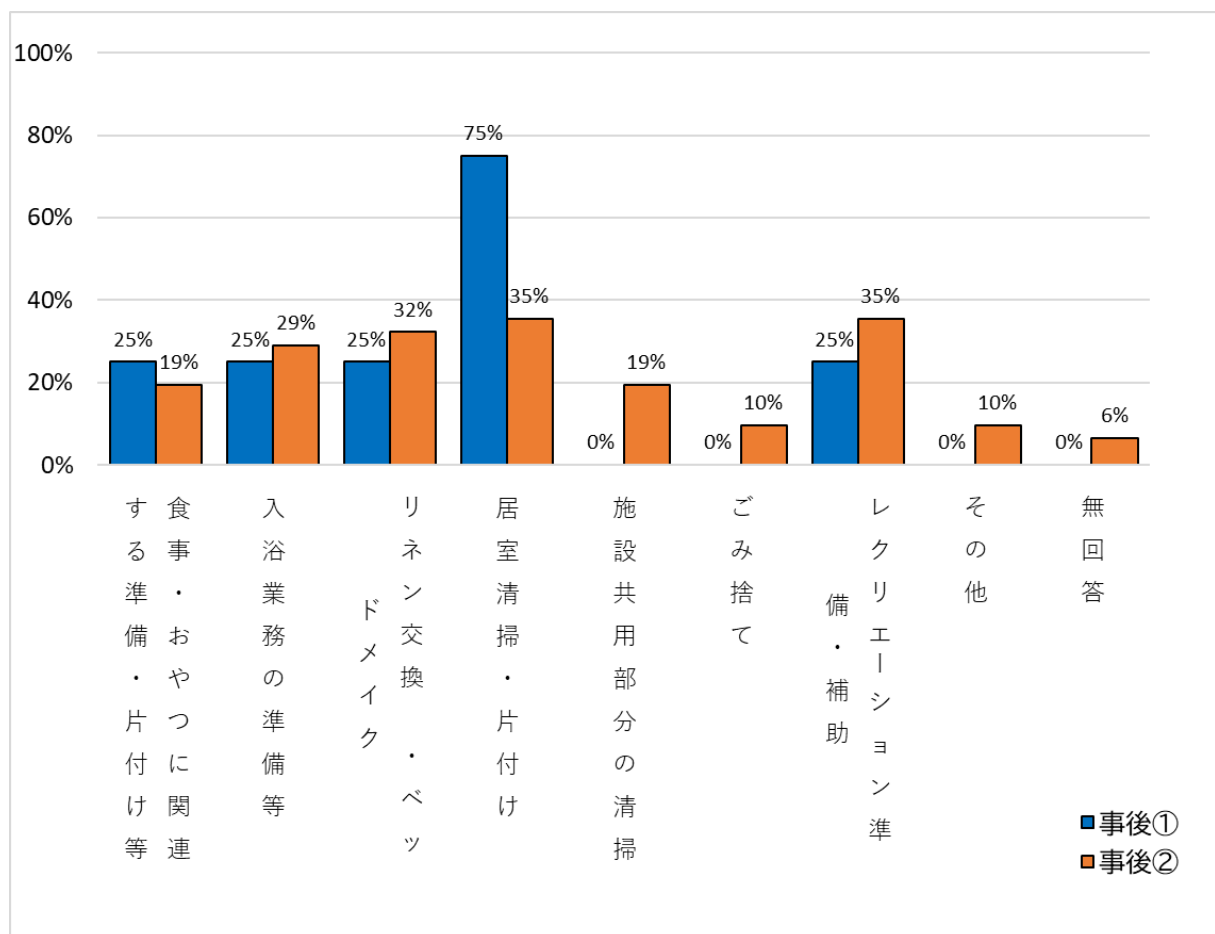
※過年度比較の2施設の1施設については、事後②のみ調査を実施

ク. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務の結果は以下の通り。

図表 VII-123 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	1	1	1	3	0	0	1	0	0	4
	割合	25%	25%	25%	75%	0%	0%	25%	0%	0%	-
事後②	人数(人)	6	9	10	11	6	3	11	3	2	31
	割合	150%	225%	250%	275%	150%	75%	275%	75%	50%	-



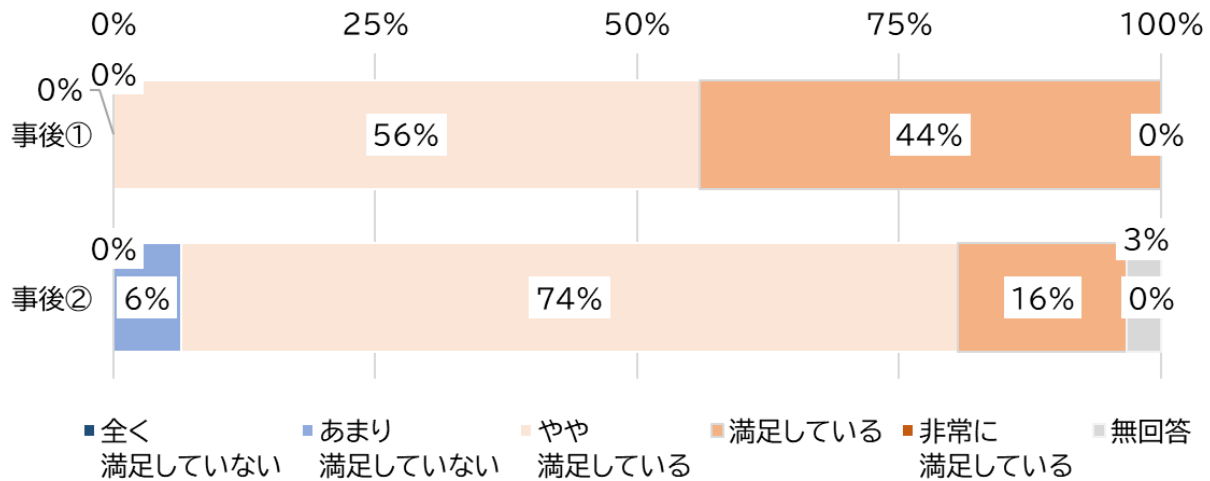
※過年度比較の2施設については、事後②のみ調査を実施

ケ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

図表 VII-124 全体的な満足度評価

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	0	0	14	11	0	0	25
		割合	0%	0%	56%	44%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	23	5	0	1	31
		割合	0%	6%	74%	16%	0%	3%	100%



※過年度比較の2施設のうち1施設については、事後②のみ調査を実施

(4) 利用者向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

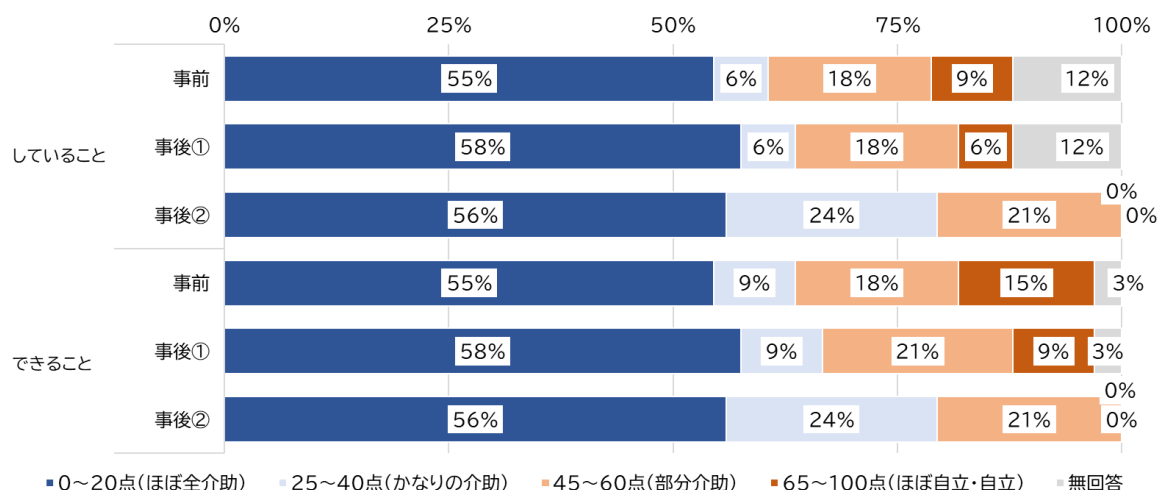
なお、過年度比較の2施設については、事前は過年度の事前調査、事後調査①は過年度の事後調査①の結果を使用しており、今年度調査との職員の一致は判定せず、回答者全員を集計対象としている。

ア. ADLの変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 VII-125 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

		0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計	
していること	事前	人数(人)	18	2	6	3	4	33
		割合	55%	6%	18%	9%	12%	100%
	事後①	人数(人)	19	2	6	2	4	33
		割合	58%	6%	18%	6%	12%	100%
	事後②	人数(人)	19	8	7	0	0	34
		割合	56%	24%	21%	0%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	18	3	6	5	1	33
		割合	55%	9%	18%	15%	3%	100%
	事後①	人数(人)	19	3	7	3	1	33
		割合	58%	9%	21%	9%	3%	100%
	事後②	人数(人)	19	8	7	0	0	34
		割合	56%	24%	21%	0%	0%	100%



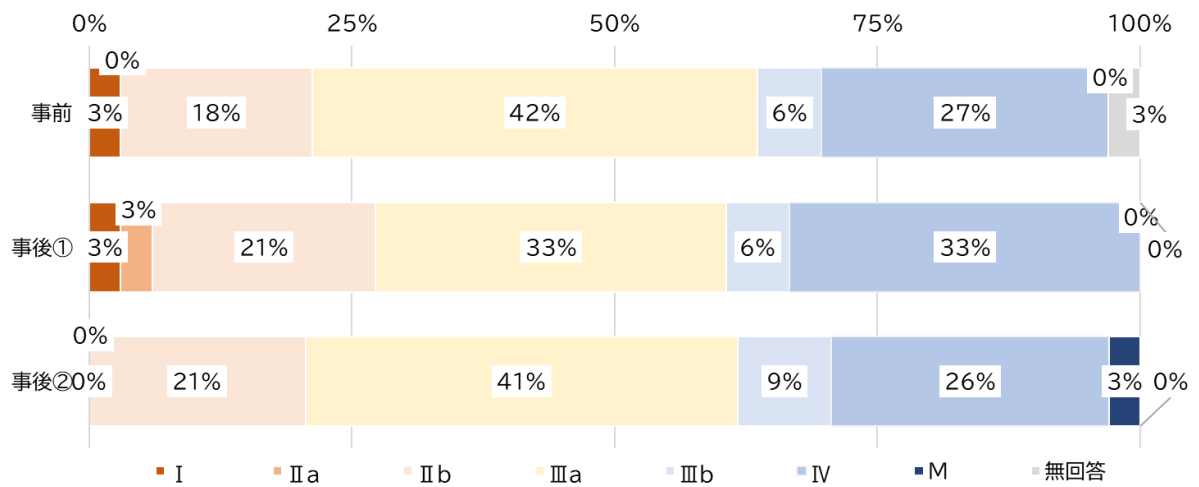
※事前調査または事後調査①・②で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 VII-126 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	1	0	6	14	2	9	0	1	33
	割合	3%	0%	18%	42%	6%	27%	0%	3%	100%
事後①	人数(人)	1	1	7	11	2	11	0	0	33
	割合	3%	3%	21%	33%	6%	33%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	0	7	14	3	9	1	0	34
	割合	0%	0%	21%	41%	9%	26%	3%	0%	100%

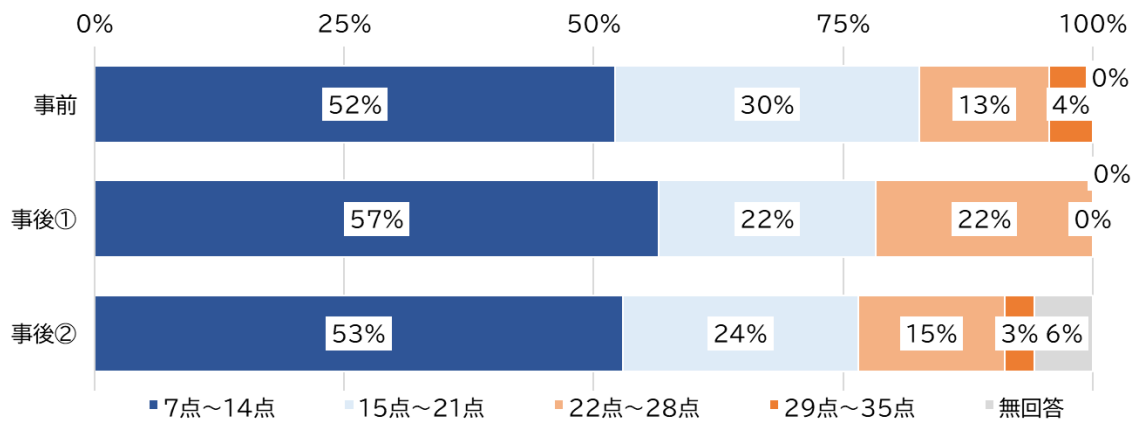


ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VII-127 生活・認知機能尺度

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	12	7	3	1	0	23
	割合	52%	30%	13%	4%	0%	100%
事後①	人数(人)	13	5	5	0	0	23
	割合	57%	22%	22%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	18	8	5	1	2	34
	割合	53%	24%	15%	3%	6%	100%



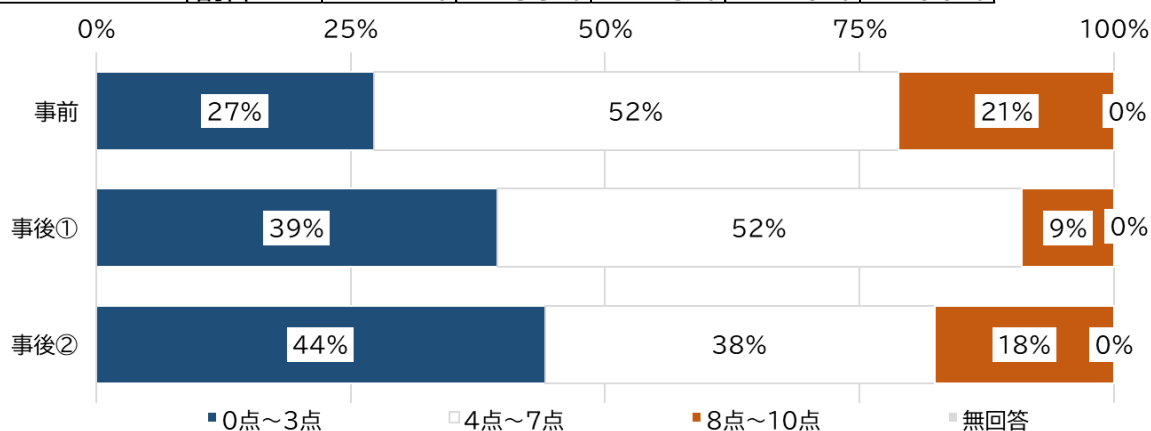
※過年度比較の2施設のうち1施設については、事後②のみ調査を実施

工. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 VII-128 Vitality Index

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	9	17	7	0	33
	割合	27%	52%	21%	0%	100%
事後①	人数(人)	13	17	3	0	33
	割合	39%	52%	9%	0%	100%
事後②	人数(人)	15	13	6	0	34
	割合	44%	38%	18%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

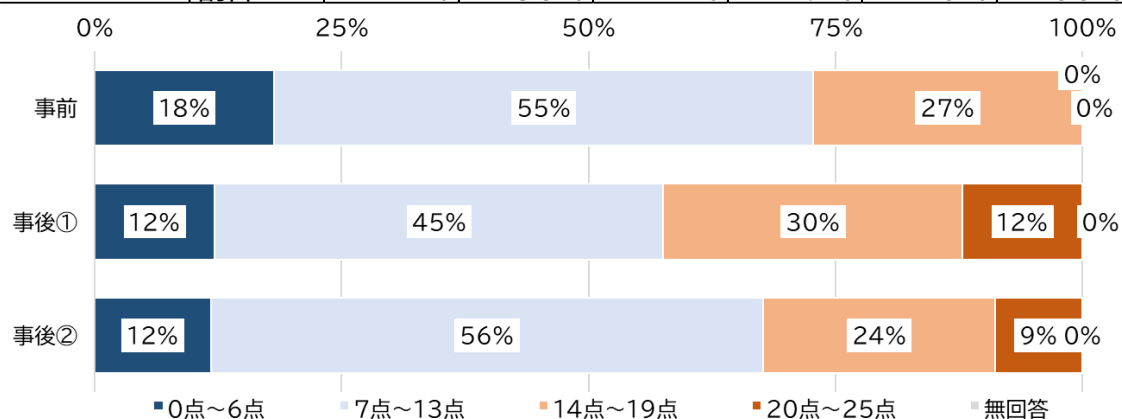
※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOLの変化(WHO-5)

WHO-5の結果は以下の通り。

図表 VII-129 WHO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	6	18	9	0	0	33
	割合	18%	55%	27%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	15	10	4	0	33
	割合	12%	45%	30%	12%	0%	100%
事後②	人数(人)	4	19	8	3	0	34
	割合	12%	56%	24%	9%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5以外の場合は無回答処理をした。

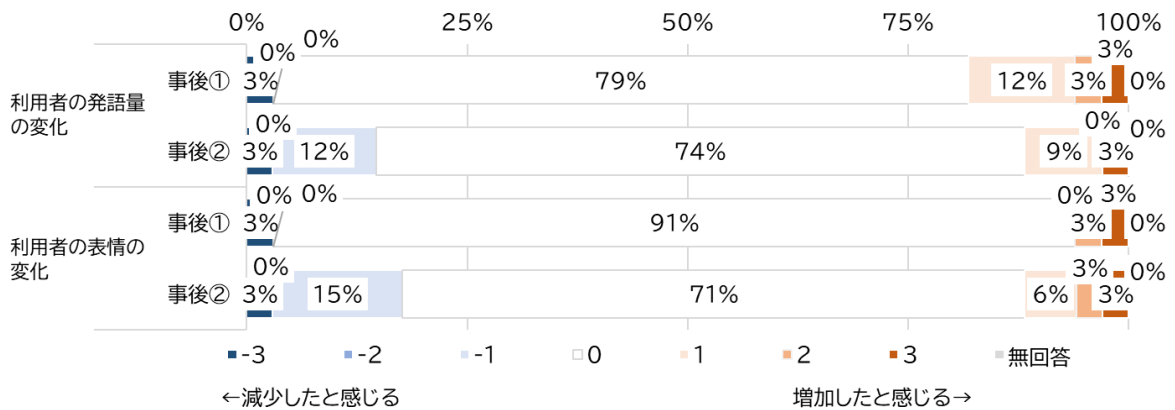
※QOLの変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5項目それぞれに5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VII-130 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる→						増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	26	4	1	1	0	33		
		割合	3%	0%	0%	79%	12%	3%	3%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	4	25	3	0	1	0	34		
		割合	3%	0%	12%	74%	9%	0%	3%	0%	100%		
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	1	0	0	30	0	1	1	0	33		
		割合	3%	0%	0%	91%	0%	3%	3%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	5	24	2	1	1	0	34		
		割合	3%	0%	15%	71%	6%	3%	3%	0%	100%		



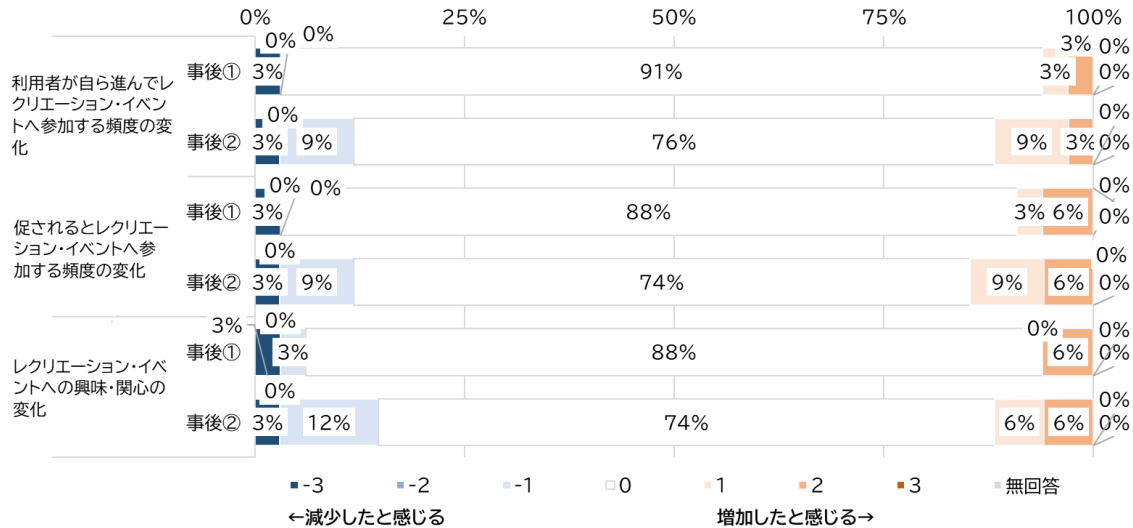
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-131 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	30	1	1	0	0	0	33	
		割合	3%	0%	0%	91%	3%	3%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	3	26	3	1	0	0	34		
		割合	3%	0%	9%	76%	9%	3%	0%	0%	100%		
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	29	1	2	0	0	33		
		割合	3%	0%	0%	88%	3%	6%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	3	25	3	2	0	0	34		
		割合	3%	0%	9%	74%	9%	6%	0%	0%	100%		
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	1	0	1	29	0	2	0	0	33		
		割合	3%	0%	3%	88%	0%	6%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	4	25	2	2	0	0	34		
		割合	3%	0%	12%	74%	6%	6%	0%	0%	100%		



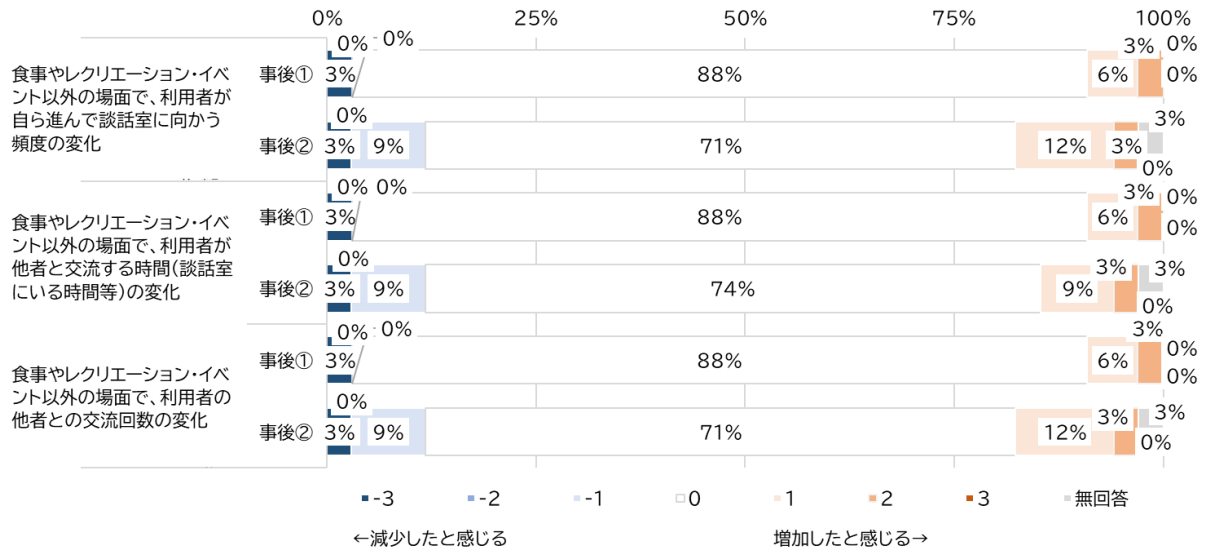
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ク. 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化の結果は以下の通り。

図表 VII-132 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	29	2	1	0	0	33	
		割合	3%	0%	0%	88%	6%	3%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	0	3	24	4	1	0	1	34	
		割合	3%	0%	9%	71%	12%	3%	0%	3%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	29	2	1	0	0	33	
		割合	3%	0%	0%	88%	6%	3%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	0	3	25	3	1	0	1	34	
		割合	3%	0%	9%	74%	9%	3%	0%	3%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	29	2	1	0	0	33	
		割合	3%	0%	0%	88%	6%	3%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	0	3	24	4	1	0	1	34	
		割合	3%	0%	9%	71%	12%	3%	0%	3%	100%	



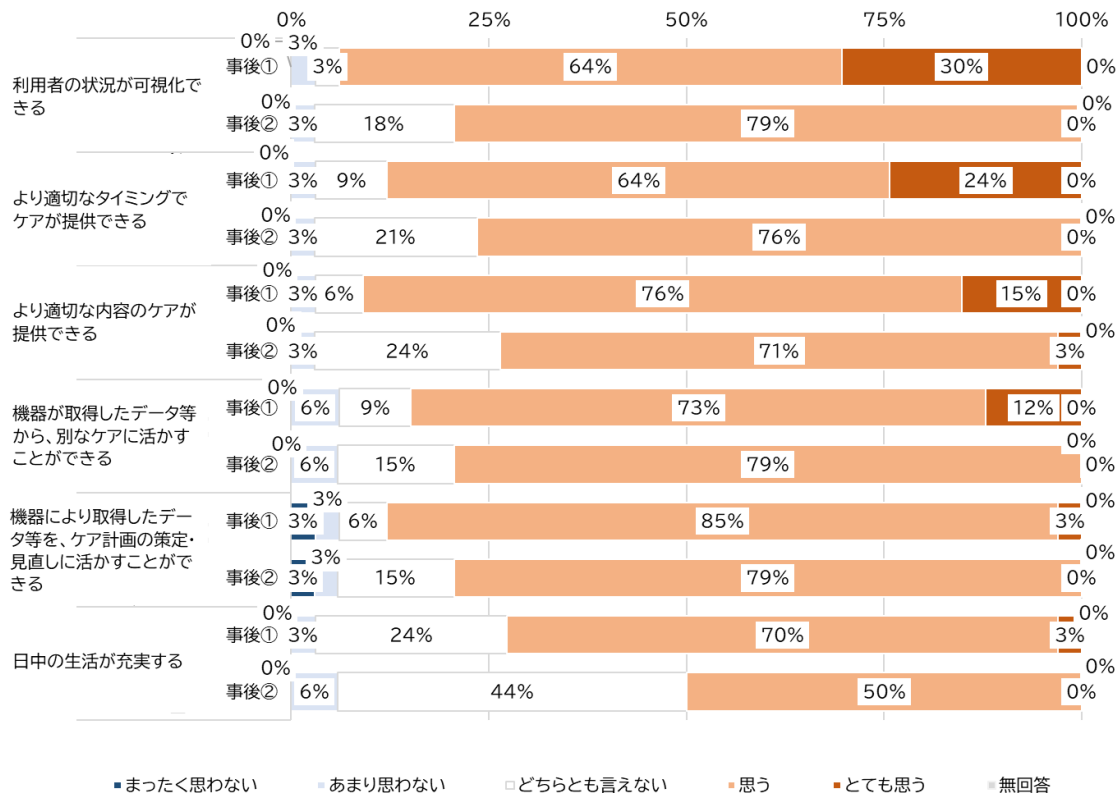
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ケ. ケアの変更

ケアの変更の結果は以下の通り。

図表 VII-133 ケアの変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	1 3%	21 64%	10 30%	0 0%	33 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	6 18%	27 79%	0 0%	0 0%	34 100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	3 9%	21 64%	8 24%	0 0%	33 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	7 21%	26 76%	0 0%	0 0%	34 100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	2 6%	25 76%	5 15%	0 0%	33 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	8 24%	24 71%	1 3%	0 0%	34 100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	3 9%	24 73%	4 12%	0 0%	33 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	5 15%	27 79%	0 0%	0 0%	34 100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	1 3%	1 3%	2 6%	28 85%	1 3%	0 0%	33 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	1 3%	5 15%	27 79%	0 0%	0 0%	34 100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	8 24%	23 70%	1 3%	0 0%	33 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	15 44%	17 50%	0 0%	0 0%	34 100%



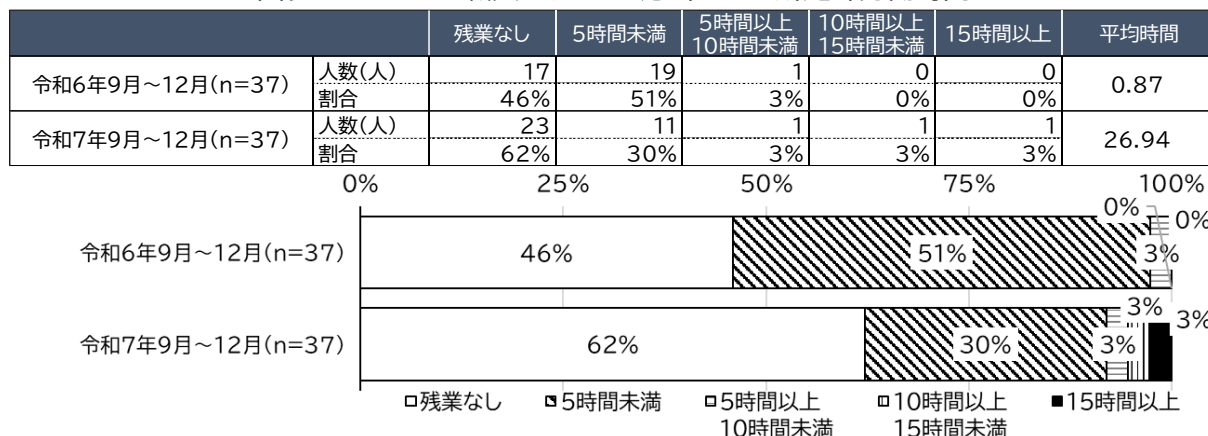
※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

(5) 業務時間等調査結果

ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 VII-134 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

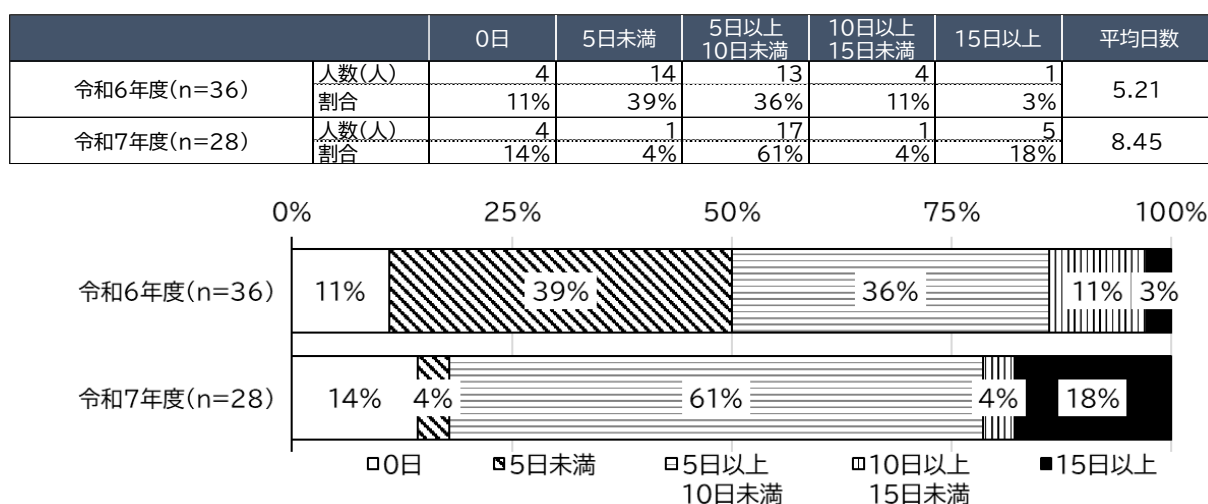


イ. 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 VII-135 有給休暇の取得状況の変化

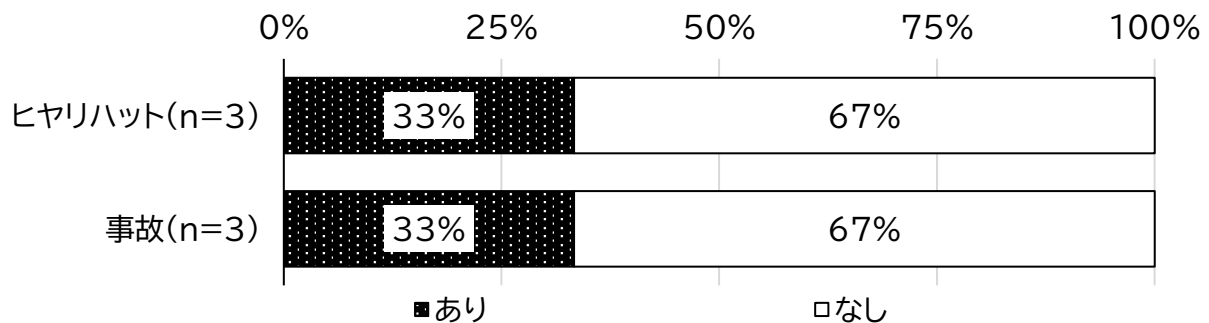


ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 VII-136 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無

		あり	なし
ヒヤリハット	施設数(件)	1	2
	割合	33%	67%
事故	施設数(件)	1	2
	割合	33%	67%



図表 VII-137 実証期間中のヒヤリハットの内容・再発防止策

内容	再発防止策
10月中旬より SPO2 低値増加のエビデンスあり。主治医へ報告すると心不全と診断され入院となった。	安診ネットのエビデンスによって早急な対応ができた。今後も安診ネットを活用する。
血圧低下、SPO2 低値のアラート・エビデンスあり。緊急搬送を行い心不全・腎盂腎炎と診断され入院となった。	安診ネットのアラート・エビデンスによって早急な対応ができた。今後も安診ネットを活用する。
バイタル測定をすると発熱されており肋骨部の痛みを訴えられた。早急に整形受診した結果、骨折と診断。	高齢にて骨がもろく折れやすいとのこと。誘導歩行の際には必ず手すり側ではなく反対の通路側に職員が寄り添い転倒しそうな場合は必ず受け止められるようにする。
居室にて転倒された際、腕を床につきその後発熱と上肢の痛みと腫脹を確認した。病院受診すると上肢骨折と診断(手術なし温存治療)。	夜間居室内で動かれる時は必ず電気をつけていただくように説明した。

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 VII-138 実証の結果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
養護老人ホーム吾妻荘	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>不穩の利用者の排泄介助に時間を要してしまい、調査結果に歪みが生じてしまった。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 心理的な負担が大きい方が2名いるが、実証調査は起因しておらず、施設内での役割の変更が要因であると推測される。 ● モチベーションの変化について、導入してから1年経過して慣れているので、変化の0の基準が変わっていると思う。最初は、業務の変化が大きく効果が感じやすかったのではないか。 ● 使い方に慣れてきたことで、記入する内容をさらに考えることに負荷がかかり、モチベーションが低下している人がいるかもしれない。
特別養護老人ホームサングリーンアネモス	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 見守りカメラを確認して問題なければ訪室しなくても良いとの意見もあったが、実際には訪室するケースもあった。<u>訪室しなくてよさそうな利用者に対してはカメラ・バイタル観測等を活用した見守りで対応したことで、総じて訪室回数は減っており、業務が効率化されている。</u>
	全体	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>実証については良い結果で安心している。定期的に効果測定は必要である。特に夜間で職員数が少ない場合は必要である。今回の実証を通じて職員の負担が減っていることも確認でき、我々にとっても有意義である。</u>
特別養護老人ホーム悠久荘	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前は手書きがほとんどであった。機器を活用した入力となり年配の職員は思う通りにできず大変であったが、定型文の活用等、慣れると業務時間削減に繋がった。一般的に<u>記録業務は2-3割を占めると祝えるが、大きく削減され直接介護に時間を割けられた。</u>
	職員アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 機器には慣れてきているが使い方は模索している。特にインカムはもともと導入しており、職員が使いや

施設名	カテゴリ	主なご意見
		すくかつ性能を活かせるように、使用場面を細かく取り決めている段階である。

- ② オペレーション変更で掲げた生産性向上の取組の実施に係る目的・方針の達成状況について

図表 VII-139 オペレーション変更で掲げた生産性向上の取組の実施に係る目的・方針の達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
養護老人ホーム吾妻荘	職員	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理システムについては今後も使っていきたい、学んでいきたいといった前向きな意見が多い。
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> 申し送り機能があるため、情報伝達を正確にもれなくできるようになり、情報をキャッチアップしてケアに繋げるスピード感が以前より確実に早くなったことで、ケアの質が向上しているのではないかと。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化に繋がっており、導入目的は達成している。 特定施設に切り替わったことによってなくなった業務、新しく増えた業務があるため、業務負担軽減についてあまり実感がわいていないかもしれない。 日々の業務改善についてやり切ったという意識はなく、日々前を見てよくしていこうと考えているため、現状に満足しておらず伸びしろがあるのではないかと。
特別養護老人ホームサングリーンアネモス	職員	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理システムと見守り機器を連携させることで、バイタルを視覚的に確認でき、看護職や介護職員も分かりやすく好評である。 情報管理システムによって記録が電子化され、いつでも、どこでも、だれでも記録が確認できる。記録も集約化され、嘱託医師からの質問にも対応しやすい。職員もタブレットや PC より必要な情報を入力する、申し送り事項の確認する習慣ができています。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 急な受診も含めて受診の際には日頃の情報を出力して医療機関にすぐ報告できる。協力病院の先生も分かりやすいとの意見である。 データをみて看護師で話し合う機会もある。
特別養護老人ホーム	職員	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器について以前は画面表示されたものを活用

施設名	カテゴリ	主なご意見
ム悠久荘		<p>していたが、現在は利用者の睡眠状態把握機能や起き上がり感知機能も活用。昼夜逆転の傾向があれば離床時間を増やすなどの工夫をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安診ネット導入によって利用者の1日の状況をタブレット1台で把握できるのは便利である。他の媒体を確認する必要がなく、効率化された。 情報管理システムに関しては、排泄、食事の細かい入力ルールを取り決めをしているが、入浴については未対応である。将来的には情報をシステム内に一元化して医師への共有等にも活用したい。
	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上の委員会を毎月実施し、記録業務の細かい取り決めをしている状況である

③ 生産性向上の実現の好事例とその内容について

図表 VII-140 生産性向上の実現の好事例とその内容について

施設名	カテゴリ	主なご意見
養護老人ホーム吾妻荘	好事例	<ul style="list-style-type: none"> <u>記録時間を減らし、情報共有がスピーディーかつ正確である。</u> <u>入居者の情報が一齐に申し送られるため、担当外の利用者の情報も含めて全体を見ることができる。</u> <u>情報の持ち出しができるため、診察室等で見せることで医師に正確な情報の提供できる。</u> <u>救急搬送の減少効果について、異変に早く気づくことができるため、状態に合わせて迅速に行動ができている。そのため、診察の遅れ、搬送の遅れがなくなっている。(急変する前に診察可能であり、平日発見が遅れて土日の時間外に医療機関にかかることが減った。)</u>
	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> まだ・情報管理システムに入っていない情報があるため、蓄積させる情報を増やしていきたい。
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> <u>まずは加算(Ⅱ)を算定し、追って加算(Ⅰ)も目指していきたい。</u>
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> <u>機器があることによるメリットを伝えられるため、新規採用の方への安心材料になっている。</u>
特別養護老人ホームサングリーンアネ	好事例	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理システムと見守り機器を連携することで情報が重層化され、現場でも情報をもとに総合的な判

施設名	カテゴリ	主なご意見
モス		断ができる。外国人職員も増えてきているので、分かりやすいものが求められる。日本語の習熟度が違う外国人も色でトリアージが分かることはありがたい。
	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 蓄積された情報を、ケアプランや利用者や利用者の過ごし方にどう反映するかを今後の検討していきたい。
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> <u>現在は加算(Ⅰ)算定に向けた準備を実施中。</u>
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> <u>夜勤職員が訪室のために走り回ることはなく、カメラやバイタル測定を活用しデータを見ながら判断できる。職員も落ち着いて対応でき、利用者の安眠を妨げない仕組みができています。この状態を保っていく必要がある。職員から夜勤が負担・減らして欲しいといった要望も直近数年間はない。</u> <u>夜勤時間・日勤時間を合わせると労働時間は減少している印象。別の職員のフォローで超過勤務するケースはあるが、通常の日勤のオペレーションでは残業時間はない。</u>
特別養護老人ホーム悠久荘	好事例	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理システムを含め、機器を使いこなすまでは大変であるが、活用することで業務時間の削減につながる。
	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況をまとめて記録するではなく、オンタイムで小まめに記録(入力)できるようにしたい。
	生産性向上推進体制加算	<ul style="list-style-type: none"> <u>2026年1月より加算(Ⅰ)を算定開始。</u>
	経営面の効果	<ul style="list-style-type: none"> <u>以前は残業があったが、最近では残業は殆どなくなっている。</u>

④ 生産性向上の取組において、うまくいかなかったこと、課題、失敗談について

図表 VII-141 生産性向上の取組において、うまくいかなかったこと、課題、失敗談について

施設名	カテゴリ	主なご意見
養護老人ホーム吾妻荘	課題	<ul style="list-style-type: none"> 現時点の課題ではないが、導入時において、上長の熱量と現場の熱量が異なるため、近くで見ていると、現場での意見が上がってこなかった点があった。振り返ると、運用が確立するまで、上長が積極的に介入すべきであったと考える。困っていることがあった

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<p>場合要望を出してほしい旨を伝えていたが、問題を軽視してしまい、現場任せで動いていただくのは難しいように思った。</p>
<p>特別養護老人ホームサングリーンアネモス</p>	<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • タイムスタディ調査調の仕方。職員より業務と調査項目の対応について質問があった。生産性向上のプロジェクトと他職員でタイムスタディ調査の項目と業務の照らし合わせのうえ、取り決める。
<p>特別養護老人ホーム悠久荘</p>	<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • タイムスタディ調査の方法について、職員より業務内容と調査項目の対応について質問があった。今後は、生産性向上のプロジェクトにおいて、タイムスタディ調査の項目と業務内容を照らし合わせた上で、取り決めたしたい。

VIII. 実証結果:①-3 夜間見守り

1. 実証概要

(1) 実証目的

夜間の人員配置の変更も視野に入れ、見守り機器を全床導入することにより、ケアの質の確保及び、職員の負担軽減が可能かを実証することを目的とした。施設サービス別の調査方針を示す。

図表 VIII-1 施設サービス別調査方針

サービス	方策	論点
介護老人福祉施設	ユニット型で全床見守り機器を導入した場合の人員配置基準緩和	<ul style="list-style-type: none"> • R6 までに計 8 施設にて調査実施し、「職員 1 人あたりの対応可能な利用者数の増加割合」として 126.7%(配置を 2 名から、1.6 名へ緩和要件満足)との結果 • R7 調査では、調査データ信頼性向上のための N 数追加し実証実施
介護老人保健施設	夜勤職員配置加算の要件緩和	<ul style="list-style-type: none"> • R5 で十分な結果がでなかった(ベースラインがもともと効率化されていたため)ため見送りの背景。改めて調査して成果が出ることを検討。 • 一方で、老健の夜勤職員配置加算の算定率は 87.5%であり、要件緩和による影響が大きいと想定。
認知症対応型共同生活介護	見守り機器を全床導入した場合の夜勤配置者の職員負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> • 見守り機器を全床に導入し、ケアの質を維持しながら職員の負担軽減が可能かを実証する。 • 特に見守り機器を活用することにより、複数のユニットの見守りを行うことで、夜勤者が交代して所定の休憩時間を連続して取得することが可能か検証することを目指し、調査を実施する。

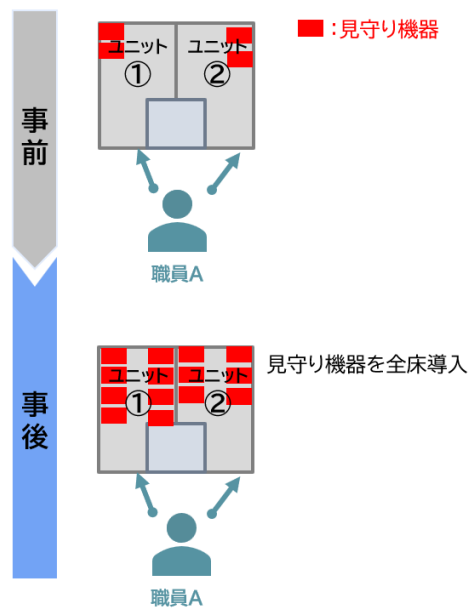
介護老人福祉施設

介護老人福祉施設において、以下の通り、人員配置基準緩和を達成するデータ取得を目的とし、調査を実施した。

図表 VIII-2 介護老人福祉施設の調査概要

実証目的	人員配置基準緩和を達成するデータを取得
仮説	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器を全床に導入し、職員1名あたりが対応する利用者数が増加しても、職員の負担は変化しない(あるいは減少する)。 見守り機器を全床に導入し、利用者あたりの職員数が減少しても、利用者が受ける介護の質は変化しない。 (特養の従来型では上記の傾向あり、ユニット型でも同様であるという仮説に基づく)
対象施設	2 施設
評価項目	<p>■職員</p> <p>職員の直接介護と巡回・移動の合計時間</p> <p>職員 1 人あたりに対応可能な利用者数</p> <p>職員の心理的負担</p> <p>職員のモチベーション</p> <p>職員の業務の質</p> <p>■利用者</p> <p>利用者の ADL/認知機能</p> <p>利用者の意欲</p>
アウトプット	職員 1 人あたりの対応可能な利用者数割合の事前と事後②での増加率

図表 VIII-3 介護老人福祉施設の調査イメージ



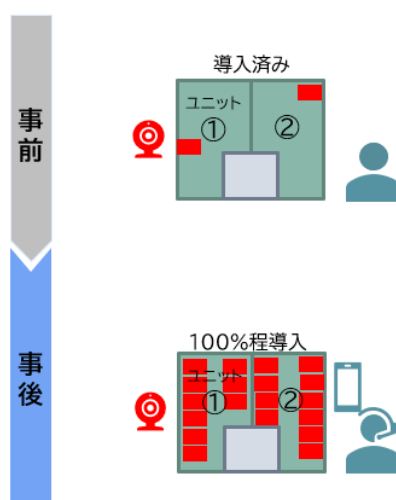
介護老人保健施設

介護老人保健施設において、以下の通り、人員配置基準緩和を達成するデータ取得を目的とし、調査を実施した。

図表 VIII-4 介護老人保健施設の調査概要

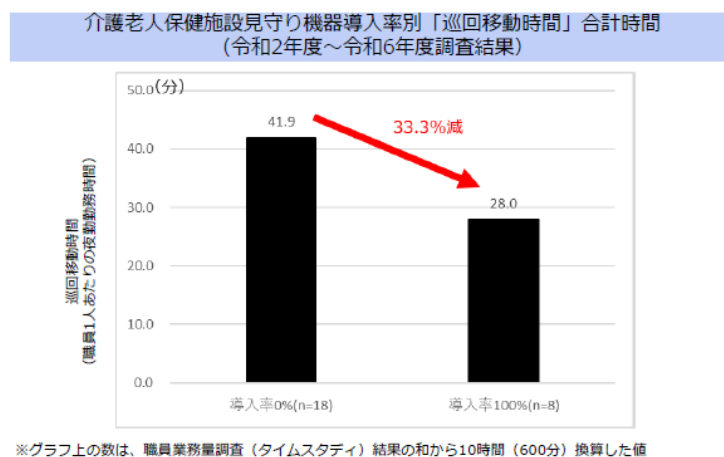
実証目的	加算(夜勤職員配置加算等)対象となる夜間職員配置を減少させるためのエビデンス取得(100%導入時)する。そのために、過年度実証結果の精度を高めるため、3施設(n=3)において全床導入(または機器導入率100%の追加導入)での調査を実施する。
仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り機器の導入率が増加すると、職員の負担、及び巡回移動時間は減少する。(介護の質も変化しない) ・(特養では上記の傾向あり、老健でも同様であるという仮説に基づく)
対象施設	3施設
評価項目	<p>■職員</p> <p>職員の直接介護と巡回・移動の合計時間 職員1人当たりに対応可能な利用者数 職員の心理的負担 職員のモチベーション 職員の業務の質</p> <p>■利用者</p> <p>利用者のADL/認知機能 利用者の意欲</p>
アウトプット	「機器導入率」と「直接介護時間・巡回移動時間」のプロット図における100%導入時の上記時間減少率

図表 VIII-5 介護老人保健施設の調査イメージ



介護老人保健施設(加算)過年度実証結果として、見守り機器を100%導入した場合、見守り機器を導入していない場合と比較して、巡回移動時間は、33.3%減少した。一方、機器導入率が60%以上の場合の「直接介護」+「巡回移動時間」合計時間のデータが少ないことがわかっている。過年度実証結果の精度を高めるため、3施設(n=3)において全床導入(または機器導入率100%の追加導入)での調査を実施する。

図表 VIII-6 介護老人保健施設過年度実証結果



認知症対応型共同生活介護

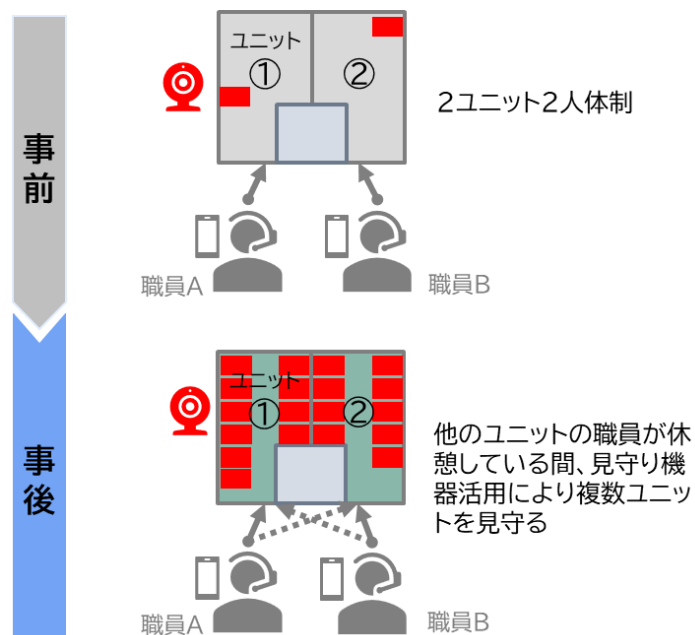
認知症対応型共同生活介護において、以下の通り、夜勤配置者の職員負担の軽減を達成するデータ取得を目的とし、調査を実施した。

図表 VIII-7 認知症対応型共同生活介護の調査概要

実証目的	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器を全床に導入し、ケアの質を維持しながら職員の負担軽減。 特に機器活用により、複数のユニットの見守りを行うことで、夜勤者が交代して所定の休憩時間を連続して取得することが可能か検証することを旨とする。
仮説	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器を(全床に)導入し、利用者あたりの職員数が減少しても、利用者が受ける介護の質は変化しない。 連続した休憩時間を取得することで職員の負担軽減・モチベーションの増加。
対象施設	5 事業所
評価項目	<p>■職員</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の直接介護と巡回・移動の合計時間 職員の休憩時間の取得状況 職員の心理的負担 職員のモチベーション/業務の質

	■利用者 <ul style="list-style-type: none"> • 利用者の ADL／認知機能／意欲
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> • 訪室の適正化による巡回・移動の減少。 • 休憩時間の確保による負担軽減・モチベーション増加

図表 VIII-8 認知症対応型共同生活介護の調査イメージ



図表 VIII-9 以下に示す通り、認知症対応型共同生活介護の夜勤者は、担当のユニットを 1 人で対応する必要があるため、所定の休憩時間(労働時間 6 時間超:45 分以上、8 時間超:1 時間以上)を取得することが出来ているが、担当するユニット内の利用者対応のため中断されることがあるため、連続して取得することが難しい場合がある。

本実証においては、職員の負担軽減のうち、特に見守り機器を活用することにより、複数のユニットの見守りを行うことで、夜勤者が交代して所定の休憩時間を連続して取得することが可能か検証することを目指す。

図表 VIII-9 認知症対応型共同生活介護における休憩時間の所得に関する調査イメージ



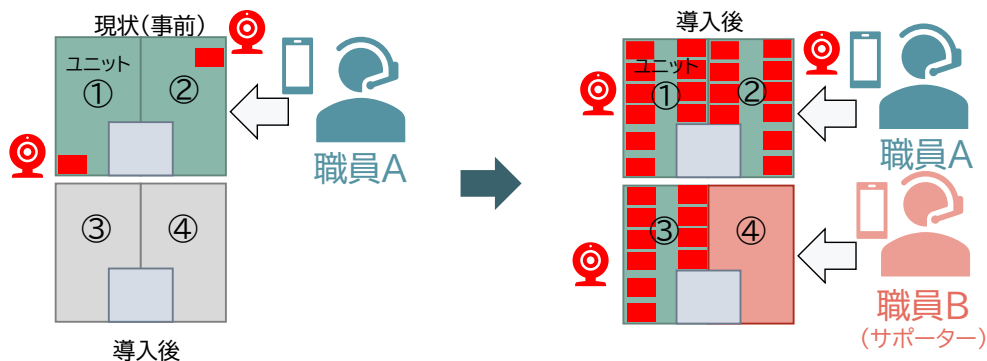
(2) 実証仮説

本実証においては、見守り機器の導入について全床導入にて実証を行った。

「全床導入」の実証パターンでは、見守り機器を全床導入し、何ユニットまで1人の夜勤者が対応可能かを実証した。

仮説としては、見守り機器の全床導入により、ステーションで全利用者の状況を確認できることで、①定期巡回を訪室ではなく端末上で行えるようになり、巡回の時間が削減される。適切な利用者へのケア提供が出来るようになり、②ケアの質が確保され、人員配置基準を超える体制(2ユニットに夜勤職員1人)以上の体制(例:2.5 ユニットに1人)で業務が可能となる。機器の活用により③取得したデータを基に、個別援助計画の見直しが可能となり、ケアの質が確保されるとした。

図表 VIII-10 「全床導入」での実証イメージ



※導入後は、サポーターを配置することで人員配置基準を満たし、利用者の安全を担保した上で実証を実施

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

図表 VIII-11 実証で使用した機器(見守り機器)

No	メーカー名	機器名	機器タイプ別の区分
1	パラマウントベッド株式会社	眠り SCAN	バイタル
2	ノーリツプレジジョン株式会社	Neos+Care	カメラ
3	コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社	HitomeQ ケアサポート	カメラ
4	ジーコム株式会社	ココヘルパ VP	カメラ
5	パラマウントベッド株式会社	眠り SCAN eye	カメラ・バイタル併用
6	エイアイビューライフ株式会社	A.I.Viewlife	カメラ・バイタル併用

※機器タイプについては以下の区分として本調査内で総称した。

- ・ バイタルタイプ…機器の内蔵センサにより離床や心拍、呼吸等の体動と、睡眠状態を把握できる見守り機器
- ・ カメラタイプ…カメラ型でシルエット画像により対象者が映し出され、設定された対象動作の検知が可能な見守り機器

(4) 対象施設

実証施設の公募等によって、以下の 10 施設を実証の対象施設とした。

各施設における見守り機器の導入率は以下の通り。

図表 VIII-12 実証対象施設

No	法人名	施設名	サービス種別	導入機器	実証対象エリア	機器タイプ	事前導入率	事後導入率
1	社会福祉法人 墨友会	特別養護老人ホームサンヴェール尾張旭	介護老人福祉施設	HitomeQ ケアサポート	4 ユニット	カメラ	40%	100%
2	社会福祉法人 シルヴァーウィング	特別養護老人ホーム みさよはうす土支田	介護老人福祉施設	眠り SCAN Neos+Care	2 ユニット	カメラ・バイタル	80%	100%
3	医療法人	介護老人	介護老人	ココヘルパ	1フロア	カメ	100%	100%

No	法人名	施設名	サービス種別	導入機器	実証対象エリア	機器タイプ	事前導入率	事後導入率
	社団ピーエムエー	保健施設ソフィア都筑	保健施設	VP 眠りSCAN		ラ・バイタル		
4	社会医療法人 養生園	リハビリセンターグリーンTAOKA	介護老人保健施設	A.I.Viewlife	1フロア	カメラ・バイタル	(※)	100%
5	社会福祉法人 こうほうえん	なんぶ幸朋苑	介護老人保健施設	眠りSCAN	1ユニット	バイタル	(※)	100%
6	社会福祉法人おおさわの福祉会	グループホームささづ苑つばさ	認知症対応型共同生活介護	眠りSCAN	3ユニット	バイタル	19%	100%
7	社会医療法人正和会	グループホームまめだすか	認知症対応型共同生活介護	Neos+Care	3ユニット	カメラ	0%	100%
8	株式会社connect	グループホームおおきな木	認知症対応型共同生活介護	眠りSCAN	1ユニット	バイタル	100%	100%
9	株式会社スマイル	スマイル住まいる鞠子	認知症対応型共同生活介護	眠りSCAN	2ユニット	バイタル	100%	100%
10	コスモスケア株式会社	グループホームコスモス向陽台	認知症対応型共同生活介護	Neos+Care	2ユニット	カメラ	50%	100%

(※)No.4～No.5について調査は1回のみとした。

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。介護老人福祉施設・認知症対応型共同生活介護においては、事前調査終了後、見守り機器導入からおおよそ1か月後に、事後①、②調査を実施した。

図表 VIII-13 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和7年8月～9月のうち平日5日間
事後調査①	令和7年9月～11月のうち平日5日間
事後調査②	令和7年11月～12月のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和8年1月～2月

※機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」、「訪室回数記録調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 VIII-14 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアで見守り機器を用いたケアを行った夜勤者	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答方法:自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入)またはWebアプリによる回答 ● 調査スケジュール:事前(見守り機器導入前)1回、事後(見守り機器導入後)1回の計2回、それぞれ5夜勤分実施。各日の夜勤職員全員が回答 ● 調査実施の時間帯:21時～翌7時まで(施設により夜間時間帯が異なる場合がある。)
職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアで見守り機器を用いたケアを行った夜勤者	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答方式:Web入力式 ● 調査スケジュール:事前と事後の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査	見守り機器(追加分含む)を用いたケアを受けた利用者のうち、5～10名程度を無作為で抽出	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答方式:Web入力式 ※ 職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 ● 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前1回、事後1回実施。職員1名につき1回のみ回答
業務時間等調査	介護職員及び介護助手	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査方法:自記式 ● 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答

調査名	調査対象者	調査概要
訪室回数・排せつケア記録調査	調査対象として選定された利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答方式:自記式 ● 調査スケジュール:事前(見守り機器導入前)1回、事後(見守り機器導入後)1回の計2回、それぞれ5夜勤分実施。各日の夜勤職員全員が回答 ● 調査実施の時間帯:21時～翌7時まで(施設により夜間時間帯が異なる場合がある。)
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査方法:WEB会議による聞き取り ● 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

ウ. 見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 VIII-15 見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の主な内容

施設名	見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の主な内容	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
特別養護老人ホームサンヴェール尾張旭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2ユニットで1名の人員配置 ・ 元々全床導入施設であり、事前調査では16台(れんげ4台、すみれ3台、あやめ5台、さくら4台)にて調査実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜勤者2名(定時巡視を軽減し最低限の巡視)の体制とする。 ・ 見守り機器設置台数は40台(れんげ10台、すみれ10台、あやめ10台、さくら10台) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すみれ、れんげユニットは全床導入の上、通常巡視(1~2時間巡視)継続にて職員の負担感、介護の質向上を図る。 ・ あやめ、さくらユニットは全床導入の上、巡視を廃止、その時間を他業務に充てて職員の負担感、介護の質、生産性向上を図る。
特別養護老人ホームみさよはうす土支田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2ユニットで1名の人員配置 ・ 元々全床導入施設であり、事前調査では16台(北8台、南3台)に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り機器設置台数は14台(北8台、南6台)にて調査実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り機器を、全床に導入することで、職員の負担軽減、業務効率化が図れたか検証する。

施設名	見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の主な内容	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
介護老人保健施設ソフィア都筑	<ul style="list-style-type: none"> 一般棟50床のフロアを、2名の介護職員にて見守りや排泄介助等の介護業務を行っている。眠りスキャンは一部導入している為、眠りスキャンや離床センサ、ナースコール発報により職員が訪室し、排泄介助を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> インカムを導入し、複数のコール対応や入居者対応が必要な際には、インカムを通して応援対応依頼を行う。(情報の送り手に対して、受け手は必ず返答をするように指示) 	<ul style="list-style-type: none"> スムーズな協力体制やグループ内の情報共有が確保できることにより夜勤職員の身体的・精神的負担の軽減を図る。
グループホームささづ苑つばさ	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時間の連続取得のため、ユニット間の連携を行う。 介護記録ソフトやインカムの音声通知も併せて活用することで記録・連絡調整業務の効率化を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全床に見守り機器を追加導入する。 機器導入により定時巡視を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器の追加導入によるユニット間の連携により、休憩時間の取得を目指す。
グループホームまめだすか	<ul style="list-style-type: none"> 従来は夜勤職員におけるユニット間の連携は基本的には無かったが、休憩時間の連続取得のため、ユニット間の連携や業務の見直しを行う。 利用者の睡眠の 	<ul style="list-style-type: none"> 全床に見守り機器を追加導入する。 担当職員が休憩中のユニットを、他のユニットが支援するようローテーションを組んで対応する。 事故に備え、休憩 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器の追加導入によるユニット間の連携により、休憩時間の取得を目指す。

施設名	見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の主な内容	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
	状況から、休憩時間を取得しやすい時間帯を検討する。	時には宿直者が廊下に待機しフォローできるようにした。	
グループホームおおきな木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩時間の連続取得のため、ユニット間の連携を行う。 ・ 定期的なカンファレンスで、利用者の状況を把握し、必要に応じて見守り機器の設定を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他ユニットの職員が休憩中は全ユニットの見守り機器の情報を確認できるようにする。 ・ 利用者の排泄・睡眠のデータを基に、休憩時間を設定する。 ・ 見守り機器の通知の頻度や、利用者ごとの通知音の設定を調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り機器の活用によるユニット間の連携により、休憩時間の取得を目指す。
スマイル住まいる鞠子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来は夜勤職員におけるユニット間の連携は基本的には無かったが、休憩時間の連続取得のため、ユニット間の連携や業務の見直しを行う。 ・ 利用者の睡眠の状況から、休憩時間を取得しやすい時間帯を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他ユニットの職員が休憩中は全ユニットの見守り機器の情報を確認できるようにする。 ・ 他ユニットの利用者の情報も介護記録ソフトにより情報共有を行う。 ・ 休憩室でしっかりと休憩をするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り機器の活用によるユニット間の連携により、休憩時間の取得を目指す。
グループホームコスモス向陽台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来は夜勤職員におけるユニット 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全床に見守り機器を追加導入す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り機器の追加導入によるユ

施設名	見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の主な内容	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
	<p>間の連携は基本的には無かったが、休憩時間の連続取得のため、ユニット間の連携や業務の見直しを行う。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他ユニットの職員が休憩中の際は全ユニットの見守り機器の情報を確認できるようにする。 ・ 休憩中は見守り機器による通知の確認をしないこととする。 ・ 職員が休憩中のユニットにおいて見守り機器の通知が鳴った場合は、他ユニットの職員からインカムで連絡を行う。 	<p>ユニット間の連携により、休憩時間の取得を目指す。</p>

※リハビリセンターグリーン TAOKA、介護老人保健施設なんぶ幸朋苑については調査1回のためオペレーションの変更は行わなかった。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類 6 つ)」「B.間接業務(小分類 5 つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」「E.余裕時間」の 6 分類で整理し、計 14 項目を用意した。

図表 VIII-16 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub -No	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	日常生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

なお、認知症対応型共同生活介護においては、「C 休憩」について、「休憩・仮眠」、「待機」に細分化し調査を実施した。

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18に基づく))を実施した。加えて事後では、見守り機器の利用によるモチベーションの変化、見守り機器の利用による職員や施設業務の変化、見守り機器の満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)も実施した。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18に基づく))を実施した。加えて事後では、見守り機器の利用によるモチベーションの変化、見守り機器の利用による職員や施設業務の変化、見守り機器の満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)も実施した。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に1回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. 訪室回数・排せつ記録調査

訪室回数記録調査では、調査項目は、事前と事後で共通とし、目的別の訪室回数(「定時巡視」、「利用者の離床」、「不穏な動きの確認」、「容態変化」、「排せつの確認・対応」と、「排せつの確認・対応」の場合は排せつケアの内容と回数(「トイレ誘導 尿意確認」、「トイレ誘導 自力で排せつ」、「トイレ誘導 排せつなし」、「おむつ・パッド確認」、「おむつ・パッド確認 おむつ・パッド交換」、「おむつ・パッド確認 尿器・カテーテル等での排尿」、「おむつ・パッド確認 排せつなし」)を1時間ごとに記録することとした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

(7) ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

実証において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者の性別は以下の通り。

図表 VIII-17 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	16	35	0	51
	割合	31%	69%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	1	12	0	13
	割合	8%	92%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	6	54	0	60
	割合	10%	90%	0%	100%
総数	人数(人)	23	101	0	124
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 VIII-18 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	2	6	6	11	20	4	1	51
	割合	17%	33%	100%	100%	183%	333%	67%	17%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	0	1	2	5	4	1	0	13
	割合	0%	0%	50%	100%	250%	200%	50%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	1	1	5	7	25	17	3	1	60
	割合	14%	14%	71%	100%	357%	243%	43%	14%	100%
総数	人数(人)	2	3	12	15	41	41	8	2	124
	割合	2%	2%	10%	12%	33%	33%	6%	2%	100%

図表 VIII-19 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支 援	その他(区分 申請中等)	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	0	15	22	13	0	0	0	51
	割合	5%	0%	68%	100%	59%	0%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	2	2	4	4	1	0	0	0	13
	割合	50%	50%	100%	100%	25%	0%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	15	20	12	7	6	0	0	0	60
	割合	214%	286%	171%	100%	86%	0%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	18	22	31	33	20	0	0	0	124
	割合	15%	18%	25%	27%	16%	0%	0%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 VIII-20 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	8	3	0	11
	割合	73%	27%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	1	0	1
	割合	0%	100%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	12	12	0	24
	割合	50%	50%	0%	100%
総数	人数(人)	20	16	0	36
	割合	56%	44%	0%	100%

図表 VIII-21 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	1	5	3	0	2	0	0	11
	割合	0%	9%	45%	27%	0%	18%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	0	3	5	9	5	2	0	0	24
	割合	0%	13%	21%	38%	21%	8%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	0	4	10	13	5	4	0	0	36
	割合	0%	11%	28%	36%	14%	11%	0%	0%	100%

図表 VIII-22 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ職 (機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	8	3	0	0	0	0	0	0	11
	割合	73%	27%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	18	5	0	0	0	0	1	0	24
	割合	75%	21%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	100%
総数	人数(人)	27	8	0	0	0	0	1	0	36
	割合	75%	22%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	100%

図表 VIII-23 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	3	8	0	0	11
	割合	0%	27%	73%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	0	1	0	0	1
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	0	7	17	0	0	24
	割合	0%	29%	71%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	0	10	26	0	0	36
	割合	0%	28%	72%	0%	0%	100%

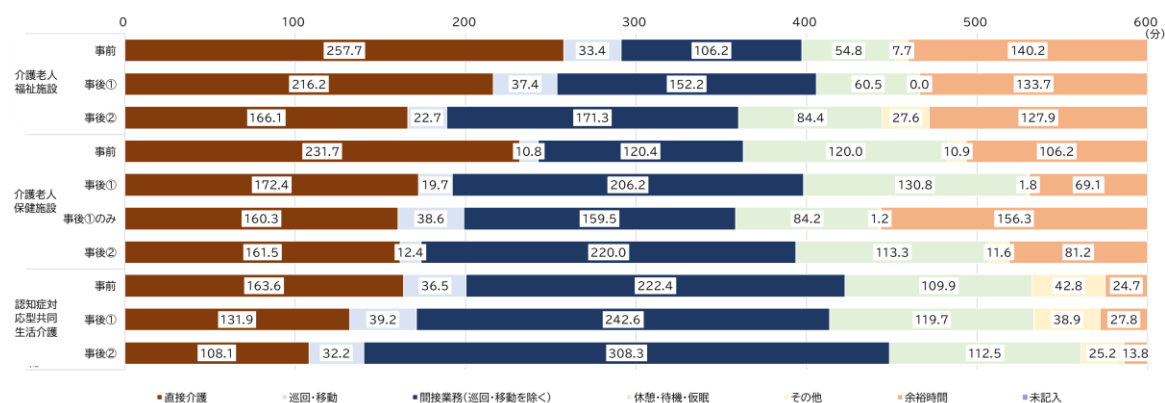
(2) タイムスタディ調査結果

ア. 施設種別のタイムスタディ調査結果

サービス種類別のタイムスタディ調査結果では、「直接介護」および「巡回・移動」の合計時間は、介護老人福祉施設で 291.1 分(事前調査)から 188.8 分(事後②調査)となり 102.3 分減少した。介護老人保健施設では 242.5 分(事前調査)から 173.9 分(事後②調査)となり 68.6 分減少した。認知症対応型共同生活介護では 200.2 分(事前調査)から 140.2 分(事後②調査)となり 59.9 分減少した。

図表 VIII-24 施設種別のタイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(600 分)あたり)

施設種別	調査時期	時間(分)	直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
			移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他				
介護老人福祉施設	事前	21.3 4%	158.2 26%	11.8 2%	10.8 2%	3.6 1%	51.9 9%	33.4 6%	78.0 13%	0.8 0%	2.0 0%	25.5 4%	54.8 9%	7.7 1%	140.2 23%	0.0 0%	0.0 0%	600	
	事後①	40.6 7%	105.5 18%	2.8 0%	5.9 1%	0.0 0%	61.4 10%	37.4 6%	91.2 15%	2.0 0%	6.3 1%	52.7 9%	60.5 10%	0.0 0%	133.7 22%	0.0 0%	0.0 0%	600	
	事後②	22.4 4%	110.2 18%	0.0 0%	1.8 0%	0.0 0%	31.7 5%	22.7 4%	95.6 16%	1.0 0%	1.7 0%	73.1 12%	84.4 14%	27.6 5%	127.9 21%	0.0 0%	0.0 0%	600	
介護老人保健施設	事前	41.5 7%	114.4 19%	40.7 7%	6.9 1%	0.0 0%	28.2 5%	10.8 2%	44.7 7%	0.1 0%	0.0 0%	75.6 13%	120.0 20%	10.9 2%	106.2 18%	0.0 0%	0.0 0%	600	
	事後①	43.0 7%	109.9 18%	0.0 0%	0.7 0%	1.2 0%	17.6 3%	19.7 3%	124.3 21%	5.1 1%	0.0 0%	76.7 13%	130.8 22%	1.8 0%	69.1 11%	0.0 0%	0.0 0%	600	
	事後①のみ	34.7 6%	91.4 15%	0.3 0%	3.2 0%	0.0 0%	30.7 5%	38.6 6%	48.7 8%	20.1 3%	0.6 0%	90.1 15%	84.2 14%	1.2 0%	156.3 26%	0.0 0%	0.0 0%	600	
認知症対応型共同生活介護	事前	12.6 2%	122.4 20%	0.0 0%	5.8 1%	0.0 0%	20.7 3%	12.4 2%	74.1 12%	0.5 0%	0.0 0%	145.4 24%	113.3 19%	11.6 2%	81.2 14%	0.0 0%	0.0 0%	600	
	事後①	17.1 3%	97.6 16%	19.2 3%	8.3 1%	0.0 0%	21.4 4%	36.5 6%	63.7 11%	6.5 1%	0.3 0%	151.9 25%	109.9 18%	42.8 7%	24.7 4%	0.0 0%	0.0 0%	600	
	事後②	10.6 2%	81.4 14%	12.0 2%	5.7 1%	0.1 0%	22.2 4%	39.2 7%	68.0 11%	7.6 1%	3.5 1%	163.5 27%	119.7 20%	38.9 6%	27.8 5%	0.0 0%	0.0 0%	600	
事後②	6.2 1%	70.2 12%	7.1 1%	6.4 1%	0.2 0%	18.1 3%	32.2 5%	77.5 13%	17.6 3%	4.1 1%	209.1 35%	112.5 19%	25.2 4%	13.8 2%	0.0 0%	0.0 0%	600		



介護老人福祉施設:事前 n=14、事後①n=12、事後②n=13

介護老人保健施設:事前 n=5、事後①n=6、事後②n=7

介護老人保健施設※調査 1 回:n=10

認知症対応型共同生活介護:事前 n=41、事後①n=38、事後②n=44

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

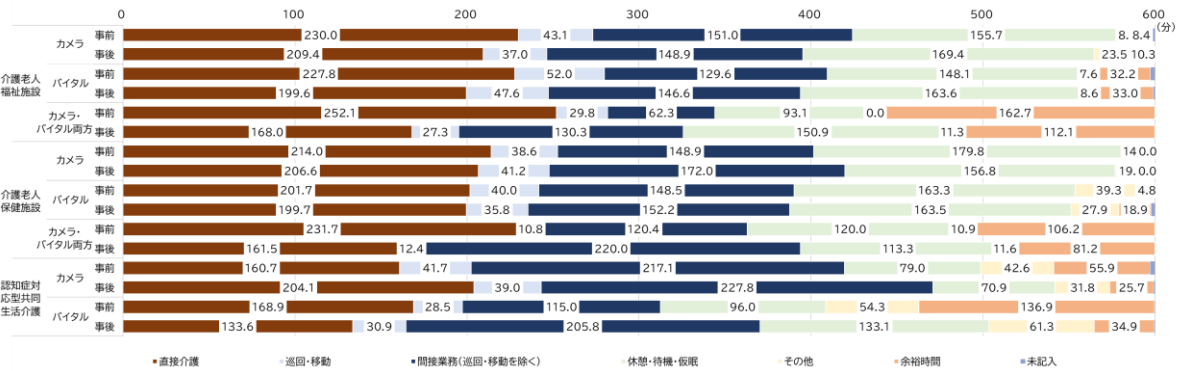
※グラフ上の数は、調査結果の和から 10 時間(600 分)換算した値。

イ. 導入機器種別のタイムスタディ調査結果

導入機器種別のタイムスタディ調査結果については、介護老人福祉施設・介護老人保健施設においては導入機器別で職員タイムスタディ調査結果に大きな傾向の差は見られなかった。認知症対応型共同生活介護においては、カメラ機器を導入した場合、利用者の状態が可視化されやすいため直接介護時間が増えた。

図表 VIII-25 導入機器種別のタイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(600 分)あたり)
(令和4年度～令和7年度調査結果)

			直接介護	巡回・移動	間接業務(巡回・移動を除く)	休憩・待機・仮眠	その他	余裕時間	未記入	合計	
介護老人福祉施設	カメラ	事前	時間(分) 230.0 割合 38%	43.1 7%	151.0 25%	155.7 26%	8.0 1%	8.4 1%	3.8 1%	600.0 100%	
		事後②	時間(分) 209.4 割合 35%	37.0 6%	148.9 25%	169.4 28%	23.5 4%	10.3 2%	1.6 0%	600.0 100%	
	バイタル	事前	時間(分) 227.8 割合 38%	52.0 9%	129.6 22%	148.1 25%	7.6 1%	32.2 5%	2.6 0%	600.0 100%	
		事後②	時間(分) 199.6 割合 33%	47.6 8%	146.6 24%	163.6 27%	8.6 1%	33.0 6%	0.9 0%	600.0 100%	
	カメラ・バイタル両方	事前	時間(分) 252.1 割合 42%	29.8 5%	62.3 10%	93.1 16%	0.0 0%	162.7 27%	0.0 0%	600.0 100%	
		事後②	時間(分) 168.0 割合 28%	27.3 5%	130.3 22%	150.9 25%	11.3 2%	112.1 19%	0.0 0%	600.0 100%	
介護老人保健施設	カメラ	事前	時間(分) 214.0 割合 36%	38.6 7%	148.9 25%	179.8 30%	14.5 2%	0.0 0%	4.2 1%	600.0 100%	
		事後①のみ	時間(分) 215.7 割合 36%	21.6 4%	89.0 15%	104.0 17%	14.7 2%	155.0 26%	0.0 0%	600.0 100%	
		事後②	時間(分) 206.6 割合 34%	41.2 7%	172.0 29%	156.8 26%	19.0 3%	0.0 0%	4.4 1%	600.0 100%	
	バイタル	事前	時間(分) 201.7 割合 34%	40.0 7%	148.5 25%	163.3 27%	39.3 7%	4.8 1%	2.4 0%	600.0 100%	
		事後①のみ	時間(分) 209.9 割合 35%	40.7 7%	146.6 24%	121.0 20%	18.4 3%	62.0 10%	1.6 0%	600.0 100%	
		事後②	時間(分) 199.7 割合 33%	35.8 6%	152.2 25%	163.5 27%	27.9 5%	18.9 3%	2.1 0%	600.0 100%	
	カメラ・バイタル両方	事前	時間(分) 231.7 割合 39%	10.8 2%	120.4 20%	120.0 20%	10.9 2%	106.2 18%	0.0 0%	600.0 100%	
		事後①のみ	時間(分) 193.2 割合 32%	35.2 6%	41.9 7%	128.7 21%	0.0 0%	201.1 34%	0.0 0%	600.0 100%	
		事後②	時間(分) 161.5 割合 27%	12.4 2%	220.0 37%	113.3 19%	11.6 2%	81.2 14%	0.0 0%	600.0 100%	
	認知症対応型共同生活介護	カメラ	事前	時間(分) 160.7 割合 27%	41.7 7%	217.1 36%	79.0 13%	42.6 7%	55.9 9%	2.9 0%	600.0 100%
			事後②	時間(分) 204.1 割合 34%	39.0 6%	227.8 38%	70.9 12%	31.8 5%	25.7 4%	0.7 0%	600.0 100%
		バイタル	事前	時間(分) 168.9 割合 28%	28.5 5%	115.0 19%	96.0 16%	54.3 9%	136.9 23%	0.4 0%	600.0 100%
事後②			時間(分) 133.6 割合 22%	30.9 5%	205.8 34%	133.1 22%	61.3 10%	34.9 6%	0.4 0%	600.0 100%	



介護老人福祉施設 施設数:カメラ 14、バイタル13、カメラ・バイタル1
 介護老人保健施設 施設数:カメラ 10、バイタル14、カメラ・バイタル1
 認知症対応型共同生活介護施設数:カメラ 9、バイタル 8

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

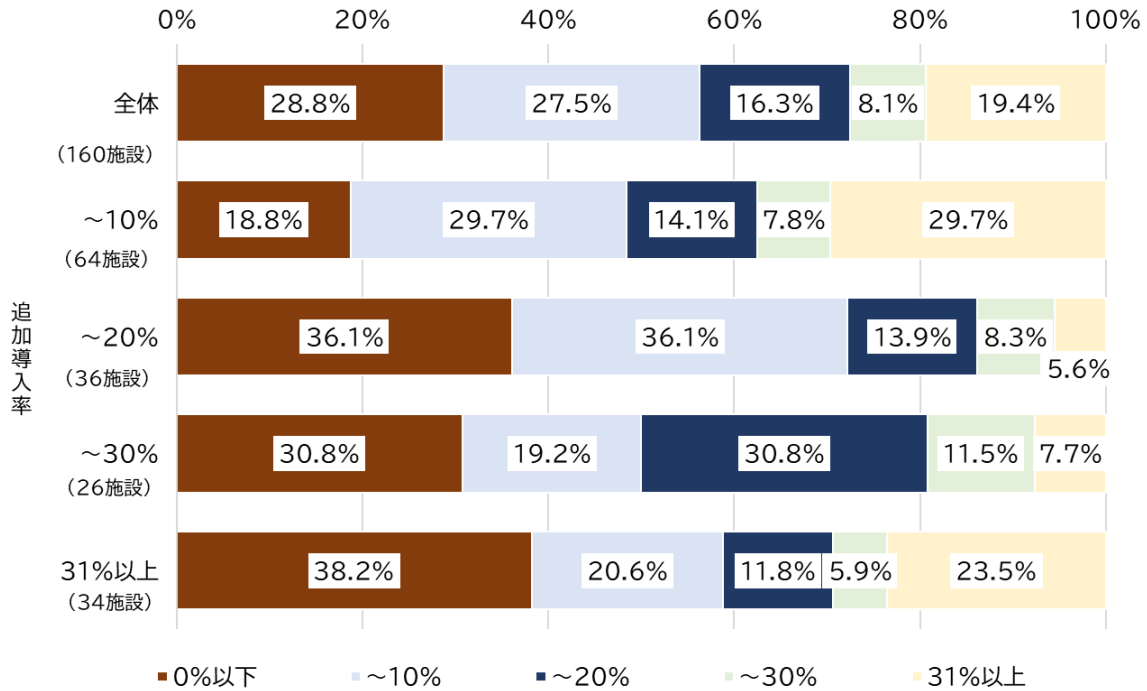
※グラフ上の数は、調査結果の和から10時間(600 分)換算した値。

ウ. 見守り機器の導入率別のタイムスタディ調査結果

見守り機器の導入率別のタイムスタディ調査結果は以下の通り。

図表 VIII-26 追加導入率別・「直接介護」及び「巡回・移動」の削減率

(令和2年度～令和7年度調査結果)



※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※追加導入率は、事後調査時の見守り機器導入率－事前調査時の見守り機器導入率で算出

※グラフ上の数は、調査結果の和から10時間(600分)換算した値を用い、事前調査・事後調査それぞれの「直接介護」及び「巡回・移動」の合計時間を算出

※削減割合は、 $1 - (\text{事後調査}(\text{「直接介護」及び「巡回・移動」の合計時間}) \div \text{事前調査}(\text{「直接介護」及び「巡回・移動」の合計時間}))$ で算出

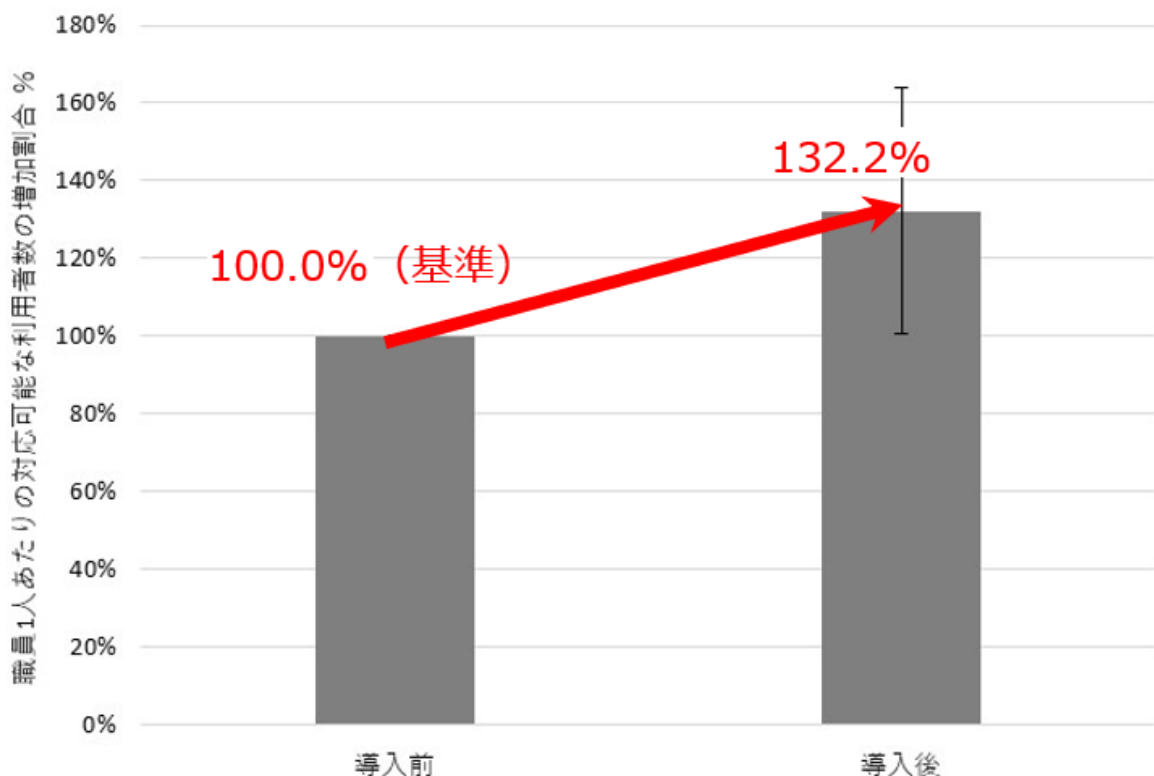
介護老人福祉施設において、通常時のオペレーションと実証時のオペレーションでの夜勤職員の担当利用者数を比較し、見守り機器の全床導入により職員1人あたりの担当利用者数がどの程度増加するのかを試算した。

令和5年度から令和7年度に実施した10施設の職員1人あたりの対応可能な利用者数の増加割合の全体平均で通常の約1.3倍の利用者の対応が可能という結果であった。

図表 VIII-27 介護老人福祉施設における対応可能人数の増加割合(全業務時間)

(令和5年度～令和7年度調査結果)

施設ID	サービス種別	サポーター有無	従来型/ユニット型	①主担当の業務時間(調査時間)[分]	②通常の担当利用者数[人]	③実証時の担当利用者数[人]	④通常時(事前調査)の「直接介護+巡回+移動+見守り機器の使用・確認」時間[分]	⑤通常時(事前調査)の利用者1人あたりの「直接介護+巡回+移動+見守り機器の使用・確認」時間[分]	⑥実証時(事後調査)の「直接介護+巡回+移動+見守り機器の使用・確認」時間[分]	⑦実証時(事後調査)の利用者1人あたりの「直接介護+巡回+移動+見守り機器の使用・確認」時間[分]	⑧サポーターによる「直接介護+巡回+移動+見守り機器の使用・確認」のサポート時間(1日平均)[分]	⑨通常の利用者1人あたり担当時間(想定)[分/人]	⑩実証時の利用者1人あたり担当時間[分/人]	⑪実証時の職員1人あたりの担当可能人数[人]	⑫職員1人あたりの対応可能な利用者数の増加割合	⑬担当可能利用者数[人]
計算式(サポーター無)				-	調査設計	調査設計	調査結果	④÷⑤	調査結果	⑥÷⑦	-	-	-	-	⑪÷⑩	⑬×⑫
計算式(サポーター有)				-	調査設計	調査設計	-	-	-	-	調査結果	①÷②	(①+⑧)÷③	①÷⑩	⑪÷⑫	⑬×⑫
1301	介護老人福祉施設	無	ユニット型	600	40	40	304.3	7.6	185.7	4.6	-	-	-	-	163.8%	65.5
1302	介護老人福祉施設	無	ユニット型	600	14	14	281.9	20.1	195.3	14.0	-	-	-	-	144.3%	20.2
令和6年度調査	介護老人福祉施設	無	ユニット型	600	21	21	150.3	7.2	201.2	9.6	-	-	-	-	74.7%	15.7
令和6年度調査	介護老人福祉施設	無	ユニット型	600	29	29	213.0	7.3	163.3	5.6	-	-	-	-	130.5%	37.8
令和6年度調査	介護老人福祉施設	有	ユニット型	600	14	19	-	-	-	-	100.9	42.9	36.9	16.3	116.2%	16.3
令和6年度調査	介護老人福祉施設	有	ユニット型	600	15	20	-	-	-	-	152.9	40.0	37.6	15.9	106.3%	15.9
令和6年度調査	介護老人福祉施設	有	ユニット型	600	15	20	-	-	-	-	182.9	40.0	39.1	15.3	102.2%	15.3
令和5年度調査	介護老人福祉施設	有	ユニット型	600	13	24	-	-	-	-	224.0	48.0	34.3	17.5	139.8%	17.5
令和5年度調査	介護老人福祉施設	有	ユニット型	600	15	29	-	-	-	-	142.0	40.0	25.6	23.5	156.3%	23.5
令和5年度調査	介護老人福祉施設	有	ユニット型	600	14	28	-	-	-	-	39.0	42.8	22.8	26.3	187.7%	26.3
全体平均															132.2%	



※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※表上の数は、調査結果の和から10時間(600分)換算した値。

※サポーター無の場合の「⑫職員 1 人あたりの対応可能な利用者数の増加割合」を求めるため、「⑤通常時(事前調査時)の利用者一人あたりの「直接介護+巡視・移動+見守り機器の使用・確認」時間」と「⑦実証時(事後調査時)の利用者一人あたりの「直接介護+巡視・移動+見守り機器の使用・確認」時間」で比較を行った。「⑤通常時(事前調査時)の利用者一人あたりの「直接介護+巡視・移動+見守り機器の使用・確認」時間」は、「④通常時(事前調査)の「直接介護+巡回・移動+見守り機器の使用・確認」時間」を「②通常の担当利用者数」で除すことにより算出した。「⑦実証時(事後調査時)の利用者 1 人あたりの「直接介護+巡視・移動+見守り機器の使用・確認」時間」は、「⑥実証時(事後調査)の「直接介護+巡回・移動+見守り機器の使用・確認」時間」を「③実証時の担当利用者数[人]」で除すことにより算出した。

※サポーター有の場合の「⑫職員 1 人あたりの対応可能な利用者数の増加割合」を求めるため、「⑨通常の利用者 1 人あたり担当時間」と「⑩実証時の利用者 1 人あたり担当時間」で比較を行った。「⑨通常の利用者 1 人あたり担当時間」は、「①主担当の業務時間(調査時間)」を「②通常の担当利用者数」で除すことにより算出した。「⑩実証時の利用者 1 人あたり担当時間」は、「①主担当の業務時間(調査時間)」と「⑧サポーターによる「直接介護+巡視・移動+見守り機器の使用・確認」のサポート時間」の合計を「③実証時の担当利用者数」で除すことにより算出した。

※実証(全床、サポーター有の場合)では、1 人の夜勤職員が通常時の担当範囲よりも広げて業務を実施している。当該夜勤職員の業務中に、コールが重なる等でサポートが必要になった場合に、「サポーター」の夜勤職員がサポートに入る運用としている。

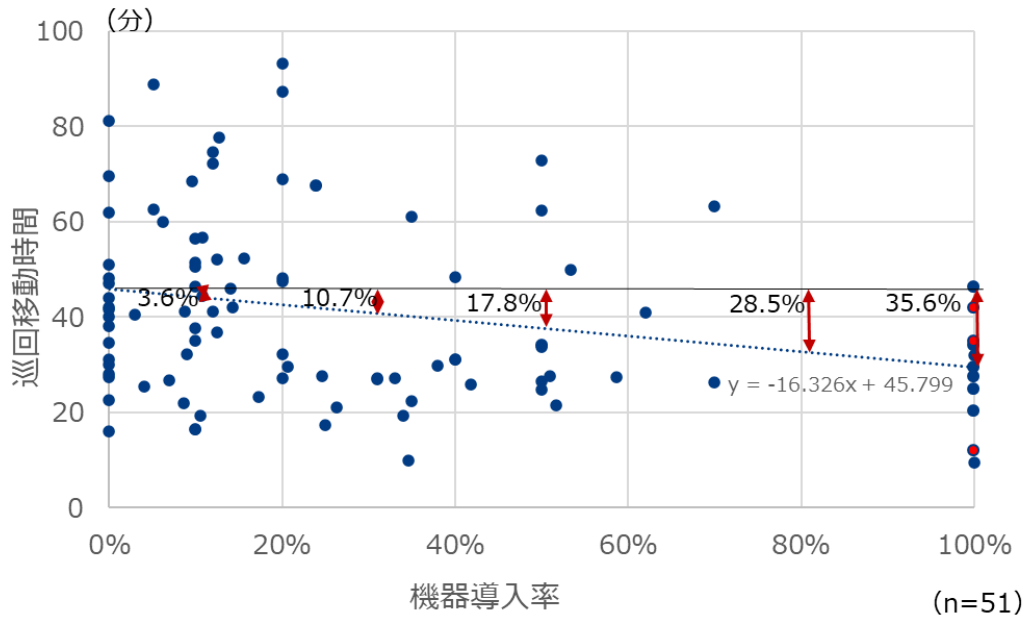
※バーは標準偏差を表す。

エ. 介護老人保健施設のタイムスタディ調査結果

機器導入率と巡回移動時間を散布図にプロットしたうえで、近似直線により推計をした。見守り機器を導入していない場合は巡回移動時間が約 46 分、見守り機器を 100%導入した場合は約 29 分であり、見守り機器を導入していない場合と比較して、「巡回移動時間」合計時間は、約 30%程度減少すると推計された。

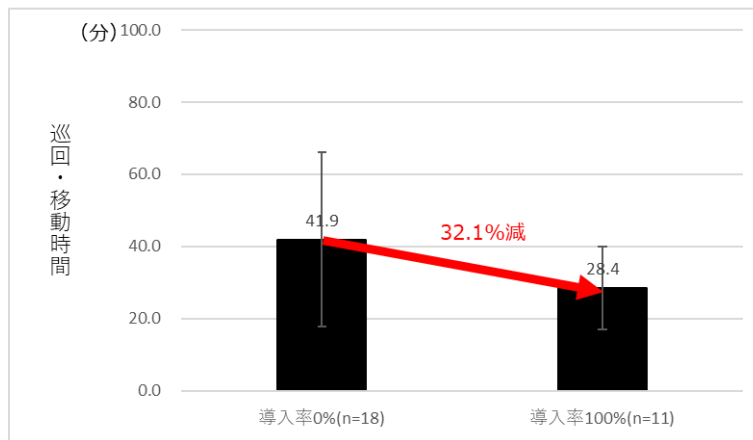
図表 VIII-28 介護老人保健施設における巡回移動時間の削減率

(令和3年度～令和7年度調査結果)



※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から10時間(600分)換算した値。



※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、職員業務量調査(タイムスタディ)結果の和から10時間(600分)換算した値を、導入率0%、100%のそれぞれの群で平均した値。

※各値は平均値、バーは標準偏差を表す。

オ. 認知症対応型共同生活介護のタイムスタディ調査結果

認知症対応型共同生活介護における夜勤職員の休憩時間の取得状況について、法定の休憩時間(60分)を連続取得出来ているか調査した。

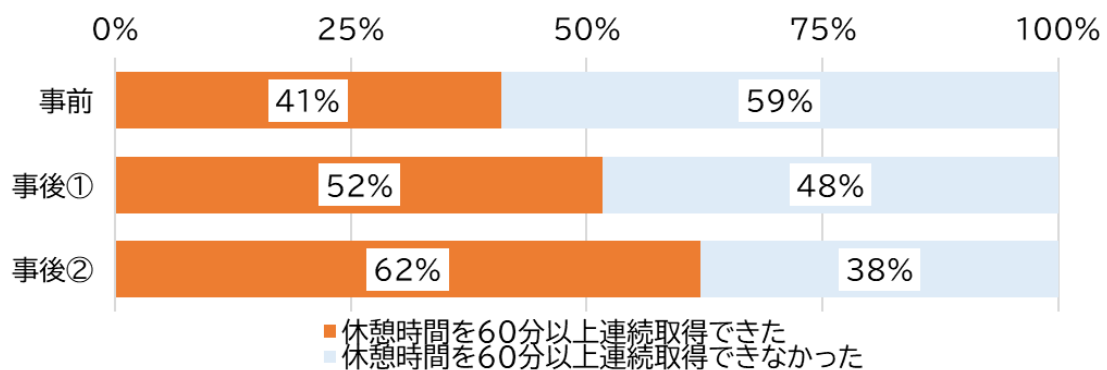
なお、本調査においては、利用者への対応等により休憩が中断されず、調査対象職員の法定時間60分以上の連続した休憩の取得について分析している(調査対象職員はすべて法定の休憩時間は取得出来ていることを確認している。)

事前調査から、事後調査①及び事後調査②にかけて、休憩時間を60分以上連続取得している職員が増加する結果であった。「休憩・仮眠」の取得時間について、平均値及び中央値ともに、事前調査から、事後調査①及び事後調査②にかけて増加する結果であった。

また、「休憩・仮眠」の取得時間について、平均値及び中央値ともに、事前調査では63分(平均値)、48分(中央値)だったが、事後調査②では77分(平均値)、68分(中央値)と増加する結果であった。

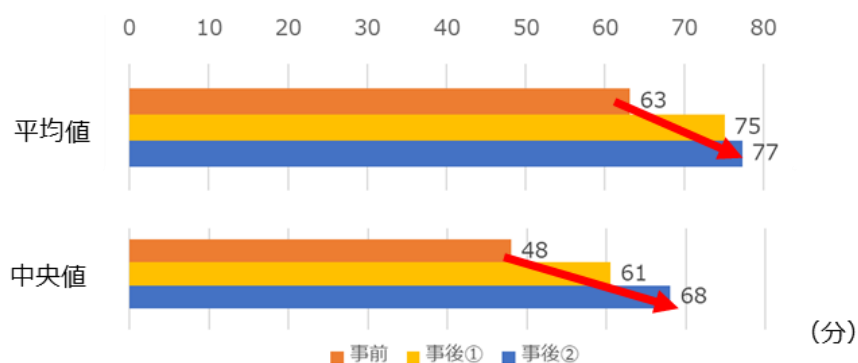
図表 VIII-29 認知症対応型共同生活介護における休憩時間の取得状況

		休憩時間を60分以上連続取得できた	休憩時間を60分以上連続取得できなかった	合計
事前	人数(人)	18	26	44
	割合	41%	59%	100%
事後①	人数(人)	30	28	58
	割合	52%	48%	100%
事後②	人数(人)	36	22	58
	割合	62%	38%	100%



図表 VIII-30 認知症対応型共同生活介護における休憩時間の取得状況 平均値・中央値

		平均値	中央値
事前	休憩・仮眠時間数(分)	63	48
事後①	休憩・仮眠時間数(分)	75	61
事後②	休憩・仮眠時間数(分)	77	68

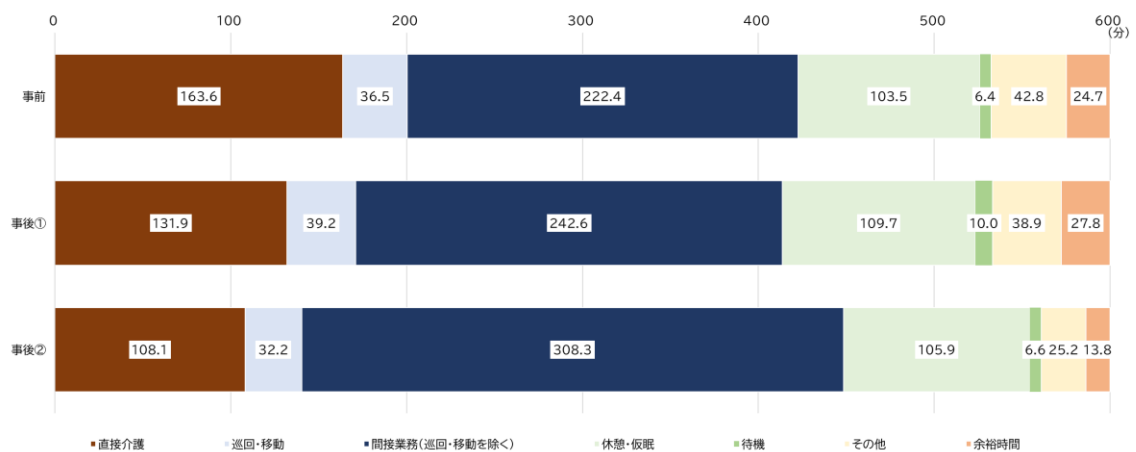


※タイムスタディ調査において調査対象の時間帯において「休憩・仮眠」と回答したデータを集計対象とした。

※「休憩・仮眠」が未回答の職員は集計から除外した。

図表 VIII-31 認知症対応型共同生活介護のタイムスタディ調査結果

		直接介護							間接業務						休憩			合計(分)	
		移動・移換・体位変	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・療育的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・給薬作成・連絡調整等	利用者へのアセスメント	ICT機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・仮眠	待機	その他	余裕時間	未記入		
認知症対応型共同生活介護	事前	時間(分)	17.1	97.6	19.2	8.3	0.0	21.4	36.5	63.7	6.5	0.3	151.9	103.5	6.4	42.8	24.7	0.0	600
		割合	3%	16%	3%	1%	0%	4%	6%	11%	1%	0%	25%	17%	1%	7%	4%	0%	100%
	事後①	時間(分)	10.6	81.4	12.0	5.7	0.1	22.2	39.2	68.0	7.6	3.5	163.5	109.7	10.0	38.9	27.8	0.0	600
	割合	2%	14%	2%	1%	0%	4%	7%	11%	1%	1%	27%	18%	2%	6%	5%	0%	100%	
	事後②	時間(分)	6.2	70.2	7.1	6.4	0.2	18.1	32.2	77.5	17.6	4.1	209.1	105.9	6.6	25.2	13.8	0.0	600
	割合	1%	12%	1%	1%	0%	3%	5%	13%	3%	1%	35%	18%	1%	4%	2%	0%	100%	



(3) 職員向けアンケート調査結果

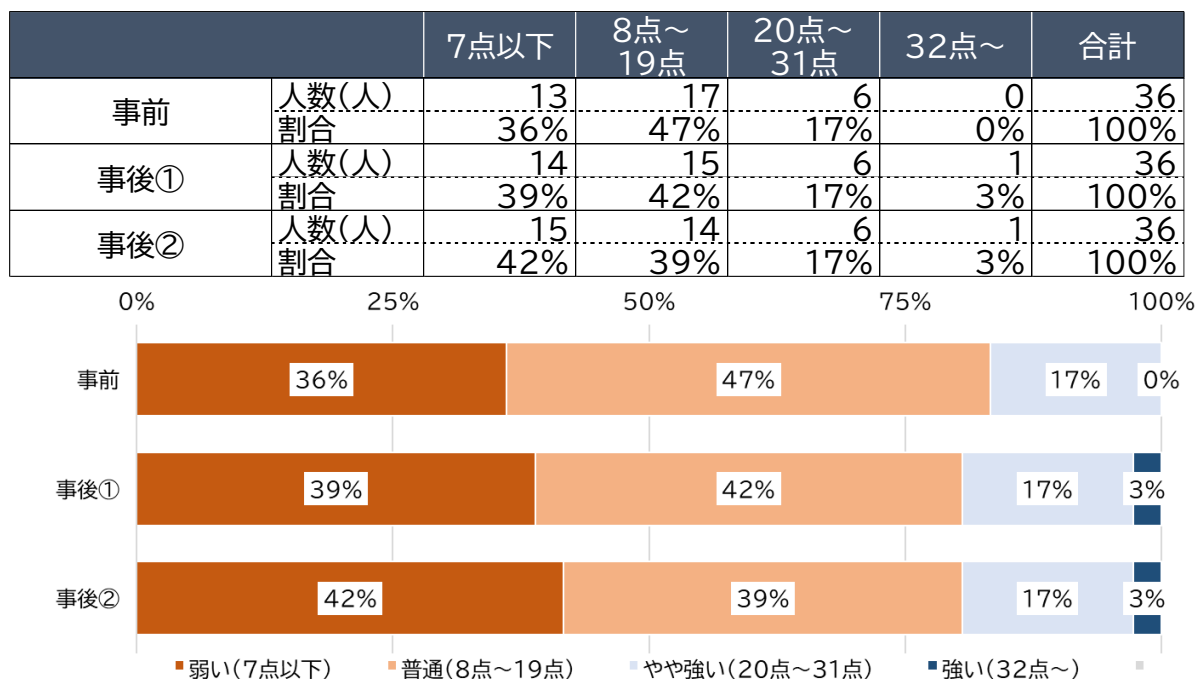
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、36%であったのに対し、事後①では39%に増加した。事後②では、ストレス反応が「弱い」割合が42%であり、事前調査と比べ6ポイント、事後①と比べ3ポイント増加した。

図表 VIII-32 心理的負担評価(SRS-18)



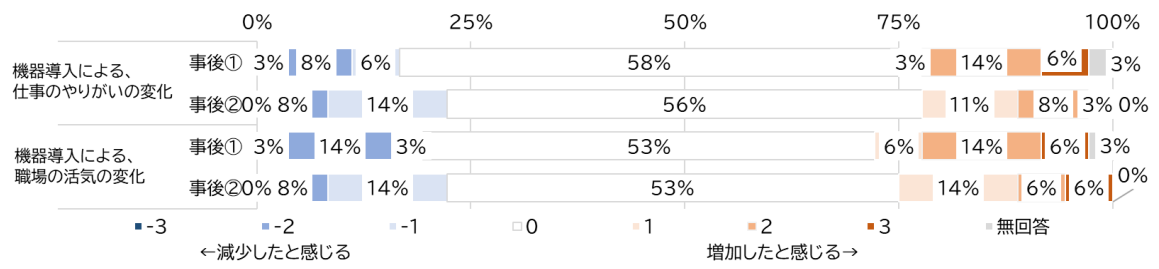
※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VIII-33 機器導入によるモチベーションの変化

		←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
機器導入による、仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	1	3	2	21	1	5	2	1	36
		割合	3%	8%	6%	58%	3%	14%	6%	3%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	5	20	4	3	1	0	36
		割合	0%	8%	14%	56%	11%	8%	3%	0%	100%
機器導入による、職場の活気の変化	事後①	人数(人)	1	5	1	19	2	5	2	1	36
		割合	3%	14%	3%	53%	6%	14%	6%	3%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	5	19	5	2	2	0	36
		割合	0%	8%	14%	53%	14%	6%	6%	0%	100%



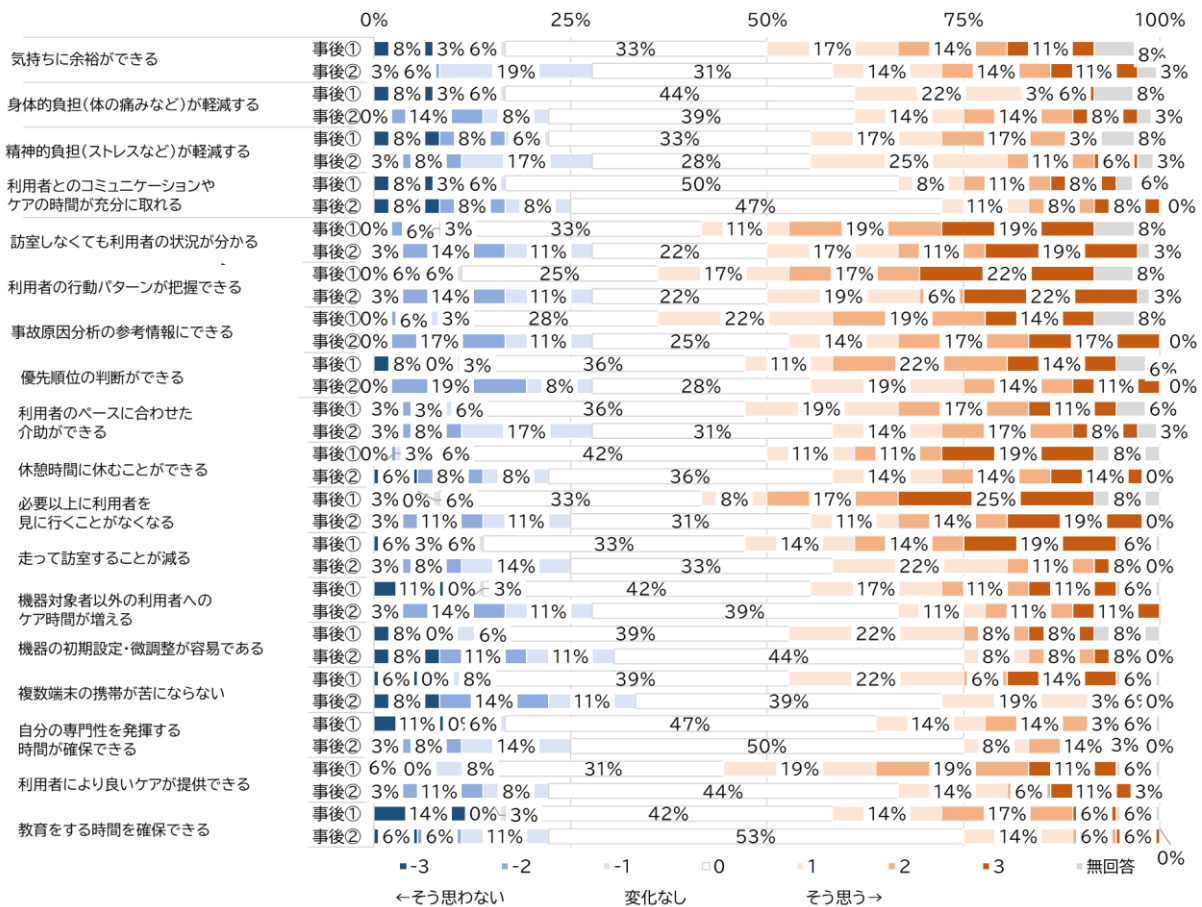
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 VIII-34 機器導入による職員や施設業務の変化

		←そう思わない		変化なし					→思う		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	3 8%	1 3%	2 6%	12 33%	6 17%	5 14%	4 11%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	2 6%	7 19%	11 31%	5 14%	5 14%	4 11%	1 3%	36 100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	3 8%	1 3%	2 6%	16 44%	8 22%	1 3%	2 6%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	5 14%	3 8%	14 39%	5 14%	5 14%	3 8%	1 3%	36 100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	3 8%	3 8%	2 6%	12 33%	6 17%	6 17%	1 3%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	3 8%	6 17%	10 28%	9 25%	4 11%	2 6%	1 3%	36 100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	3 8%	1 3%	2 6%	18 50%	3 8%	4 11%	3 8%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 8%	3 8%	3 8%	17 47%	4 11%	3 8%	3 8%	0 0%	36 100%	
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	1 3%	12 33%	4 11%	7 19%	7 19%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	5 14%	4 11%	8 22%	6 17%	4 11%	7 19%	1 3%	36 100%	
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	2 6%	9 25%	6 17%	6 17%	8 22%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	5 14%	4 11%	8 22%	7 19%	2 6%	8 22%	1 3%	36 100%	
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	1 3%	10 28%	8 22%	7 19%	5 14%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	6 17%	4 11%	9 25%	5 14%	6 17%	6 17%	0 0%	36 100%	
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	3 8%	0 0%	1 3%	13 36%	4 11%	8 22%	5 14%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	7 19%	3 8%	10 28%	7 19%	5 14%	4 11%	0 0%	36 100%	
利用者のベースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	事後①	人数(人) 割合	1 3%	1 3%	2 6%	13 36%	7 19%	6 17%	4 11%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	3 8%	6 17%	11 31%	5 14%	6 17%	3 8%	1 3%	36 100%	
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	2 6%	15 42%	4 11%	4 11%	7 19%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 6%	3 8%	3 8%	13 36%	5 14%	5 14%	5 14%	0 0%	36 100%	
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	1 3%	0 0%	2 6%	12 33%	3 8%	6 17%	9 25%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	4 11%	4 11%	11 31%	4 11%	5 14%	7 19%	0 0%	36 100%	
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	2 6%	1 3%	2 6%	12 33%	5 14%	5 14%	7 19%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	3 8%	5 14%	12 33%	8 22%	4 11%	3 8%	0 0%	36 100%	
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	4 11%	0 0%	1 3%	15 42%	6 17%	4 11%	4 11%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	5 14%	4 11%	14 39%	4 11%	4 11%	4 11%	0 0%	36 100%	
機器の初期設定・微調整が煩雑である	事後①	人数(人) 割合	3 8%	0 0%	2 6%	14 39%	8 22%	3 8%	3 8%	3 8%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 8%	4 11%	4 11%	16 44%	3 8%	3 8%	3 8%	0 0%	36 100%	
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	2 6%	0 0%	3 8%	14 39%	8 22%	2 6%	5 14%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 8%	5 14%	4 11%	14 39%	7 19%	1 3%	2 6%	0 0%	36 100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	4 11%	0 0%	2 6%	17 47%	5 14%	5 14%	1 3%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	3 8%	5 14%	18 50%	3 8%	5 14%	1 3%	0 0%	36 100%	
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	2 6%	0 0%	3 8%	11 31%	7 19%	7 19%	4 11%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	4 11%	3 8%	16 44%	5 14%	2 6%	4 11%	1 3%	36 100%	
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	5 14%	0 0%	1 3%	15 42%	5 14%	6 17%	2 6%	2 6%	36 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 6%	2 6%	4 11%	19 53%	5 14%	2 6%	2 6%	0 0%	36 100%	



※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

工. 導入機器の満足度評価

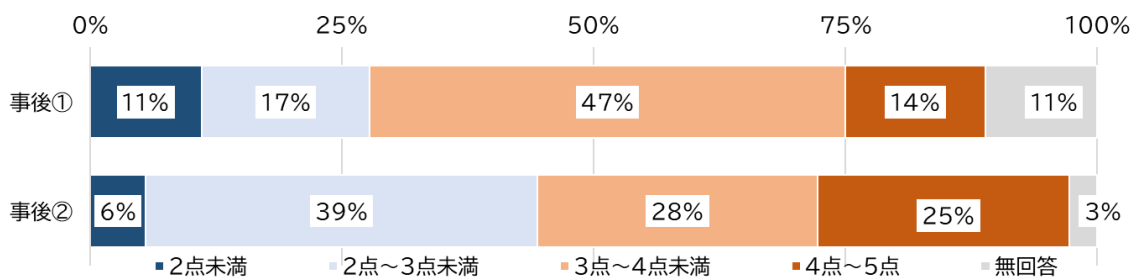
導入機器の満足度評価に関する結果は以下の通り。

図表 VIII-35 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
その福祉用具の大きさ(サイズ, 高さ, 長さ, 幅)に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	3 8%	14 39%	10 28%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	6 17%	15 42%	12 33%	1 3%	1 3%	36 100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	5 14%	4 11%	12 33%	10 28%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	10 28%	13 36%	10 28%	2 6%	1 3%	36 100%
その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	5 14%	4 11%	16 44%	6 17%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	10 28%	13 36%	11 31%	0 0%	1 3%	36 100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	4 11%	12 33%	11 31%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	12 33%	11 31%	10 28%	2 6%	1 3%	36 100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	5 14%	5 14%	14 39%	7 19%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	13 36%	10 28%	10 28%	1 3%	1 3%	36 100%
その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	5 14%	11 31%	11 31%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	12 33%	11 31%	11 31%	1 3%	1 3%	36 100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	6 17%	10 28%	10 28%	2 6%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	14 39%	9 25%	10 28%	2 6%	1 3%	36 100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	4 11%	11 31%	11 31%	2 6%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	10 28%	14 39%	9 25%	2 6%	1 3%	36 100%
その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	5 14%	4 11%	14 39%	8 22%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 6%	10 28%	13 36%	9 25%	1 3%	1 3%	36 100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	5 14%	14 39%	7 19%	2 6%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	14 39%	9 25%	10 28%	1 3%	1 3%	36 100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	4 11%	16 44%	7 19%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	12 33%	12 33%	9 25%	1 3%	1 3%	36 100%
その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	事後①	人数(人) 割合	4 11%	5 14%	15 42%	7 19%	1 3%	4 11%	36 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 6%	11 31%	11 31%	10 28%	1 3%	1 3%	36 100%

【合計得点】

		2点未満	2点～ 3点未満	3点～ 4点未満	4点～5点	無回答	合計
事後①	人数(人)	4	6	17	5	4	36
	割合	11%	17%	47%	14%	11%	100%
事後②	人数(人)	2	14	10	9	1	36
	割合	6%	39%	28%	25%	3%	100%

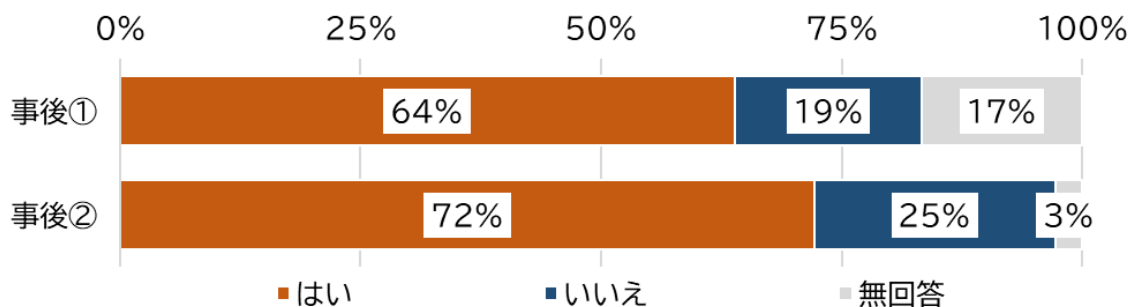


※機器導入の満足度評価は、QUEST 福祉用具満足度評価を指標とした。複数回答があった場合には無回答として扱った。

※合計得点の算出方法は、職員ごとに 12 項目を合計した点数(非常に満足=5点、まったく満足していない=1点)÷12 とした。事前または事後で、各 12 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。

図表 VIII-36 導入機器の満足度評価:機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答	合計
事後①	人数(人)	23	7	6	36
	割合	64%	19%	17%	100%
事後②	人数(人)	26	9	1	36
	割合	72%	25%	3%	100%



図表 VIII-37 機器を継続して利用したいと思わない理由(複数回答)

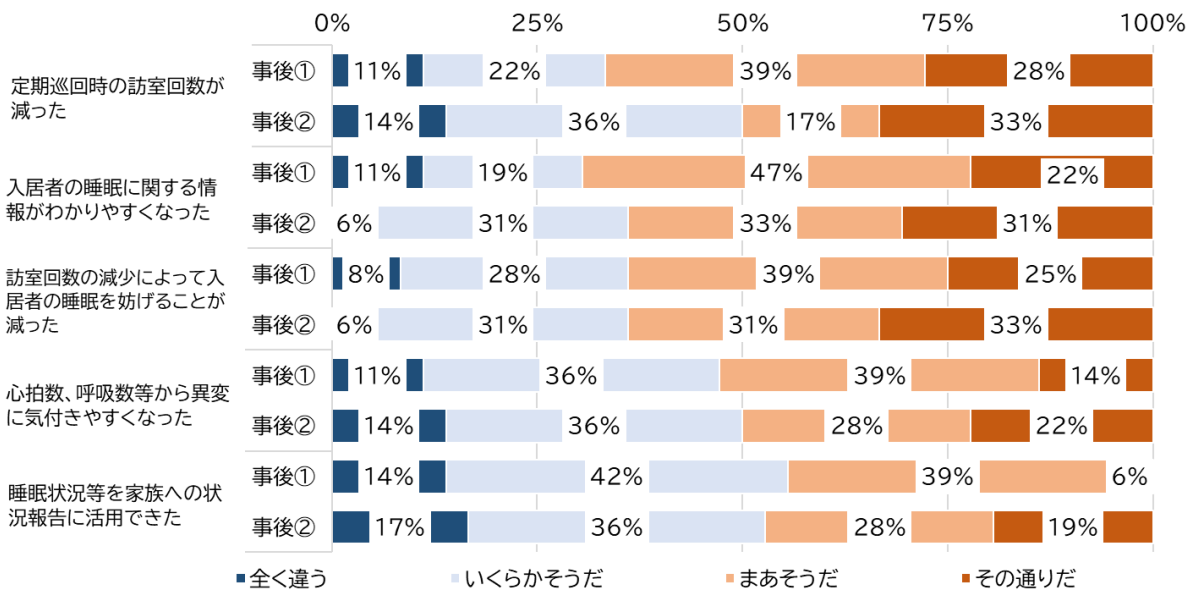
		回答数	割合
使用上の効果が実感できなかった	事後①	1	14%
	事後②	3	33%
コストが高すぎる	事後①	1	14%
	事後②	1	11%
他の介護ロボットも検討してみたい	事後①	0	0%
	事後②	0	0%
必要とする利用者がいない	事後①	0	0%
	事後②	1	11%
介護ロボットを使いこなせる気がしなかった	事後①	0	0%
	事後②	0	0%
介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない	事後①	0	0%
	事後②	0	0%
人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた	事後①	1	14%
	事後②	1	11%
他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い	事後①	0	0%
	事後②	0	0%
導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる	事後①	2	29%
	事後②	1	11%
その他	事後①	0	0%
	事後②	0	0%
回答数	事後①	7	100%
	事後②	9	100%

オ. 夜間見守り業務の質の向上

夜間見守り業務の質の向上に関する調査結果は以下の通り。

図表 VIII-38 夜間見守り業務の質の向上

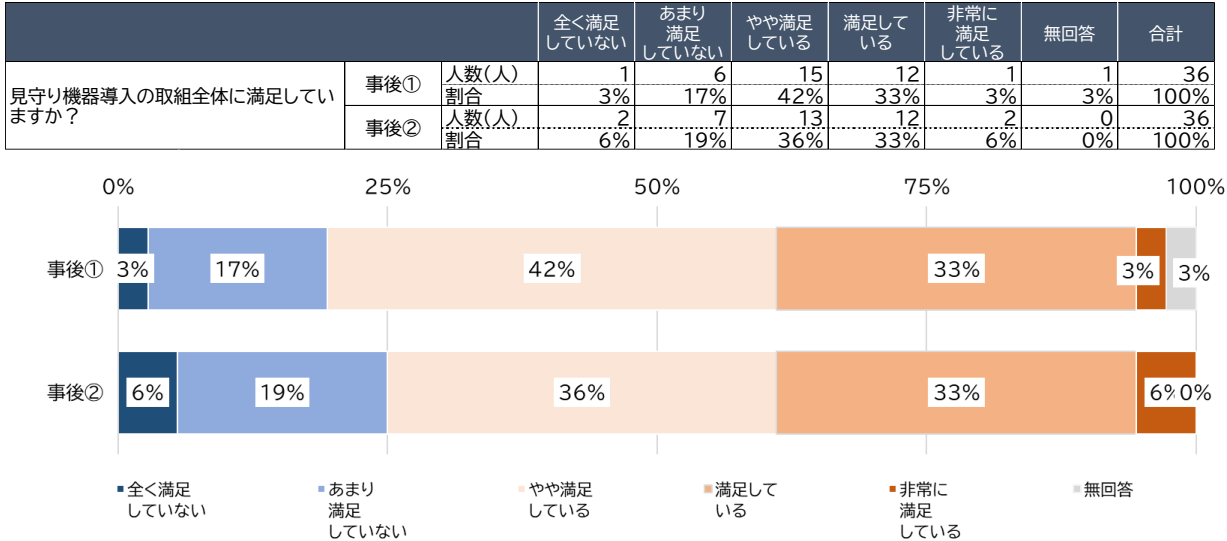
		全く違う	いくらかそう だ	まあそうだ	その通り だ	無回答	合計
定期巡回時の訪室回数が減った	事後①	人数(人) 4 割合 11%	8 22%	14 39%	10 28%	0 0%	36 100%
	事後②	人数(人) 5 割合 14%	13 36%	6 17%	12 33%	0 0%	36 100%
入居者の睡眠に関する情報がわかりやす くなった	事後①	人数(人) 4 割合 11%	7 19%	17 47%	8 22%	0 0%	36 100%
	事後②	人数(人) 2 割合 6%	11 31%	12 33%	11 31%	0 0%	36 100%
訪室回数の減少によって入居者の睡眠を 妨げることが減った	事後①	人数(人) 3 割合 8%	10 28%	14 39%	9 25%	0 0%	36 100%
	事後②	人数(人) 2 割合 6%	11 31%	11 31%	12 33%	0 0%	36 100%
心拍数、呼吸数等から異変に気付きやす くなった	事後①	人数(人) 4 割合 11%	13 36%	14 39%	5 14%	0 0%	36 100%
	事後②	人数(人) 5 割合 14%	13 36%	10 28%	8 22%	0 0%	36 100%
睡眠状況等を家族への状況報告に活用で きた	事後①	人数(人) 5 割合 14%	15 42%	14 39%	2 6%	0 0%	36 100%
	事後②	人数(人) 6 割合 17%	13 36%	10 28%	7 19%	0 0%	36 100%



カ. 全体的な満足度評価

機器導入による全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

図表 VIII-39 全体的な満足度評価



(4) 利用者向けアンケート調査結果

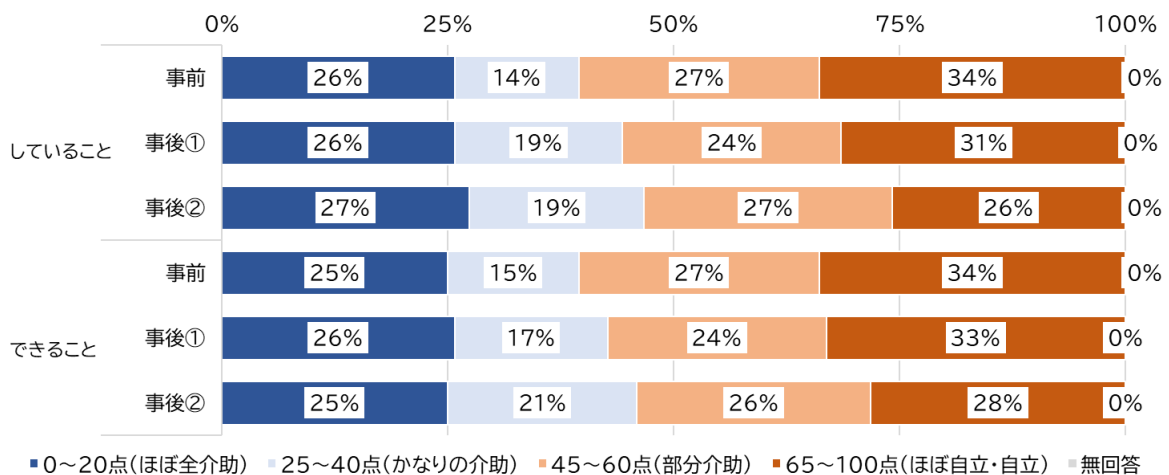
事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 VIII-40 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	32	17	33	42	0	124
		割合	26%	14%	27%	34%	0%	100%
	事後①	人数(人)	32	23	30	39	0	124
		割合	26%	19%	24%	31%	0%	100%
	事後②	人数(人)	34	24	34	32	0	124
		割合	27%	19%	27%	26%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	31	18	33	42	0	124
		割合	25%	15%	27%	34%	0%	100%
	事後①	人数(人)	32	21	30	41	0	124
		割合	26%	17%	24%	33%	0%	100%
	事後②	人数(人)	31	26	32	35	0	124
		割合	25%	21%	26%	28%	0%	100%



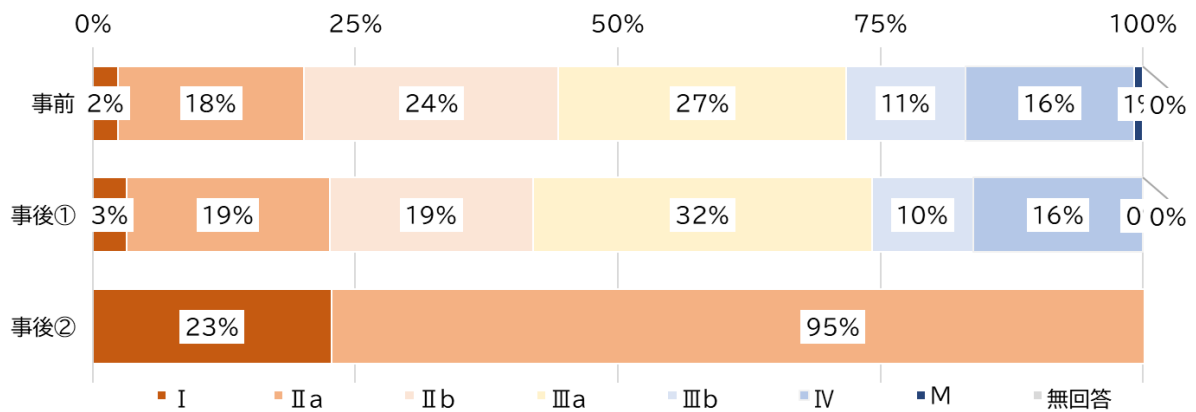
※事前調査または事後調査①・②で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 VIII-41 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	3	22	30	34	14	20	1	0	124
	割合	2%	18%	24%	27%	11%	16%	1%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	24	24	40	12	20	0	0	124
	割合	3%	19%	19%	32%	10%	16%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	21	27	38	11	22	0	0	124
	割合	23%	95%	123%	173%	50%	100%	0%	0%	100%

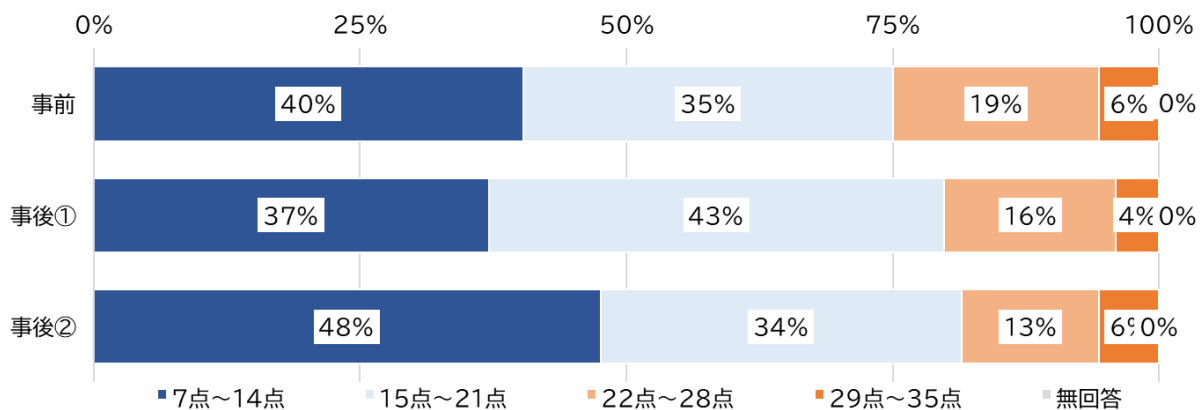


ウ. 生活・認知機能尺度

見守り機器導入前後の状態:生活・認知機能尺度は以下の通り。

図表 VIII-42 見守り導入前後の利用者の状態:生活・認知機能尺度

		7点~14点	15点~21点	22点~28点	29点~35点	無回答	合計
事前	人数(人)	50	43	24	7	0	124
	割合	40%	35%	19%	6%	0%	100%
事後①	人数(人)	46	53	20	5	0	124
	割合	37%	43%	16%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	59	42	16	7	0	124
	割合	48%	34%	13%	6%	0%	100%



※事前または事後で、各 13 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4 以外の場合は無回答処理をした。

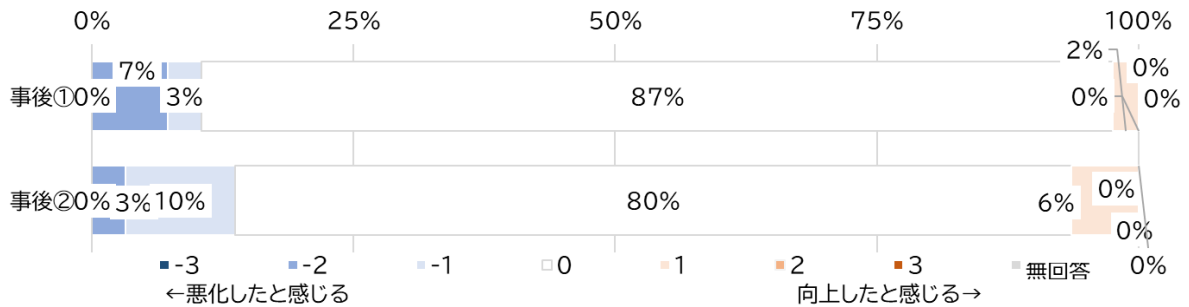
※認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)は、認知症ケアの効果を判定する質問項目である。過去1週間の状況について、13 項目それぞれに0(まったくない)~4(常にある)点で回答し、その合計点で評価を行った。52 点満点。

工. 認知機能変化の総合的な評価

見守り機器導入後における認知機能変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 VIII-43 見守り機器導入後における認知機能変化の総合的な評価

		←悪化したと感じる→						向上したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
事後①	人数(人)	0	9	4	108	3	0	0	0	124	
	割合	0%	7%	3%	87%	2%	0%	0%	0%	100%	
事後②	人数(人)	0	4	13	99	8	0	0	0	124	
	割合	0%	3%	10%	80%	6%	0%	0%	0%	100%	



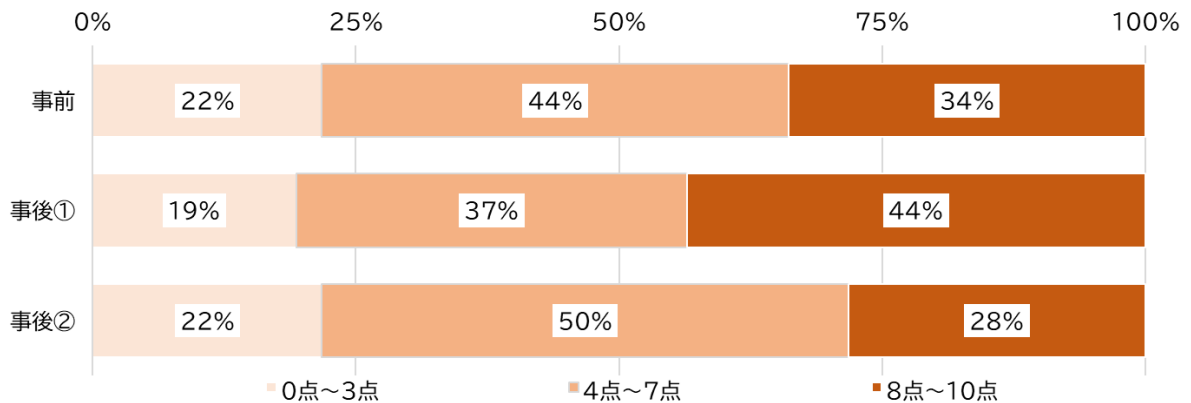
※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)～+3(向上したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

オ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 VIII-44 Vitality Index

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	27	55	42	0	124
	割合	22%	44%	34%	0%	100%
事後①	人数(人)	24	46	54	0	124
	割合	19%	37%	44%	0%	100%
事後②	人数(人)	27	62	35	0	124
	割合	22%	50%	28%	0%	100%



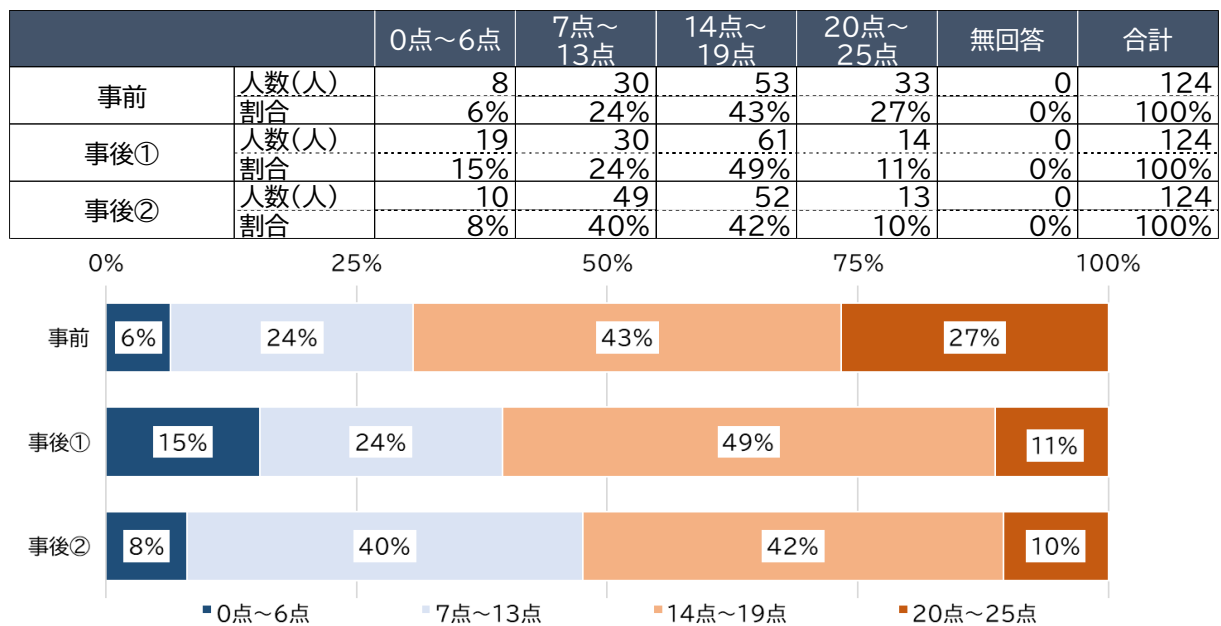
※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の5項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5項目それぞれに0～2点で回答し、それぞれ2点が最もよい状態を示す。10点満点。

カ. QOLの変化(WHO-5)

WHO-5の結果は以下の通り。

図表 VIII-45 WHO-5



※事前または事後で、各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5以外の場合は無回答処理をした。

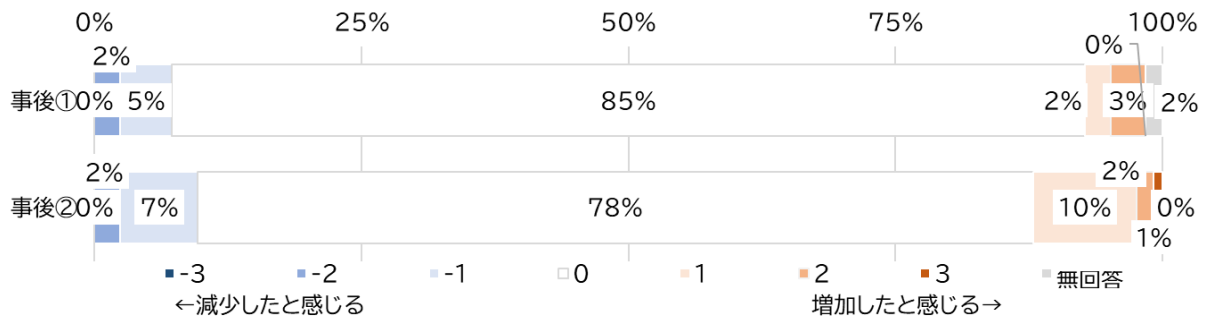
※QOLの変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5項目それぞれに5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25点満点。

キ. QOL変化の総合的な評価

QOL変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 VIII-46 QOL変化の総合的な評価

		←減少したと感じる				増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後①	人数(人)	0	3	6	106	3	4	0	2	124
	割合	0%	2%	5%	85%	2%	3%	0%	2%	100%
事後②	人数(人)	0	3	9	97	12	2	1	0	124
	割合	0%	2%	7%	78%	10%	2%	1%	0%	100%



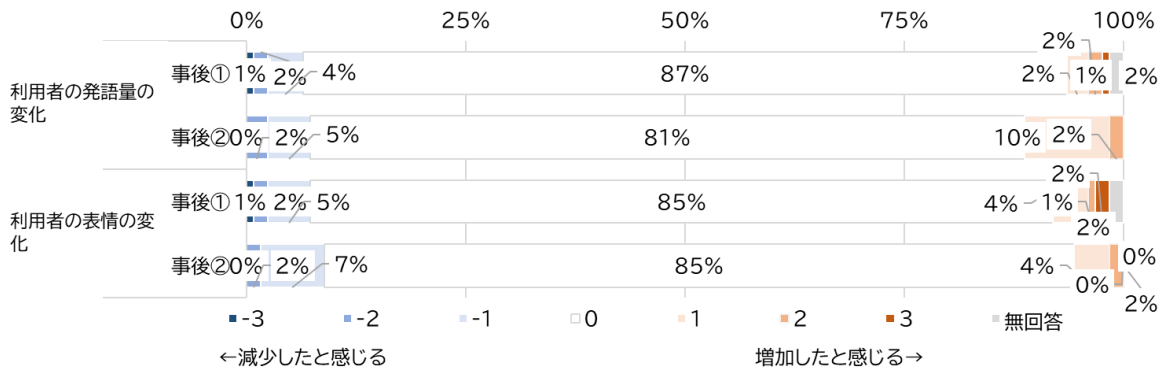
※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)～+3(向上したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ク. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 VIII-47 コミュニケーションの変化

項目	事後	人数(人)	←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後①	1	2	5	108	3	2	1	2	2	124	
	割合	1%	2%	4%	87%	2%	2%	1%	2%	2%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	0	3	6	101	12	2	0	0	0	124	
	割合	0%	2%	5%	81%	10%	2%	0%	0%	0%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	1	2	6	105	5	1	2	2	2	124	
	割合	1%	2%	5%	85%	4%	1%	2%	2%	2%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後②	0	2	9	106	5	2	0	0	0	124	
	割合	0%	2%	7%	85%	4%	2%	0%	0%	0%	100%	



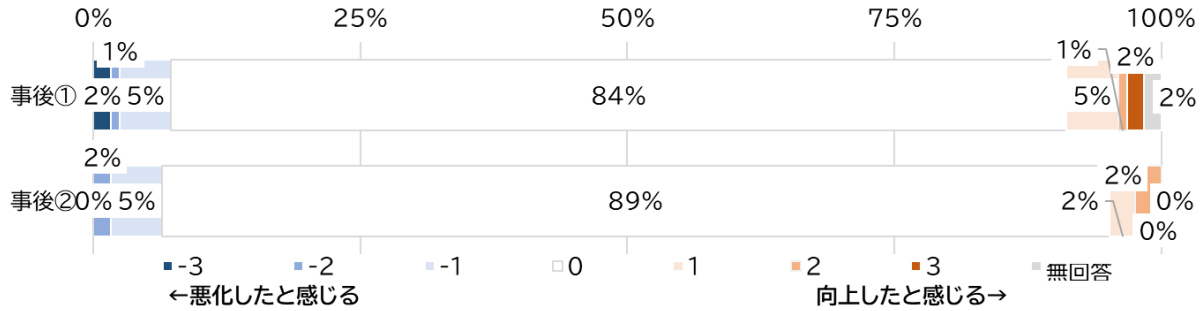
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ケ. コミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 VIII-48 コミュニケーション変化の総合的な評価

		←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後①	人数(人)	2	1	6	104	6	1	2	2	124
	割合	2%	1%	5%	84%	5%	1%	2%		
事後②	人数(人)	0	2	6	110	3	3	0	0	124
	割合	0%	2%	5%	89%	2%	2%	0%		



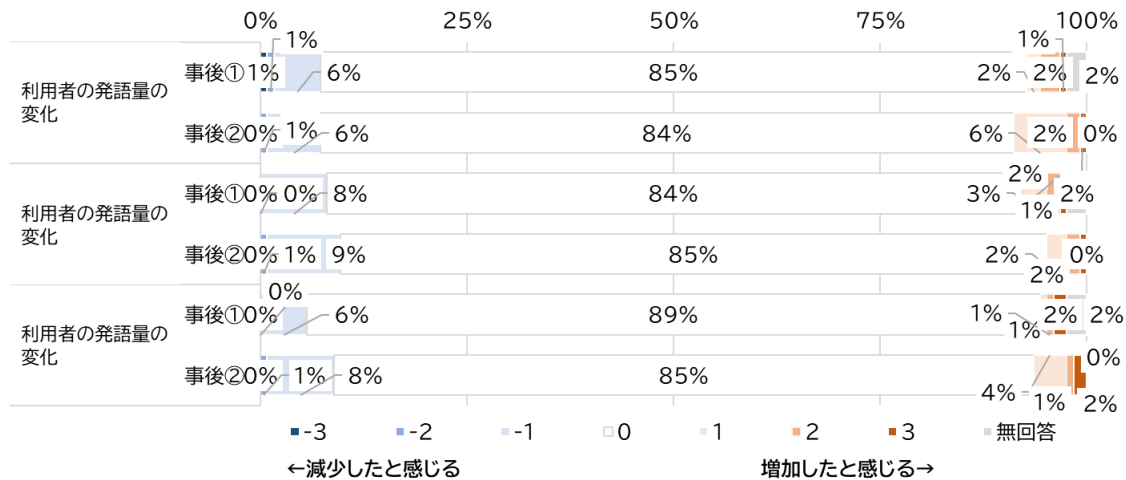
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

コ. 社会参加の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 VIII-49 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

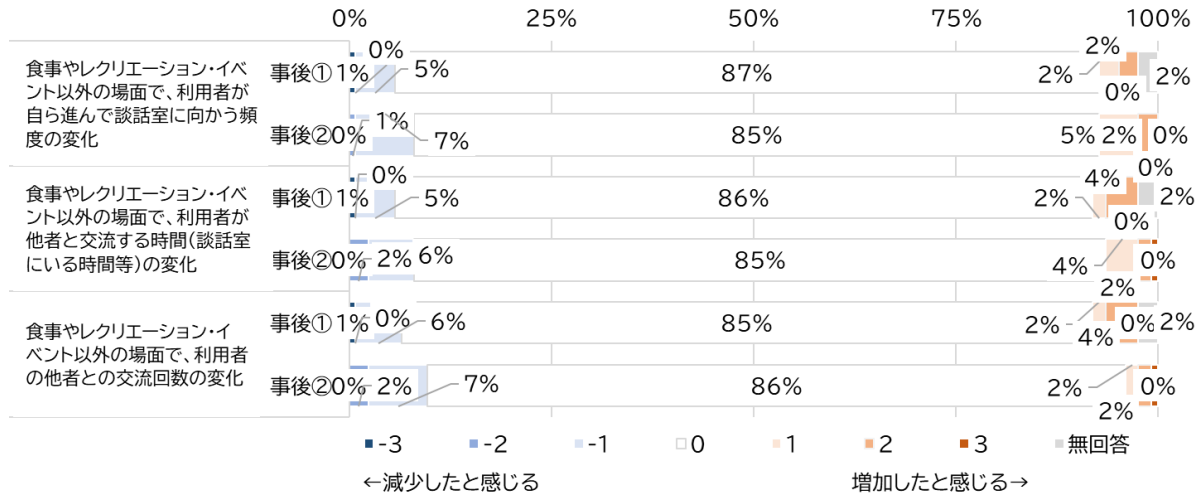
		←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	1	7	106	2	3	1	3	124
	割合	1%	1%	6%	85%	2%	2%	1%	2%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	8	104	8	2	1	0	124
	割合	0%	1%	6%	84%	6%	2%	1%	0%	100%	
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	10	104	4	2	1	3	124
	割合	0%	0%	8%	84%	3%	2%	1%	2%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	11	106	3	2	1	0	124
	割合	0%	1%	9%	85%	2%	2%	1%	0%	100%	
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	7	110	1	1	2	3	124
	割合	0%	0%	6%	89%	1%	1%	2%	2%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	10	105	5	1	2	0	124
	割合	0%	1%	8%	85%	4%	1%	2%	0%	100%	



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-50 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

		←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	1	0	6	108	3	3	0	3	124	
		割合	1%	0%	5%	87%	2%	2%	0%	2%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	9	105	6	3	0	0	124	
		割合	0%	1%	7%	85%	5%	2%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	1	0	6	107	2	5	0	3	124	
		割合	1%	0%	5%	86%	2%	4%	0%	2%	100%	
	事後②	人数(人)	0	3	7	106	5	2	1	0	124	
		割合	0%	2%	6%	85%	4%	2%	1%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	1	0	7	106	2	5	0	3	124	
		割合	1%	0%	6%	85%	2%	4%	0%	2%	100%	
	事後②	人数(人)	0	3	9	107	2	2	1	0	124	
		割合	0%	2%	7%	86%	2%	2%	1%	0%	100%	



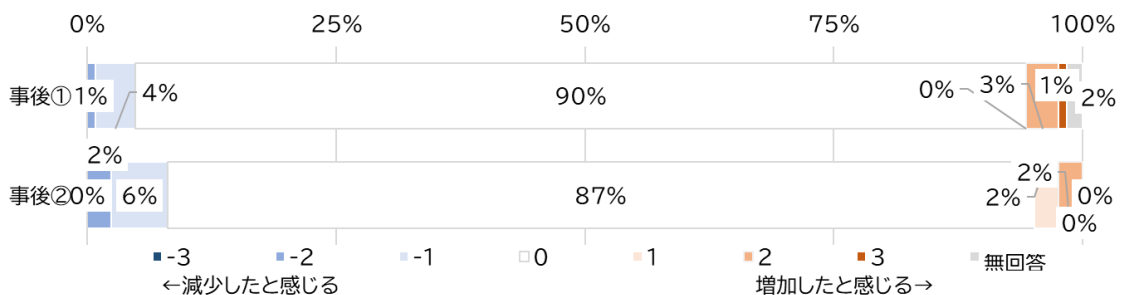
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

サ. 社会参加の変化の総合的な評価

社会参加の変化の総合的な評価に関する結果は以下の通り。

図表 VIII-51 社会参加の変化の総合的な評価

		←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
事後①	人数(人)	0	1	5	111	0	4	1	2	124		
	割合	0%	1%	4%	90%	0%	3%	1%	2%	100%		
事後②	人数(人)	0	3	7	108	3	3	0	0	124		
	割合	0%	2%	6%	87%	2%	2%	0%	0%	100%		



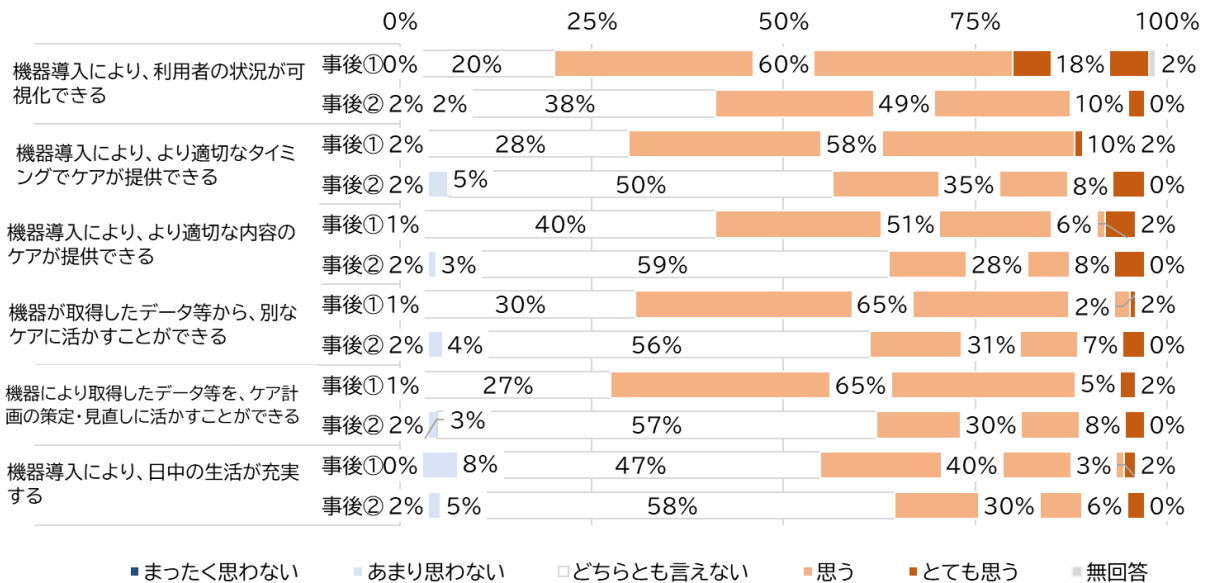
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

シ. 機器導入によるケアの変更

機器導入によるケアの変更の結果は以下の通り。

図表 VIII-52 ケアの変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらとも 言えない	思う	とても 思う	無回答	合計
機器導入により、利用者の状況が可視化 できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	25 20%	74 60%	22 18%	3 2%	124 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	2 2%	47 38%	61 49%	12 10%	0 0%	124 100%
機器導入により、より適切なタイミングで ケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 2%	35 28%	72 58%	12 10%	3 2%	124 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	6 5%	62 50%	44 35%	10 8%	0 0%	124 100%
機器導入により、より適切な内容のケア が提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 1%	50 40%	63 51%	7 6%	3 2%	124 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	4 3%	73 59%	35 28%	10 8%	0 0%	124 100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに 活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 1%	37 30%	80 65%	3 2%	3 2%	124 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	5 4%	69 56%	39 31%	9 7%	0 0%	124 100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画 の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 1%	33 27%	81 65%	6 5%	3 2%	124 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	4 3%	71 57%	37 30%	10 8%	0 0%	124 100%
機器導入により、日中の生活が充実する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	10 8%	58 47%	49 40%	4 3%	3 2%	124 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	6 5%	72 58%	37 30%	7 6%	0 0%	124 100%



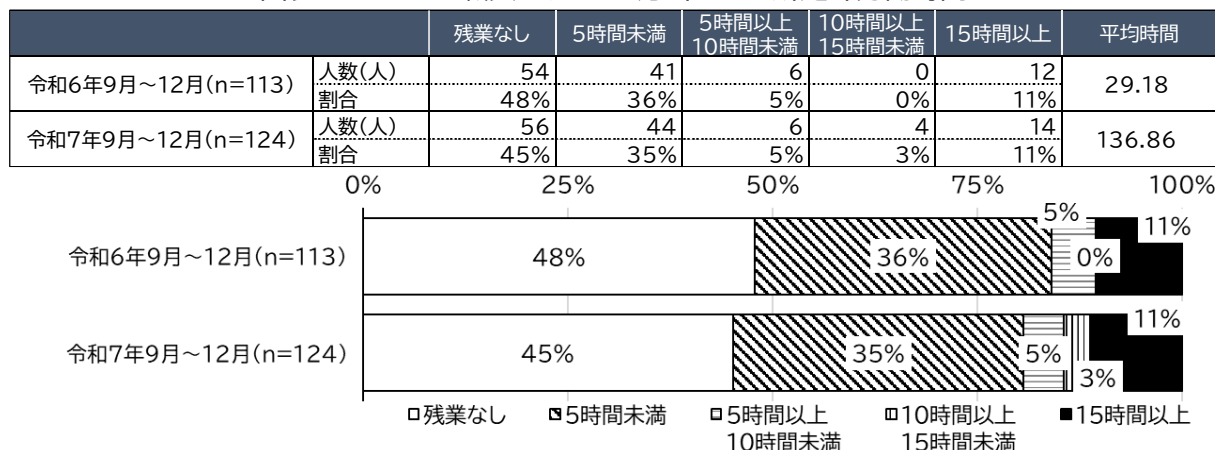
※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

(5) 業務時間等調査結果

ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 VIII-53 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

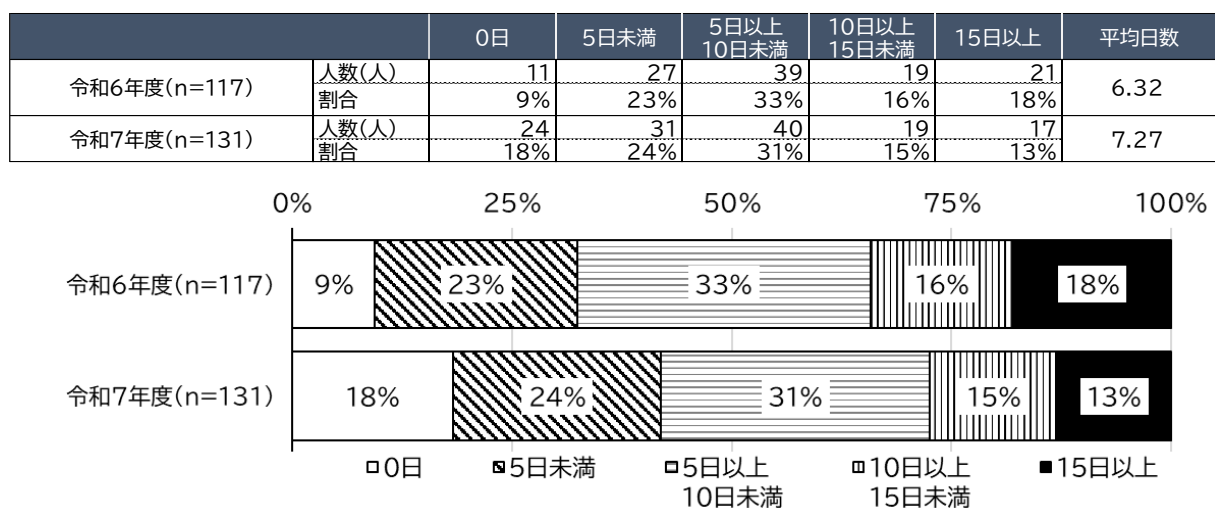


イ. 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

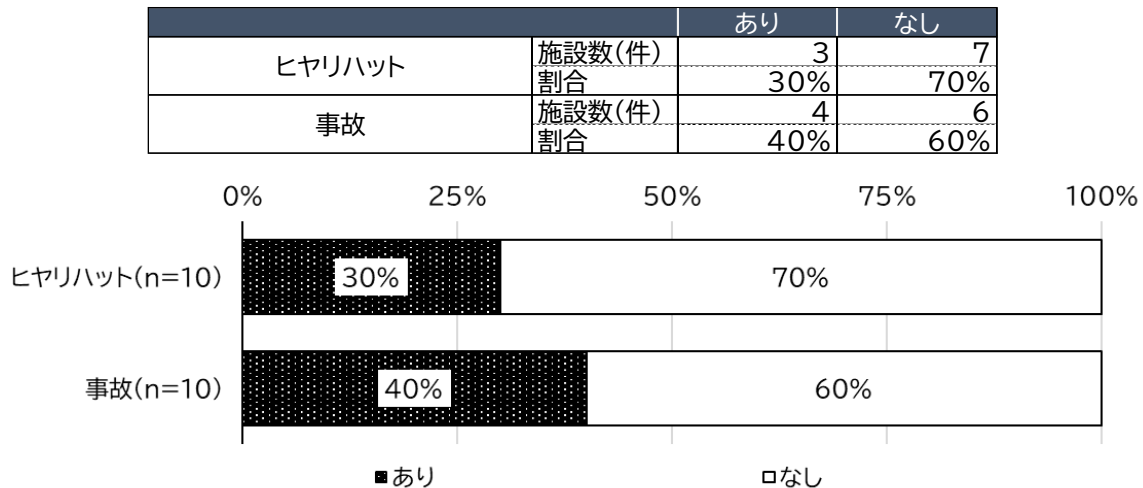
図表 VIII-54 有給休暇の取得状況の変化



ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 VIII-55 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無



図表 VIII-56 実証期間中のヒヤリハット・事故の内容・再発防止策

内容	再発防止策
(センサ履歴確認にて)発見の3分程前にセンサの反応があったが職員は他入居者の対応等ですぐに駆け付けられず。廊下まで歩いて出てきていた本人様を入居者のK様が車椅子に座らせてくれていた。	①状況に合わせながら、希望時であっても目の届く範囲で過ごしていただく。 ②スマートフォンを持っていなかった為他入居者の対応中は必ず持ち歩くようにする。
訪室するとベッドに端座位になっているのを発見。起き上がりセンサは鳴動していなかった。	端座位になる事を周知し、起き上がりセンサに頼らない巡視を強化。
朝食後に点眼を行おうとした所、点眼薬ケースに朝夕の点眼薬2つと夕方だけの点眼薬1つが入っていた。(本来、朝夕の点眼薬が3つ入っている。)	残薬確認の際にBOXセットを再確認すること。点眼の際も声を出し情報共有を図っていく。
シルバーカーで食堂へ向かう途中利用者様の足元がよろけて転倒しそうになる。	歩行途中の膝折れや、その日の体調を聞いたり、靴がしっかりはけているかなど歩行前のチェックをしっかりとる。
ネオス反応、シルバーカー使わずにトイレに向かう姿を確認する	声がけをし、トイレ前にシルバーカーを置く
他の入居者対応中、センサ反応あり訪室するとベッドの横に長座位になっているのを発見する。「ぶっころんだ」と話される	就床介助の際は、ベッド上方へポジショニングする。

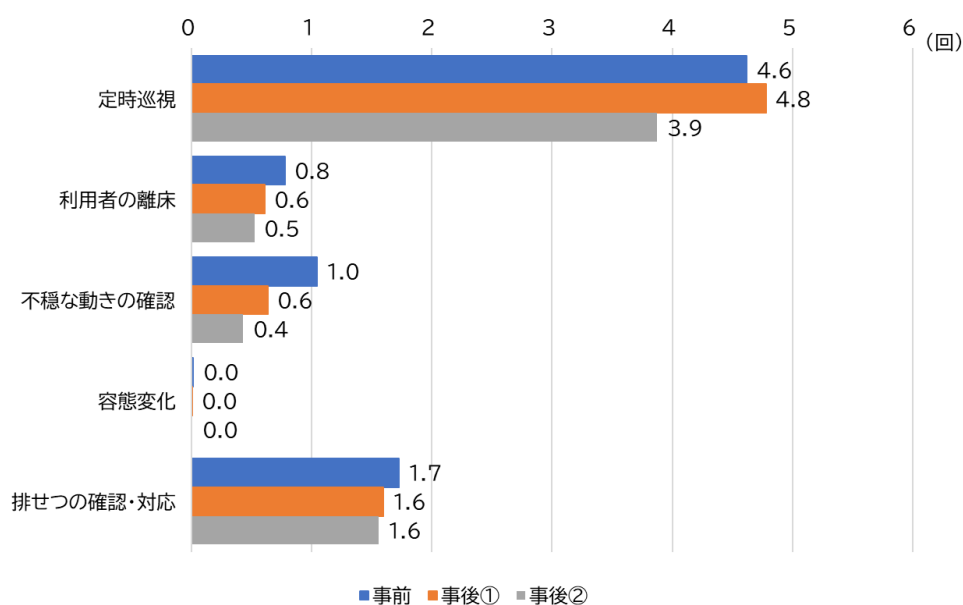
内容	再発防止策
<p>外傷確認しバイタル測定行う。 左肘に3ミリ程度の傷あり、絆創膏貼付。</p>	
<p>6:20分頃ナースコールがあり訪室すると、便座からずり落ちそうになっている利用者様を発見。片手で手摺をつかんでいて、どこもぶつけてはいないと言われる。</p>	<p>床が滑りやすくなっていた為、掃除する。</p>
<p>(車いすの方)トイレに行こうと離床された際に転倒され、発見時は居室入り口付近で長座位になっておられる。靴は履いておられず。ひざ掛けがたたまれた状態で床に落ちている。本人は「トイレに行こうとして滑って落ちた」と言われる。</p>	<p>ベッド降り口に滑り止めマットを設置、見守り機器の動作通知オンにし、早めに様子を見られるようにした。</p>
<p>ベッドから転落リスクの高い利用者、見守りカメラシステムでベッドを起点とした動き(起き上がり、端坐位、立ち上がり)を検知するよう設定していたが、機器の不具合によるものか、検知せず職員の携帯端末に通知がなかった。別件で訪室した際、ベッドサイドに座り込んでいた。痛みや外傷はなかった。</p>	<p>見守りシステムの再設定を行い、検知・通知の動作確認。転倒・転落リスクがある方は、システムの通知だけに頼らず、定期的に巡視またはカメラの映像を確認する。</p>
<p>出勤時に外階段の窓が全開になっているのを発見し、すぐに鍵をしめた。10/2に業者の点検で開錠しており、施錠していなかったと考えられる。</p>	<p>9月の業者の点検時も3Fのペランダの扉の鍵が開いており10/2の転換時に3Fの別の扉の鍵が開いていたことも発見される。業者の点検時には施錠確認をおこなう。</p>
<p>(独歩の方)「トイレで滑って尻もちついた」と言われるも話を聞いているうちに転倒場所が二転三転し、はっきり分からず。</p>	<p>センサ対応とし、所在を把握できるようにした。</p>
<p>見守りカメラシステムでA氏の起き上がりの検知通知があり、カメラ上で確認したら動きがなかったので、問題ないと判断し訪室はせず別の利用者の対応をした。別の職員が別件でA氏の部屋を訪室したら、A氏がベッドサイドに座り込んでいた。</p>	<p>転倒・転落リスクがある方の検知通知があれば、必ず訪室し状況を確認する。別の利用者対応が重なった場合は、他の職員に連絡し対応を依頼する。</p>

(6) 訪室回数調査結果

ア. 職員1人1夜勤当たり訪室回数

職員1人1夜勤当たり訪室回数は以下の通り。

図表 VIII-57 利用者1人あたり1夜勤あたりの目的別訪室回数



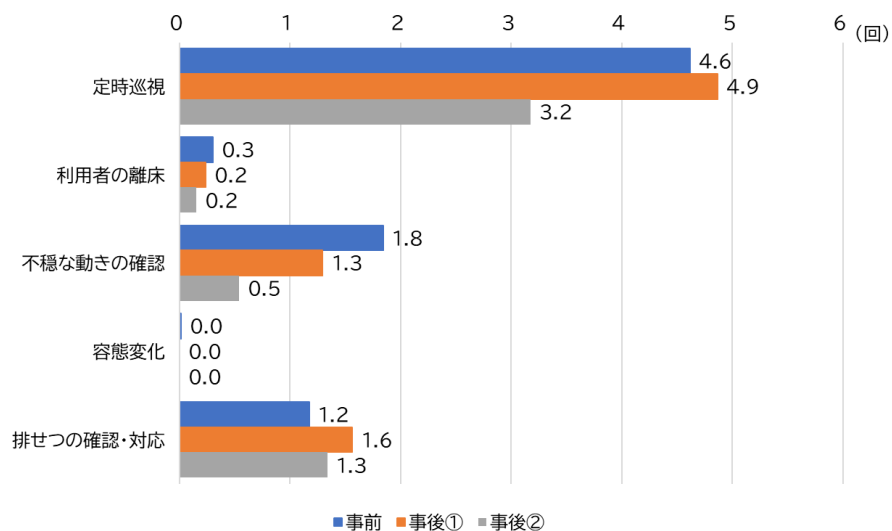
事前調査 n=813

事後調査① n=786

事後調査② n=783

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

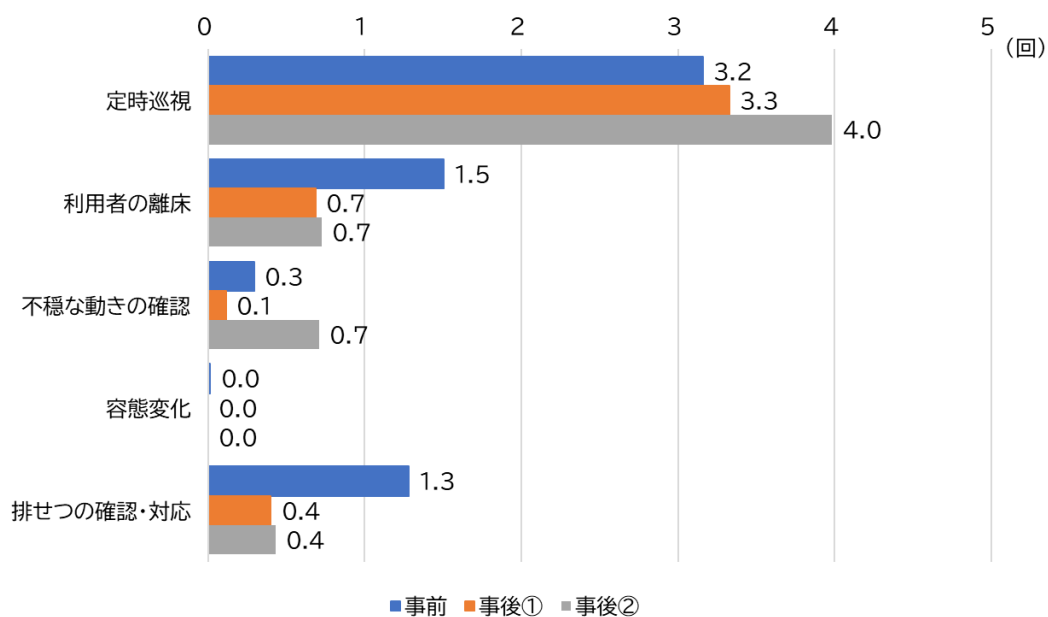
図表 VIII-58 利用者1人あたり1夜勤あたりの目的別訪室回数(介護老人福祉施設)



事前調査 n=275
 事後調査① n=272
 事後調査② n=270

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

図表 VIII-59 利用者1人あたり1夜勤あたりの目的別訪室回数(介護老人保健施設)

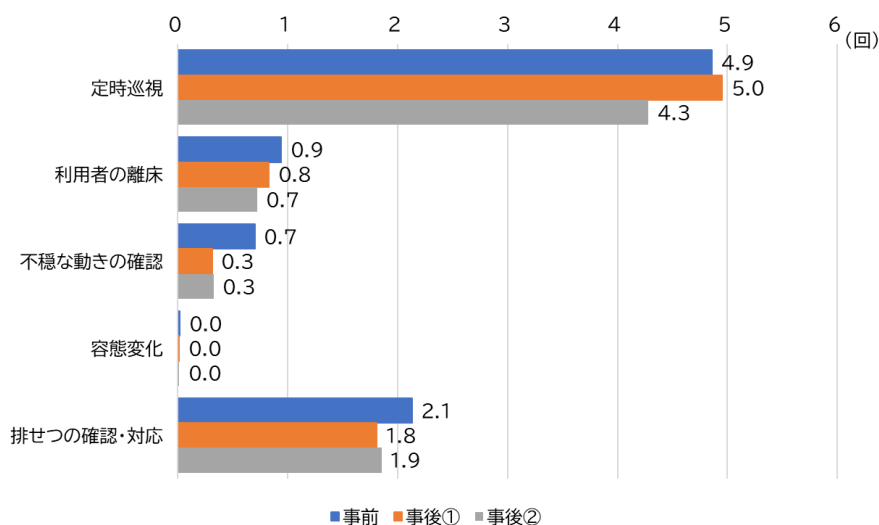


事前調査 n=75
 事後調査① n=70
 事後調査② n=65

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

確認したところ、「明確な理由はない。調査期間に離床ケースが多く定期巡視を増えたのではないか」とのことだった。

図表 VIII-60 利用者1人あたり1夜勤あたりの目的別訪室回数(認知症対応型共同生活介護)



事前調査 n=463
 事後調査① n=444
 事後調査② n=448

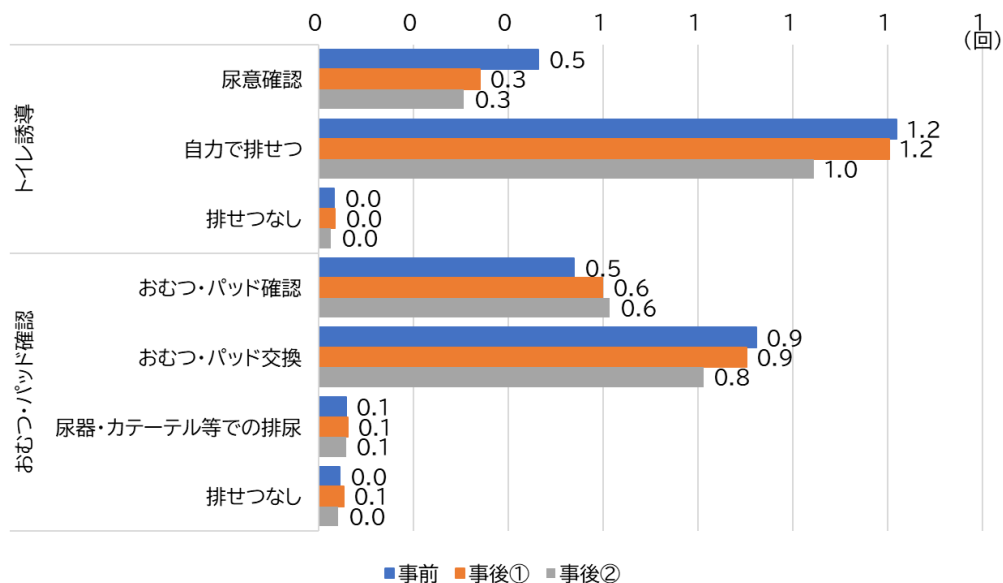
※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

(7) 排せつケア回数調査結果

ア. 職員1人1夜勤当たり排せつケア回数

職員1人1夜勤当たり排せつケア回数は以下の通り。

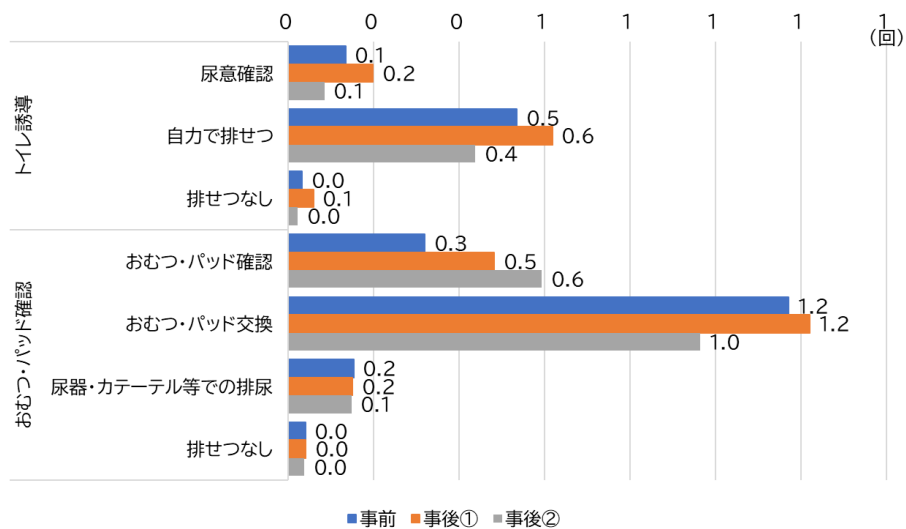
図表 VIII-61 利用者1人あたり1夜勤あたりの排せつケア回数



事前調査 n=813
 事後調査① n=786
 事後調査② n=783

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

図表 VIII-62 利用者1人あたり1夜勤あたりの排せつケア回数(介護老人福祉施設)



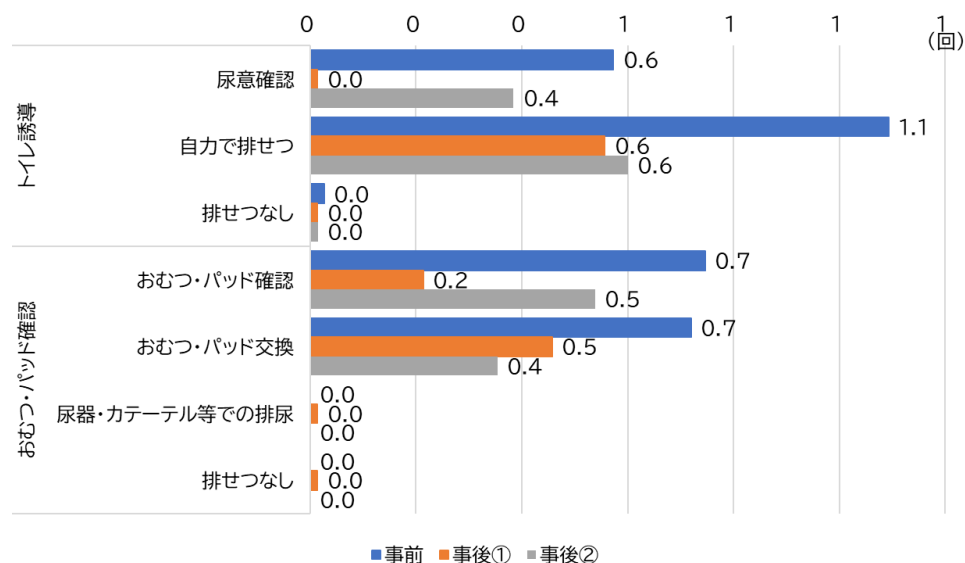
事前調査 n=275

事後調査① n=272

事後調査② n=270

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

図表 VIII-63 利用者1人あたり1夜勤あたりの排せつケア回数(介護老人保健施設)



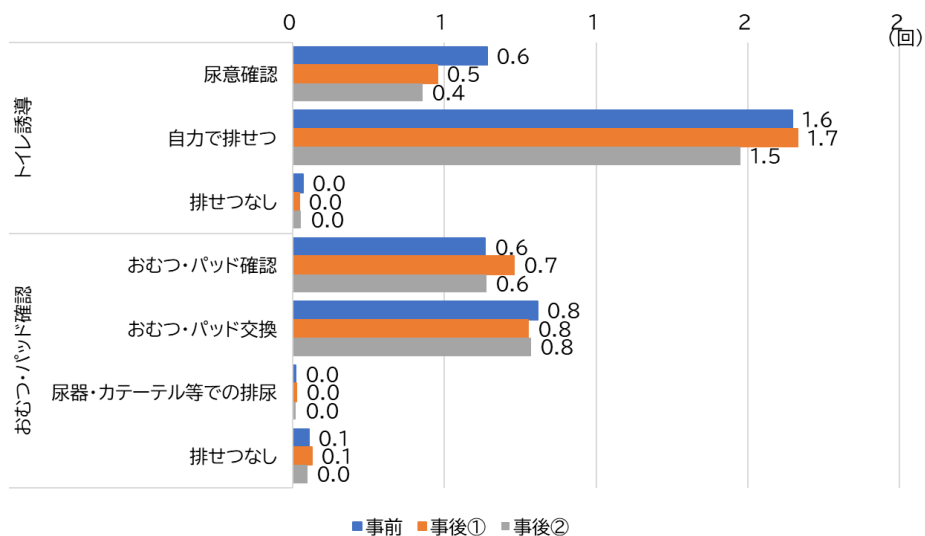
事前調査 n=75

事後調査① n=70

事後調査② n=65

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

図表 VIII-64 利用者1人あたり1夜勤あたりの排せつケア回数(認知症対応型共同生活介護)



事前調査 n=463
 事後調査① n=444
 事後調査② n=448

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

(8) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の3項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 見守り機器導入前の課題

本実証による見守り機器導入前に感じていた施設としての課題を以下に整理した。

図表 VIII-65 実証による見守り機器導入前の課題

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
介護老人福祉施設	職員	・ <u>センサラートが同時になっていたケースでは、ケアの優先順位がその場の判断だった。</u>
介護老人福祉施設	職員	・利用者の状況把握のために、訪室し都度歩いてユニットまで行かないといけない。それにより他の業務が進まない。 <u>他の業務を早く終わらせて訪室しないといけないという精神的なプレッシャーがある。</u>
介護老人福祉施設	利用者	・夜間の度重なる訪室により、 <u>利用者の睡眠の阻害、安眠を妨害していた。</u>
介護老人福祉施設	利用者	・利用者が転倒してもすぐに見つけられない。誰かが、転倒現場で転倒している利用者を発見しない限り気づかない。
介護老人福祉施設	利用者	・ <u>利用者が、どのような睡眠をしているか把握ができない。</u>
介護老人福祉施設	施設	・事故が起きたときに、誰もその事故の瞬間を見ていないので、 <u>どのように転んだのか、どこを打ったので、受診の必要性はあるのか推測で動いていた。</u>
介護老人福祉施設	施設	・施設内のインフラ設備として、ナースコール、背面センサ、フットセンサのアラートが5つ溜まると、1つ処理をしないと次のアラートが反応しない仕様であった。同じ回線を使用しているで、回線限界があり1つのアラートを急いで処理しないといけない仕様であり、100床以上のうち4つしかアラートがならない状況だった。5つ目のアラートが鳴ると1個処理しないとならない頻度は、毎晩のことであった。
介護老人福祉施設	施設	・ <u>転倒が発生した場合、振り返りができない。</u> (なぜ、いつ、どのように転倒したのか把握できな

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
		い)そのため、転倒防止対策(例、手すりを付ける)が立てられない。
介護老人福祉施設	施設	・職員による虐待案件が把握できない。
認知症対応型共同生活介護	職員	各ユニットごとに夜勤対応を行っていたため、 <u>連続した休憩時間の取得は課題</u> であった。
認知症対応型共同生活介護	職員	<u>ユニット間の連携のため、他ユニットの利用者の情報を把握することが課題</u> である。
認知症対応型共同生活介護	利用者	頻回な訪室により利用者が覚醒してしまい、不眠につながる懸念があった。
認知症対応型共同生活介護	施設	<u>ユニット間の連携については、建物の構造上、異動に時間を要するため課題</u> であった。
認知症対応型共同生活介護	施設	<u>見守り機器を追加導入したが、当初は通知が頻回に鳴るため、調整が課題</u> であった。

② 見守り機器導入目的・方針に対する達成状況(機器導入の効果)

本実証による見守り機器導入目的・方針に対する達成状況を以下に整理した。

図表 VIII-66 職員への効果・反応

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
介護老人福祉施設	身体的負担の変化	・カメラ導入により職員が施設内通路を走ることがなくなった。事前にスマートフォンでカメラで利用者の状況を把握できるので助かる。職員が汗をかかなくなった。また、 <u>施設内移動中もカメラを見ながら移動できるので慌てる必要がない。</u>
介護老人福祉施設	身体的負担の変化	・ <u>ケアが余裕をもって丁寧</u> にできるので、 <u>職員の腰痛軽減へ影響あり。</u>
介護老人福祉施設	身体的負担の変化	・スマートフォンのカメラを見て、利用者没有问题なら訪室しない判断ができるので、 <u>職員の不要な動きを減らせる。</u>
介護老人福祉施設	身体的負担の変化	・ <u>身体的負担は軽減した。</u> ユニット間を巡回する必要が無く、訪室回数が減ったので体の疲労感は減った。腰痛の軽減には変化ない。
介護老人福祉施設	心理的負担の変化	・ <u>安心感(カメラで見えるという安心感)が増えた。</u>
介護老人福祉施設	心理的負担の変化	・ <u>転倒が発生した場合でも「いつ、どのように転倒したかがわかる」という安心感があるのでモヤ</u>

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
		<u>モヤが消え、また転倒防止対策を直ちに立てられる。</u>
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・最初のころに、アンドロイドユーザーの職員がマナーモードの解除の仕方がわからなかった。
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・ライブ映像を1人の職員しか見られないが、反応した職員のみが対応するシステムであると理解している。
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・スライド通知機能があり、アラートが鳴っているユニットの担当者が、 <u>反応しないと隣のユニットの担当者にアラートが鳴る仕組みになっている。</u>
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・利用者が少し動いただけでもセンサが鳴ってしまう。部屋によって感度が異なり、反応が遅い部屋もある。背面センサの感度が良いので寝返りをうっただけでも鳴る。状況判断で、訪室の必要があればするが、スマートフォンを一度見て確認している。
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・ <u>定時巡視を廃止しても、心配なので頻繁に訪室する職員もいる。ベテラン職員の場合、カメラを見ずに訪室する職員もいる。カメラ確認後の訪室のルール、使い方は施設内の今後の課題である。カメラ設置により、職員が施設から監視されていると思われる方もいる。</u>
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・職員は導入に賛成であり、反対意見はない。 <u>職員全員で、転倒事故状況を映像やセンサ情報で共有でき、職員同士で会話して振り返りができる。</u>
介護老人福祉施設	機器に対する反応・意見	・見守り機器導入に際して、利用者の家族へ説明するが、反対意見は聞いたことがない。
認知症対応型共同生活介護	身体的負担の変化	休憩時間の設定の見極めが難しかったが、休憩室でしっかりと休憩を取ることで、身体が休まった。
認知症対応型共同生活介護	心理的負担の変化	<u>従来は足元センサによる離床の確認であったが、見守り機器により確認できるようになり、心理的負担の軽減となった。</u>
認知症対応型共同生活介護	心理的負担の変化	休憩時間中は他ユニットの職員が見守り機器で見守り、何かあればインカムで連絡していただくようにしたため、通知を気にせず安心して休憩す

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
		ることができた。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	<u>従来は、ベッドの足元にセンサや鈴を入れて離床を把握していたが、見守り機器を追加導入することによって、離床による訪室が効率化された。</u>
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	インカムを導入し、音声により通知の内容を確認できるようにした。通知の把握が簡単となった。一方、利用者の名前を誤って読み上げることがあり、仕様上すぐには修正できないため、その読み方で慣れて対応するようにしている。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	見守り機器の追加導入により、定時巡視を減らした。転倒リスクのある利用者一部のみに対しては、必要に応じて訪室することとした。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	<u>見守り機器と介護記録ソフトとのデータ連携により、訪室後の記録業務も効率化された。</u>
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	見守り機器により睡眠の状況が可視化され、休憩時間の設定に活かせることができた。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	<u>カメラ型の見守り機器を追加導入したが、利用者の動きが可視化されることにより、逆に目が離せなくなった。</u>
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	定時巡視は継続しているが、バイタル型の見守り機器があれば、見直すことも可能と考えている。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	休憩室でも見守り機器の通知を確認することは可能であるが、しっかりと休憩が取れるように、音を小さくし、通知を気にしないように環境整備している。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	新たに見守り機器を導入する際は、利用者を使用した1週間のデータを基に、最適な通知設定となるよう調整している。
認知症対応型共同生活介護	機器に対する反応・意見	他ユニットの利用者の情報の把握のため、介護記録ソフトを活用した。また、特記事項について申し送りの上、休憩に入るようにした。

③ 本実証による利用者への効果、夜間・日中の生活の質の変化を以下に整理した。

図表 VIII-67 利用者への効果、夜間・日中の生活の質の変化

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
介護老人福祉施設	職員によるケアの質の	<u>・見守り機器から得られる情報だけでは、提供ケ</u>

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
	変化	<u>アを向上させることに限界がある。</u>
介護老人福祉施設	日中の活動状況	・夜間の睡眠障害がないので、元気な時があった。
介護老人福祉施設	日中の活動状況	・特に大きな変化ないが利用者によっては日中元気な方がいた。
介護老人福祉施設	夜間の睡眠状況	・夜間に1回起きると寝つきが悪くなるので、歩く方もいたが、今は不用意に起こすことがない。 <u>利用者の動きに合わせて対応できるので、無理に起こすことがない。</u> 冬場は起きたくない方が多い。
介護老人福祉施設	夜間の睡眠状況	・特に変化はない。日によって睡眠状況は変わる。
認知症対応型共同生活介護	職員によるケアの質の変化	<u>睡眠状況の可視化により、職員間の情報の共有がしやすくなった。また、医師との情報連携・相談しやすくなった。</u>
認知症対応型共同生活介護	夜間の睡眠状況	訪室回数の減少により睡眠を妨げることが減った。今後は見守り機器から得られる睡眠のデータにより、個別の睡眠ケアにつなげていきたい。

④ 本実証による施設全体への効果を以下に整理した。

図表 VIII-68 施設全体への効果

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
介護老人福祉施設	残業時間の変化	・ <u>忙しさが削減した。会議の報告書は時間外対応していたが、カメラ導入により削減できた直接介護時間・巡回・移動時間は、「レクリエーション企画」、「施設内委員会業務」、「ユニットの準備(しつらえ)」に使えた。書類関係の仕事が合間でできた。</u>
介護老人福祉施設	残業時間の変化	・残業時間に変化はない。
介護老人福祉施設	業務効率化	・ <u>転倒した原因が、リアルタイムでわかる。施設として、ご利用者の家族の方への説明に証拠として使える。</u>
介護老人福祉施設	業務効率化	・見守り機器(センサ)で利用者の心肺停止がわかる。死期が近い方は気にかけて見守り機器を見る。先月(2025年12月)に亡くなった方は、ステーションから見守り機器で状況を追っていた。

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
認知症対応型共同生活介護	業務効率化	見守り機器と介護記録ソフトとのデータ連携により業務効率化に繋がった。一方、夜勤業務終了後の記録の確認のために PC での確認作業が必要となるため今後改善を目指したい。
	業務効率化	<u>巡回の時間等の効率化により、委員会資料の作成等に時間を充てられた。</u>
認知症対応型共同生活介護	業務効率化	効率化された時間を、今までできなかった掃除等に充てられた。
認知症対応型共同生活介護	業務効率化	休憩時間の所得によるユニット間の連携については一定の効果はあったが、 <u>建物の構造上、いざというときのフォローが難しく、他ユニットの支援に対する不安を感じる職員もいるため、従来の休憩時間の方がメリットとしては大きいと感じられる。</u>
認知症対応型共同生活介護	業務効率化	夜勤職員の業務効率化のために、間接業務の日勤職員へのタスクシフトが重要であるため、今後検討していきたい。
認知症対応型共同生活介護	業務効率化	見守り機器による人員配置の削減はハードルが高いが、機器活用による休憩時間の連絡取得は取り組みやすかった。
認知症対応型共同生活介護	業務効率化	オペレーション変更により休憩時間を取ることで自体に不安を感じる職員がいたが、見守り機器により完全に休憩中の職員の代わりとするのではなく、可能な限り休憩時間の連続取得に活用する意識を持って良い結果が得られたと思う。

⑤ 転倒・転落、ヒヤリハットの発生件数の変化

見守り機器を導入したことによる転倒・転落やヒヤリハットの発生件数の変化について以下に整理した。

図表 VIII-69 転倒・転落、ヒヤリハットの発生件数の効果

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
介護老人福祉施設	転倒・転落	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>転倒転落後の確認は、カメラ映像を確認することで対策は取りやすい。</u> ・<u>ライブ映像で見られるので、転ぶ前に対応することはできる、部屋の中で見られるので、防ぐ効果はある。</u>

サービス種別	カテゴリ	主なご意見
介護老人福祉施設	転倒・転落	・ <u>転倒・転落数自体は変わらないが、センサがあることで、転倒・転落の状況がトレースできる。</u> 見守り機器がない時は事故原因を推測し、その推測のもとに対策を立てていた。
介護老人福祉施設	ヒヤリハット	・ヒヤリハットは増えて、転倒転落は減った。
介護老人保健施設	転倒・転落	・転倒・転落はなかった。 ・もともと転倒・転落リスクが高いことを背景として見守り機器を導入しているため、転倒・転落はあったと思われるが、実証実施に伴うものはなかった。
介護老人保健施設	ヒヤリハット	・ヒヤリハットはなかった。
認知症対応型共同生活介護	転倒・転落	<u>設置された見守り機器が気になり、転倒につながったと思われる事故があった。</u>
認知症対応型共同生活介護	ヒヤリハット	ヒヤリハットはなかった。

令和 7 年度
「介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する調査及び効果測定事業」
報告書(Ⅰ/Ⅲ)

発行:令和 8 年(2026)年 3 月

発行者:厚生労働省 老健局高齢者支援課

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2

電話 03-5253-1111(代表)